

基本計画書

基		本				計			画		
事項		記入欄							備考		
計画の区分		学部の設置									
フリガナ設置者		ガッコウホジシ ヨウリジョウシダイガク 学校法人 昭和女子大学									
フリガナ大学の名称		ヨウリジョウシダイガク 昭和女子大学									
大学本部の位置		東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号									
大学の目的		建学の精神に則り、高等教育機関として、また、学術文化の研究機関としての使命に鑑み、善を尚び美を愛し真を究めて、文化の創造と人類の福祉に貢献する女性を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的		【総合情報学部】 現代の諸課題を発見・解決するため、数理能力とAIなど先端デジタル技術を活用した分析・思考やデータに基づく意思決定を実践分野に応用し、ソフトスキルを駆使しながらデジタル革新を推進する人材を養成する。 【データサイエンス学科】 現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。 【デジタルイノベーション学科】 社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	総合情報学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次			
	データサイエンス学科	4	60	—	240	学士（データサイエンス）	工学関係	令和8年4月 第1年次	東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号		
	デジタルイノベーション学科	4	50	—	200	学士（デジタルイノベーション）	工学関係	令和8年4月 第1年次	同上		
	計		110	—	440						
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		人間文化学部 歴史文化学科〔定員減〕 (△ 10) (令和8年4月) グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科〔定員減〕 (△ 10) (令和8年4月) 食健康科学部 食安全マネジメント学科〔定員減〕 (△ 10) (令和8年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計						
	総合情報学部 データサイエンス学科	165科目		146科目		11科目		322科目			125単位
	総合情報学部 デジタルイノベーション学科	159科目		149科目		11科目		319科目		125単位	

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)
		教授	准教授	講師	助教	計		
新設	総合情報学部 データサイエンス学科	4 人 (3)	4 人 (2)	1 人 (1)	0 人 (0)	9 人 (6)	0 人 (0)	10 人 (5)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	4 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (6)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	3 (3)	4 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (6)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)		
	計（a～d）	4 (3)	4 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (6)		
	総合情報学部 デジタルイノベーション学科	4 (2)	3 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (6)	0 (0)	11 (2)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (1)	2 (0)	2 (2)	1 (1)	8 (4)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	3 (1)	2 (0)	2 (2)	1 (1)	8 (4)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)		
	計（a～d）	4 (2)	3 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (6)		
	計	8 (5)	7 (3)	3 (3)	1 (1)	19 (12)	0 (0)	－ －
既存	人間文化学部 日本語日本文学科	5 (5)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	41 (41)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	14 (14)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	5 (5)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	14 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	5 (5)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	14 (14)		

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人

人間文化学部 歴史文化学科		4 (4)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	39 (39)	大学設置基準別表第一に定める基 幹教員数の四分の三の数 5人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		3 (3)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		4 (4)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		4 (4)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			
国際学部 国際教養学科		5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	40 (40)	大学設置基準別表第一に定める基 幹教員数の四分の三の数 5人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)			
国際学部 国際日本学科		4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	21 (21)	大学設置基準別表第一に定める基 幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)			

国際学部 国際学科		6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	44 (44)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 7人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)			
グローバルビジネス学部 ビジネスデザイン学科		6 (6)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	32 (32)	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	6 (6)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	14 (14)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	6 (6)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	14 (14)			
グローバルビジネス学部 会計ファイナンス学科		5 (5)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	9 (9)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	5 (5)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	5 (5)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	9 (9)			

人間社会学部 心理学科		7 (7)	6 (6)	2 (2)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	18 (18)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	2 (2)	2 (2)	16 (16)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	7 (7)	6 (6)	2 (2)	2 (2)	17 (17)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	7 (7)	6 (6)	2 (2)	2 (2)	17 (17)		
人間社会学部 福祉社会学科		6 (6)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	34 (34)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	14 (14)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	6 (6)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	14 (14)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	6 (6)	3 (3)	2 (2)	3 (3)	14 (14)		
人間社会学部 現代教養学科		10 (10)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	14 (14)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (10)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	17 (17)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	小計（a～b）	10 (10)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	17 (17)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	10 (10)	4 (4)	2 (2)	1 (1)	17 (17)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 5人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

人間社会学部 初等教育学科		9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	35 (35)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 8人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		9 (9)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	16 (16)			
環境デザイン学部 環境デザイン学科		7 (7)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	61 (61)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 11人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	22 (22)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (7)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	22 (22)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		7 (7)	6 (6)	8 (8)	1 (1)	22 (22)			
食健康科学部 健康デザイン学科		5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	24 (24)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			

食健康科学部 管理栄養学科			6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人	
分	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)					
	食健康科学部 食安全マネジメント学科			5 (5)	1 (1)	2 (2)			0 (0)	8 (8)	0 (0)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)						
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
小計（a～b）	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
計（a～d）	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)						
計			90 (90)	59 (59)	40 (40)			7 (7)	196 (196)	0 (0)	- (-)
合 計			98 (95)	66 (62)	43 (43)	8 (8)	215 (208)	0 (0)	- -		
職 種			専 属			その他			計		
事 務 職 員			186人 (186)			66人 (66)			252人 (252)		
技 術 職 員			13 (13)			5 (5)			18 (18)		
図 書 館 職 員			7 (7)			6 (6)			13 (13)		
そ の 他 の 職 員			0 (0)			0 (0)			0 (0)		
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)			0 (0)		
計			206 (206)			77 (77)			283 (283)		
校地等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		共用する他の学校等 昭和高等学校 収容定員：756人 面積基準：8,400㎡ 昭和中学校 収容定員：756人 面積基準：8,400㎡ 昭和小学校 収容定員：720人 面積基準：7,200㎡ 昭和こども園 12級：1,120㎡ 借用地 研修学寮 東明学林 調整池等：9,345.2㎡ 借用期間：50年(5年更新)
	校 舎 敷 地		129,959.607 ㎡		28,305.294 ㎡		0 ㎡		158,264.901 ㎡		
	そ の 他		0 ㎡		247.5 ㎡		23,267.209 ㎡		23,514.709 ㎡		
	合 計		129,959.607 ㎡		28,552.794 ㎡		23,267.209 ㎡		181,779.610 ㎡		

校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
			92,967.63 m ² (92,967.63 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		92,967.63 m ² (92,967.63 m ²)				
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		92 室		教 員 研 究 室		202 室		大学全体		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		電子図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕冊		機械・器具 点	標本 点	大学等全体での共用分 図書 181,706〔19,488〕 学術雑誌 13,874〔10,778〕 機械・器具は、総合情報 学部の専用の数
	総合情報学部		4,749〔694〕 (3,749〔294〕)		909〔203〕 (309〔3〕)		212〔190〕 (212〔190〕)		191〔189〕 (191〔189〕)		487 (419)	0 (0)	
	計		4,749〔694〕 (3,749〔294〕)		909〔203〕 (309〔3〕)		212〔190〕 (212〔190〕)		191〔189〕 (191〔189〕)		487 (419)	0 (0)	
スポーツ施設等			スポーツ施設			講 堂			厚生補導施設				
			753.9 m ²			14,168.96 m ²			4165.41 m ²				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費：大学全体 電子ジャーナル、データベ ース、その他の経費(運用 コストを含む)を含む。 設備購入費：大学全体			
		教員1人当り研究費等		360千円	360千円	360千円	360千円	- 千円	- 千円				
		共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	- 千円	- 千円				
		図 書 購 入 費	143,313千円	153,313千円	153,313千円	153,313千円	153,313千円	- 千円	- 千円				
		設 備 購 入 費	860,000千円	300,000千円	300,000千円	300,000千円	300,000千円	- 千円	- 千円				
	学生1人当り 納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
				1,598千円	1,398千円	1,398千円	1,398千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			補助金の他、寄付金、資産運用輸入を充当する。										
大 学 等 の 名 称		昭和女子大学										令和7年度入学定員減 (日本語日本文学科20 名減) 令和7年度名称変更・ 入学定員減 (英語コミュニケー ション学科179名→国 際教養学科79名、100 名減) 令和7年度開設(国際 日本学科100名) 令和7年度入学定員増 (ビジネスデザイン学 科20名増)	
学 部 等 の 名 称		修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地				
人間文化学部		年	人	年次 人	人		倍		東京都世田谷区太子 堂一丁目7番57号				
日本語日本文学科		4	200	—	860	学士(人間文化 学)	1.07	昭和53年度					
歴史文化学科		4	100	—	460	学士(人間文化 学)	1.07	平成4年度					
国際学部		4	100	—	400	学士(人間文化 学)	1.07	平成4年度					
英語コミュニケーション学科		4	299	—	1196	学士(英語コミュ ニケーション)	1.03	平成29年度					
国際教養学科		4	—	—	—	学士(英語コミュ ニケーション)	1.01	平成29年度					
国際教養学科		4	79	—	616	学士(国際教養 学)	—	平成29年度					
国際日本学科		4	100	—	100	学士(国際日本 学)	—	令和7年度					
国際学科		4	120	—	480	学士(国際学)	1.08	平成29年度					
グローバルビジネス学部		4	210	—	780	学士(国際学)	1.08	平成29年度					
ビジネスデザイン学科		4	130	—	460	学士(経営学)	1.05	平成25年度					
会計ファイナンス学科		4	80	—	320	学士(経営学)	1.13	平成30年度					

既設大学等の状況	人間社会学部		380	—	1520		1. 05			
	心理学科	4	100	—	400	学士（人間社会学）	1. 06	平成15年度		
	福祉社会学科	4	80	—	320	学士（人間社会学）	1. 06	平成15年度		
	現代教養学科	4	100	—	400	学士（人間社会学）	1. 06	平成15年度		
	初等教育学科	4	100	—	400	学士（教育学）	1. 01	平成18年度		
	環境デザイン学部		210	—	840		1. 03			
	環境デザイン学科	4	210	—	840	学士（環境デザイン）	1. 03	令和2年度		
	食健康科学部		229	—	915		1. 05			
	環境デザイン学科	4	—	—	—	学士（生活科学）	—	昭和53年度		令和7年度入学定員変更（健康デザイン学科2名増・3年次編入学定員5名減） 令和2年度より学生募集停止（環境デザイン学科）
	健康デザイン学科	4	77	—	307	学士（食健康科学）	1. 03	平成21年度		
	管理栄養学科	4	72	—	288	学士（食健康科学）	1. 08	昭和53年度		
	食安全マネジメント学科	4	80	—	320	学士（食健康科学）	1. 05	平成29年度		
	大 学 等 の 名 称 昭和女子大学大学院									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設年度	所 在 地	
		年	人	年次人	人		倍		東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号	
	文学研究科		20	—	30		0. 38			
	文学言語教育学専攻 (M)	2	15	—	15	修士（文学） 修士（英語教育）	—	令和7年度		令和7年度より学生募集停止（日本文学専攻、英米文学専攻、言語教育・コミュニケーション専攻） 令和7年度開設（文学言語教育学専攻）
	日本文学専攻 (M)	2	—	—	—	修士（文学）	0. 30	昭和49年度		
	英米文学専攻 (M)	2	—	—	—	修士（文学）	0. 30	昭和49年度		
	言語教育・コミュニケーション専攻 (M)	2	—	—	—	修士（文学） 修士（英語教育）	0. 50	平成17年度		
	文学言語学専攻 (D)	3	5	—	15	博士（文学）	0. 33	平成25年度		
	生活機構研究科		60	—	125		0. 56			
	生活文化研究専攻 (M)	2	10	—	20	修士（学術）	0. 65	平成5年度		
	心理学専攻 (M)	2	20	—	40	修士（学術）	0. 60	平成17年度		
	人間教育学専攻 (M)	2	10	—	20	修士（学術）	0. 30	平成20年度		
	生活科学研究専攻 (M)	2	5	—	10	修士（学術） 修士（栄養）	0. 60	平成5年度		
	環境デザイン研究専攻 (M)	2	5	—	10	修士（学術）	0. 10	平成19年度		
	福祉社会研究専攻 (M)	2	5	—	10	修士（学術）	1. 30	平成18年度		
	生活機構学専攻 (D)	3	5	—	15	博士（学術）	0. 46	平成1年度		
	福祉社会・経営研究科		50	—	50		0. 48			
	福祉共創マネジメント専攻 (P)	1	50	—	50	福祉共創マネジメント修士（専門職）	0. 48	令和5年度		

附属施設の概要	名称：近代文化研究所 目的：大学院生活機構研究科の附属機関として設け、本学大学院の各研究科及び各学部各学科の日本並びに相互に影響する海外諸地域の近代文化の研究を推進し、併せて内外における文化の進展に資することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：平成15年10月 規模等：建物 57.53㎡ 名称：女性文化研究所 目的：大学院生活機構研究科の附属機関として設け、本大学院各研究科並びに大学各学部各学科の女性文化の研究を促進し、併せて内外にわたる女性文化の創造及び発展に寄与することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：昭和61年5月 規模等：建物 59.2㎡ 名称：国際文化研究所 目的：大学院生活機構研究科の附属機関として設け、本学大学院の各研究科並びに昭和女子大学の各学部各学科の日本及び海外諸地域の文化に関わる国際的な研究を推進し、併せて内外にわたる文化の保存及び創造に寄与することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：平成4年5月 規模等：建物 59.2㎡ 名称：生活心理研究所 目的：大学院生活機構研究科の附属機関として設け、昭和女子大学の人間社会学部心理学科と緊密に連携しつつ、臨床心理、社会心理、教育心理、認知心理、発達心理等に関する研究を推進し、併せて人間関係に関する臨床活動の発達に寄与することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：平成7年4月 規模等：建物 260.1㎡ 名称：女性健康科学研究所 目的：大学院生活機構研究科の附属機関として設け、本学大学院の各研究科並びに昭和女子大学の各学部各学科における健康関連分野の主に自然科学を基盤とする学際的、複合的研究を推進し、その成果を国際的に広く発信することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：平成27年4月 規模等：建物 24.5㎡ 名称：現代ビジネス研究所 目的：大学の附属機関として設け、地域及びグローバルなビジネス社会における諸問題について、理論的及び実践的な調査・研究並びに企業等との協働による本学の学生の教育・研究支援を推進し、広く社会に開かれた研究機関として、地域・経済社会の健全な発展に寄与することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：平成25年4月 規模等：建物 95.74㎡ 名称：現代教育研究所 目的：大学の附属機関として設け、本学園の教育理念の下に、昭和女子大学大学院の各研究科並びに本学の各学部、附属昭和高等学校、昭和中学校、昭和小学校及び昭和こども園が連携し、今日的教育課題に関する研究及び実践を促進し、併せて内外にわたる教育研究及び実践の発展に寄与することを目的とする。 所在地：東京都世田谷区太子堂一丁目7番57号 設置年月：平成26年11月 規模等：建物 58.4㎡
---------	--

	名称：研修学寮「東明学林」 目的：雄大な自然の中で、教員と学生が寝食を共にし、友情や信頼を深め、人格の陶冶をはかることを目的とする。 所在地：神奈川県足柄上郡大井町山田字道津1868 設置年月：昭和52年4月 規模等：校地 102,836.12㎡、校舎 5,069.37㎡ 名称：研修学寮「望秀海浜学寮」 目的：雄大な自然の中で、教員と学生が寝食を共にし、友情や信頼を深め、人格の陶冶をはかることを目的とする。 所在地：千葉県館山市那古1672-30 設置年月：昭和61年3月 規模等：校地 21,088.40㎡、校舎 2,564.83㎡、寮 3,142.42㎡、体育館 694.00㎡	
--	---	--

学校法人昭和女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
昭和女子大学				昭和女子大学				
人間文化学部				人間文化学部				
日本語日本文学科	100	-	400	日本語日本文学科	100	-	400	
歴史文化学科	100	-	400	歴史文化学科	<u>90</u>	-	<u>360</u>	定員変更（△10）
国際学部				国際学部				
国際教養学科	79	-	316	国際教養学科	79	-	316	
国際日本学科	100	-	400	国際日本学科	100	-	400	
国際学科	120	-	480	国際学科	120	-	480	
グローバルビジネス学部				グローバルビジネス学部				
ビジネスデザイン学科	130	-	520	ビジネスデザイン学科	<u>120</u>	-	<u>480</u>	定員変更（△10）
会計ファイナンス学科	80	-	320	会計ファイナンス学科	80	-	320	
人間社会学科				人間社会学科				
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
福祉社会学科	80	-	320	福祉社会学科	80	-	320	
現代教養学科	100	-	400	現代教養学科	100	-	400	
初等教育学科	100	-	400	初等教育学科	100	-	400	
環境デザイン学部				環境デザイン学部				
環境デザイン学科	210	-	840	環境デザイン学科	210	-	840	
食健康科学部				食健康科学部				
健康デザイン学科	77	-	308	健康デザイン学科	77	-	308	
管理栄養学科	72	-	288	管理栄養学科	72	-	288	
食安全マネジメント学科	80	-	320	食安全マネジメント学科	<u>70</u>	-	<u>280</u>	定員変更（△10）
				総合情報学部				学部の設置（認可申請）
				データサイエンス学科	<u>60</u>	-	<u>240</u>	
				デジタルイノベーション学科	<u>50</u>	-	<u>200</u>	
計	1528		6112	計	<u>1608</u>	-	<u>6432</u>	
昭和女子大学大学院				昭和女子大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
文学言語教育専攻（M）	15	-	30	文学言語教育専攻（M）	15	-	30	
文学言語学専攻（D）	5	-	15	文学言語学専攻（D）	5	-	15	
生活機構研究科				生活機構研究科				
生活文化研究専攻（M）	10	-	20	生活文化研究専攻（M）	10	-	20	
心理学専攻（M）	20	-	40	心理学専攻（M）	20	-	40	
福祉社会研究専攻（M）	5	-	10	福祉社会研究専攻（M）	5	-	10	
人間教育学専攻（M）	10	-	20	人間教育学専攻（M）	10	-	20	
環境デザイン研究専攻（M）	5	-	10	環境デザイン研究専攻（M）	5	-	10	
生活科学研究専攻（M）	5	-	10	生活科学研究専攻（M）	5	-	10	
生活機構学専攻（D）	5	-	15	生活機構学専攻（D）	5	-	15	
福祉社会・経営研究科				福祉社会・経営研究科				
福祉共創マネジメント専攻（P）	50	-	50	福祉共創マネジメント専攻（P）	50	-	50	
計	130		220	計	130		220	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(総合情報学部データサイエンス学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 (助手を除く)	
一般教養科目	実践倫理(昭和女子大学の教育と理念)	1前		1			○			1					13	オムニバス、共同(一部)、メディア
	キャリアデザイン入門	1前		1			○								5	オムニバス、メディア
	女性の生き方と社会	2前・後			2		○								1	メディア
	女性とキャリア形成	2前・後			2		○								1	メディア
	アカデミック・ライティング	1前・後			2		○								2	
	教育学A	1前			2		○								1	
	教育学B	1後			2		○								1	
	倫理学A	1前			2		○								1	
	倫理学B	1後			2		○								1	
	哲学A	1前			2		○								1	
	哲学B	1後			2		○								1	
	論理学A	1前			2		○								1	
	論理学B	1後			2		○								1	
	宗教学A	1前			2		○								1	
	宗教学B	1後			2		○								1	
	日本精神史	1前・後			2		○								1	
	宗教文化論A	1前			2		○								1	
	宗教文化論B	1後			2		○								1	
	地理学A	1前			2		○								1	
	地理学B	1後			2		○								1	
	社会思想史A	1前			2		○								1	
	社会思想史B	1後			2		○								1	
	日本史A	1前			2		○								1	
	日本史B	1後			2		○								1	
	現代史A	1前			2		○								1	
	現代史B	1後			2		○								1	
	考古学A	1前			2		○								1	
	考古学B	1後			2		○								1	
	東洋史	1後			2		○								1	
	西洋史	1前			2		○								1	
	文化人類学A	1前			2		○								1	
	文化人類学B	1後			2		○								1	
	ジェンダー論A	1前			2		○								1	
	ジェンダー論B	1後			2		○								1	
	文学(日本)A	1前			2		○								1	
	文学(日本)B	1後			2		○								1	
	文学(海外)A	1前			2		○								2	オムニバス、共同(一部)
	文学(海外)B	1後			2		○								1	
	言語学A	1前			2		○								1	
	言語学B	1後			2		○								1	
	民俗と芸能A	1前			2		○								1	
	民俗と芸能B	1後			2		○								1	
	芸術論A	1前			2		○								1	
芸術論B	1後			2		○								1		
デザイン概論A	1前			2		○								1		
デザイン概論B	1後			2		○								1		
地域研究A	1前			2		○								1		
地域研究B	1後			2		○								1		
地域研究C	1前			2		○								1		
地域研究D	1後			2		○								1		
地域研究E	1前			2		○								1		
地域研究F	1後			2		○								1		
異文化コミュニケーションA	1前			2		○								1		

	国際理解研究	3後			2		○								1	標準外
	Cross-Cultural Workshop 1	1前			2			○							1	標準外
	Cross-Cultural Workshop 2	1後			2			○							1	標準外
	Cross-Cultural Project	1後			1			○							1	標準外
	Japan Studies A	1前			1			○							1	標準外
	Japan Studies B	1前			2			○							1	標準外
	海外ボランティアA	2前・後			2				○						1	標準外
	海外ボランティアB	1前・後			2				○						1	標準外
	アメリカ文化入門	1前			1				○						1	標準外
	アメリカンビジネス	1前			1				○						1	標準外
	ホスピタリティ・マネジメント	1前			1				○						1	標準外
	フードマネジメント	1前			1				○						1	標準外
	日本事情A	1前			2			○							1	
	日本事情B	1後			2			○							1	
	協働プロジェクトA	1前			2			○							1	
	協働プロジェクトB	1後			2			○							1	
	インターンシップⅠ-a (事前・事後学修)	2後			1			○							1	
	インターンシップⅠ-b (就業体験)	2後			2			○							1	
	インターンシップⅠ-c (就業体験)	2後			1			○							1	
	インターンシップⅡ-a (事前・事後学修)	3前			1			○							1	
	インターンシップⅡ-b (就業体験)	3前			2			○							1	
	インターンシップⅡ-c (就業体験)	3前			1			○							1	
	文化芸術講座Ⅰ	1通		1			○								1	
	文化芸術講座Ⅱ	2前・後			2			○							1	
	小計 (141科目)	—	—	3	263	0		—		1	0	0	0	0	82	—
外国語科目	英語ⅠA	1前			1			○							4	
	英語ⅠB	1前			1			○							4	
	英語ⅡA	1後			1			○							4	
	英語ⅡB	1後			1			○							4	
	英語ⅢA	2前			1			○							2	
	英語ⅢB	2前			1			○							3	
	英語ⅢC	2前			1			○							2	
	英語ⅢD	2前			1			○							3	
	英語ⅢE	2前			1			○							2	
	英語ⅣA	2後			1			○							2	
	英語ⅣB	2後			1			○							3	
	英語ⅣC	2後			1			○							2	
	英語ⅣD	2後			1			○							2	
	英語ⅣE	2後			1			○							2	
	英語実践演習	1前			1			○							1	標準外、メディア
	ドイツ語(入門A・B)	1前			2			○							3	
	ドイツ語(初級A・B)	1後			2			○							3	
	ドイツ語(会話A)	2前			1			○							1	
	ドイツ語(旅行のドイツ語A)	2前			1			○							1	
	ドイツ語(書いて覚えるドイツ語A)	2前			1			○							1	
	ドイツ語(書いて覚えるドイツ語B)	2後			1			○							1	
	フランス語(入門A・B)	1前			2			○							2	
	フランス語(初級A・B)	1後			2			○							2	
	フランス語(絵本を読もうA)	2前			1			○							1	
	フランス語(話してみようA)	2前			1			○							1	
	フランス語(物語を読もうA)	2前			1			○							1	
	フランス語(物語を読もうB)	2後			1			○							1	
	スペイン語(入門A・B)	1前			2			○							2	
	スペイン語(初級A・B)	1後			2			○							2	
	スペイン語(入門A・B)s	1後			2			○							2	
	スペイン語(初級A・B)s	2前			2			○							2	
	スペイン語(短編を読むA)	2前			1			○							1	
	スペイン語(やさしい会話A)	2前			1			○							1	
	スペイン語(やさしい会話B)	2後			1			○							1	
	スペイン語(スペイン語圏の文化A)	2前			1			○							1	
	スペイン語(スペイン語圏の文化B)	2後			1			○							1	
	スペイン語(スペインの社会事情A)	2前			1			○							1	
	スペイン語(スペインの社会事情B)	2後			1			○							1	
	イタリア語(入門A・B)	1前			2			○							1	

イタリア語(初級A・B)	1後	2	○						1	
イタリア語(物語を読もう)	2前	1	○						1	
イタリア語(楽しい会話)	2前	1	○						1	
イタリア語(ことばと文化)	2後	1	○						1	
ロシア語(入門A・B)	1前	2	○						1	
ロシア語(初級A・B)	1後	2	○						1	
中国語(入門A・B)	1前	2	○						2	
中国語(初級A・B)	1後	2	○						2	
中国語(入門A・B)s	1後	2	○						1	
中国語(初級A・B)s	2前	2	○						1	
中国語(基礎文法トレーニングA)	2前	1	○						1	
中国語(基礎文法トレーニングB)	2後	1	○						1	
中国語(楽しい会話A)	2前	1	○						1	
中国語(楽しい会話B)	2後	1	○						1	
中国語(文法A)	2前	1	○						1	
中国語(講読A)	2前	1	○						1	
中国語(講読B)	2後	1	○						1	
中国語(時事B)	2後	1	○						1	
中国語(書いて覚える)	2前	1	○						1	
中国語(検定試験対策)	2前	1	○						1	
韓国語(入門A・B)	1前	2	○						2	
韓国語(初級A・B)	1後	2	○						2	
韓国語(入門A・B)s	1後	2	○						1	
韓国語(初級A・B)s	2前	2	○						1	
韓国語(文法トレーニング)	2前	1	○						1	
韓国語(やさしい作文)	2前	1	○						1	
韓国語(韓流で学ぶ会話)	2前	1	○						1	
韓国語(会話)	2前	1	○						1	
韓国語(ハングル検定試験対策)	2前	1	○						1	
韓国語(韓国語能力試験対策)	2後	1	○						1	
韓国語(メディアで学ぶ韓国語)	2後	1	○						1	
韓国語(トラベル会話)	2後	1	○						1	
韓国語(聞いて覚える韓国語)	2後	1	○						1	
ボストンサマーセッション英語	1前	2	○						1	標準外
ボストンサマーセッション英語(0)	1前	1	○						1	標準外、メディア
日本語読解A	1後	1	○						1	
日本語読解B	1後	1	○						1	
日本語会話	1後	1	○						1	
生活ケース学習	1後	1	○						1	
日本語表現A	1後	1	○						1	
日本語表現B	1後	1	○						1	
専門日本語	1後	1	○			1				
スタディスキル	1後	1	○						1	
文化と日本語A	1後	1	○						1	
文化と日本語B	1後	1	○						1	
プロジェクトA	1後	1	○						1	標準外
ビジネスコミュニケーションA	1前	1	○						1	
ビジネスコミュニケーションB	1後	1	○						1	
日本社会文化A	1前	1	○						1	
日本社会文化B	1後	1	○						1	
ビジネスライティングA	1前	1	○						1	
ビジネスライティングB	1後	1	○						1	
業界研究A	1前	1	○						1	
業界研究B	1後	1	○						1	
アカデミックスキルA	1前	1	○						1	
アカデミックスキルB	1後	1	○						1	
プロジェクトB	1前	1	○						1	標準外
ビジネスコミュニケーションC	2前	1	○						1	
ビジネスコミュニケーションD	2後	1	○						1	
インターンシップ日本語A	2前	1	○						1	
インターンシップ日本語B	2後	1	○						1	
日本語プレゼンテーションA	2前	1	○						1	
日本語プレゼンテーションB	2後	1	○						1	
業界研究C	2前	1	○						1	

	業界研究D	2後			1			○							1	
	Academic Japanese A	1前			1			○							1	
	Academic Japanese E	1後			1			○							1	
	Academic Japanese B	1前			1			○							1	
	Academic Japanese F	1後			1			○							1	
	Academic Japanese C	1前			1			○							1	
	Academic Japanese G	1後			1			○							1	
	Academic Japanese D	1前			1			○							1	
	Academic Japanese H	1後			1			○							1	
	小計（112科目）	—	—	0	133	0		—		1	0	0	0	0	41	—
教 育 年 次	データサイエンス基礎演習Ⅰ	1前	○	1				○		1	1					
	データサイエンス基礎演習Ⅱ	1後	○	1				○		1	1					
	小計（2科目）	—	—	2	0	0		—		1	1	0	0	0		—
基 礎 科 目 群	情報学概論	1前	○	2			○								1	
	DXと社会Ⅰ	1前	○	2			○								1	
	DXと社会Ⅱ	1後	○	2			○								1	
	データサイエンス入門	1後	○	2			○			1						
	情報倫理	2前	○	2			○			1						メディア
	小計（5科目）	—	—	10	0	0		—		2	0	0	0	0	2	—
数 学 ・ 統 計 学	数学基礎	1前	○	2			○			1	1					
	解析	1後	○	2			○			2						
	線形代数Ⅰ	1後	○	2			○			1	1					
	線形代数Ⅱ	2前	○	2			○			1	1					
	統計学基礎	1前	○	2			○			1		1				
	統計学	1後	○	2			○			1		1				
	Statistics Workshop	2前		2				○							1	
	小計（7科目）	—	—	14	0	0		—		2	1	1	0	0	1	—
ソ フ ト ス キ ル	ソフトスキル概論	1前	○	2			○				1					
	デザイン思考	1前	○	2			○								2	
	クリティカルシンキング	1後	○	2			○				1					
	チームマネジメント	2前	○	2			○				1					
	プロジェクトマネジメント	2後	○	2			○				1					
	小計（5科目）	—	—	10	0	0		—		0	1	0	0	0	2	—
デ ー タ サ イ エ ン ス 理 論	記述アナリティクス	2前	○	2			○			1	1					
	診断アナリティクス	2後	○	2			○			1	1					
	予測アナリティクス	2後	○	2			○			1						
	Descriptive Analytics Workshop	2後		2				○				1				
	深層学習	3前	○	2			○					1				
	処方アナリティクス	3前	○	2			○			1						
	Machine Learning Workshop	3後		2				○							1	
	心理統計	3前			2		○					1				
	時系列分析	3前			2		○				1					
	コンピュータビジョン	3後			2		○								1	
	自然言語処理	3後			2		○				1					
	マーケティング・アナリティクス	3前			2		○				1					
	ビープル・アナリティクス	3後			2		○								1	
	マーケティング・アナリティクス（ケーススタディ）	4前			2		○				1					
	ビープル・アナリティクス（ケーススタディ）	4前			2		○								1	
	DXケーススタディ	3後			2		○								1	
	マテリアルズインフォマティクス	3後			2		○								1	
	心理調査研究法	3後			2		○					1				
	行動科学実験法	3前			2		○					1				
	健康調査研究法	3後			2		○				1					
	生体科学実験法	3後			2		○			1						
	小計（21科目）	—	—	14	28	0		—		3	3	1	0	0	4	—
グ ラ フ イ ン フ ォ メ ー シ ョ ン	Python基礎	1前	○	2				○		1	1					
	Python統計学	1後	○	2				○		1	1					
	PythonアナリティクスⅠ	2後	○	2				○		1	1					
	PythonアナリティクスⅡ	3前	○	2				○		1						
	小計（4科目）	—	—	8	0	0		—		1	1	0	0	0	0	—

データサイエンス演習	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ	2前	○	2				○			2					
	データサイエンス基礎プロジェクトⅡ	2後	○	2				○			2					
	データサイエンス演習Ⅰ	3前	○	2				○		2	2					
	データサイエンス演習Ⅱ	3後	○	2				○		2	2					
	小計（4科目）	—	—	8	0	0		—		2	2	0	0	0	0	—
ドメイン	経営管理論	2前			2			○							1	
	人的資源管理	2前			2			○							1	
	消費者行動論	2前			2			○		1	1					
	組織行動論	3前			2			○								
	デジタルマーケティング	3前			2			○							1	
	基礎心理学概論	2前			2			○				1				
	認知科学概論	2後			2			○				1				
	産業組織心理学	2後			2			○								
	グループ・ダイナミックス	3前			2			○								
	応用認知科学	3後			2			○				1				
	健康科学概論	2前			2			○		1						
	食・栄養情報学	2後			2			○		1						
	健康・行動情報学	2後			2			○			1					
	運動・感覚情報学	3前			2			○		1						
	応用健康科学	3前			2			○			1					
	小計（15科目）	—	—	0	30	0		—		2	2	1	0	0	3	—
関連	データ活用特講Ⅰ	3前			2			○							1	
	データ活用特講Ⅱ	3後			2			○							1	
	海外情報学研修	2前			1				○		1					標準外
	小計（3科目）	—	—	0	5	0		—		0	1	0	0	0	2	—
卒業研究・演習	データサイエンス専門演習Ⅰ	4前	○	2					○		4	4				
	データサイエンス専門演習Ⅱ	4後	○	2					○		4	4				
	Capstone Project	4通	○	4					○		4	4				
	小計（3科目）	—	—	8	0	0		—		4	4	0	0	0	0	—
合計（322科目）		—	—	77	459	0		—		4	4	1	0	0	125	—
学位又は称号		学士（データサイエンス）			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
専門教育科目100単位以上（必修科目74単位、選択科目26単位以上）、一般教養科目17単位以上、外国語科目8単位以上を修得し、125単位以上修得すること。専門教育科目（選択科目）においては、ドメインから12単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：22単位（各期））									1 学年の学期区分			2期				
									1 学期の授業期間			15週				
									1 時限の授業の標準時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																
（総合情報学部デジタルイノベーション学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外 の教員 （助手を除く）	
一般 教養 科目	実践倫理(昭和女子大学の教育と理念)	1前		1			○								14	オムニバス、共同（一部）、メディア
	キャリアデザイン入門	1前		1			○								5	オムニバス、メディア
	女性の生き方と社会	2前・後			2		○								1	メディア
	女性とキャリア形成	2前・後			2		○								1	メディア
	アカデミック・ライティング	1前・後			2		○								2	
	教育学A	1前			2		○								1	
	教育学B	1後			2		○								1	
	倫理学A	1前			2		○								1	
	倫理学B	1後			2		○								1	
	哲学A	1前			2		○								1	
	哲学B	1後			2		○								1	
	論理学A	1前			2		○								1	
	論理学B	1後			2		○								1	
	宗教学A	1前			2		○								1	
	宗教学B	1後			2		○								1	
	日本精神史	1前・後			2		○								1	
	宗教文化論A	1前			2		○								1	
	宗教文化論B	1後			2		○								1	
	地理学A	1前			2		○								1	
	地理学B	1後			2		○								1	
	社会思想史A	1前			2		○								1	
	社会思想史B	1後			2		○								1	
	日本史A	1前			2		○								1	
	日本史B	1後			2		○								1	
	現代史A	1前			2		○								1	
	現代史B	1後			2		○								1	
	考古学A	1前			2		○								1	
	考古学B	1後			2		○								1	
	東洋史	1後			2		○								1	
	西洋史	1前			2		○								1	
	文化人類学A	1前			2		○								1	
	文化人類学B	1後			2		○								1	
	ジェンダー論A	1前			2		○								1	
	ジェンダー論B	1後			2		○								1	
	文学(日本)A	1前			2		○								1	
	文学(日本)B	1後			2		○								1	
	文学(海外)A	1前			2		○								2	オムニバス、共同（一部）
	文学(海外)B	1後			2		○								1	
	言語学A	1前			2		○								1	
	言語学B	1後			2		○								1	
	民俗と芸能A	1前			2		○								1	
	民俗と芸能B	1後			2		○								1	
	芸術論A	1前			2		○								1	
	芸術論B	1後			2		○								1	
	デザイン概論A	1前			2		○								1	
	デザイン概論B	1後			2		○								1	
	地域研究A	1前			2		○								1	
	地域研究B	1後			2		○								1	
	地域研究C	1前			2		○								1	
	地域研究D	1後			2		○								1	
	地域研究E	1前			2		○								1	
	地域研究F	1後			2		○								1	
	異文化コミュニケーションA	1前			2		○								1	

	国際理解研究	3後			2		○								1	標準外
	Cross-Cultural Workshop 1	1前			2			○							1	標準外
	Cross-Cultural Workshop 2	1後			2			○							1	標準外
	Cross-Cultural Project	1後			1			○							1	標準外
	Japan Studies A	1前			1			○							1	標準外
	Japan Studies B	1前			2			○							1	標準外
	海外ボランティアA	2前・後			2				○						1	標準外
	海外ボランティアB	1前・後			2				○	○					1	標準外
	アメリカ文化入門	1前			1				○	○					1	標準外
	アメリカンビジネス	1前			1				○	○					1	標準外
	ホスピタリティ・マネジメント	1前			1				○	○					1	標準外
	フードマネジメント	1前			1				○						1	標準外
	日本事情A	1前			2			○							1	
	日本事情B	1後			2			○							1	
	協働プロジェクトA	1前			2			○							1	
	協働プロジェクトB	1後			2			○							1	
	インターンシップⅠ-a (事前・事後学修)	2後			1			○							1	
	インターンシップⅠ-b (就業体験)	2後			2			○							1	
	インターンシップⅠ-c (就業体験)	2後			1			○							1	
	インターンシップⅡ-a (事前・事後学修)	3前			1			○							1	
	インターンシップⅡ-b (就業体験)	3前			2			○							1	
	インターンシップⅡ-c (就業体験)	3前			1			○							1	
	文化芸術講座Ⅰ	1通		1			○								1	
	文化芸術講座Ⅱ	2前・後			2			○							1	
	小計 (141科目)	—	—	3	263	0		—		0	0	0	0	0	83	—
外国語科目	英語ⅠA	1前			1			○							4	
	英語ⅠB	1前			1			○							4	
	英語ⅡA	1後			1			○							4	
	英語ⅡB	1後			1			○							4	
	英語ⅢA	2前			1			○							2	
	英語ⅢB	2前			1			○							3	
	英語ⅢC	2前			1			○							2	
	英語ⅢD	2前			1			○							3	
	英語ⅢE	2前			1			○							2	
	英語ⅣA	2後			1			○							2	
	英語ⅣB	2後			1			○							3	
	英語ⅣC	2後			1			○							2	
	英語ⅣD	2後			1			○							2	
	英語ⅣE	2後			1			○							2	
	英語実践演習	1前			1			○							1	標準外、メディア
	ドイツ語(入門A・B)	1前			2			○							3	
	ドイツ語(初級A・B)	1後			2			○							3	
	ドイツ語(会話A)	2前			1			○							1	
	ドイツ語(旅行のドイツ語A)	2前			1			○							1	
	ドイツ語(書いて覚えるドイツ語A)	2前			1			○							1	
	ドイツ語(書いて覚えるドイツ語B)	2後			1			○							1	
	フランス語(入門A・B)	1前			2			○							2	
	フランス語(初級A・B)	1後			2			○							2	
	フランス語(絵本を読もうA)	2前			1			○							1	
	フランス語(話してみようA)	2前			1			○							1	
	フランス語(物語を読もうA)	2前			1			○							1	
	フランス語(物語を読もうB)	2後			1			○							1	
	スペイン語(入門A・B)	1前			2			○							2	
	スペイン語(初級A・B)	1後			2			○							2	
	スペイン語(入門A・B)s	1後			2			○							2	
	スペイン語(初級A・B)s	2前			2			○							2	
	スペイン語(短編を読むA)	2前			1			○							1	
	スペイン語(やさしい会話A)	2前			1			○							1	
	スペイン語(やさしい会話B)	2後			1			○							1	
	スペイン語(スペイン語圏の文化A)	2前			1			○							1	
	スペイン語(スペイン語圏の文化B)	2後			1			○							1	
	スペイン語(スペインの社会事情A)	2前			1			○							1	
	スペイン語(スペインの社会事情B)	2後			1			○							1	
	イタリア語(入門A・B)	1前			2			○							1	

	業界研究D	2後			1			○							1	
	Academic Japanese A	1前			1			○							1	
	Academic Japanese E	1後			1			○							1	
	Academic Japanese B	1前			1			○							1	
	Academic Japanese F	1後			1			○							1	
	Academic Japanese C	1前			1			○							1	
	Academic Japanese G	1後			1			○							1	
	Academic Japanese D	1前			1			○							1	
	Academic Japanese H	1後			1			○							1	
	小計（112科目）	—	—	0	133	0		—		0	0	0	0	0	42	—
教 育 年 次	デジタルイノベーション基礎演習Ⅰ	1前	○	1				○				2				
	デジタルイノベーション基礎演習Ⅱ	1後	○	1				○				2				
	小計（2科目）	—	—	2	0	0		—		0	0	2	0	0	0	—
基 礎 科 目 群	情報学概論	1前	○	2			○					1				
	コンピュータサイエンス概論	1後	○	2			○					1				
	DXと社会Ⅰ	1前	○	2			○			1						
	DXと社会Ⅱ	1後	○	2			○			1						
	データサイエンス入門	1後	○	2			○			1						
	情報倫理	2前	○	2			○								1	メディア
	小計（6科目）	—	—	12	0	0		—		2	0	1	0	0	1	—
数 学 ・ 統 計 学	数学基礎	1前	○	2			○					1	1			
	解析	1後	○	2			○					1	1			
	統計学基礎	1前	○	2			○					1	1			
	Python入門	1後	○	2				○				2				
	データビジュアライゼーション	2前	○	2			○			1						
	機械学習入門	2後	○	2			○			1						
	Python統計	2後	○	2				○				1	1			
	ビジネスインテリジェンス	3前			2		○			1						
	小計（8科目）	—	—	14	2	0		—		1	0	2	1	0	0	—
ソ フ ト ス キ ル	ソフトスキル概論	1前	○	2			○								1	
	デザイン思考	1前	○	2			○				2					
	クリティカルシンキング	1後	○	2			○				1					
	チームマネジメント	2前	○	2			○								1	
	プロジェクトマネジメント	2後	○	2			○								1	
	小計（5科目）	—	—	10	0	0		—		0	3	0	0	0	1	—
コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス	データマネジメント	2前	○	2			○			1						
	データエンジニアリング	2後	○	2			○					1				
	IoT概論	2後	○	2			○					1				
	Emerging TechnologyⅠ	2前	○	2			○			1						
	Emerging TechnologyⅡ	2後	○	2			○			1						
	DXケーススタディ	3後	○	2			○				1					
	ML0ps	3前			2		○									
	クラウドコンピューティング	3前			2		○					1				
	サイバーセキュリティ	3前			2		○					1				
	ビッグデータマネジメント	3後			2		○			1		1				
	マテリアルズインフォマティクス	3後			2		○			1						
	デジタル画像処理	3後			2		○				1					
	小計（12科目）	—	—	12	12	0		—		4	2	2	0	0	0	—
ソ フ ト 開 発	プログラミング基礎	1前	○	2				○				2				
	プログラミング中級	1後	○	2				○		1	1					
	UMLモデリング	2前	○	2				○		1	1					
	オブジェクト指向プログラミング	2後	○	2				○		1	1					
	UXプロトタイピング	2後	○	2				○		1	1					
	コラボレーティブアプリ開発	3前	○	2				○		1	1					
	プログラミング上級	3前			2			○		1						
	データ構造とアルゴリズム	3後			2			○		1						
	小計（8科目）	—	—	12	4	0		—		1	1	2	0	0	0	—
習 得 演 習	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅠ	2前	○	2				○			1	1				
	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅡ	2後	○	2				○			1	1				
	デジタルイノベーション演習Ⅰ	3前	○	2				○		2	2	1				
	デジタルイノベーション演習Ⅱ	3後	○	2				○		2	2	1				
	小計（4科目）	—	—	8	0	0		—		2	2	2	0	0	0	—

ド メ イ ン	経営管理論	2前	○	2			○			1							
	人的資源管理	2前			2		○								1		
	消費者行動論	2前			2		○								1		
	組織行動論	3前			2		○								1		
	デジタルマーケティング	3前			2		○								1		
	基礎心理学概論	2前			2		○								1		
	認知科学概論	2後			2		○								1		
	産業組織心理学	2後			2		○										
	グループ・ダイナミックス	3前			2		○										
	応用認知科学	3後			2		○								1		
	健康科学概論	2前			2		○								1		
	食・栄養情報学	2後			2		○								1		
	健康・行動情報学	2後			2		○								1		
	運動・感覚情報学	3前			2		○								1		
	応用健康科学	3前			2		○								1		
小計（15科目）		—	—	2	28	0	—			0	1	0	0	0	7	—	
関 連	データ活用特講Ⅰ	3前			2		○								1		
	データ活用特講Ⅱ	3後			2		○								1		
	海外情報学研修	2前			1			○			1					標準外	
	小計（3科目）		—	—	0	5	0	—			0	1	0	0	0	2	—
演 卒 習 業 研 究 ・	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ	4前	○	2				○		2	2	2					
	デジタルイノベーション専門演習Ⅱ	4後	○	2				○		2	2	2					
	Capstone Project	4通	○	4				○		2	2	2					
	小計（3科目）		—	—	8	0	0	—			2	2	2	0	0	0	—
	合計（319科目）		—	—	83	447	0	—			4	3	2	1	0	126	—
学位又は称号		学士（デジタルイノベーション）			学位又は学科の分野				工学関係								
卒 業 ・ 修 了 要 件 及 び 履 修 方 法									授業期間等								
専門教育科目100単位以上（必修科目80単位、選択科目20単位以上）、一般教養科目17単位以上、外国語科目8単位以上を修得し、125単位以上修得すること。専門教育科目（選択科目）においては、ドメインから10単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：22単位（各期））									1 学年の学期区分				2期				
									1 学期の授業期間				15週				
									1 時限の授業の標準時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(総合情報学部データサイエンス学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一 般 教 養 科 目	実践倫理(昭和女子大学の 教育と理念)		大学初年次の学生が大学で学ぶことの意義を考えるための講義として、本学教員がオムニバス方式で展開する。学問領域には様々なトピックとアプローチがあり、領域間で共通見解に至ることもあれば、合意に至れないこともある。これらの実例に触れることで、自身の専攻以外の学問にも目を向け、多様な視点から社会を見つめる実践的な知識の形成をはかる。また、どの学問にも共通する研究倫理や、これからの生活や仕事に向けられる倫理に気づく機会を設ける。初年次教育として本学の授業科目の根幹に位置する性格のため、これを必修科目としている。 (オムニバス方式／全15回) (23 金尾朗／1回) 建学の精神 (23 金尾朗／1回) 教育目標と本学での学び：実践倫理ガイダンス (22 柏木厚子／1回) 海外体験、ダイバーシティ、留学 (18 今井章子／1回) プロジェクトマネジメント (42 嶺田明美／1回) 人間文化学部 (46 渡辺睦行／1回) 食健康科学部 (18 今井章子／1回) グローバルビジネス学部 (14 石垣理子／1回) 環境デザイン学部 (25 川畑由美／1回) 国際学部 (33 田中奈緒子／1回) 人間社会学部 (41 薬袋貴久／1回) 全学共通教育センター（一般教養・外国語・教職） (4 山中健太郎／1回) 総合情報学部 (21 小川睦美／1回) 健康 (44 山本晶子・17 井原奉明／1回) （共同）学問上の不正防止（研究倫理、知財、Chat GPT） (40 坂東真理子／1回) これからの女性のリーダーシップ	オムニバス・共同（一部）
	キャリアデザイン入門		21世紀を担い、グローバル社会で活躍する女性の育成を目指す。中長期にわたるキャリアデザインの重要性を深く理解し、社会の中での自分の役割・生き方を考える力を修得する。 (オムニバス方式／全15回) (40 坂東真理子／1回) 昭和女子大学で何を学ぶのか、アンコンシャスバイアスの克服 (16 伊藤純／1回) キャリアとは何か、キャリアデザインを学ぶ意味 (16 伊藤純／1回) 活用しないともったいない！本学のキャリア支援システム（メンター制度含む） (16 伊藤純／1回) 世界から見た日本の社会・経済 課題と解決策を考えよう (16 伊藤純／1回) グローバルに生きる、世界を多様な目で見ると (31 武川恵子／1回) 女性活躍推進法の意義と女性登用のインパクト（第5次基本計画概説含む） (16 伊藤純／1回) 社会人メンター講演1「私のチャレンジ」 (15 磯野彰彦／1回) 学生時代の学びを社会（企業・採用側）は評価する (16 伊藤純／1回) 社会人メンター講演2「新たな価値を創る楽しさを知ろう」 (18 今井章子／1回) 新しいリーダーシップの獲得と発揮(トップダウンからインクルーシブへ) (16 伊藤純／1回) 社会人メンター講演3「若手社会人の立場から」 (16 伊藤純／1回) チャレンジする心・逆境を乗り越える力を身に着けよう (16 伊藤純／1回) コミュニケーション・礼儀マナー (16 伊藤純／1回) AI・データサイエンスの社会を生きる (40 坂東真理子／1回) 女性のキャリアと人生	オムニバス
	女性の生き方と社会		人生100年時代を迎える中、卒業後に各自が「どのように働き、生きていくか」を考える上で、「キャリア」の概念を理解しつつ、幅広い視点からキャリア形成や人生設計を自分自身で考えるための基礎を築くことを目指す。また、社会貢献・共創型の生き方、特に、女性の生き方と社会とのつながりや関係性について、多様なものの見方や考え方を学ぶ。	

女性とキャリア形成		生きがい・やりがいを感じられるキャリアを通じて自身を成長させたい、その為に必要な素質・スキルを知りたい、キャリアもプライベートも充実させたいけれど実現可能か不安と考えている2年生以上を対象としたアクティブラーニング型・対面型のキャリア形成科目。備えて欲しいマインドセット・能力・スキルを学び、自分らしさを活かしたリーダーシップスタイルと自分にあったライフキャリアプランについて考える。	
アカデミック・ライティング		大学生は、レポートをはじめ、メール、種々のエントリーシートなど、常に書く力が求められる。初年次教育の一環として、特に論理的な文・文章について実践的に学ぶ。論理文以外にも、豊かな言語表現につながるような基礎的な力を養う。授業は、毎回、講義を行いつつ演習で実践する。第15回目には外部講師を招き、短歌のような文字数制限がある中でも豊かな表現ができるような基礎を学ぶ。	
教育学A		みなさんはこれまで10年以上学校教育を受けてこられました。学校に入る前の幼稚園や保育園、あるいは家庭教育を考えれば、生まれてからずっと教育を受けてきていることになります。教育というのはあまりにも身近すぎて、改めて考えることがなかった人も多いのではないでしょうか。逆に「なぜ学校に行かなければならないのか」「なぜ勉強しなければならないのか」と思い悩んだ人もいることでしょう。いずれにしても「教育」については体験的に既に良く知っていると言えます。 本科目では、みなさんの教育体験を振り返りながら、体験をより広い視野から見ることで、「学ぶこと」「教えること」とは何か、学校は何のためにあるのかといったことを一緒に考えていきます。	
教育学B		いつの時代でも、教育や子どもをめぐる問題があります。みなさんもこれまでの学校生活の中で、様々な問題を感じてきたと思います。その中には個人レベルで対応できるものもあれば、学校全体として対応が必要なもの、あるいは制度や法律のあり方に関わるものもあります。 本科目では、現代の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げて、その背景・原因や解決に向けての方向を考えます。そしてそのことを通じて、「教育とは何か」「子どもの成長・学びを促すために何が必要か」を追求します。	
倫理学A		主に西洋の代表的な思想家の倫理に関する見解を取り上げ、その考察を行う。古代から現代に至るまでの倫理思想を歴史的に概観することで、その特徴を把握することを目指す。西洋の代表的な思想家の倫理に関する見解を把握し、それを踏まえて、主体的に倫理に関する見解を構築できるようになる。	
倫理学B		本講義では応用倫理学の中でも医療倫理学をテーマとしながら、その基本的な分野である生命の始期や終期をめぐる問題を中心に考察を行い、当該分野でどのような議論が存在するのかを詳しく検討していく。医療倫理の基本問題の内容を踏まえた上で、家族等との関係を重視しつつ、各個人が主体的に倫理的問題に対して決定していくことの重要性を理解することを目指す。	
哲学A		普段の私たちは大抵のことを滞りなくやっつのけているが、ときに自身の営みを振り返るため、立ち止まって考えたりする。ところが、そこでの思案自体がさらなる疑問を呼び込むことがある。哲学は、そうした状況に置かれたときに（答えは与えてくれないが）、自分の考えを整理するための技法である。そうした技法に触れる機会をこの講義では提供したい。その際に、大きく分けて3つのテーマに話を絞り、そのテーマに即した哲学史上の見解を紹介する。紹介された見解をヒントにして、物事を切り分けつつ考える力を身に付けること——これが講義の狙いである。日常に比較的近い場面に焦点を当て、そこに潜む機微を取り出していく。	
哲学B		普段の私たちは大抵のことを滞りなくやっつのけているが、ときに自身の営みを振り返るため、立ち止まって考えたりする。ところが、そこでの思案自体がさらなる疑問を呼び込むことがある。哲学は、そうした状況に置かれたときに（答えは与えてくれないが）、自分の考えを整理するための技法である。そうした技法に触れる機会をこの講義では提供したい。その際に、大きく分けて3つのテーマに話を絞り、そのテーマに即した哲学史上の見解を紹介する。紹介された見解をヒントにして、物事を切り分けつつ考える力を身に付けること——これが講義の狙いである。特に学問や科学と呼ばれる営みに注目し、その歴史を参照しつつ、営みの特性を切り出していく。	
論理学A		私たちは生活する中でさまざまな知識を活用している。その際、自分で調べたり人から聞いたりしたことをそのまま用いるだけでなく、自分で考えを進めていくこともあるだろう。そういった「考えを進める」作業に対し、論理学はアドバイスを提供できる。この講義では論理学の知見を取り上げ、演習をつうじてその使い方を身に付けることになる。 前期は日常的に扱う言葉と論理学に登場する言葉の違いを意識しながら、論理学の基本的なアイデアと考えの進め方を学び、日常言語での推論を練習するのが目標である。	

論理学B		私たちは生活する中でさまざまな知識を活用している。その際、自分で調べたり人から聞いたりしたことをそのまま用いるだけでなく、自分で考えを進めていくこともあるだろう。そういった「考えを進める」作業に対し、論理学はアドバイスを提供できる。この講義では論理学の知見を取り上げ、演習をつうじてその使い方を身に付けることになる。 後期は論理学における考えの進め方について、記号を用いた記法を詳しく学び、さまざまな推論のパターンを実際に練習するのが目標である。	
宗教学A		宗教学は諸宗教を客観的に眺め、相互に比較し、社会や文化との関係を見ていく学問である。当授業では、絵画・動画・映画・音楽などを参照しながら、宗教を構成する概念、教え、実践のあらましを見ていく。主に日本の宗教に焦点を当てる。	
宗教学B		宗教学は諸宗教を客観的に眺め、相互に比較し、社会や文化との関係を見ていく学問である。当授業では、絵画・動画・映画・音楽などを参照しながら、宗教を構成する概念、教え、実践のあらましを見ていく。主に世界の宗教に焦点を当てる。	
日本精神史		海と山に囲まれて暮らす日本人は、そこに人の世とは違う“異界”を見ていた。世界文化遺産である熊野や富士山を、神話や縁起、絵画や芸能などから読み解いてみると、かつて日本人が創り上げた世界観や心性が見えてくる。現代に残された文化の遺産から、日本人が“異界”と向き合い創り上げた精神文化を探索しよう。	
宗教文化論A		日本の宗教文化は、神道や仏教、陰陽道、修験道などが重なり合い、多様な文化を創り上げている。身近なまつりや民俗、文芸が、古代寺院の儀礼や文化と深く繋がり合って展開するダイナミックな運動を、仏教史を踏まえ、人々の祈りや願いとともに探る。この授業では、文献や絵画を分析し、日本の文化に対する理解を深め、くずし字解読の方法を学び、文献取り扱いのスキルを習得する。これらを通じて、地域社会に根ざす歴史・伝統文化を再発見し、海外の美術館等に所蔵される資料にも視野を広げ、グローバル時代の国際人として必要な足場を築く。	
宗教文化論B		日本文化の基層には、神と仏の重なりあった文化がある。身近な寺社の年中行事や日本を代表する霊地霊場をとりあげ、神話や縁起、絵画や儀礼を通して、現代にも息づく神仏の文化を探究しよう。	
地理学A		地理学の2つの体系のうち、前期では「系統地理学」の発想から現代世界について考察を深める講義を展開する。前半では「地図」と「自然地理学」の基礎を概観し、後半は「人文地理学」を取り扱う。毎回、現在の世界を切り取った時事・景観写真・統計データ・主題図などを導入に位置付け、地理学の伝統的な考え方を基に地球的課題について考察を深める。また、受講者の関心のあるニュースから身近な生活圏での地理的事象についても考える。	
地理学B		地理学の2つの体系のうち、後期では「地誌学」の見方から現代世界について考察を深める講義を展開する。世界のある範囲の地域の特色を理解し、自分なりに地域区分する発想を獲得する。毎回、現在の世界を切り取った時事・ニュース・景観写真・統計データ・主題図などを導入に位置付け、地理学の伝統的な考え方を基に現代世界を概観する。また、受講者の関心のある地域についても自然環境と人間活動の関わりについて学際的に考察を深める。	
社会思想史A		私たちは社会に生まれ成長する存在であると同時に、社会にはたらしかけ、社会を作る存在でもあります。「クレアタ・エト・クレアンス（作られ、かつ作る）」という言葉で表される人間の両面性を自覚することは人間と社会、歴史等を客観的・多角的に知るための基礎的な素養です。この講義では主に欧米で発展した社会思想の歴史をとおして、社会を作る存在という自覚に至る私たちの歩みを知るとともに、先人がその時代と社会に見た問題と社会思想との関わりを学び、今日の諸問題に私たちがどう向き合っていくのかを考えます。	
社会思想史B		わが国に西洋近代的な意味での「社会」が形成されるのは幕末・明治以降のことで、それはとりわけ明治以後の政治家・知識人が欧米の様々な社会思想を輸入することで本格化していきました。一方、それは西洋近代的な意味とは異なるわが国独自の「社会」との摩擦や融合等様々な反応とともに今日に至っています。この講義では近現代日本に焦点をあて、欧米の社会思想をわが国がその社会・精神風土のなかでどう咀嚼して受容したのかを学び、世界のなかの日本人として様々な問題にどう対峙していけるのかを考えます。	

日本史A		本講義では、文献史料でもあり、考古資料でもある「出土文字資料」を読み解きながら、主に日本古代の人々の生活や社会の姿にせまることを目指す。また、歴史資料の調査・保存・活用を、現代社会の課題として捉える。 歴史資料を読み解き、学説を構築する歴史学の手法について理解する。日本の古代史（古墳時代～平安時代後期、4世紀～12世紀）について、大まかな流れを理解する。歴史資料の調査・保存の現場について、知識を深める。	
日本史B		本講義では、近現代日本史(開国～現在)を概観することを通じて、歴史学はどのような視点で近代日本を描いてきたのかを見ていく。一連の歴史事件を考察する際、日本という「当事者」の視点だけではなく、周辺国(中国、韓国ら)および欧米から、所謂「他者」という視点も重視する。史料に接しながら、歴史学の方法論及び歴史の面白さを実感して学んでいく。歴史学の視角、歴史学の方法論を習得する。近代日本史の諸問題を複眼的に観察し、分析する力を養成する。史料調査と史料解読の方法を覚え、「現在」の私たちが直面する諸問題を検討・解決するヒントを探す。	
現代史A		本講義は、21世紀の「今」を形作る現代史をあつかい、特に、「長い20世紀」の歴史の概観、構造的理解およびグローバルな社会構造の洞察のための基礎学力を養成するものである。「歴史とは現在と過去との対話である」(E.H. カー)という言葉の通り、グローバル化された現代社会を生きるために知ってほしい歴史からの学びを実践する。履修学生は、通史のみならず、歴史の構造的な理解の仕方、社会科学の基礎的な概念や視点にも触れることになる。学習内容は、欧米大国の国際関係史や国際政治史のみならず、その他の各諸地域、第三世界の人々から見た歴史、それぞれの社会のマイノリティ(人種・階級・ジェンダー・エスニシティなどの)の視点も含めて展開したい。担当者は、グローバル社会を生きる市民として「グローバル・ヒストリー」はどのようなものになるかを考えながら授業を運営する。	
現代史B		本講義は、主に第二次世界大戦後の冷戦期(冷戦体制)から21世紀の第一四半期までを念頭に、「現在」を形作る直近の「歴史」をあつかう。歴史とは、現在と過去との対話であるため、何を歴史事象として取り上げるかは、歴史家や研究者の問題意識により異なってくる。また、進行する現在・今に応じて常に問いは更新され続ける。この講義では、より包摂的で公正な社会がいかにか可能か? を問題意識とする。自由・民主主義および資本主義陣営と共産党一党独裁の社会主義陣営に分かれて対立した冷戦体制の理解から始め、国際社会の社会構造が我々の個々人の生活史や私的問題を左右する文脈を考えたい。冷戦体制を4つの時期区分にわけ、言及する地域も世界の諸地域(米国、ヨーロッパ、その他諸地域)のバランスに留意する。	
考古学A		指定史跡を中心に神奈川県内の代表的な遺跡を取り上げ、その遺跡の発見や発掘調査に関わった地域研究者達にスポットを当てながら、遺跡の調査・研究を通じて明らかにされた古代の人々の生活と知恵について概説を行い、日本考古学の研究の歩みと成果について理解を深める。また、地方自治体での実務経験、大学調査機関での調査・研究経験を通じた遺跡の調査現場での経験に触れ、遺跡の保存と活用についても考える。	
考古学B		日本列島の代表的な遺跡を取り上げ、その遺跡の発見・調査から明らかにされた古代の人々の生活について概説を行い、日本考古学の研究の歩みについて理解を深める。考古学の成果を通して、時代が変わるとはどういうことなのか、その変化の背後にあるものを理解する。古代の人々が自然とどのように関わってきたか、どのような工夫を重ねて生きてきたかを知る。	
東洋史		この授業では、前近代「東アジア」の国際関係史を扱う。その際に史料の残存量等から視点を仮に中国におき、北方遊牧民との関係を重視しつつ、唐代から時代を下りながら歴史を概観する。日本の位置づけについても外からの視点で考えたい。前近代「東アジア」の国際関係史に関する理解を深めることを通じ、履修者が「東アジア」史の中に日本の歴史を相対化して位置づけられることを目標とする。また上記に関連するテーマについて、論理と構造の存在する文章を執筆することを目指す。	
西洋史		古代から近世にいたる西洋世界の歴史を学ぶ。高校世界史の内容をよく復習した上で、それぞれの時代の特徴と、歴史的な流れについて学ぶ。また、西洋文明の現代への影響や、「歴史」がどのように変化していったのかを理解する。	
文化人類学A		本科目は、世界各地のさまざまな文化に目を向け、それらの類似性と異質性を探りながら「文化とは何か?」という、人間にとって根源的ともいえる問いにアプローチする。そこで毎回の授業では、文化人類学者たちが伝統的に扱ってきたテーマ——例えば、生業、婚姻と家族、性とジェンダー、宗教——を取り上げながら講義する。	

文化人類学B		「文化人類学A」を土台にして、本コースでは「今日のグローバル化した世界における文化とは？」という、やや発展的な側面に目を向けて世界各地の今日的な問題にアプローチしていく。そこで毎回の授業では、近年ますます文化人類学者たちに取り上げられるようになったテーマ——例えば、教育、環境、医療、経済、移民・難民——の概要について講義する。	
ジェンダー論A		本授業では、社会科学の最新の研究結果に基づいて、性差の実態を把握し、そしてその意義について考える。「ジェンダー」という概念の理解に当たっては、「社会的性別」としてだけでなく、「性別二元性」そのものを強いる秩序として、そして男女という性別カテゴリーとそれに関連する価値と表象（男らしさ、女らしさ）を階層化する秩序として提示していく。授業の後半では、家庭や学校生活、労働市場等において、ジェンダーがどのように形成され、再生産されていくのかを具体例を挙げながら考察する。この授業では日本社会を主なケーススタディとしつつ、可能な限り国際比較も行う。	
ジェンダー論B		前期に続き「ジェンダー」という概念を整理しながら、その視点を通して現代社会が抱えている諸問題について考えていく。今学期に取り上げる主なテーマは、フェミニズム運動をはじめとするジェンダーに関わる社会運動、政治に見られるジェンダーギャップ、法律や公共政策に見られるジェンダーバイアス、そして身体と性に関わる様々な課題等です。この授業では日本社会を主な研究対象としつつ、可能な限り国際比較も行う。	
文学(日本)A		日本人の精神的所産である古典文学に親しむ。現代の慌ただしい毎日の生活の中にも、古典文学に表現される情趣を見つけることができることを知り、自身の生活の中で詠歌など言葉にすることによって自己に潤いを与えられるようになることをめざす。この授業で、日本の古典文学に親しみ日本の言語文化を受容する心と、日本人の精神文化について古典文学に沿って理解する力を養い、人間が健康で、文化的に生きて行くために必要なものは何かを考えられるようにする。	
文学(日本)B		この授業では、個々の作家に焦点をあてながら、日本文学のおもしろさとは何かを考察する。さらに、文章技法を主題としながら、作家や日本文学の流れを分析する。到達目標は、日本文学において好きな作家や作品と出会うことであり、押し付けられた教養ではない、自分なりの日本文学への理解を持てるようになることである。同時に、日本文学への学びを通して、書くことや自分の思考を他者に伝えることへの実践的な能力を磨くことも、本講義の重要なテーマとなる。	
文学(海外)A		英文学では、20世紀末までの英文学史外観を通じて、文学がイギリス文化に果たした役割を理解し、同時に文学作品の読み方と意義を修得する。米文学では人種・階級・ジェンダーなどを分析軸にして米文学の文学史の流れや社会とのかかわり、作家個人の特徴、個々の作品の面白さなどを探る。英米文学・文化ともに小説および詩を実際に読み、文学の基本的な解釈法を学びながら、当時の社会背景、文化に親しむことを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (24 金子弥生／1回) 文学とは何か (24 金子弥生／1回) イギリスの演劇を考える (24 金子弥生／1回) ルネサンスと演劇 (24 金子弥生／1回) ミステリーを考える (24 金子弥生／1回) アガサ・クリスティとミステリー (24 金子弥生／1回) イギリスと階級（1） (24 金子弥生／1回) イギリスと階級（2） (25 川畑由美／1回) アメリカ文学の特色 (25 川畑由美／1回) ケイト・ショパン「ジェンダーの視点から」 (25 川畑由美／1回) イーディス・ウォートン「解釈の多様性について」 (25 川畑由美／1回) アーネスト・ヘミングウェイ「Lost Generationとアメリカの夢①」 (25 川畑由美／1回) アーネスト・ヘミングウェイ「Lost Generationとアメリカの夢②」 (25 川畑由美／1回) ラングストン・ヒュー「人種分離政策①」 (25 川畑由美／1回) ラングストン・ヒュー「人種分離政策②」 (24 金子弥生・25 川畑由美／1回) （共同）まとめ	オムニバス・共同（一部）

文学(海外)B		イギリスを中心に児童文学について概観する。カントリーサイドからロンドンまで、各土地の風土・文化を知り、そのなかで生まれた作品のなりたち、子どもの文学としての特性、時代背景、児童文学史的意義を学ぶ。モチーフ分析を深めるため、適宜イギリス以外の外国の児童文学作品にも触れる。これにより、イギリスを中心に外国の児童文学の主な作品・作家に関する知識を身に着け、子どもの本の特性を理解し、ファンタジー文学の機能や存在意義を理解する。また、イギリスの文化・歴史を知る中で、各土地の風土・文化と、文学との深い関連性を学ぶ。	
言語学A		本講義では、言語学全体を俯瞰する。言語を科学的に研究する言語学の基礎的な考え方や方法を学び、言語を理解する力を養う。言語は、人間のみが持っているコミュニケーションの手段である。言語のおかげで、人間は思考したり、記録したり、発話したり、心を通わせたりして、現在のような高度に発達した複雑な社会を構築できる。本講義は、言語に関わる様々な学問的側面の理解を通して、人間の知性の基盤を理解することを目指す。それぞれの学生が、自分の専門領域と本講義を結び付け、言語に関する思索を深化されることを願う。	
言語学B		「言語学A」に取り上げなかった言語学の諸領域について、比較的新しい視点を含めて紹介し、言語学の広がりを概説する。言語を科学的に研究する言語学の基礎的な考え方や方法を学び、言語を理解する力を養う。それぞれの学生が自分の専門領域と本講義を結び付け、言語に関する思索を深化されることを願う。言語に関わる諸問題をも紹介し、知見を深め、自分の在り方を考え、自分なりの意見を持つことを望む。	
民俗と芸能A		日本各地に伝存する民俗芸能をとりあげ、民俗学や芸能史・宗教史・国文学などと関連させながら、伝承資料としての民俗芸能の特色と価値を検討する。また芸能表現の背後にある日本人の心意を探る。	
民俗と芸能B		日本各地に伝存する民俗芸能をとりあげ、民俗学や芸能史・宗教史・国文学などと関連させながら、伝承資料としての民俗芸能の特色と価値を検討する。また芸能表現の背後にある日本人の心意を探る。	
芸術論A		クラシック音楽の歴史的な流れを中世から近現代までたどり、音楽や音楽家を取り巻く時代や社会の影響に注目しながら、音楽を同時代の芸術・思想・政治・生活文化などと絡めながら多角的に捉えていく。 授業では、授業担当者による実演や視聴覚資料をもとにし、歴史上の重要な音楽作品に触れていく。 その際、耳で聴くだけではなく、楽譜や図版、文献資料などを駆使して分析し、解釈することで、さらにその魅力と価値を実感できるようにする。	
芸術論B		美術作品を様々な角度から検証し、その鑑賞方法や解釈について概説する。本講義では、美術という現象を社会や時代のコンテキストからダイナミックに捉え、より深く楽しむための新しい視座を獲得できるようにする。	
デザイン概論A		高度情報化社会がもたらした産業構造の変化は「デザイン」が関わる領域を大きく広げてきた。 この授業では様々なジャンルのデザインの事例をそれらが生まれた社会状況とともに体系立てて紹介することで、単にデザインの知識を得るだけでなく現代社会が抱える問題や現象を読み解く力を養う。	
デザイン概論B		なぜ、一般教養でデザインを学ぶのか？ 昨今“地域創生”がブームとなり、地方自治体ではデザイナーやクリエイターを採用・募集する事例が増えてきている。 また、民間では経済産業省が掲げる「デザイン経営」のスローガンのもと、デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用する経営手法が一般化し、ノンデザイナーの経営層が「デザイン思考」を習得することで“デザイナー的な発想法”を企業経営に活かした成功例が報告されている。 いまや、デザインの知識やデザイン思考は現代人が備えるべき基礎的な学問であると言える。「意見の共有」を目標に掲げる。	
地域研究A		日本サムライとゲイシャの国というステレオタイプが海外に存在するように、イギリスと言えば英国庭園を背景に澄まし顔で紅茶を飲む世襲貴族や、山高帽と歩行杖という出立(いでたち)で英京倫敦の街を闊歩する英国紳士のステレオタイプが今でも多くの国々で健在だ。しかしそれだけが真のイギリスの姿ではない。現代イギリスが抱える諸問題を扱い、映像資料(静止画スライドおよび動画)も駆使してイギリスらしさを考える。	

地域研究B		「外国語を知らないものは、己が母国語を知らない」：ドイツの文豪ゲーテの有名な言葉ですが、このことは、「外国の文化・社会を知らないものは、己が母国の文化・社会を知らない」と置き換えてもいいでしょう。この授業では、ドイツの社会の諸相を知ること、日本の社会の在り様を振り返り、相対化することで、21世紀に生きる日本人として、どう生きていくのかを改めて考える機会を提供したいと考えている。	
地域研究C		この授業が扱う地域はフランスである。この授業では、地理、歴史、文学、フランス語、食べ物・レストラン、飲み物・カフェなどさまざまな角度からフランスに光を当て、時に歴史的にさかのぼって考察する。それによって、「おしゃれ」「街並みがきれい」といったステレオタイプのフランスのイメージとは異なる、隠れたフランス文化の一面をあぶりだし、フランス文化の豊かさに迫る。現代日本に住む私たちがフランスの歴史や文化から学ぶことは少なくないはずである。私たちはフランスに関して漠然としたイメージをもっているが、そのイメージは必ずしもフランスの現実と合致するものではない。フランスに関してさまざまな角度から考えつつ、理解を深めること、さらには、自分自身を客観的により深く知ること目標とする。	
地域研究D		この授業では、ユーラシア大陸の中央から北方部分を網羅する広大なロシアの文化芸術を中心に、周辺国との関係や歴史、スラブの世界観を学んでいきます。バレエや音楽、スポーツなどで皆さんが知っているロシアは文化芸術大国であり、自然と調和した北欧に通じる温かみのある生活様式も見られます。しかしその歴史や影響力はドラマチックで近現代の国際社会に大きな足跡を残し、日本にとっても地政学的にも大切な隣国です。18世紀から現代までのロシアの文学、美術、舞台、音楽、バレエ等の芸術を中心に、映画や映像、テキストなどの視聴覚教材を使いロシアとその周辺国の魅力をご紹介します。昭和女子大学の創立精神の礎である非戦論・非暴力主義のレフ・トルストイについても、ぜひこの講義で学んでみましょう。	
地域研究E		インドを始めとした「南アジア」地域は、21世紀の世界の政治・経済に大きな影響を与える。世界人口の約4分の1が集中しており、文明圏としての統一と多様性の一方で、紛争の絶えない地域でもある。南アジアの地理・歴史・社会文化・国際関係などについて、日本への影響も踏まえつつ、時に映像などを用いながら解説していく。 南アジア地域の概要を知ること、地域の社会・文化について、歴史的背景を踏まえて説明できること、世界の平和・共生に向けた地域の課題を理解し、客観的かつ批判的な国際的教養を身に付けること。	
地域研究F		この授業で取り上げるのは中東です。この地域にはイランを東端に西はモロッコまで幅広い国々が含まれます。この授業では中東の文化、宗教、歴史、政治について多角的に学び、一般に流布しているような短絡的な印象論を越えた理解のあり方を育みます。 授業到達目標及びテーマ□ 中東の文化や歴史、政治に関わる基本的なタームについて説明できるようになること、そして中東を日本との関わりや国際的な視野のなかで捉えられるようになることが目標です。	
異文化コミュニケーション A		今日の社会において私たちは異文化との接触を避けて通ることができない。この講義では、対人的な場面での異文化コミュニケーションに焦点を当てコミュニケーションの基礎概念を学び、文化・個人・ことばをコミュニケーション学の視点から考察する。 普段、何気なく行なっているコミュニケーション現象を意識化し、そこで働く文化について考え、学んだ概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる力を身につけることにより、今後直面する様々な場面における異文化コミュニケーションについて自身の力で考え対応できる力を養うことを目標とする。	
異文化コミュニケーション B		私たちは、考え方や表現方法が自身とは異なる様々な人々と日々出会い生活している。この講義では、コミュニケーションに関する理論・研究を学ぶことにより、文化の多様性や異文化共生について考え、広い視野を持つことを目指す。 コミュニケーションの基礎概念を理解し身の回りの状況に応用し、国・人種・民族などの基軸だけでなく様々な切り口で文化を捉え、そこで生じるコミュニケーションを考察し、文化の多様性と今後の共生社会について自身で考え対応できる力を養うことを目標とする。	
都市論		一都市民として生活するために、都市とは何かを知る。歴史、文化の異なる世界の都市を知るとともに身近な東京について街の魅力を体験する。身近な街、三軒茶屋や世界各地の都市を通して多彩な世界の様相を知り、都市を活用する意識を高めることを目標とする。	

住居学A		住居はそこで生活する家族の器である。多発する家族問題を中心に、数々の事象から「家族とは何か?」という理解を通して、住居という空間を考える。変容する家族関係や家族生活を、住宅や地域という空間を通して把握する。 多様な家族関係や家族問題を空間的に捉えながら、問題を把握し解決策を考察する。家族の概念、類型、機能、周期から家族に関する基本的知識を習得する。家族の歴史をたどり、現代家族の動向を理解する。高齢者の現状を理解し、高齢社会に向けて安全で安心な居住環境について理解する。子どもを取り巻く社会環境をとりあげ、子どもと住まいについて理解する。	
住居学B		住居は、地域社会を構成する単位であり、人間生活を包み込む器である。この住居について、インテリア、家族と住居、住居計画といった諸点から取り上げていく。この授業を通して、住居に関する基礎的知識を取得し、インテリアを総合的に把握できる基礎的知識を身につける。これにより、快適な住空間のデザインについて考える力を養う。	
社会学		近年の「社会問題」に関する社会学の研究知見を学び、教育・仕事・家族が抱えているさまざまな問題を、常識に捉われずに多面的に考察するスキルを身につける。現代の学校の中では何が起きているのか。学校の外では何が起きているのか。両者はどう関係しているのか。身近な題材である「学校」から始まり、現代社会について検討する。	
政治学A		政治についての基本的な見方を学ぶ。政治学の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討を行う。	
政治学B		政治についての基本的な見方を学ぶ。政治学の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討を行う。	
国際政治学A		本講義の目的は、国際政治についての基本的な見方を学ぶことにあります。国際政治の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討をおこなう。	
国際政治学B		本講義の目的は、国際政治についての基本的な見方を学ぶことにあります。国際政治の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討をおこなう。	
経済学(ミクロ)		この科目は、本学の一般教養科目において開講されるあらゆる経済系科目の導入的位置付けであり、我々の人生において直面する出来事（進学・就職・結婚・育児など）および、そのときの我々自身の行動様式について、経済的思考で読み解く。身の回りに起こる様々なギモンや現象を引き合いに、日常の何気ない行動にもそれなりの根拠や一定の法則があることを認識できるよう、視覚に訴えた内容を展開する。	
経済学(マクロ)		この科目では、あらゆる経済系科目の基盤的位置付けであり、新聞やメディアで日頃耳にする社会事象および人生における重要な出来事（進学・就職・結婚・育児など）に対する我々の行動様式について、マクロ経済的思考で読み解く。GDP（国内総生産）や為替などのように、新聞やメディアで当然のように登場するものの、その深い意味については曖昧な理解にとどまっている事項を引き合いに、身近な事例や視覚に訴えた内容を展開する。	
日本経済史A		日本経済の歩みを、産業構造、経済政策、財政金融、労使関係、企業経営、生活の変容などに着目しながら概観する。20世紀初頭から第二次世界大戦までを対象とする。	
日本経済史B		日本経済の歩みを、産業構造、経済政策、財政金融、労使関係、企業経営、生活の変容などに着目しながら概観する。戦後復興から90年代長期低迷期までを対象とする。	
社会保障論A		私たちの生活経営に不可欠な社会保障について、その理念、歴史、機能、財政などの面から多角的に学ぶ。社会保障制度そのものを「単体で」学ぶのではなく、家族や家計の問題と結びつけて身近な社会資源として捉えるところに本授業の特徴がある。最低生活費を算定するグループワークやライフサイクルゲームなどを通じて生活者として必要な知識等を楽しく学んでいく。	
社会保障論B		私たちの生活経営に必要な不可欠な社会保障について学ぶ。社会保障の構造・体系・仕組みの概要を説明した後、「年金」「医療」「介護」「労災」「雇用」の5つの社会保険を取り上げるが、制度の説明に終始することなく、受講者自身が身近な生活問題として社会保障の在り方を考えられるような材料を提供し、授業を展開する。社会福祉、公的扶助、リスクマネジメントとしての資産形成と民間保険の役割についても学ぶ。	

日本国憲法A1		日本国憲法の成り立ちとその仕組みについて、基本的人権の保障を中心に学ぶ。 「日本国憲法における人権保障」憲法が私たちの生活と切り離せないものであることを知り、その基本原理を学ぶことによって、身の周りにある未解決の問題について憲法的な視点で自分なりに考えることができる力をつける。	
日本国憲法A2		日本国憲法の統治機構編すなわち政治の仕組みを中心に、具体的な事例を織り交ぜながら学ぶ。 「日本国憲法における統治の仕組み」憲法の究極目標である基本的人権の保障を実現するために、立法・行政・司法から成り立つ統治機構がそれぞれどのように機能し、相互に作用しているかを学ぶ。新聞等で報じられている政治の動向が憲法上どのような意味をもつものであるかを理解する。	
日本国憲法B		日本国憲法における基本的人権の保障と政治の仕組みについて具体的な事例を通して学ぶ。 「日本国憲法における人権保障と統治の仕組み」憲法が私たちの生活と切り離せないものであることを知り、その基本原理を学ぶことによって判例を通じて既に解決された問題だけでなく、身の回りにある未解決の問題について憲法の視点で考え、各自が自分なりに分析・考察する力をつける。	
法学A		人の誕生から死までの流れを軸として、各ライフステージで起こりうる法的問題に注目しながら法学を学ぶ。本講義では人生の前半に関連した問題を中心に扱う。	
法学B		人の誕生から死までの流れを軸として、各ライフステージで起こりうる法的問題に注目しながら法学を学ぶ。本講義では人生の後半に関連した諸問題を扱う。	
科学論A		”科学”とは何か？と改めて問われると困る人が多いのではないだろうか。それは、偉人と言われる多くの哲学者や科学者たちにとっても同じなのである。 本講義では、「科学」を社会の一つの現象としてとらえて、様々な角度から「科学」について考えていく。 単なる法則とその発見者の羅列をするつもりはないので、高校までの「理科」の授業とは相当異なる印象を受けるだろう。 なお、理解に必要な理科の知識は適宜説明するので、理科の知識の有無は不問である。	
科学論B		”科学”とは何か？と改めて問われると困る人が多いのではないだろうか。それは、偉人と言われる多くの哲学者や科学者たちにとっても同じなのである。 本講義では、「科学」を社会の一つの現象としてとらえて、様々な角度から「科学」について考えていく。 単なる法則とその発見者の羅列をするつもりはないので、高校までの「理科」の授業とは相当異なる印象を受けるだろう。 なお、理解に必要な理科の知識は適宜説明するので、理科の知識の有無は不問である。研究開発職での実務経験を活かし、情報通信などの今日的な技術の回では、新規事業開発の視点からも解釈していく。	
生命科学A		生命科学と聞いてなにを連想するか？生物学は、生物の基本的な体の構造や、活動の特徴などについて総合的に学ぶ分野である。一方、生命科学は、生命のしくみをより良く知ること、生活や健康の質を向上させることを目指す。また、環境や生態系、そして社会の中における私たちの立ち位置を適切に理解することを目指す。本講義では、基本的かつ重要な生物学の知識を踏まえつつ、生命とはなにか？という疑問に適切な解を見出すため、生命科学に関する重要なテーマについて概説する。	
生命科学B		ゲノム情報を活用したがんの早期発見や新型出生前診断、iPS細胞を用いた再生医療など、生命科学の進展は目覚ましいものがある。その一方で、ゲノム編集によるデザイナーベビーや幹細胞を用いたクローン作製が技術的には可能になりつつある。これら諸問題に対して、バランスの取れたものの見方をする上で、生命科学の知識は今後ますます重要となる。本講義では、受精卵から組織・器官を作る個体発生のしくみと、多様性獲得に至る系統発生 of のしくみを概説します。また、免疫など体を守る基本的なしくみに関する重要なテーマについて講義を展開する。	
生物学A		人に関する生物学の基礎知識を習得するための講義である。多様な生命現象を、分子、細胞、臓器、個体のレベルで考え、「人のからだのつくりとしくみをみる目」を養うことを目的とする。 高校で生物の授業を受けなかった者や、生物に関心がほとんど向かなかった者に対しても、生命現象を基礎から理解してもらい、人体の作りとはたらきに具体的なイメージを持てるようになることを目指す。細胞、主な臓器、臓器同士の相互関連、骨と筋肉、免疫等のテーマを取り上げる。	

生物学B		生物学の基礎知識を習得するための講義である。多様な生命現象を、分子、細胞、個体、生態系のレベルで考え、「自然をみる目」を養うことを目的とする。 高校で生物の授業を受けなかった者や、生物に関心がほとんど向かなかった者に対しても、生命現象を基礎から理解してもらい、生物を、ひいては自然を好きになるきっかけを与える。遺伝、動物の行動、生態などのテーマを取り上げる。	
化学		大学教育過程における自然科学分野の基礎として、「化学」を高校課程で選択しなかった学生にも充分理解できるレベルから始めて、私たちの身近にある「化学」に対する関心を深め、基礎的概念と知識の理解と修得を目指す。	
応用化学A		電子機器の素材や医薬、食品、農業、環境衛生、資源の有効利用などさまざまな産業分野で求められている応用化学について、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、分析化学、生物化学の各領域について概観する。	
応用化学B		土壌や水の有機フッ素化合物汚染など、近年注目されている化学関連の環境問題等を取り上げることで、社会問題に内在する化学的な側面を理解し、その意味と私たちへの影響、今後の対策について学ぶ。	
環境論A		地球環境問題は、私たちがそれを明らかに認識する前から生じていた。この講義では文学作品の中に表現されている背景（的なもの）の中から環境問題を抽出し、これからどのように行動したらよいのか の足掛かりを得たい。	
環境論B		現在、最も関心を集めている問題の一つである「環境問題」に関して、森林を手がかりに考察する。持続可能な循環型社会に変えるために、どのように考えどのように行動すべきか、地球的視野で議論できるよう理解を深めたい。	
天文学A		太陽系や星、惑星、銀河、ブラックホールなど天文学の広い範囲を科学的に理解する。身近な天体現象や最新の成果も紹介し、宇宙の壮大なスケールを学ぶ。講義はプレゼンテーションや視覚教材を用いて解説する。	
天文学B		地球、太陽系から宇宙全体に至るまで、天文学全般を科学的に理解する。個々の天体や現象に重点を置き、最新成果も交えて解説する。解説は視覚教材やプレゼンテーションを用いて行う。	
栄養科学A		食生活が複雑化し、大量の健康情報が溢れている。健康維持・増進の基本となる「食べる」ことに着目し、食に関する基礎知識を学ぶ。家庭、特に台所で見られる現象を、科学的な視点から捉え、考察する。	
栄養科学B		現代社会は「食と健康」に関連した様々な情報に溢れています。この授業では、これらの情報について、科学的根拠に基づいた解説を行います。また、授業の内容を皆さん自身の健康にも役立ててもらいたいと思っています。	
食物学A		「和食」が無形文化遺産に登録されたのをきっかけに、日本の食文化への関心が高まっている。まず日本ではぐくまれてきた食文化について解説をする。また食生活は様々な社会状況を反映し、変化するものでもある。現代の食生活について環境、食育、情報、調理など多方面から解説する。	
食物学B		食べるという行為は動物が生きていく上で不可欠である。ヒトは単に生理的欲求を満たすだけでなく、食べ物を効率よく入手し、保存し、おいしく調理して楽しく食べるための工夫を続けてきた。ヒトはいかにして食物を獲得し、どのように調理をし、どのような過程を経て文化まで高めてきたのか。主要な食品や調理加工技術を取り上げて、食に関わる人間の知恵について考える。	
体育実技A		スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。各種目を通し、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。	
体育実技B		スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。各種目を通し、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。	

メディア論A		各種ソーシャルメディア・ソーシャルネットワーキングサービスの利用実態と社会的影響を議論する。そして、その議論を通じて、現代社会特有の人間関係のあり方や、人と人とのつながりのあり方について、社会学的な視点から学ぶ。授業を通じて、日常に埋もれがちな社会的事象に対して、改めて目を向け議論する姿勢を身に着け、各種ソーシャルメディア・モバイルメディアが持つ社会的機能・位置づけを理解する。さらに、ソーシャルメディア・モバイルメディアの利用が深く関与する現代社会特有の社会的ネットワークのあり方について理解を深める。	
メディア論B		日本における新聞の歴史、役割、現状について学び、今後のあるべき姿を探る。毎日新聞での33年間の体験をもとに実態に即した授業を行う。テレビや雑誌、インターネットなど他媒体との比較や、報道被害などの問題点も取り上げる。日本の新聞の歴史と現状について理解する。併せて海外の新聞事情と日本との違いについても学ぶ。新聞が世の中のために役に立っている側面とマイナスに作用している側面の両方を学習する。毎日、最低1本の新聞記事を読むことを課す。いろいろなニュースを材料に、自分が記者だったらこう報じるといった考えを表明してもらう。新聞のあるべき姿を提言する。授業中に積極的に発言する機会を与えたい。	
リーダーシップ基礎		現代は高度な集団内連携が期待されており、グループ・ダイナミクスに対応したリーダーシップを発揮する人材が社会から求められています。そしてリーダーシップは経験から得られることが多いと言われていますが、経験するだけでなく、自己の内面でリーダーシップを体系化し、統合する作用を行うための知識が必要になります。そこで、この授業では、リーダーシップに関する基礎知識の習得、態度や行動の醸成、基盤的理論について学びます。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性を考えます	
リーダーシップ実践1		集団目標の達成には、問題の共有と共通認識、解決案の合意、作業の連携が必要である。同時にこれらの実現にはグループ・ダイナミクスや集団内の意思疎通等が欠かせないものとなる。この授業では、ディベートやプレゼンテーション、文書作成等を通じ、課題に向かって集団内での生産的行動を推進する知識とスキルを学ぶ。また、「自分らしいリーダーシップとは何か」を探索する。	
リーダーシップ実践2		本講は、タイムリーな課題を題材とし、アクティブラーニング、グループワークを多様しながら、リーダーシップの実践を行う授業である。集団目標達成のための集団内コミュニケーションをアクティブ・ラーニングを通じて実践的にスキル習得をする。さらにこの授業では、他者の関与を促す効果的なプレゼンテーションとファシリテーションの技能の習得を目指す。	
労働法		日本の労働法や雇用システムの特徴、労働法の枠組みなどの基礎知識を解説し、採用、人事異動、退職・解雇など、雇用の各段階での諸問題と政策について取り上げる。また、雇用平等、女性活躍推進、ワーク・ライフ・バランスについても取り上げる。	
現代社会の諸問題A		医学の進歩・発展により、多くの恩恵がもたらされた反面、生命をめぐるさまざまな問題について私たちが決定を迫られる場面が増えている。この講義では、とくに生命の始期周辺の問題に注目して、生殖をめぐる個人の自己決定、家族の役割、社会としての選択について考える。	
現代社会の諸問題B		医学の進歩・発展により、多くの恩恵がもたらされた反面、生命をめぐるさまざまな問題について私たちが決定を迫られる場面が増えている。この講義では、とくに生命の終期周辺の問題に注目して、終末期医療を中心に個人の自己決定、家族の役割、社会としての選択について考える。	
現代社会の諸問題C		この授業では、国連における気候変動交渉の実務経験を持つ現役の環境エキスパートである教員が、環境と防災の最前線の知見と、温暖化対策のカギとなるエネルギーの知見を講義する。特にパリ協定をはじめとするこれらの知見は、SDGsが重要視されるこれからの社会において、就活にも実践的に役立つ。学生参加型のディスカッション形式を用いて学生自ら知見をもとに考えることを促す。	
現代社会の諸問題D		日本社会は、少子高齢化の中で、多様な構成員の一人ひとりを取り残さず、包摂的な社会を作っていくことが求められている。特に女性の活躍推進は喫緊の課題である。また、国際社会においてもSDGsの推進が求められている中、我が国は特にGoal5の達成度が極めて低いため、その課題と取り組みについて授業を行う。学生によるレポートのプレゼンテーションやディスカッションを適宜行う。	

現代社会の諸問題E		薬学は、人体に働きその機能の調節などを介して疾病の治癒、健康の維持をもたらす医薬品の創製、生産、適正な使用を主な目標とする総合科学である。医薬品は、物質性・生命関連性ととともに社会的存在物としての性格、すなわち社会性を有している。そのため医薬品の適正な使用の確立のためには、医学、倫理学、法学、社会学、経済学などの学際的な立場からも検討する社会的な視点が欠かせない。本講義では日本における薬と社会に関する問題について学ぶために、薬に関する歴史を振り返り、薬害や現在の薬事行政の仕組み、薬物規制に関する国内の状況を概説する。	
現代社会の諸問題F		薬学は、人体に働きその機能の調節などを介して疾病の治癒、健康の維持をもたらす医薬品の創製、生産、適正な使用を主な目標とする総合科学である。本講義では、諸外国における大麻の合法化やオピオイド中毒問題を取り上げることで、薬と社会のかかわりをグローバルな視点で学ぶ。	
世田谷6大学連携講座A		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座B		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座C		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座D		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座E		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座F		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座G		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座H		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
インターンシップ(国内)		夏期休暇など他の授業に支障のない期間を主に利用して、企業その他で2週間から3週間（最短でも5日間以上）の就業体験をする。働くことの意味を理解し、自分の能力や資質がどんな仕事に向いているかを学んでもらう。	
インターンシップ(海外)A		海外の企業で2週間から3週間の就労体験をする。ビジネス語学研修と職場でのインターンシップを通し、グローバル社会やビジネスの場で必要な言語能力やコミュニケーションスキル、職業観と社会性を習得し、人的ネットワークの構築を目指す。	
インターンシップ(海外)B		海外の企業でインターンシップを行う。活動内容については派遣される職場によって異なるが、その国の言語を使用した就業体験となる。	
海外留学スタートアップ講義		この講義は、海外留学を予定している学生を対象としている。したがって、受講者は自らの海外留学について積極的かつ主体的に考え、それに向けて確実に準備を進めていくことが求められる。そのために必要な知識や情報が得られるように、講義前半では海外留学の歴史・種類について学習するとともに、留学の意義と目的とを考える。さらに、異文化適応等、留学先（渡航先）における生活に必要な異文化コミュニケーションの基本について中盤で学ぶ。後半では、ソーシャルスキル学習とケーススタディを取り入れることにより実践的に留学に向けて準備を行う。	
海外留学フォローアップ演習		この講義は、海外留学から帰国した学生を対象に、自らの留学体験を振り返り、留学中の学びについて理解を深めてもらうことを目的とする。まず前半では、帰国後のリエントリーショック（逆カルチャーショック・リバースカルチャーショック）について知り、その対処法について他の学生とのディスカッションを通じて考える。中盤では、留学体験を今後の大学での学びや就職活動・大学院進学といった広義のキャリア（ライフ・キャリア）にどのようにいかせるのか、自分で考えられるようになることを目指す。終盤では、これまでの講義内容を踏まえて、海外留学経験を今後のキャリアにどういかしていくかに関するプレゼンテーションを行う。	

国際理解研究		In this course, students will deepen their understanding of environmental issues and envision a sustainable society. At the end of the course, students will be able to discuss and present important environmental issues in English. この授業で受講生は環境問題について理解を深め、持続可能な社会を構想する。15回の授業終了時点で学生は重要な環境問題に関して英語で議論し発表ができるようになる。	
Cross-Cultural Workshop 1		グローバル化が進む中、異文化対応力を備えたグローバル人材が求められている。異文化対応力を身につけるためには、知識の修得だけでは不十分であり、本物の人間関係の構築こそが、文化を学ぶ秘訣である。私たちが日本から世界を認知し、理解しようとする際、日本の文化がフィルターとなって大きく影響を与える。したがって、文化に対して批判的な理解を持つこと、文化人としての自覚を持つこと、オープンで柔軟な素養を育むこと、異文化間スキルを身につけることがとても重要になる。異文化対応力の習得は生涯続くプロセスであり、この科目はまさにその旅の出発点になり得るであろう。本科目は、文化や異文化交流に焦点を当てた共同学習を促進するインタラクティブ・ワークショップである。グループワーク、ディスカッション、最終プロジェクトを通して、受講生は相互理解を深め、自己を振り返り、新たな洞察を得る機会を得ることができる。さらに、共同作業を振り返ることで、観察力、内省力、自己分析力を積極的に養うことができる。本科目は2つの要素で構成される。まず「文化」を探求し、異文化理解を促進する様々な活動を実施する。最終プロジェクトでは、留学生の文化を引き合いに出しつつ、文化的・社会的文脈の中で日本文化を考察・分析・議論していく。共同作業でフィールドワークを行い、分析結果をプレゼンテーションする。	
Cross-Cultural Workshop 2		本科目は、文化的背景の異なる学生同士が、ワークショップ形式による共同学習を通じて、文化の違いを超えて互いに学び合うことを目的としている。 授業は大きく二つの要素に分かれており、一つ目の活動では、グループ毎に学外でフィールドワークを行い、自らが観察・発見した「日本文化」を収集し、その背景や特色を学生同士が探っていく。2つ目の活動では、収集した材料をもとに、日本の文化・社会の特徴について、ときに自らの出身国や居住国との比較を交えながら、グループ発表を行う。 使用言語は英語である。参加学生は、フィールドワーク、調査、発表準備、発表の各活動において、積極的な発言と相手の意見への傾聴が求められる。これらの活動を通じてお互いの理解を深め、自己を見つめ直し、文化の違いと共通性について新たな知識と洞察を得る。	
Cross-Cultural Project		本科目は、文化的背景の異なる学生同士が、ワークショップ形式による共同学習を通じて、文化の違いを超えて互いに学び合うことを目的としている。 参加学生は、事前に与えられた課題に従って、オンラインによるグループワークを行い、外国人留学生の来日後は、授業時間や課外の時間を利用してグループワークを継続する。 使用言語は英語である。参加学生は、オンライン調査、来日後のフィールドワーク、発表準備、発表という活動を通じて、お互いの理解を深め、自己を見つめ直し、文化の違いと共通性について新たな知識と洞察を得る。またオンラインのコミュニケーションツール、グループワークツールに関する使用スキルの向上を図るとともに、多文化混合型のグループの中でいかに効率的・効果的に作業を進められるか自ら発見することが期待される。	
Japan Studies A		In order to deepen students' understanding both of traditional and contemporary Japan, lectures on several topics about the country and Japanese culture will be given. Each lecture will be followed by activities outside of the classroom related to the content of the lecture. This course is for international participants in SSIP. 日本の伝統的側面と現代的側面についての理解を深めるため、日本とその文化に関するトピックをいくつか取り上げて講義を行う。講義の後には、その内容に関連したアクティビティを行う。	
Japan Studies B		In order to deepen students' understanding both of traditional and contemporary Japan, lectures on several topics about the country and Japanese culture will be given. Each lecture will be followed by activities outside of the classroom related to the content of the lecture. This course is for international participants in SSIP. 日本の伝統的側面と現代的側面についての理解を深めるため、日本とその文化に関するトピックをいくつか取り上げて講義を行う。講義の後には、その内容に関連したアクティビティを行う。	

海外ボランティアA		学生自らが異文化の中で異なる背景をもつ人々とコミュニケーションする力、協働する力を身につける。内戦をへたカンボジアで、現地に貢献する活動を現地の人々と共に行い、人々に本当に役に立つ国際協力のあり方を考え、実習を通じ、国際協力について理解を深める。	
海外ボランティアB		学生自らが異文化の中で異なる背景をもつ人々とコミュニケーションする力、協働する力を身につける。内戦をへたカンボジアで、現地に貢献する活動を現地の人々と共に行い、人々に本当に役に立つ国際協力のあり方を考え、実習を通じ、国際協力について理解を深める。	
アメリカ文化入門		移民、原住民、歴史、カレッジライフ、ボランティアイズム、政治、アート、音楽などアメリカン・カルチャーを全般的に学びます。また、アメリカの歴史がどのようにアメリカ文化に影響を与えたのか、フィールド・トリップ、ゲスト・スピーカーの講義やディスカッションを通して考えます□ アメリカ史およびアメリカ文化に特有の英語表現を学び、知識の習得をめざします。フリーダムトレイルなどの歴史的な街並みの中に身を置いて、アメリカ文化の様々な側面に触れることで、アメリカの過去と未来をつなぐ体験をすることが現代アメリカを考察する。	
アメリカンビジネス		ビジネス・インキュベーター、起業家、ハーバードビジネススクール、大企業など、多様なビジネスの現場を訪問し、様々な観点からアメリカのビジネスについて学ぶ。国際ビジネスで必要なビジネス用語、コンセプト、マナーなども学ぶ。	
ホスピタリティ・マネジメント		アメリカにおけるホスピタリティ（おもてなし）の現状を踏まえ、現代的なホスピタリティ及びサービスのマネジメント・管理について学ぶ。	
フードマネジメント		アメリカにおけるフードマネジメントの現状を踏まえ、現代的なフードマネジメントについて学ぶ。	
日本事情A		課題先進国とも言える日本の首都である東京に注目し、「治水対策」「消滅可能性都市」「オーバーツーリズム対策」といったテーマに基づき、事例を調べ、情報を整理し、問いを見出す。さらに日本語プロジェクトAにてフィールドワークを行い、最終的には問題解決を目指す。	
日本事情B		日本事情Bでは、本学のある三軒茶屋に注目する。地域の現状と課題を文献や世田谷区文化生活情報センター、せたがや国際交流センターを活用し情報を収集、整理し、問いを見出す。さらに日本語プロジェクトBにてフィールドワークを行い、最終的には問題解決を目指す。	
協働プロジェクトA		日本事情Aでの現状を実際にフィールドを訪れ体験し、現地の人々との対話を通して学びを深める。そこから生まれた「問い」に向き合い、最終的には問題解決の提案を行う。日本人学生との共修形式で行う。	
協働プロジェクトB		日本事情Bでの現状を実際にフィールドを訪れ体験し、現地の人々との対話を通して学びを深める。そこから生まれた「問い」に向き合い、最終的には問題解決の提案を行う。日本人学生との共修形式で行う。	
インターンシップⅠ-a（事前・事後学修）		就業体験（インターンシップ1-b）の前後に、その到達目標の達成に必要な学修を学内にて実施する。就業体験との組み合わせにより、履修生自らのキャリアデザイン形成に資するものとする。	
インターンシップⅠ-b（就業体験）		夏季および春季休暇期間などを活用し、参画する民間団体等において、1団体につき1週間（実働5日）以上の就業体験を行う。内容は「課題解決型」「業務遂行型」「ハイブリッド型」のいずれかとし、受け入れ企業との協議により実践力を養う体験学習とする。	
インターンシップⅠ-c（就業体験）		夏季および春季休暇期間などを活用し、参画する民間団体等において、1団体につき1週間（実働5日）以上の就業体験を行う。内容は「課題解決型」「業務遂行型」「ハイブリッド型」のいずれかとし、受け入れ企業との協議により実践力を養う体験学習とする。	
インターンシップⅡ-a（事前・事後学修）		インターンシップⅠでの学びを踏まえ、更なる企業理解、社会人基礎力向上、専門知識の強化を目指し、就業体験（インターンシップⅡ-b）に臨む。事後は、経験を通して学んだことを言語化し、キャリアデザインにどう活かしていくかを考える。	
インターンシップⅡ-b（就業体験）		インターンシップⅠでの学び、Ⅱ-aでの事前学習を踏まえ、就業体験の場で経験学習する。	
インターンシップⅡ-c（就業体験）		インターンシップⅠでの学び、Ⅱ-aでの事前学習を踏まえ、就業体験の場で経験学習する。	

	文化芸術講座Ⅰ		古典から現代までの様々な分野の芸術・芸能・文化等の他、若い世代の女性にとって必須の社会課題、知識を各界の第一線で活躍している文化人、芸術家等の方々の講演、公演を人見記念講堂で聴講します。 多様な文化に触れ、豊かな心を育むとともに、将来の自分を考える道標とし、未来を担う者として、学問以外の広い知識を得ることを目的としています。講演、公演は事前学習をしたうえで聴講し、聴講後にレポートを提出します。	
	文化芸術講座Ⅱ		文化芸術講座Ⅰで学んだ様々な分野の芸術・芸能・文化・社会課題について、さらに掘り下げるための講座です。ここではその分野の第一線で活躍されている方々をゲストスピーカーにお招きし、少人数のワークショップで意見交換や課題の発表を行います。	
外国語科目	英語ⅠA		リーディングスキルを身につけ語彙力を増強するとともに、これまでに培ってきた英語力を活用しながら様々なトピックの英文を読解する力を養う。読解した内容をもとに、自身の考えを表現する活動も行う。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリーディング力を強化する。	
	英語ⅠB		ペアワークやグループワークでの会話・ロールプレイなどの活動やリスニング活動を行い、特に英語での話すこと・聞くことにおけるコミュニケーション能力の育成を図る。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリスニング力を強化する。	
	英語ⅡA		英語ⅠAに引き続き、リーディングスキルを身につけ語彙力を増強するとともに、これまでに培ってきた英語力を活用しながら様々なトピックの英文を読解する力を養う。読解した内容をもとに、自身の考えを表現する活動も行う。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリーディング力を強化する。	
	英語ⅡB		英語ⅠBに引き続き、ペアワークやグループワークでの会話・ロールプレイなどの活動やリスニング活動を行い、特に英語での話すこと・聞くことにおけるコミュニケーション能力の育成を図る。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリスニング力を強化する。	
	英語ⅢA		新聞記事やウェブサイト、広告など実生活で目にする機会の多い様々な英文を読む。大学1年生までに学習した語彙、文法を確認・復習するとともに、効果的なリーディング・ストラテジーを学び、読解力を強化していく。	
	英語ⅢB		リスニングとスピーキングに重点を置き、日常的なシーンにおける実践的な英語表現を覚えて、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。ペアワークやグループワークでのロールプレイを通して重要表現を定着させ、実際に使える英語力を身につける。	
	英語ⅢC		英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。	
	英語ⅢD		職場における英語でのコミュニケーション能力を向上させるとともに、コミュニケーションスキルやビジネススキルを養う。	
	英語ⅢE		日常生活や社会的な出来事について、英語で発信された情報の概要やポイントを理解し、これらの情報を活用して、自分の考えを論理的に伝える力を養う。トピックに関連する質問について自分の考えを考え、グループワークを通して英語によるコミュニケーションの能力を伸ばすことを目指す。	
	英語ⅣA		新聞記事やウェブサイト、広告など実生活でよく目にする英文を読む。文法事項を確認するとともに、様々なリーディング・ストラテジーを活用しながら英文を正確に読み取る方法を学んでいく。	
	英語ⅣB		リスニングとスピーキングに重点を置き、日常的なシーンにおける実践的な英語表現を覚えて、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。ペアワークやグループワークでのロールプレイを通して重要表現を定着させ、実際に使える英語力を身につける。	
	英語ⅣC		英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。	
	英語ⅣD		職場における英語でのコミュニケーション能力を向上させるとともに、コミュニケーションスキルやビジネススキルを養う。	
	英語ⅣE		日常生活や社会的な出来事について、英語で発信された情報の概要やポイントを理解し、これらの情報を活用して、自分の考えを論理的に伝える力を養う。トピックに関連する質問について自分の考えを考え、グループワークを通して英語によるコミュニケーションの能力を伸ばすことを目指す。	

英語実践演習		英語で行われる集中科目で、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。この経験により、学生は英語力に磨きをかけ、異文化への耐性を身につけ、英語学習の大切さに気付かせることを目指す。	
ドイツ語(入門A・B)		ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象とする。1（初級）レベルの4技能（聞く・読む・書く・話す）を身につける。また、同時にドイツ語圏の文化等への理解も深めていく。	
ドイツ語(初級A・B)		ドイツ語（入門A・B）を終了した学生を対象とした授業。言語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を中心に、ドイツ語圏の文化や生活なども紹介する。	
ドイツ語(会話A)		実際にドイツで使える生きたドイツ語を学ぶ。ドイツの文化や習慣を紹介することもある。	
ドイツ語(旅行のドイツ語A)		入門・初級を終えた学生を対象とし、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスなど）を旅行する際に必要なドイツ語表現を基に、ドイツ語によるコミュニケーション能力のブラッシュアップを図り、基本文法や基本語彙の確実な習得を目指す。また、言語のみならず、ドイツ語圏の地理、社会、文化などへの理解と関心も深めていく。	
ドイツ語(書いて覚えるドイツ語A)		ドイツ語の入門・初級を修了した学生を対象に、これまでに学んだ動詞・名詞・前置詞・助動詞などの基本的な文法を、簡単な文を「書く」ことによって、ゆっくり復習していく。自分の日常をシンプルなドイツ語で書いて表現できるようになることを目標にする。また、簡単な自己紹介文を書く練習も行う。	
ドイツ語(書いて覚えるドイツ語B)		入門・初級を修了した学生を対象に、これまでに学んだ基礎文法を、簡単な文を「書く」ことによって、ゆっくり復習する。自分の日常をシンプルなドイツ語で書いて表現できるようになることを目標にする。また、ドイツ語の手紙の形式についても学び、簡単な手紙を書く練習も行う。	
フランス語(入門A・B)		フランス語を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に学ぶ。つづり字の読み方、発音、基礎文法から始める。2、3人のグループになって、簡単な日常会話も練習する。	
フランス語(初級A・B)		フランス語を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に学ぶ。前期の復習から始め、より広い内容の事柄を聞き取り、話し、読み、書く力を養う。発音や筆記を繰り返し練習することによって、定着を図る。	
フランス語(絵本を読もうA)		フランス語の絵本を読むと同時に、初級文法の復習および中級文法の学習をする。教材として、日本でも人気の「ガスパールとリザ」の絵本を使う。	
フランス語(話してみようA)		フランス語を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に学ぶ。つづり字の読み方、発音、基礎文法から始める。	
フランス語(物語を読もうA)		初年度に学習した文法事項、表現を確認するとともに、新しい文法事項を学びつつ、やさしい物語を読む。そして、文章読解力、作文力、聞き取る力の上達をはかる。また、文章を声に出して読むことを通して、作品を味わうことにも力を入れる。	
フランス語(物語を読もうB)		フランス語を1年以上学んだ学生を対象に、平易なフランス語で書かれた物語を読み解くことを通して、1年で学習した文法を復習するとともに、語彙、構文などを学習し、総合的にフランス語の読解力を構築する。また、1年の授業で触れていない、条件法、接続法など新たな文法事項を学習する。	
スペイン語(入門A・B)		体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(初級A・B)		体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(入門A・B)s		【再履修者向け】体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(初級A・B)s		【再履修者向け】体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	

スペイン語(短編を読むA)		この授業は、スペイン語の文法学習を一通り終えた学生を対象に、スペイン語で書かれた平易な文章の読解に慣れることを目標とする。文脈のある講読テキストをしっかりと読んで内容を把握する練習をし、同時に講読を通じてこれまでに学習した文法事項を復習する。	
スペイン語(やさしい会話A)		スペイン語入門・初級の履修を終えた学生を対象とした週1回の授業である。体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(やさしい会話B)		体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。また、その表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(スペイン語圏の文化A)		入門・初級で学んだ文法事項の復習をしながら、実際のコンテキスト上でこれらの事項がどのように使われているかを学び、読解力、理解力、表現力を向上させる。	
スペイン語(スペイン語圏の文化B)		入門・初級で学んだ文法事項の復習をしながら、実際のコンテキスト上でこれらの事項がどのように使われているかを学び、読解力、理解力、表現力を向上させる。	
スペイン語(スペインの社会事情A)		一年次に習った文法を、実践を通じて復習する。スペイン語圏の文化と伝統に親しみながら、表現と語彙を増やす。授業中・授業以外の場での積極的な参加をうながすために、授業の内容は履修者の興味関心に従って多少の変更を受ける可能性がある。	
スペイン語(スペインの社会事情B)		一年次に習った文法を、実践を通じて復習する。スペイン語圏の文化と伝統に親しみながら、表現と語彙を増やす。授業中・授業以外の場での積極的な参加をうながすために、授業の内容は履修者の興味関心に従って多少の変更を受ける可能性がある。	
イタリア語(入門A・B)		イタリア語の基礎に必要な文法事項を習得する。挨拶をはじめとする自己紹介や身近な事象を表現する際によく用いられる語彙および文構造に関する知識の定着を目指す。	
イタリア語(初級A・B)		このクラスでは、綴りと発音、挨拶や自己紹介、お店やレストランでのやりとり、友達とのおしゃべりなど日常会話を中心に、イタリア語の基礎を学ぶ。あわせて基礎文法も補完的に反復練習する。	
イタリア語(物語を読もう)		入門・初級を終えた学生を対象とし、イタリアの文化を紹介しながらイタリア語で書かれた物語を読み解き、学習したイタリア語の基礎を復習していく。	
イタリア語(楽しい会話)		「イタリア語入門」の単位取得者を対象に、イタリア語の基礎から実用へのブラッシュアップをはかる。具体的には、①「語彙力の強化」、②「現在形・過去形・命令形を使った日常会話」、③「音を聞き取る力」を中心に授業を進める。その際、イタリアの魅力あふれる文化（ファッション、料理、音楽、美術、建築、歴史、文学）についても、見識を深められるように、女性雑誌や新聞の短いコラムを読んだり、短い動画、映画なども授業内で紹介、視聴する。	
イタリア語(ことばと文化)		語彙、表現スタイル、レトリック等を学ぶことで、対象地域の思考・生活様式を理解し、その文化を総合的に理解することを目標とする。	
ロシア語(入門A・B)		ゼロからスタートし、ロシア語の入門的事項を習得するための授業。学期末には、簡単なことであれば、ロシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。正確に聞き、話すことができるようになるために、発音、アクセント、イントネーション、リズムなどの音声的側面に配慮し、教員が文法事項を説明するだけでなく、学生が実際に話す時間をとる。	
ロシア語(初級A・B)		ロシア語の基礎的な事項を習得するための授業。学期末には、ロシア語で基本的なコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。正確に聞き、話すことができるようになるために、発音、アクセント、イントネーション、リズムなどの音声的側面に配慮し、教員が文法事項を説明するだけでなく、学生が実際に話す時間をとる。	
中国語(入門A・B)		中国語を初めて学ぶ学部学生を対象とし、ピンイン（中国語表音ローマ字）、簡体字（中国で使われている漢字）、基本文法を学び、〈読み・書き・話し・聞く〉能力をバランスよく養う。ことばの背景にある文化にも触れていく。	
中国語(初級A・B)		入門中国語履修者か同レベルの学部学生を対象とし、中国語の構造に対する理解を深めていく。〈読み・書き・話し・聞く〉訓練を通して中国語の基礎力を確かなものにする。ことばの背景にある文化にも触れていく。	

中国語(入門A・B)s		中国語を初めて学ぶ学部学生を対象とし、ピンイン（中国語表音ローマ字）、簡体字（中国で使われている漢字）、基本文法を学び、〈読み・書き・話し・聞く〉能力をバランスよく養う。ことばの背景にある文化にも触れていく。	
中国語(初級A・B)s		入門中国語履修者か同レベルの学部学生を対象とし、中国語の構造に対する理解を深めていく。〈読み・書き・話し・聞く〉訓練を通して中国語の基礎力を確かなものにする。ことばの背景にある文化にも触れていく。	
中国語(基礎文法トレーニングA)		入門・初級で学んだ中国語の知識を定着させ、深めていく。定着させるには、中国語の文を文法的な説明を聞いて理解し、中国語の知識を体系的に整理する必要がある。深めていくには、文法項目を体系的な繋がりの中で理解する必要がある。	
中国語(基礎文法トレーニングB)		入門・初級で学んだ中国語の知識を定着させ、深めていく。定着させるには、中国語の文を文法的な説明を聞いて理解し、中国語の知識を体系的に整理する必要がある。深めていくには、文法項目を体系的な繋がりの中で理解する必要がある。	
中国語(楽しい会話A)		本講座では、初歩的な中国語をマスターした学生に対し、中国語に関するより深い知識や慣用表現、また正確な語法を習得させ、実生活にも役立つ聞き話す力を養わせる。会話の学習を通して中国の人々の生活や文化についての理解もはかる。なお、映像資料を併用し学習を進めることもある。	
中国語(楽しい会話B)		本講座では、初歩的な中国語をマスターした学生に対し、中国語に関するより深い知識を習得させ、慣用表現や正確な語法を学び、実生活にも役立つ聞き話す力を養わせる。会話の学習を通して中国の人々の生活や文化についての理解もはかる。なお、映像資料を併用し学習を進めることもある。	
中国語(文法A)		入門・初級を学習した中国語の知識を、文法的に体系的に整理していく。中国語の文を構成する品詞の分類と文法的に重要な構文の理解を深める。初級の文法を復習すると同時に、新しい文法事項を学習する。	
中国語(講読A)		本授業は初級中国語を一年間学習し、あるいはそれと同等以上の語学力を持つ学生を対象とする。読解能力の向上に重点を置きつつ、中級レベルの中国語に必要な語彙と文法をマスターすると同時に、中国の伝統・文化、現代中国人の生活・習慣に関連する内容なども適宜紹介する。なお、映像資料などを併用し学習を進めることもある。	
中国語(講読B)		本授業は初級中国語を一年間学習し、あるいはそれと同等以上の語学力を持つ学生を対象とする。読解能力の向上に重点を置きつつ、中級レベルの中国語に必要な語彙と文法をマスターすると同時に、中国の伝統・文化、現代中国人の生活・習慣に関連する内容なども適宜紹介する。なお、映像資料などを併用し学習を進めることもある。	
中国語(時事B)		入門・初級の中国語を学んだ人を対象として、新聞の記事のような硬い文章から、口語体を多用した小説風の文章までを教材として、中国語の読解力を高める技術を教授していく。	
中国語(書いて覚える)		現代中国語の「書いて覚える」授業です。授業ではCGなどを活用しながら、話し言葉を書いて覚えることを通して中国語の総合的レベルアップを目指します。またパソコンでの中国語入力をマスターし、電子メール等の作成にもチャレンジします。中国語の初級段階を終えた方はもちろん、中国語学習に苦手意識をもつ方にも適した授業です。	
中国語(検定試験対策)		入門、初級の中国語のを学習し終えた学生を対象に、中国語検定試験4級、3級のテスト対策を行う。すでに学習した文法知識を応用して試験問題を解答できるように文法項目ごとに問題を整理し講義する。	
韓国語(入門A・B)		はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものの表現について覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(初級A・B)		韓国語入門を終えた学生を対象とする。日常でよく使われる単語や表現を中心に、発音やイントネーションを練習する。用言の活用や助詞を習い、会話にすぐ応用できる文法を覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(入門A・B)s		はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものの表現について覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	

韓国語(初級A・B)s		韓国語入門を終えた学生を対象とする。日常でよく使われる単語や表現を中心に、発音やイントネーションを練習する。用言の活用や助詞を習い、会話にすぐ応用できる文法を覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(文法トレーニング)		はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(やさしい作文)		入門・初級までに学んだ文法や語彙を応用した作文練習、新たに学ぶ文法や語彙を使った作文練習を通して、韓国語で書く力の向上をめざす。「書く」が中心だが、発音やペアワークでの会話練習なども行いながら、韓国の文化や社会についても理解を深めていく。	
韓国語(韓流で学ぶ会話)		世界中でブームを巻き起こしている韓流を通して、韓国文化や韓国人の日常生活を理解しながら、実践的な韓国語を学習する。	
韓国語(会話)		「チェミナ韓国語初級テキスト」を常に持参し、入門、初級で学んだ基礎的な文法や日常会話を確認しながら応用した学習をし、様々な場面での会話を覚えて話す練習をする。授業では韓国文化や社会がわかる知識も広げ、実生活に基づいた語彙や表現を楽しむ会話力をめざす。必要に応じて韓国のドラマや映画、K-popを取り入れ、会話にも活用する。	
韓国語(ハングル検定試験対策)		韓国語初級レベルを履修した方を対象に、ハングル能力検定試験の5級・4級レベルの対策授業である。	
韓国語(韓国語能力試験対策)		韓国語初級レベルを履修した方を対象に、韓国語能力試験(TOPIK)の1級・2級レベルの合格を目指す対策授業である。	
韓国語(メディアで学ぶ韓国語)		初級までに学習した文法、語彙を応用しながら、新たに文法や表現などを学び、韓国語で表現できることを目指す。テキストに加えて新聞や映像などを活用しながら、韓国の文化や社会、風習などについて学ぶ。	
韓国語(トラベル会話)		『チェミナ韓国語』初級テキストを常に持参し、入門、初級で学んだ基礎的な文法や日常会話を確認しながら応用した学習をする。会話と文法を学習しながら旅行先で必要な韓国語表現を学ぶ。韓国の観光スポットや今流行りの食べ物、ファッションなどについて話す練習をする。必要に応じて韓国のドラマや映画、K-popを取り入れた表現を学び、話す練習をする。	
韓国語(聞いて覚える韓国語)		日常会話(聞く・話す)のための表現と文法を習得する授業である。会話でよく使われるフレーズや重要表現は読んでわかるだけではなく、聞いて意味がわかるとともに、相手に伝わる発音で言えるように、声に出して音読練習やペア会話練習を行う。また、聞き取りのベースになる読み書き能力の向上も合わせて目指す。	
ボストンサマーセッション 英語		レベル別英語クラスに加え、9つのフォーカス・グループ(アメリカ文化、アメリカ・ビジネス ミュージアム&アート・コレクションズ、心理学、ホスピタリティ、フードマネジメント、アメリカン・メディア、ボランティア、アート&デザイン)からひとつを選択してアメリカでの専門分野の現状を英語で学ぶ。	
ボストンサマーセッション 英語(0)		レベル別英語クラスに加え、9つのフォーカス・グループ(アメリカ文化、アメリカ・ビジネス ミュージアム&アート・コレクションズ、心理学、ホスピタリティ、フードマネジメント、アメリカン・メディア、ボランティア、アート&デザイン)からひとつを選択してアメリカでの専門分野の現状を英語で学ぶ。	
日本語読解A		「食安全」「流通」「SDGs」「ビジネスマナー」「多文化共生」「異文化」等、15のテーマを設定し、内容重視の日本語学習を行う。多様な文章を読み進めるための言語技術や、専門領域の基盤となる知識の獲得と言語運用力の向上を目指す。	
日本語読解B		読解Aで扱うテーマに基づき、さらに異なる媒体から情報を得て知識を深める。理解したことを言語化し他者との対話から考えを深めていく過程を通してアカデミックな場面で求められる言語運用力を高めていく。	
日本語会話		日常生活に関わるトピックについて、実際の使用場面を想定した会話練習を行いながら、必要な語彙や表現を学ぶ。自然に話される日本語の聞き取りができるようになることを目指す。	
生活ケース学習		日常生活上の異文化コンフリクトを扱う「ケース学習」を使用し、問題の発見と解決方法を見出すために他者と対話・討論を行う。最後に各自が自己の学習プロセスを内省する。一連の学習を通じて、留学生生活を円滑にするための異文化理解力・課題達成・問題解決能力を養うことを目指す。日本人学生との共修授業で学び合う。	

日本語表現A		専門領域を学ぶために必要となる日本語の重要語彙・表現を習得する。学生同士のピア活動（協働活動）を通じて語彙力・漢字力・運用力（作文力）の育成を行う。	
日本語表現B		実験観察記録や論述型レポート、発表のためのレジュメ作成など、大学生活で必要となるアカデミック・ライティングの基礎となる書く力、考える力の育成を目指す。	
専門日本語		学科における専門教育を受講するための基礎知識を日本語で習得する。学科ごとに分かれて実施し、1年次への足場掛けを行う。	
スタディスキル		大学で学ぶための学習スキル（ノートテキング、ディスカッション、リアクションペーパー、レポートライティングなど）を身につけながら、クリティカルシンキングの力を育成することを目指す。	
文化と日本語A		「茶道」「書道」「短歌」等、日本の文化を歴史的な背景を学びながら、実際にも体験し、現代にも続く日本の伝統文化を通して日本への理解を深める。	
文化と日本語B		文化と日本語Aで取り上げた内容から、さらに、興味を持ったテーマを自分自身で探求し、意見交換を行い、成果発表を行う。	
プロジェクトA		学科（専門分野）の指定図書を読み「ブックレビュー」を行う。クラス内「ビブリオバトル」を実施し、異なる学科の学生にも当該図書の魅力を伝える力を競う。審査基準や評価表も学生が協働で作成する。発信力や対話力（質疑応答も含む）協働力を育成する。	
ビジネスコミュニケーションA		職場で実際に起きたコンフリクトを扱う「ケース学習」を使用し、問題の発見と解決方法を見出すために、他者と対話・討論を行う。最後に各自が学習プロセスを内省することで、異文化理解力・課題達成・問題解決能力・協働力を養う。日本人学生との共修授業の中で学び合う。	
ビジネスコミュニケーションB		職場での課題を達成するプロセスを通して日本語でのビジネスコミュニケーション力を養成することを目指す。BJTビジネス日本語テストの対策、インターンシップや就活で求められるディスカッション力や伝達力の育成にもつなげる。	
日本社会文化A		日本社会を映すさまざまなテーマを取り上げる。「調べ・考え・伝える」活動を支援するために、探究・活動型の日本語学習を行う。自然科学、社会科学、人文科学など幅広いトピックを扱うことで、大学での専門を学ぶための基礎的な力をつけることを目的とする。前期は自然科学と社会科学を中心に扱う予定である。	
日本社会文化B		日本社会を映すさまざまなテーマを取り上げる。「調べ・考え・伝える」活動を支援するために、探究・活動型の日本語学習を行う。自然科学、社会科学、人文科学など幅広いトピックを扱うことで、大学での専門を学ぶための基礎的な力をつけることを目的とする。後期は人文科学と自然科学を中心に扱う予定である。	
ビジネスライティングA		ビジネスライティングに必要な語彙、形式、内容の伝達のしかたを複数の媒体（メール、レター、報告書等）を用いて学ぶ。学生同士が作成したものを交換し、相互評価するピアレスポンス（協働的作文活動）をとりいれ、読み手重視のビジネスライティングを体得する。	
ビジネスライティングB		PREP法（P;結論,R;理由,E;具体例,P;結論）、SDS法（S;要点,D;詳細,S要点）といった文章作成のフレームワークを用いたビジネス文書作成スキルを取り上げる。媒体は、報告書、提案書等を中心とする。インターンシップのエントリーシート作成を視野に簡潔に書く力も伸ばす。	
業界研究A		厚生労働省が公開している職業情報提供サイト「jobtag」等を活用し、日本の企業・業界について情報収集を行い、必要な情報を読み取り、整理する。自分が目指す企業についてSWOT分析を行い、提案型の発表をする。キャリア形成という視点から業界について評価するための分析力を身につけることを目指す。	
業界研究B		インターンシップ先の業界を事例として、業界地図などを参考に、業界のビジネスモデルや市場規模、新たな取り組みを概観する。さらに3C分析を行い、企業分析につなげ、業界や企業を広く知り、自身の職業観を具体化していくことを目指す。	
アカデミックスキルA		前期は、大学で必要なアカデミック・ライティングについて、文章のスタイル、文法・言語表現の観点から学び、作文を書く練習を行う。協働的推敲を通じてアカデミック・スキルの向上を目指す。	
アカデミックスキルB		後期は、多様な文章を、構造を意識しながら読み進めていく。読解の技術を学び、文章の情報を客観的にまとめ意見学べることを通じてアカデミック・スキルの向上を目指す。	

プロジェクトB		学科（専門分野）の指定図書を読み「ブックレビュー」を行う。クラス内「ビブリオバトル」を実施し、異なる学科の学生にも当該図書の魅力を伝える力を競う。審査基準や評価表も学生が協働で作成する。発信力や対話力（質疑応答も含む）協働力を育成する。	
ビジネスコミュニケーションC		経済産業省が公開している「日本人社員も外国籍社員も 職場でのミスコミュニケーションを考える」動画教材、NHK「Easy Japanese for Work」を教材とし、職場でのコミュニケーションを自分の現実置き換えて考え、他者との協働で問題を解決する力を養う。教材の背景となっている日本企業の慣習やビジネスマナーについても取り上げる。	
ビジネスコミュニケーションD		BJTビジネス日本語能力テスト対策を中心に、「場面・状況を認識する力」「情報の意味・意図を読み取る力」「課題にあった対応力」「ビジネス文書に関わる処理能力」「日本的商習慣への異文化調整能力」等の養成を目指す。	
インターンシップ日本語A		キャリア発達理論に基づき、学生自身が「働くこと」を考察することを目標とする。具体的には、職業人の「外的キャリア」と「内的キャリア」の両面からのキャリアについて検討する。ゲストスピーカー多様な価値観、日本語とキャリアの関連づけといった側面からキャリアを考察していく。学生自身の職業観や就職選択の視野を広げ、インターンシップへの動機付けにつなげる。	
インターンシップ日本語B		自分自身の強みや弱みを分析し、自身を深く知るところからはじめ、エントリーシートの作成、日本のビジネスマナー、企業文化理解など、インターンシップに参加するために必要な準備を行う。	
日本語プレゼンテーションA		課題先進国ともいえる日本の現状において、企業がどのような手法で取り組んでいるのか事例研究を行う。学生自身が問題を発見し、資料・情報の収集、分類、検討を行い、自分の立場を明確にしたうえで、独自の提案を行う。＜日本国内編＞	
日本語プレゼンテーションB		世界的規模の課題に、企業がどのような手法で取り組んでいるのか事例研究を行う。学生自身が問題を発見し、資料・情報の収集、分類、検討を行い、自分の立場を明確にしたうえで、独自の提案を行う。＜海外編＞	
業界研究C		業種・職種の整理をしたうえで志望業種を絞り込み、適所分析につなげる。企業が公開するIR情報から更に情報を収集、分析し、留学生であるという強みが活かせるか等、主体的に業界や企業を選んでいく目を養う。	
業界研究D		具体的なインターンシップ先から、自身の興味あるプログラムを選び、その業界・企業について情報を収集し、分析していく。業種の選定に不可欠な、自己分析にも注力する。OB・OG訪問やビジターセッションから実際に企業で働く人の生の声を聞き、自身の職業観や職業選択を広げていくことを目指す。	
Academic Japanese A		本授業は『日本語で考えたい科学の問い（上）－文化と社会編－』（凡人社）を使用して、大学というアカデミックな場における「調べる・考える・伝える」活動を支援するための日本語クラスである。多彩なテーマと豊富な言語トレーニングを通じて、文系・理系の枠を超えて学際的に学ぶ楽しさを体験する。日本語力を高めるだけでなく、視野を広げて専門的な学習への入り口を拓くことを目指す。	
Academic Japanese E		本授業では、韓国でベストセラーとなった小説『82年生まれ、キム・ジョン』を取り上げて日本語で読むことを中心に、CLIL(Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習)を通して日本語の口頭表現をトレーニングする。	
Academic Japanese B		新聞記事や小説、専門書など、多様な関心に応えるべくさまざまな題材の文章を扱う。読解学習を通して、文章を理解する力を伸ばすとともに、語彙や表現を習得する。また、クラスメートとの学び合いを通じて、新しい知識や視点を学び、それらに基づいて自分の意見を表明する機会を設ける。個人で精読、多読する時間と、クラスメートと共同で読む時間をそれぞれ設け、多様な読み方を実践することで総合的な読解力の向上を目指す。	
Academic Japanese F		前半は、ドキュメンタリーやニュース番組、ドラマなどを視聴し、クラスメートと学び合う中で新しい知識や視点を得る。後半は、国連のSDGs「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の中からテーマを選び、実践を通して効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。	
Academic Japanese C		大学に必要なアカデミック・ライティングについて、文章のスタイル、文法・言語表現の観点から学び、作文を書く練習を行う。各自の作文は、授業時に受講生同士で読み合ってどのように修正するかディスカッションを行い、自ら文章を推敲する能力を養うことを目指す。	

	Academic Japanese G		多様な文章を、構造を意識しながら読み進めていくことで読解の技術を学んでいき、文章の情報を客観的にまとめて意見を述べる練習につなげる。	
	Academic Japanese D		本授業は、「ケース学習」を通して、自分とは異なる文化背景を持つ人と人間関係を構築し、協働しながら問題を解決したり課題を遂行したりする力を養成することを目指す。具体的には、実際に起きた異文化を背景にしたトラブルや摩擦（コンフリクト）を題材としたケース教材を使用して、問題の発見と解決方法について他者と対話・討論し、解決方法を見出し、最後に一人ひとりがそのプロセスを内省する流れで進める。	
	Academic Japanese H		「貧困」をテーマに社会起業家の活動について関連する資料を読む、読んだ内容をまとめて説明する、仲間との対話により考えを深める。関心を持ったことを調べてみる、レジュメにまとめて発表する、レポートにまとめる、といった一連のプロセスを通し、大学の授業で求められるアカデミックな活動に必要な総合力を養うことを目指す。	
初年次教育	データサイエンス基礎演習Ⅰ	○	データ分析の基礎スキルとして、Microsoft Excelの基本操作、データ分析の基本的な手法を学び、ケーススタディとしてデータ分析を実践する。Excelの基本操作として、データの入力、計算式の作成、グラフの作成、データの整理・加工方法を学ぶ。データ分析の基本的な手法としては、テーブル機能、ピボットテーブルやXLOOKUP関数の使い方を習得し、データの集計や分析を行う。さらに、図表の作成、条件付き書式やデータバリデーションなどの機能を使い、データの視覚化や分析の効率化を図る方法を学ぶ。最終課題として、実際のデータを使ったケーススタディを行い、課題を設定してデータから洞察を得て、それを表現するプロジェクトを完了させる。	
	データサイエンス基礎演習Ⅱ	○	この授業では、Microsoft Excelの基本操作、データ分析の基本的な手法を習得していることを前提に、より高度なデータ分析を実践する。前半の回では、データ分析機能を用いた相関分析、回帰分析、分散分析などの統計的分析を学ぶ。そして後半の回では、What-If分析の方法、輸送問題や割当問題を例としてソルバーを用いた最適化問題を解く方法を学ぶ。最終課題として、実際のデータを使ったケーススタディを行い、課題を設定してデータから洞察を得て、それを表現するプロジェクトを完了させる。	
基礎科目群	情報学概論	○	本講義は「情報」に関連する基礎知識から情報化社会に関連した最近の話題までを取り扱い、「情報」についての包括的な理解を促すことを目的とする。具体的には「情報の基本概念」「情報の管理と保護」「情報の活用」「情報科学と技術」を体系的に学ぶことで、情報とは何か、コンピュータで情報を扱うとはどのようなことか、について学ぶ。その上で、新たな価値創造のため情報を分析・理解し活用することの重要性と注意点を理解し、情報化に伴う社会の動向や社会問題を幅広く見渡ししながら、現代と将来の情報学の課題を考える能力を身につける。	
	DXと社会Ⅰ	○	本授業では、デジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎的な概念と主要な技術、およびDXがもたらす社会への影響を学ぶ。DXに関わる主要な技術のうち、本授業では主に人工知能（AI）とビッグデータの活用に焦点を当て、これらがどのようにDXが企業、政府、そして個人の生活に変革をもたらしてきたかを学ぶ。また、過去の成功事例や失敗事例を通じて、DXの実践における課題とその解決策を考察する。講義形式による説明のほか、グループディスカッションやケーススタディを通じて、DXに関連する現実の問題に対する理論的および批判的な思考力と実践的な仮説構築力・問題解決力を養うことを目指す。	
	DXと社会Ⅱ	○	本授業では、「DXと社会Ⅰ」で学んだ基礎知識に基づいて、DXの主要な技術、およびDXがもたらす社会への影響を学ぶ。DXに関わる主要な技術のうち、本授業では主にIoTとブロックチェーンに焦点を当て、これらがどのようにDXが企業、政府、そして個人の生活に変革をもたらしてきたかを学ぶ。また、過去の成功事例や失敗事例を通じて、DXの実践における課題とその解決策を考察する。講義形式による説明のほか、グループディスカッションやケーススタディを通じて、DXに関連する現実の問題に対する理論的および批判的な思考力と実践的な仮説構築力・問題解決力を養うことを目指す。	
	データサイエンス入門	○	本授業は、データサイエンスの基本概念とその重要性を理解し、データサイエンスの領域全体を概観することを目的としている。導入的な知識として、データサイエンスとは何か、データサイエンスへの注目の背景、データサイエンスが応用されている分野や産業、そしてなぜデータサイエンスが注目されているのかについて学ぶ。さらに、データサイエンスの歴史、主なデータ・アナリティクスの方法（統計分析、機械学習）、データサイエンティストの役割とスキルセット、データサイエンスに関する倫理など、データサイエンティストとしてのキャリアをスタートするにあたって必須の基礎知識を習得する。	

	情報倫理	○	本授業は、データサイエンスとデジタルイノベーションの文脈における情報倫理の重要性を理解することを目的とする。具体的には、データのプライバシー、セキュリティ、知的財産権、AIが持つバイアス、AIを用いた意思決定の公平性と説明責任など、現代の情報技術に関わる倫理的な課題について学ぶ。また、ケーススタディを通じて、技術の発展と倫理的な意思決定のバランスをどのように取るべきかを考察する。本授業は講義形式を中心としますが、学生同士のグループディスカッションなどの参加型の活動も含み、複雑な倫理的問題に対する批判的思考力と倫理的判断力を養う。	
数学・統計学	数学基礎	○	本講義では大学でデータサイエンスを学ぶ上で必要な、数学の基礎的な内容を学ぶ。具体的には「三角関数」「指数関数・対数関数」などの初等関数から、「微分積分」「数列」「ベクトル」「確率・統計」などの内容を取り扱う。単に数式や記号と計算手順を理解して正解を導くことにとどまらず、日常の中での活用例を示しながら概念を理解して要点の大筋を把握し、演習問題を繰り返すことで学習を促進させる。その中で、情報化社会においてデータの分析・活用を進める人材として必要な基礎的な数理能力を身につけることを目的とする。	
	解析	○	本講義では大学でデータサイエンスを学ぶ上で必要な、解析学の基礎である微分・積分を中心に学ぶ。具体的には「実数と連続」「数列」「微分法」「積分法」「偏微分法」「微分方程式」「重積分」などを取り扱う。日常の中での活用例を示しながら概念を理解して要点の大筋を把握し、演習問題を繰り返すことで学習を促進させる。そして上級学年における専門的な学びに進む上で、より高度なデータの分析・活動・予測において必要な数理的能力を身につけることを目的とする。	
	線形代数Ⅰ	○	本講義では大学でデータサイエンスを学ぶ上で必要な、線形代数学の基礎的な内容を学ぶ。具体的には「ベクトルの定義とその演算」「行列とその演算」「正則行列・逆行列」「行列と連立1次方程式」「置換」などを取り扱う。日常の中での活用例を示しながら概念を理解して要点の大筋を把握し、演習問題を繰り返すことで学習を促進させる。そして上級学年における専門的な学びに進む上で、より高度なデータの分析・活動・予測において必要な数理的能力を身につけることを目的とする。	
	線形代数Ⅱ	○	本講義では大学でデータサイエンスを学ぶ上で必要な、線形代数学の中心的内容を学ぶ。具体的には「行列式の定義と性質」「余因子展開」「線形変換」「固有値と固有ベクトル」などを取り扱う。日常の中での活用例を示しながら概念を理解して要点の大筋を把握し、演習問題を繰り返すことで学習を促進させる。そして上級学年における専門的な学びに進む上で、より高度なデータの分析・活動・予測において必要な数理的能力を身につけることを目的とする。	
	統計学基礎	○	本講義では大学でデータサイエンスを学ぶ上で必要な、統計学の基礎的な内容を学ぶ。具体的には「統計学の基本概念」「記述統計」「データの視覚化」「確率と集合」「確率分布」「母集団と標本」「推定と信頼区間」などを取り扱う。単に統計手法を概念として理解することにとどまらず、実例を示しながら学習を進めることで理解を促進させる。本講義に続く「統計学」と合わせて、基本的な統計学の全体像を学ぶことで、多様な分野における統計分析の適用を可能にし、結果を解釈する能力を身につけることを目的とする。	
	統計学	○	本講義では大学でデータサイエンスを学ぶ上で必要な、統計学の中心的内容を学ぶ。具体的には「仮説検定」「相関と回帰」「分散分析」などを取り扱う。単に統計手法を概念として理解することにとどまらず、実例を示しながら学習を進めて理解を促進させ、同時に統計的分析手法を踏まえたデータの取得を行うという考え方についても学ぶ。本講義に先行する「統計学基礎」と合わせて、基本的な統計学の全体像を学ぶことで、多様な分野における統計分析の適用を可能にし、結果を解釈する能力を身につけることを目的とする。	
	Statistics Workshop		本授業では、統計学の手法を英文のテキストの講読とディスカッションを通じて学ぶ。この授業は反転授業形式で行われ、学生は事前にテキストを読み、授業中にディスカッションや学生によるレクチャーを中心に進める。具体的な内容としては、統計学の基本概念、記述統計相関分析、回帰分析などを中心に扱う。授業は英語で行い、学生同士のディスカッション、プレゼンテーションも英語で行う。英文テキストの読解と英語での発信を通じて、データサイエンティストとして必要な英語情報の収集能力と、多国籍なメンバーで構成するチームでの協働能力、グローバル社会に向けて成果を発信する能力の習得を目指す。	

ソフトスキル	ソフトスキル概論	○	本授業は、アナリティクスによる意思決定支援やイノベーションの実現のために必要なソフトスキルに関して包括的な理解を得ることを目的とする。ソフトスキルとは、コミュニケーション、問題解決のための思考、チームワーキング、リーダーシップ、人間関係構築、説得・説明のための技能などのスキルを指し、技術的スキルと同様に重要とされる対人スキルである。この授業はソフトスキル科目群の基礎として位置づけられており、ソフトスキルの全体像を概観し、講義形式での学習を中心としてソフトスキルの全体像をつかみ、各ソフトスキル科目を学ぶための基礎を築くことを学習目標とする。	
	デザイン思考	○	本授業の目的は、データ駆動型意思決定の実行やイノベーションの推進に役立つデザイン思考のプロセスと手法を学ぶことである。デザイン思考は人間中心のアプローチで問題解決を行う方法であり、共感、問題定義、アイディア創出、プロトタイピング、テストの5つのステップを含む。本授業では、これらのステップに関する知識を講義形式の授業で習得するとともに、アイディアの具体化や試作品の作成を含むケーススタディを通じて創造的な解決策を見出すためのフレームワークを学ぶ。	
	クリティカルシンキング	○	本授業の目的は、論理的・概念적および精査的な思考力を高め、複雑な問題に対して分析的にアプローチする能力を養うことである。クリティカルシンキングとは、情報を分析し、評価し、根拠に基づいた結論を導き出すために重要な思考能力であり、特にデータ駆動型の意思決定やイノベーションの提案において重要である。この授業では、認知バイアス、論理的誤謬の識別、論証の構築、意思決定のフレームワークなどに関する知識を身につけ、クリティカルシンキングのための基礎力を養う。授業形態は講義を主とするが、現実の問題をクリティカルシンキングを用いて考察できる力を身につけるため、ケーススタディやグループディスカッションによる実践も含めて行う。	
	チームマネジメント	○	本授業は、チームで協働するためのスキルと、チーム運営のためのリーダーシップスキルを理論と実習を通じて習得することを目的とする。チームの効果的なマネジメントは、メンバーのモチベーションの維持向上や協力促進などの要素を含み、プロジェクトの成功に不可欠である。この授業では、チーム形成の理論、コミュニケーション、コンフリクトマネジメント、多様性マネジメントなどのテーマを扱う。授業形態としては、講義で学んだ理論をグループワークで実践する形を取り、チームマネジメントのための実践的な能力の形成を目指す。	
	プロジェクトマネジメント	○	本授業は、プロジェクトの計画、実行、進捗管理、評価を効果的に行うための知識とスキルを習得することを目的とする。様々な分野においてプロジェクト型の業務が増えてきており、プロジェクトマネジメントは、あらゆる職種、業務で重要となるスキルである。この授業では、プロジェクトライフサイクル、ガントチャートやPERT図、リスク管理、ステークホルダーコミュニケーションなどのプロジェクトマネジメントの基礎概念、ツール、手法を学ぶ。そして、グループワークにおいて知識を実践の中で活用することを通じて、プロジェクトの各フェーズにおいて適切なマネジメント手法を選択し、効果的にプロジェクトを遂行する能力を習得する。	
データサイエンス理論	記述アナリティクス	○	本授業の目的は、データ・アナリティクスのうち最も基本的なものとして位置づけられる記述アナリティクスの理論と技術を学ぶことである。この授業では、記述アナリティクスとして、記述統計と視覚化による探索的データ分析（EDA）を主として扱う。具体的には、記述統計の基本概念（平均、中央値、分散、標準偏差など）や、データ視覚化の基本的な方法（ヒストグラム、散布図、箱ひげ図）を学び、異常値の検出、データの特徴の理解、傾向の把握などデータから問題を発見し、洞察を得るための能力を習得する。本授業は講義形式を中心とし、Pythonによる実装例も適宜紹介する。	
	診断アナリティクス	○	本授業では、統計的手法を用いて因果関係を解明する診断アナリティクスに関する知識・技術の習得を目的とする。主な内容としては、因果推論の基本概念、仮説の設定と検定といった統計学の知識に基づき、回帰分析、ロジスティック回帰分析、分散分析などの手法を扱う。診断アナリティクスに用いられる実際のデータを活用したケーススタディを通じて、1年次に履修した統計学の授業で学んだ統計的仮説検定、因果推論の知識を実際のアナリティクスに適用し、意思決定に反映させるための方法論を、データ・アナリティクスのプロセスとの関連において理解する。	
	予測アナリティクス	○	本授業の目的は、予測アナリティクスの主な手法である機械学習の基本概念と、機械学習を用いた予測アナリティクスの流れを学ぶことである。この授業では、機械学習のうち教師あり学習と教師なし学習に焦点を当てる。機械学習とは何か、機械学習の理論的背景とその応用範囲について基礎的な理解を得た後に、予測アナリティクスを行うためのデータの準備の方法、教師あり学習、教師なし学習の主要なアルゴリズムとその性能評価の方法を学ぶ。さらに、発展的な内容としてアンサンブル学習の理論と主要なアルゴリズムを学ぶ。講義形態を中心とするが、機械学習モデルの基礎的な実装方法も併せて解説する。	

Descriptive Analytics Workshop		本授業では、記述アナリティクスおよび診断アナリティクスの手法を、英文のテキストを用いて学ぶ。この授業は反転授業形式で行われ、学生は事前にテキストを読み、授業中にディスカッションや学生によるレクチャーを中心に進める。具体的な内容としては、データの前処理、探索的データ分析、および重回帰分析やロジスティック回帰分析などの多変量解析を用いた因果推論の方法を中心に扱う。授業は英語で行い、学生同士のディスカッション、プレゼンテーションも英語で行う。英文テキストの読解と英語での発信を通じて、記述アナリティクスに関する理解を深めるとともに、データサイエンティストとして必要な英語情報の収集能力と、多国籍なメンバーで構成するチームでの協働能力、グローバル社会に向けて成果を発信する能力の習得を目指す。	
深層学習	○	本授業では、機械学習の中で発展分野である深層学習の基本概念と仕組み、主なアルゴリズムを学び、分析に活用する能力を身につけることを目的とする。具体的な内容として、パーセプトロン、人工ニューラルネットワーク（ANN）、畳み込みニューラルネットワーク（CNN）、およびリカレントニューラルネットワーク（RNN）の基礎を中心に扱う。授業では、各アルゴリズムの理論的背景とその適用方法を学び、Pythonを用いた実装演習も紹介する。この授業を通じて、言語データ、画像データなどの非構造データを、深層学習を用いて分析するための基礎をつくる。	
処方アナリティクス	○	本授業は、限られた予算と人数の下での生産量を最大化する人材配置など、様々な条件の下で最良となる意思決定をするための、数理最適化の手法を習得することを目的とする。具体的には、線形計画法（LP）の基本概念とその応用を中心に、整数計画法や整数混合計画法、非線形計画法などの高度な最適化技術も扱う。講義形式を中心として各手法を理論的に理解し、最適解を求めるのみならず分析結果を説明する能力を身につける。理論を主とした講義に加えてPythonを用いた実装も紹介し、データサイエンティストとして最適化手法を実践するためのスキルの習得も目指す。	
Machine Learning Workshop		本授業では、機械学習のうち教師あり学習と教師なし学習の理論、および機械学習を用いたデータ分析の方法を、英文のテキストを用いて学ぶ。この授業は反転授業形式で行われ、学生は事前にテキストを読み、授業中にディスカッションや学生によるレクチャーを中心に進める。具体的な内容としては、線形回帰、ロジスティック回帰、決定木などの教師あり学習の手法、k平均法や主成分分析などの教師なし学習の手法およびアンサンブル学習を扱う。授業は英語で行い、学生同士のディスカッション、プレゼンテーションも英語で行う。英文テキストの読解と英語での発信を通じて、データサイエンティストとして必要な英語情報の収集能力と、多国籍なメンバーで構成するチームでの協働能力、グローバル社会に向けて成果を発信する能力の習得を目指す。	
心理統計		心理統計とは、心理学的な視点に基づいて、実験、観察、調査などの実証的方法で測定された数値データを統計学的に解析することを指す。不可視である心理過程を検討するために、心理統計はデータサイエンスの中でも独自の進歩を遂げてきた。これらの内容を、回帰分析、要員計画法に基づく分散分析、因子分析および共分散構造分析などを中心に概観する。また、心理尺度を構成するときに欠かせない古典的テスト理論についても理解する。心理学の具体的な研究例を適宜参照し、実際に心理学的な視点でデータ解析をすることができる視点とスキルを身につける。	
時系列分析		本授業ではデータサイエンスの活用において重要な「時系列」データの分析について学ぶ。具体的には「時系列」「定常性と自己相関」「スペクトル解析」「時系列モデル」「多変量モデル」「非線形モデル」「状態空間モデル」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において時系列データの測定と分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
コンピュータビジョン		本授業では、コンピュータにデジタル画像やビデオから情報を取得、解析、理解させる技術であるコンピュータビジョンの基本概念の理解と、この機能を備えたAIを開発するための技術の習得を目的とする。具体的には、画像データの特徴、畳み込みニューラルネットワーク（CNN）の構造とその応用方法を学ぶ。CNNの実装技術としては、フィルタ、プーリング、ストライド、活性化関数などの基本概念を学び、PythonとTensorFlowを用いたCNNの基本的な実装技術を学ぶ。これらの技術の実践的な応用として、画像分類、物体検出、セグメンテーションなどのアプリケーションの仕組みを理解し、実装技術を習得する。	

自然言語処理		この授業は、自然言語処理（NLP）の基本概念と技術を学び、文章をデータ（テキストデータ）として数量的に分析するための知識とスキルを養うことを目的とする。具体的な内容として、言語のベクトル化、トークン化、ステミング、品詞タグ付けなどの基本的なNLPの技術、および日本語データを分析するための形態素解析の技術を学ぶ。さらに、Pythonとライブラリ（NLTKやspaCyなど）を用いたテキストデータの前処理や特徴抽出を実践するための方法も学ぶ。さらに、感情分析、文書分類などの応用例を通じて、NLPを実践においてどのように活用できるかを理解する。	
マーケティング・アナリティクス		本授業は、統計学と機械学習の技術を用いて顧客データや市場調査結果のデータを分析し、企業その他の組織におけるマーケティング戦略の評価や最適化のために活用する方法の習得を目的とする。具体的な内容として、マーケティングに活用できるデータの種類の収集などのマーケティングリサーチの基礎を理解することから始め、顧客セグメンテーション、予測分析、A/Bテストなどの主要な分析の方法を学び、それらに統計学や機械学習がどのように活用できるかを理解する。講義形式を中心とした授業を通じ、アナリティクスの理論に加え、実際のアナリティクスの事例から、マーケティング実務における意義と課題を理解する。	
ピープル・アナリティクス		本授業は、統計学と機械学習の技術を用いて人事データを分析し、企業その他の組織の人事管理、人材育成に関わる意思決定のために活用する方法の習得を目的とする。ピープル・アナリティクスの基礎として、人事データに含まれる一般的なデータの内容、人事データの収集と管理の方法を学ぶ。そして、具体的な分析テーマとして、HRスコアカード、採用経路分析、エンゲージメント分析、人事評価分析など、実際に企業で行われているデータ分析の内容を理解し、それぞれの分析において統計学や機械学習のどのような手法が活用されているかを理解する。さらに、ピープル・アナリティクスに人事データを活用するに際して倫理的な課題についても認識を深める。	
マーケティング・アナリティクス（ケーススタディ）		本授業は、マーケティング分野におけるアナリティクスの実際の応用例を学び、理論を実践に応用する能力を養うことを目的とする。授業はマーケティング実務家により行われ、実際の企業や組織で行われているマーケティング・アナリティクスの具体的な事例が紹介される。トピックには、顧客セグメンテーション、マーケティングキャンペーンの効果測定、ブランド分析など、最新の活用事例が含まれる。受講者は、実務家の経験から学び、理論と実践を結びつける洞察を得ることに、マーケティング・アナリティクスの実践能力を高めることを目指す。	
ピープル・アナリティクス（ケーススタディ）		本授業の目的は、人事分野におけるピープル・アナリティクスの実際の応用例を学び、現場での実践力を養うことである。授業は人事実務家によるオムニバス形式で行われ、実際の企業や組織で行われているピープル・アナリティクスの具体的な事例が紹介される。トピックには、採用プロセスの最適化、従業員エンゲージメントの向上、パフォーマンス管理、キャリア開発、離職リスクの分析など、最新の活用事例が含まれる。受講者は、実務家の経験から学び、理論と実践を結びつける洞察を得ることにより、ピープル・アナリティクスの実践能力を高めることを目指す。	
DXケーススタディ		本講義では、データサイエンスやその他のデジタル技術が企業等で活用されているDXの事例について学ぶ。多種多様な産業の企業の実例を扱い、経営戦略やビジネスモデルなどの背景を理解しながらデジタル技術がどのように企業価値の増大に貢献しているかについて議論する。講義を通じて、DXが単なるデジタル技術の導入にとどまらず、製品やサービス、ビジネスモデル、業務そのものを変革することによって、企業が競争上の優位性を確立することを目指すものであることを理解する。	
マテリアルズインフォマティクス		本授業は、材料科学、コンピューターサイエンス、データサイエンスを融合させた効率的な材料開発の技術について学ぶことを目的とする。具体的な内容として、材料データの収集、材料データベースの構築、機械学習を用いた材料特性の予測モデルの開発、シミュレーションの技術について学ぶ。講義形式を中心として、マテリアルズ・インフォマティクスの概要、理論を学ぶとともに、企業における実践事例を知ることにより、これらの技術が企業などにおける事業活動にどのように応用されるかを理解する。	
心理調査研究法		心理調査とは、心理学の理論を検証するために実施される調査のことである。心理調査では、心理学の仮説的構成概念の測定を目指した心理尺度を作成し、心理尺度で測定された仮説的構成概念間の関連を検証することで、心理過程、心理構造の同定を目指す。この点は、社会的属性と特定の社会行動との関連を検証する社会調査と異なる点である。この授業では、心理統計法の知識を前提として、心理尺度の構成手続きについて実践的に学び、信頼性概念の理解を深める。さらには、尺度得点間の相関関係を実際に検討する中で妥当性概念の理解を深める。本授業を通じて、心理調査法について精通するだけでなく、そもそも数値データが適切な方法によって取得されることで初めてデータサイエンスの手法が社会的意味をなすことを理解する。	

	行動科学実験法		行動科学とは、生体、特に人の行動を科学的に探求することで、これらの行動の法則性を解明しようとする学問である。この授業では、主に心理学分野で行われている実験の手法を体系的かつ実践的に学ぶ。心理学における実験は、行動主義の影響下にあり、観察可能な刺激－反応関係の法則性から刺激と反応を媒介するであろう心的過程の同定を試みる。ここでは、仮説を導く理論の精緻さ、仮説検証のための観察状況の統制、得られた実験的観察の再現性が重視される。授業においてはこれらについて詳説した上で、古典的な実験研究の追試を通じて実習し、実際に研究計画を立案、実施することで、行動科学の手法に精通することを目指す。	
	健康調査研究法		本授業ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」に関する調査研究法についての基本的な事項を概観する。具体的には「形態・身体組成の計測」「体力測定」「生活習慣調査」「食事調査」「ストレス調査」「疲労・睡眠の調査」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら体力科学・健康科学・健康疫学などの分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康」に関連する分野でのデータの測定と分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	生体科学実験法		本授業ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」に関する生体科学計測法についての基本的な事項を概観する。具体的には「呼吸・循環機能の計測」「筋活動の計測」「動作の計測」「反射の計測」「心理物理測定」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら運動生理学・運動力学・神経科学などの分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康」に関連する分野でのデータの測定と分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
プログラミング	Python基礎	○	本授業の目的は、プログラミング言語であるPythonを活用してデータ分析を行うための土台として、Pythonの基本的な文法や機能を学び、プログラミング技術の基礎を習得することである。この授業では、最初にプログラミング言語とは何か、プログラミング言語の基本構造を学ぶ。そして、Pythonの基本構文やデータ型、制御構造（ループや条件分岐）、関数の定義と利用などの基礎的なプログラミング技術を学ぶ。さらに、主要なライブラリ（NumPy、Pandas、Matplotlib）の使い方を学び、データの読み込み、前処理、可視化のための基本操作を習得する。そして、実際のデータセットを使ってデータの編集や加工の技術を演習形式で身につける。	
	Python統計学	○	本授業の目的は、観測と変数が含まれたデータセットの統計分析をPythonによりコードを書いて実行することにより、統計学とPythonの知識を用いたデータ分析のスキルを習得することである。具体的な内容としては、Pythonのライブラリを用いて、記述統計の分析、データの視覚化、相関分析、回帰分析など、統計学基礎および統計学で学んだ統計分析を実装する。また、統計的仮説検定や信頼区間の計算もPythonを用いて行う。モックデータやリアルデータを用いて問題を設定し、統計的に分析をすることによって、データから洞察を引き出す技術を習得し、統計分析の実践力を高め、データに基づいた意思決定を行う能力を養う。	
	Pythonアナリティクス I	○	本授業の目的は、Pythonを用いた機械学習モデルの実装方法を学び、データに基づいた予測アナリティクスの実践能力を習得することである。具体的な内容としては、Pythonのライブラリ（Scikit-learn）を用いた、予測アナリティクスのためのデータの前処理、主な教師あり学習アルゴリズム（線形回帰、ロジスティック回帰、決定木、サポートベクターマシンなど）を用いたモデルの構築、訓練、性能評価の方法を学ぶ。受講者は、実際のデータセットを用いた実習を通じて、予測アナリティクスにおいてデータサイエンティストとしての役割を担うための実践力を身につけることを目指す。	
	Pythonアナリティクス II	○	本授業の目的は、Pythonを用いた高度な機械学習の技術を学び、データに基づいた予測アナリティクスの実践能力を向上させることである。具体的な内容としては、Pythonのライブラリ（Scikit-learn、Kerasなど）を用いた、教師なし学習（クラスタリング、次元削減）、アンサンブル学習（ランダムフォレスト、勾配ブースティング）、およびハイパーパラメータ・チューニングや過学習を防ぐための手法（交差検証、正則化）を学ぶ。さらに、深層学習モデル（人工ニューラルネットワーク）の実装方法も学ぶ。実際のデータセットを用いた実習を通じて、データサイエンティストとして高度な予測アナリティクスを行うための実践力を身につけることを目指す。	

データサイエンス演習	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ	○	本授業の目的は、記述アナリティクスを中心としたデータ分析プロジェクトをチームで実行することにより、実践的なデータ分析スキルを習得することである。この授業では、Pythonを用いてデータの収集、整理、前処理、視覚化など基本的なデータ分析を行い、発表するまでの流れを1つのプロジェクトとして4～5名のチームで実行する。プロジェクトの実行にあたっては、チームワーキングやリーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどのソフトスキルを活用して、学生がチームとして主体的に推進することを求める。	
	データサイエンス基礎プロジェクトⅡ	○	本授業の目的は、診断アナリティクスを中心としたデータ分析プロジェクトをチームで実行することにより、因果関係の推論やデータ駆動型意思決定を支援するスキルを習得することである。この授業では、データの収集、整理、前処理に加え、回帰分析を中心とした因果推論を行い、結果を明確にプレゼンテーションするまでの1つのプロジェクトとして4～5名のチームで実行する。プロジェクトの実行にあたっては、学生はチームとして主体的に進めるのみならず、プロジェクトマネジメントの知識を用いた効果的な実行と進捗管理、およびクリティカルシンキングとストーリーテリングのスキルを用いた説得力のある結論と説明をすることが求められる。	
	データサイエンス演習Ⅰ	○	本授業の目的は、データサイエンスの知識をさらに深化させ、実際のプロジェクトに参加することで実践的なスキルを身につけることです。各クラスは担当教員の専門分野に応じたテーマが設定され、学生はそのテーマに基づいてプロジェクトを進行します。プロジェクトの種類は、教員の調査研究プロジェクト、企業との連携プロジェクト、学生が自身で立ち上げるプロジェクトなど、クラスによって異なります。チームとしてプロジェクトを実行することにより、データ・アナリティクスのスキルに加え、プロジェクトマネジメントやチームマネジメントなどのソフトスキルを実践の中で向上させることを目指します。	
	データサイエンス演習Ⅱ	○	本授業の目的は、データサイエンスの知識をさらに深化させ、実際のプロジェクトに参加することで実践的なスキルを身につけることです。演習Ⅰと同様に、各クラスは担当教員の専門分野に応じたテーマが設定されますが、各クラスとも演習Ⅰとは異なるプロジェクトが実行されます。プロジェクトの種類は、教員の調査研究プロジェクト、企業との連携プロジェクト、学生が自身で立ち上げるプロジェクトなど、クラスによって異なります。演習Ⅰと同様に、プロジェクトマネジメントやチームマネジメントなどのソフトスキルを活用し、さらにクリティカルシンキングやドメイン知識を活用して、データから深い洞察を得ることを目指します。	
ドメイン	経営管理論		本講義では、企業やその他の法人で働く人にとって必要となる経営管理の基礎を学ぶ。株式会社の仕組みや経営組織の形態について学んだ後、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の構造と読み取り方を理解する。また、企業活動がどのように財務諸表に記録されていくかを理解し、財務諸表を使った経営分析を行う力をつける。更に、実際の企業の数値を活用して、産業の特性や経営戦略が財務内容に与える影響について議論する。	
	人的資源管理		本授業の目的は、主として企業における人的資源のマネジメントに関する基礎知識を習得することである。具体的には、人事戦略、募集と採用、人材育成、業績評価、報酬管理、労働法規などの人的資源管理に関する重要なトピックを取り上げる。これらのトピックに関して、企業で一般的な人事制度や、企業の事例を通じて、人的資源管理の制度と実態に関する知識を習得する。さらに、デジタル人的資源管理、ピープル・アナリティクスなど、データサイエンスやデジタルイノベーションと関連する新たな人的資源管理の動向も取り上げる。	
	消費者行動論		本授業の目的は、消費者行動の基本概念や理論、および主な実証研究の分析手法と結果を学び、マーケティング分野におけるデータ・アナリティクスとデジタルイノベーションの実践につなげる知識と考え方を習得することである。具体的な内容としては、消費者の意思決定プロセス、心理的・社会的影響、購買行動、ブランドロイヤルティなどのトピックを中心に学ぶ。講義形式を中心とし、消費行動の理論とともに、データを用いた実証研究の知見や、企業への事例調査によって得られた実践的洞察を学び、データ・アナリティクスのための問題設定やデータの収集、分析結果の解釈、または企業におけるマーケティング革新のための考え方を身につける。	
	組織行動論		本授業の目的は、組織における従業員の行動の基本概念や理論、および主な実証研究の分析手法と結果を学び、人材のマネジメントに関するデータ・アナリティクスとデジタルイノベーションの実践につなげる知識と考え方を習得することである。具体的な内容としては、モチベーション、リーダーシップ、意思決定、チームワークなどのトピックを中心に学ぶ。講義形式を中心とし、組織行動の理論とともに、データを用いた実証研究の知見や、企業への事例調査によって得られた実践的洞察を学び、データ・アナリティクスのための問題設定やデータの収集、分析結果の解釈、または企業における人材マネジメント革新のための考え方を身につける。	

デジタルマーケティング		本授業は、デジタルマーケティングの基本概念と実践的手法を学び、データサイエンスとデジタルイノベーションの実践につなげるための知識を得ることを目的とする。具体的には、SEO、SEM、コンテンツマーケティング、ソーシャルメディアマーケティング、Eメールマーケティング、データ分析など、デジタルマーケティングの主要なトピックを取り上げる。講義形式を中心とし、受講者は、デジタルマーケティングに関する概念や理論を学ぶとともに、最新の実践事例を知り、データ駆動型のマーケティング戦略やビジネス変革を支援・推進するための能力を身につけることを目指す。	
基礎心理学概論		心理学は、科学であることを志向し、様々な側面から人の心の動きと機能に関する客観的知見を蓄積してきた学問である。この授業では、このようないわゆる知情意の動きに対する関心を、(1)それらがどのような心的過程によって成立しているのか、(2)先天的要素も備えながらどのように発達していくのか、(3)各過程にはどのような個人差があり、社会状況の影響を受けながら社会環境にどのような影響を及ぼすのか、(4)その結果、どのような適応上の問題を抱えるに至るのか、の4つの観点から概観する。併せて、各観点において心理学の科学性がどのようにして担保されているのかを確認し、データサイエンスやコンピュータサイエンスがどのような貢献ができるのかも考える。この授業を通じて、心理学の基礎知識とその研究手法に関する理解を深めると同時に、データサイエンスやコンピュータサイエンスの適用、応用の可能性について考える力を涵養する。	
認知科学概論		認知科学とは、情報処理という観点から知的活動の性質を理解しようとする研究分野であり、哲学、言語学、心理学、人類学、神経科学などの諸科学が関与する学際分野である。認知科学は、外部から観察可能な刺激反応関係から生体内部で生じている情報処理過程を推定するが、その研究技法は認知科学の歴史の中で発展し、近年においては飛躍的な進歩を遂げている。この授業では、認知科学の主要な理論を概説するとともに、それらの理論がどのような知見を基に構築されたのか、これらの知見はどのような方法でどのように分析されることで得られたのかを紹介する。この授業を通じて、情報処理過程としての生体、特に人の特徴に関する理解を深めるとともに、当該分野におけるデータサイエンスやコンピュータサイエンスの貢献可能性について考える力を身につける。	
産業組織心理学		産業組織心理学とは、産業や組織における心理学的メカニズムを解明しようとする学問である。この授業では、組織内相互作用と組織集団としての行動について検討する組織行動、人事評価や人材育成に関わる人的資源管理、働く人々の安全と心身の健康を保全・促進する安全衛生、消費者の心理過程や宣伝・広告効果を検討する消費者行動の4領域に対して、心理学の観点から得られた理論体系について概観する。説明にあたっては、心理学的な研究法に基いた実証データを紹介し、当該分野におけるデータサイエンスやコンピュータサイエンスの寄与についても解説する。この授業を通じて、産業・組織領域における心理学の理論的貢献とデータサイエンスやコンピュータサイエンスの実証面での貢献を理解し、当該分野におけるデータサイエンスやコンピュータサイエンスの適用を考える視点を養う。	
グループ・ダイナミックス		グループ・ダイナミックスとは、集団内、集団間の相互作用によって創発する集団行動およびその特性を解明する学問である。集団内相互作用においては、集団成員間の社会的影響過程、相互依存関係などの構造的影響により総体としての集団の動きが左右される可能性がある。また、集団間相互作用は、各集団成員にカテゴリー化をもたらし内外集団の差異を生み、さらには集団間の勢力関係や相互依存を生じさせることによって、各集団に独自の特徴をもたらす可能性がある。本授業では、これらの力動に関わる理論を心理学を中心に概観し、これらのグループ・ダイナミックスに関する知見が産業・組織領域に大きな寄与をすることを説明する。また、グループ・ダイナミックスを研究する質的研究、量的研究の技法についても説明をし、データサイエンスにおける数理モデリングと解析技法やコンピュータサイエンスを援用したシミュレーションが非常に有用であることを学ぶ。	
応用認知科学		認知科学の主要な知見ならびにその研究技法に関する基礎知識を前提として、より高度かつ先端的な認知科学の理論ならびにその検証方法について実践的に学ぶ。認知科学の特定領域に着目し、その領域で先端的な議論について理解をしたうえで、仮説を検証するような実験手続きについて考える。実験立案時には、事前に分析計画も詳細に立案することで、統計的解析の技法について理解を深めると同時に、洗練された統計的解析やコンピュータサイエンスを援用した刺激呈示などによって仮説検証の精度が高まりうることを実感する。	

	健康科学概論		本講義ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「健康の定義」「健康と体力・運動」「健康と食物・栄養」「健康と休養・睡眠」「健康とライフステージ」「健康と社会生活」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら生化学・生理学・栄養学・体力科学・疫学・社会科学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	食・栄養情報学		本講義ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」にとくに深くかかわる食物と栄養に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「食物・栄養と健康」「消化・吸収と栄養素の体内動態」「栄養素とエネルギー」「摂食行動」「食品の機能」「食品の分類と食品成分表」「食品表示と規格基準」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら生化学・生理学・栄養学・食品学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康と食物・栄養」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	健康・行動情報学		本講義ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」にとくに深くかかわる健康行動とその変容に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「国民保健の動向」「健康診断」「行動科学と行動変容」「健康教育とヘルスプロモーション」「生活習慣と健康行動」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら健康科学・行動科学・疫学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康と行動」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	運動・感覚情報学		本講義ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」にとくに深くかかわる運動と感覚に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「運動の仕組み」「エネルギー論と体力」「感覚の性質」「感覚の仕組み」「運動-感覚連関」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら生化学・生理学から体力科学・感覚科学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康と運動・感覚」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	応用健康科学		本講義ではデータサイエンスの活用が望まれる分野の一つである「健康」に関する様々な応用的な事項を概観する。具体的には「環境と健康」「肥満」「疾病」「依存症」「障害」「感染症」「女性の健康」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら健康医学・健康疫学・心身医学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において周辺分野も含めた「健康」関連領域でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
関連	データ活用特講Ⅰ		データ分析の手続きを実行することと、データの背後の現象を捉えることの間には大きなギャップが存在する。本講義では、そうした理論と実践の間を橋渡しする知識や考え方について、広範なトピックを扱いながら学習する。データの生成・取得の過程について考えることから始め、さまざまな分析手法やモデルによる解析が本質的に何をやっていることになるのか、またデータの可視化や解釈、それらを用いた意思決定において現実が発生する課題について幅広く解説する。	
	データ活用特講Ⅱ		データ分析の手続きを実行することと、データの背後の現象を捉えることの間には大きなギャップが存在する。本講義では、そうした理論を実践の現場で活用する方法について、様々な実例を取り扱いながら学習する。とくに取得されたデータの性質を考え、適用する分析手法を検討し、その結果を論理的に解釈して予測に繋げる手順について、実例を交えながら解説する。そして、その中で生じた課題について考え、データを有効活用できる能力を身につける。	
	海外情報学研修		デジタル技術の革新とDXの推進により、ビジネスモデルを変革し、人々の生活を一新させるデジタル社会が世界的に実現しつつある。データとデジタル技術を効果的に活用することによって変革を加速化させることができる。この授業では、アメリカの企業や組織におけるデータやデジタル技術の活用、現代のテクノロジーの価値及びアメリカ社会の変容について学ぶ。英語を使って読み、調べ、発表する統合型の授業を通し、考えを深める。	

卒業研究・演習	データサイエンス専門演習Ⅰ	○	本授業は4年間の学習の集大成として、これまでの学習内容を総合的に活用しテーマを設定してデータサイエンスプロジェクトを完遂するために、個人またはチームで問題の設定、データの収集、分析、結果の検討を行う。その中でドメイン知識とソフトスキルを総合的に活用するとともに、プロジェクトのテーマに合わせて多変量解析、機械学習を用いた予測アナリティクス、処方アナリティクスなど、適切な手法を活用する。そして中間的な成果を指定された形式で中間発表し、プロジェクト内およびプロジェクト間で意見交換を行い、専門演習Ⅱでのさらに深い学びに繋げる。	
	データサイエンス専門演習Ⅱ	○	本授業は4年間の学習の集大成として、これまでの学習内容を総合的に活用しテーマを設定してデータサイエンスプロジェクトを完遂するために、個人またはチームで問題の設定、データの収集、分析、結果の検討を行う。その中でドメイン知識とソフトスキルを総合的に活用するとともに、プロジェクトのテーマに合わせて多変量解析、機械学習を用いた予測アナリティクス、処方アナリティクスなど、適切な手法を活用する。特に専門演習Ⅰでの中間発表を踏まえてさらに内容を深め、プレゼンテーションのマネジメントも行い最終成果の発表に備える。	
	Capstone Project	○	本授業の目的は、4年間の学習の集大成として、これまでの学習内容を総合的に活用し、自らテーマを設定してデータサイエンスプロジェクトを完遂することである。個人またはチームでプロジェクトを実行し、問題の設定、データの収集、分析、プレゼンテーションまでの全プロセスを自身でマネジメントする。プロジェクトでは、ドメイン知識とソフトスキルを総合的に活用するとともに、プロジェクトのテーマに合わせて多変量解析、機械学習を用いた予測アナリティクス、処方アナリティクスなど、適切な手法を活用する。最終成果として、得られた洞察をプレゼンテーション形式で発表する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(総合情報学部デジタルイノベーション学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
一 般 教 養 科 目	実践倫理(昭和女子大学の 教育と理念)		大学初年次の学生が大学で学ぶことの意義を考えるための講義として、本学教員がオムニバス方式で展開する。学問領域には様々なトピックとアプローチがあり、領域間で共通見解に至ることもあれば、合意に至れないこともある。これらの実例に触れることで、自身の専攻以外の学問にも目を向け、多様な視点から社会を見つめる実践的な知識の形成をはかる。また、どの学問にも共通する研究倫理や、これからの生活や仕事に向けられる倫理に気づく機会を設ける。初年次教育として本学の授業科目の根幹に位置する性格のため、これを必修科目としている。 (オムニバス方式／全15回) (21 金尾朗／1回) 建学の精神 (21 金尾朗／1回) 教育目標と本学での学び：実践倫理ガイダンス (20 柏木厚子／1回) 海外体験、ダイバーシティ、留学 (17 今井章子／1回) プロジェクトマネジメント (40 嶺田明美／1回) 人間文化学部 (45 渡辺睦行／1回) 食健康科学部 (17 今井章子／1回) グローバルビジネス学部 (13 石垣理子／1回) 環境デザイン学部 (23 川畑由美／1回) 国際学部 (32 田中奈緒子／1回) 人間社会学部 (39 薬袋貴久／1回) 全学共通教育センター（一般教養・外国語・教職） (42 山中健太郎／1回) 総合情報学部 (19 小川睦美／1回) 健康 (43 山本晶子・16 井原奉明／1回) （共同）学問上の不正防止（研究倫理、知財、Chat GPT） (37 坂東真理子／1回) これからの女性のリーダーシップ	オムニバス・共同（一部）
	キャリアデザイン入門		21世紀を担い、グローバル社会で活躍する女性の育成を目指す。中長期にわたるキャリアデザインの重要性を深く理解し、社会の中で自分の役割・生き方を考える力を修得する。 (オムニバス方式／全15回) (37 坂東真理子／1回) 昭和女子大学で何を学ぶのか、アンコンシャスバイアスの克服 (15 伊藤純／1回) キャリアとは何か、キャリアデザインを学ぶ意味 (15 伊藤純／1回) 活用しないともったいない！本学のキャリア支援システム（メンター制度含む） (15 伊藤純／1回) 世界から見た日本の社会・経済 課題と解決策を考えよう (15 伊藤純／1回) グローバルに生きる、世界を多様な目で見ると (31 武川恵子／1回) 女性活躍推進法の意義と女性登用のインパクト（第5次基本計画概説含む） (15 伊藤純／1回) 社会人メンター講演1「私のチャレンジ」 (14 磯野彰彦／1回) 学生時代の学びを社会（企業・採用側）は評価する (15 伊藤純／1回) 社会人メンター講演2「新たな価値を創る楽しさを知ろう」 (17 今井章子／1回) 新しいリーダーシップの獲得と発揮(トップダウンからインクルーシブへ) (15 伊藤純／1回) 社会人メンター講演3「若手社会人の立場から」 (15 伊藤純／1回) チャレンジする心・逆境を乗り越える力を身に着けよう (15 伊藤純／1回) コミュニケーション・礼儀マナー (15 伊藤純／1回) AI・データサイエンスの社会を生きる (37 坂東真理子／1回) 女性のキャリアと人生	オムニバス
	女性の生き方と社会		人生100年時代を迎える中、卒業後に各自が「どのように働き、生きていくか」を考える上で、「キャリア」の概念を理解しつつ、幅広い視点からキャリア形成や人生設計を自分自身で考えるための基礎を築くことを目指す。また、社会貢献・共創型の生き方、特に、女性の生き方と社会とのつながりや関係性について、多様なものの見方や考え方を学ぶ。	

女性とキャリア形成		生きがい・やりがいを感じられるキャリアを通じて自身を成長させたい、その為に必要な素質・スキルを知りたい、キャリアもプライベートも充実させたいけれど実現可能か不安と考えている2年生以上を対象としたアクティブラーニング型・対面型のキャリア形成科目。備えて欲しいマインドセット・能力・スキルを学び、自分らしさを活かしたリーダーシップスタイルと自分にあったライフキャリアプランについて考える。	
アカデミック・ライティング		大学生は、レポートをはじめ、メール、種々のエントリーシートなど、常に書く力が求められる。初年次教育の一環として、特に論理的な文・文章について実践的に学ぶ。論理文以外にも、豊かな言語表現につながるような基礎的な力を養う。授業は、毎回、講義を行いつつ演習で実践する。第15回目には外部講師を招き、短歌のような文字数制限がある中でも豊かな表現ができるような基礎を学ぶ。	
教育学A		みなさんはこれまで10年以上学校教育を受けてこられました。学校に入る前の幼稚園や保育園、あるいは家庭教育を考えれば、生まれてからずっと教育を受けてきていることになります。教育というのはあまりにも身近すぎて、改めて考えることがなかった人も多いのではないでしょうか。逆に「なぜ学校に行かなければならないのか」「なぜ勉強しなければならないのか」と思い悩んだ人もいることでしょう。いずれにしても「教育」については体験的に既に良く知っていると言えます。 本科目では、みなさんの教育体験を振り返りながら、体験をより広い視野から見ることで、「学ぶこと」「教えること」とは何か、学校は何のためにあるのかといったことを一緒に考えていきます。	
教育学B		いつの時代でも、教育や子どもをめぐる問題があります。みなさんもこれまでの学校生活の中で、様々な問題を感じてきたと思います。その中には個人レベルで対応できるものもあれば、学校全体として対応が必要なもの、あるいは制度や法律のあり方に関わるものもあります。 本科目では、現代の教育や子どもをめぐる諸問題を取り上げて、その背景・原因や解決に向けての方向を考えます。そしてそのことを通じて、「教育とは何か」「子どもの成長・学びを促すために何が必要か」を追求します。	
倫理学A		主に西洋の代表的な思想家の倫理に関する見解を取り上げ、その考察を行う。古代から現代に至るまでの倫理思想を歴史的に概観することで、その特徴を把握することを目指す。西洋の代表的な思想家の倫理に関する見解を把握し、それを踏まえて、主体的に倫理に関する見解を構築できるようになる。	
倫理学B		本講義では応用倫理学の中でも医療倫理学をテーマとしながら、その基本的な分野である生命の始期や終期をめぐる問題を中心に考察を行い、当該分野でどのような議論が存在するのかを詳しく検討していく。医療倫理の基本問題の内容を踏まえた上で、家族等との関係を重視しつつ、各個人が主体的に倫理的問題に対して決定していくことの重要性を理解することを目指す。	
哲学A		普段の私たちは大抵のことを滞りなくやっつのけているが、ときに自身の営みを振り返るため、立ち止まって考えたりする。ところが、そこでの思案自体がさらなる疑問を呼び込むことがある。哲学は、そうした状況に置かれたときに（答えは与えてくれないが）、自分の考えを整理するための技法である。そうした技法に触れる機会をこの講義では提供したい。その際に、大きく分けて3つのテーマに話を絞り、そのテーマに即した哲学史上の見解を紹介する。紹介された見解をヒントにして、物事を切り分けつつ考える力を身に付けること——これが講義の狙いである。日常に比較的近い場面に焦点を当て、そこに潜む機微を取り出していく。	
哲学B		普段の私たちは大抵のことを滞りなくやっつのけているが、ときに自身の営みを振り返るため、立ち止まって考えたりする。ところが、そこでの思案自体がさらなる疑問を呼び込むことがある。哲学は、そうした状況に置かれたときに（答えは与えてくれないが）、自分の考えを整理するための技法である。そうした技法に触れる機会をこの講義では提供したい。その際に、大きく分けて3つのテーマに話を絞り、そのテーマに即した哲学史上の見解を紹介する。紹介された見解をヒントにして、物事を切り分けつつ考える力を身に付けること——これが講義の狙いである。特に学問や科学と呼ばれる営みに注目し、その歴史を参照しつつ、営みの特性を切り出していく。	
論理学A		私たちは生活する中でさまざまな知識を活用している。その際、自分で調べたり人から聞いたりしたことをそのまま用いるだけでなく、自分で考えを進めていくこともあるだろう。そういった「考えを進める」作業に対し、論理学はアドバイスを提供できる。この講義では論理学の知見を取り上げ、演習をつうじてその使い方を身に付けることになる。 前期は日常的に扱う言葉と論理学に登場する言葉の違いを意識しながら、論理学の基本的なアイデアと考えの進め方を学び、日常言語での推論を練習するのが目標である。	

論理学B		私たちは生活する中でさまざまな知識を活用している。その際、自分で調べたり人から聞いたりしたことをそのまま用いるだけでなく、自分で考えを進めていくこともあるだろう。そういった「考えを進める」作業に対し、論理学はアドバイスを提供できる。この講義では論理学の知見を取り上げ、演習をつうじてその使い方を身に付けることになる。 後期は論理学における考えの進め方について、記号を用いた記法を詳しく学び、さまざまな推論のパターンを実際に練習するのが目標である。	
宗教学A		宗教学は諸宗教を客観的に眺め、相互に比較し、社会や文化との関係を見ていく学問である。当授業では、絵画・動画・映画・音楽などを参照しながら、宗教を構成する概念、教え、実践のあらましを見ていく。主に日本の宗教に焦点を当てる。	
宗教学B		宗教学は諸宗教を客観的に眺め、相互に比較し、社会や文化との関係を見ていく学問である。当授業では、絵画・動画・映画・音楽などを参照しながら、宗教を構成する概念、教え、実践のあらましを見ていく。主に世界の宗教に焦点を当てる。	
日本精神史		海と山に囲まれて暮らす日本人は、そこに人の世とは違う“異界”を見ていた。世界文化遺産である熊野や富士山を、神話や縁起、絵画や芸能などから読み解いてみると、かつて日本人が創り上げた世界観や心性が見えてくる。現代に残された文化の遺産から、日本人が“異界”と向き合い創り上げた精神文化を探索しよう。	
宗教文化論A		日本の宗教文化は、神道や仏教、陰陽道、修験道などが重なり合い、多様な文化を創り上げている。身近なまつりや民俗、文芸が、古代寺院の儀礼や文化と深く繋がり合って展開するダイナミックな運動を、仏教史を踏まえ、人々の祈りや願いとともに探る。この授業では、文献や絵画を分析し、日本の文化に対する理解を深め、くずし字解読の方法を学び、文献取り扱いのスキルを習得する。これらを通じて、地域社会に根ざす歴史・伝統文化を再発見し、海外の美術館等に所蔵される資料にも視野を広げ、グローバル時代の国際人として必要な足場を築く。	
宗教文化論B		日本文化の基層には、神と仏の重なりあった文化がある。身近な寺社の年中行事や日本を代表する霊地霊場をとりあげ、神話や縁起、絵画や儀礼を通して、現代にも息づく神仏の文化を探究しよう。	
地理学A		地理学の2つの体系のうち、前期では「系統地理学」の発想から現代世界について考察を深める講義を展開する。前半では「地図」と「自然地理学」の基礎を概観し、後半は「人文地理学」を取り扱う。毎回、現在の世界を切り取った時事・景観写真・統計データ・主題図などを導入に位置付け、地理学の伝統的な考え方を基に地球的課題について考察を深める。また、受講者の関心のあるニュースから身近な生活圏での地理的事象についても考える。	
地理学B		地理学の2つの体系のうち、後期では「地誌学」の見方から現代世界について考察を深める講義を展開する。世界のある範囲の地域の特色を理解し、自分なりに地域区分する発想を獲得する。毎回、現在の世界を切り取った時事・ニュース・景観写真・統計データ・主題図などを導入に位置付け、地理学の伝統的な考え方を基に現代世界を概観する。また、受講者の関心のある地域についても自然環境と人間活動の関わりについて学際的に考察を深める。	
社会思想史A		私たちは社会に生まれ成長する存在であると同時に、社会にはたらしかけ、社会を作る存在でもあります。「クレアタ・エト・クレアンス（作られ、かつ作る）」という言葉で表される人間の両面性を自覚することは人間と社会、歴史等を客観的・多角的に知るための基礎的な素養です。この講義では主に欧米で発展した社会思想の歴史をとおして、社会を作る存在という自覚に至る私たちの歩みを知るとともに、先人がその時代と社会に見た問題と社会思想との関わりを学び、今日の諸問題に私たちがどう向き合っていくのかを考えます。	
社会思想史B		わが国に西洋近代的な意味での「社会」が形成されるのは幕末・明治以降のことで、それはとりわけ明治以後の政治家・知識人が欧米の様々な社会思想を輸入することで本格化していきました。一方、それは西洋近代的な意味とは異なるわが国独自の「社会」との摩擦や融合等様々な反応とともに今日に至っています。この講義では近現代日本に焦点をあて、欧米の社会思想をわが国がその社会・精神風土のなかでどう咀嚼して受容したのかを学び、世界のなかの日本人として様々な問題にどう対峙していけるのかを考えます。	

日本史A		本講義では、文献史料でもあり、考古資料でもある「出土文字資料」を読み解きながら、主に日本古代の人々の生活や社会の姿にせまることを目指す。また、歴史資料の調査・保存・活用を、現代社会の課題として捉える。 歴史資料を読み解き、学説を構築する歴史学の手法について理解する。日本の古代史（古墳時代～平安時代後期、4世紀～12世紀）について、大まかな流れを理解する。歴史資料の調査・保存の現場について、知識を深める。	
日本史B		本講義では、近現代日本史(開国～現在)を概観することを通じて、歴史学はどのような視点で近代日本を描いてきたのかを見ていく。一連の歴史事件を考察する際、日本という「当事者」の視点だけではなく、周辺国(中国、韓国ら)および欧米から、所謂「他者」という視点も重視する。史料に接しながら、歴史学の方法論及び歴史の面白さを実感して学んでいく。歴史学の視角、歴史学の方法論を習得する。近代日本史の諸問題を複眼的に観察し、分析する力を養成する。史料調査と史料解読の方法を覚え、「現在」の私たちが直面する諸問題を検討・解決するヒントを探す。	
現代史A		本講義は、21世紀の「今」を形作る現代史をあつかい、特に、「長い20世紀」の歴史の概観、構造的理解およびグローバルな社会構造の洞察のための基礎学力を養成するものである。「歴史とは現在と過去との対話である」(E.H. カー)という言葉の通り、グローバル化された現代社会を生きるために知ってほしい歴史からの学びを実践する。履修学生は、通史のみならず、歴史の構造的な理解の仕方、社会科学の基礎的な概念や視点にも触れることになる。学習内容は、欧米大国の国際関係史や国際政治史のみならず、その他の各諸地域、第三世界の人々から見た歴史、それぞれの社会のマイノリティ(人種・階級・ジェンダー・エスニシティなどの)の視点も含めて展開したい。担当者は、グローバル社会を生きる市民として「グローバル・ヒストリー」はどのようなものになるかを考えながら授業を運営する。	
現代史B		本講義は、主に第二次世界大戦後の冷戦期(冷戦体制)から21世紀の第一四半期までを念頭に、「現在」を形作る直近の「歴史」をあつかう。歴史とは、現在と過去との対話であるため、何を歴史事象として取り上げるかは、歴史家や研究者の問題意識により異なってくる。また、進行する現在・今に応じて常に問いは更新され続ける。この講義では、より包摂的で公正な社会がいかにか可能か? を問題意識とする。自由・民主主義および資本主義陣営と共産党一党独裁の社会主義陣営に分かれて対立した冷戦体制の理解から始め、国際社会の社会構造が我々の個々人の生活史や私的問題を左右する文脈を考えたい。冷戦体制を4つの時期区分にわけ、言及する地域も世界の諸地域(米国、ヨーロッパ、その他諸地域)のバランスに留意する。	
考古学A		指定史跡を中心に神奈川県内の代表的な遺跡を取り上げ、その遺跡の発見や発掘調査に関わった地域研究者達にスポットを当てながら、遺跡の調査・研究を通じて明らかにされた古代の人々の生活と知恵について概説を行い、日本考古学の研究の歩みと成果について理解を深める。また、地方自治体での実務経験、大学調査機関での調査・研究経験を通じた遺跡の調査現場での経験に触れ、遺跡の保存と活用についても考える。	
考古学B		日本列島の代表的な遺跡を取り上げ、その遺跡の発見・調査から明らかにされた古代の人々の生活について概説を行い、日本考古学の研究の歩みについて理解を深める。考古学の成果を通して、時代が変わるとはどういうことなのか、その変化の背後にあるものを理解する。古代の人々が自然とどのように関わってきたか、どのような工夫を重ねて生きてきたかを知る。	
東洋史		この授業では、前近代「東アジア」の国際関係史を扱う。その際に史料の残存量等から視点を仮に中国におき、北方遊牧民との関係を重視しつつ、唐代から時代を下りながら歴史を概観する。日本の位置づけについても外からの視点で考えたい。前近代「東アジア」の国際関係史に関する理解を深めることを通じ、履修者が「東アジア」史の中に日本の歴史を相対化して位置づけられることを目標とする。また上記に関連するテーマについて、論理と構造の存在する文章を執筆することを目指す。	
西洋史		古代から近世にいたる西洋世界の歴史を学ぶ。高校世界史の内容をよく復習した上で、それぞれの時代の特徴と、歴史的な流れについて学ぶ。また、西洋文明の現代への影響や、「歴史」がどのように変化していったのかを理解する。	
文化人類学A		本科目は、世界各地のさまざまな文化に目を向け、それらの類似性と異質性を探りながら「文化とは何か?」という、人間にとって根源的ともいえる問いにアプローチする。そこで毎回の授業では、文化人類学者たちが伝統的に扱ってきたテーマ——例えば、生業、婚姻と家族、性とジェンダー、宗教——を取り上げながら講義する。	

文化人類学B		「文化人類学A」を土台にして、本コースでは「今日のグローバル化した世界における文化とは？」という、やや発展的な側面に目を向けて世界各地の今日的な問題にアプローチしていく。そこで毎回の授業では、近年ますます文化人類学者たちに取り上げられるようになったテーマ——例えば、教育、環境、医療、経済、移民・難民——の概要について講義する。	
ジェンダー論A		本授業では、社会科学の最新の研究結果に基づいて、性差の実態を把握し、そしてその意義について考える。「ジェンダー」という概念の理解に当たっては、「社会的性別」としてだけでなく、「性別二元性」そのものを強いる秩序として、そして男女という性別カテゴリーとそれに関連する価値と表象（男らしさ、女らしさ）を階層化する秩序として提示していく。授業の後半では、家庭や学校生活、労働市場等において、ジェンダーがどのように形成され、再生産されていくのかを具体例を挙げながら考察する。この授業では日本社会を主なケーススタディとしつつ、可能な限り国際比較も行う。	
ジェンダー論B		前期に続き「ジェンダー」という概念を整理しながら、その視点を通して現代社会が抱えている諸問題について考えていく。今学期に取り上げる主なテーマは、フェミニズム運動をはじめとするジェンダーに関わる社会運動、政治に見られるジェンダーギャップ、法律や公共政策に見られるジェンダーバイアス、そして身体と性に関わる様々な課題等です。この授業では日本社会を主な研究対象としつつ、可能な限り国際比較も行う。	
文学(日本)A		日本人の精神的所産である古典文学に親しむ。現代の慌ただしい毎日の生活の中にも、古典文学に表現される情趣を見つけることができることを知り、自身の生活の中で詠歌など言葉にすることによって自己に潤いを与えられるようになることをめざす。この授業で、日本の古典文学に親しみ日本の言語文化を受容する心と、日本人の精神文化について古典文学に沿って理解する力を養い、人間が健康で、文化的に生きて行くために必要なものは何かを考えられるようにする。	
文学(日本)B		この授業では、個々の作家に焦点をあてながら、日本文学のおもしろさとは何かを考察する。さらに、文章技法を主題としながら、作家や日本文学の流れを分析する。到達目標は、日本文学において好きな作家や作品と出会うことであり、押し付けられた教養ではない、自分なりの日本文学への理解を持てるようになることである。同時に、日本文学への学びを通して、書くことや自分の思考を他者に伝えることへの実践的な能力を磨くことも、本講義の重要なテーマとなる。	
文学(海外)A		英文学では、20世紀末までの英文学史外観を通じて、文学がイギリス文化に果たした役割を理解し、同時に文学作品の読み方と意義を修得する。米文学では人種・階級・ジェンダーなどを分析軸にして米文学の文学史の流れや社会とのかかわり、作家個人の特徴、個々の作品の面白さなどを探る。英米文学・文化ともに小説および詩を実際に読み、文学の基本的な解釈法を学びながら、当時の社会背景、文化に親しむことを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (22 金子弥生／1回) 文学とは何か (22 金子弥生／1回) イギリスの演劇を考える (22 金子弥生／1回) ルネサンスと演劇 (22 金子弥生／1回) ミステリーを考える (22 金子弥生／1回) アガサ・クリスティとミステリー (22 金子弥生／1回) イギリスと階級 (1) (22 金子弥生／1回) イギリスと階級 (2) (23 川畑由美／1回) アメリカ文学の特色 (23 川畑由美／1回) ケイト・ショパン「ジェンダーの視点から」 (23 川畑由美／1回) イーディス・ウオートン「解釈の多様性について」 (23 川畑由美／1回) アーネスト・ヘミングウェイ「Lost Generationとアメリカの夢①」 (23 川畑由美／1回) アーネスト・ヘミングウェイ「Lost Generationとアメリカの夢②」 (23 川畑由美／1回) ラングストン・ヒュー「人種分離政策①」 (23 川畑由美／1回) ラングストン・ヒュー「人種分離政策②」 (22 金子弥生・23 川畑由美／1回) (共同) まとめ	オムニバス・共同 (一部)

文学(海外)B		イギリスを中心に児童文学について概観する。カントリーサイドからロンドンまで、各土地の風土・文化を知り、そのなかで生まれた作品のなりたち、子どもの文学としての特性、時代背景、児童文学史的意義を学ぶ。モチーフ分析を深めるため、適宜イギリス以外の外国の児童文学作品にも触れる。これにより、イギリスを中心に外国の児童文学の主な作品・作家に関する知識を身に付け、子どもの本の特性を理解し、ファンタジー文学の機能や存在意義を理解する。また、イギリスの文化・歴史を知る中で、各土地の風土・文化と、文学との深い関連性を学ぶ。	
言語学A		本講義では、言語学全体を俯瞰する。言語を科学的に研究する言語学の基礎的な考え方や方法を学び、言語を理解する力を養う。言語は、人間のみが持っているコミュニケーションの手段である。言語のおかげで、人間は思考したり、記録したり、発話したり、心を通わせたりして、現在のような高度に発達した複雑な社会を構築できる。本講義は、言語に関わる様々な学問的側面の理解を通して、人間の知性の基盤を理解することを目指す。それぞれの学生が、自分の専門領域と本講義を結び付け、言語に関する思索を深化されることを願う。	
言語学B		「言語学A」に取り上げなかった言語学の諸領域について、比較的新しい視点を含めて紹介し、言語学の広がりを概説する。言語を科学的に研究する言語学の基礎的な考え方や方法を学び、言語を理解する力を養う。それぞれの学生が自分の専門領域と本講義を結び付け、言語に関する思索を深化されることを願う。言語に関わる諸問題をも紹介し、知見を深め、自分の在り方を考え、自分なりの意見を持つことを望む。	
民俗と芸能A		日本各地に伝存する民俗芸能をとりあげ、民俗学や芸能史・宗教史・国文学などと関連させながら、伝承資料としての民俗芸能の特色と価値を検討する。また芸能表現の背後にある日本人の心意を探る。	
民俗と芸能B		日本各地に伝存する民俗芸能をとりあげ、民俗学や芸能史・宗教史・国文学などと関連させながら、伝承資料としての民俗芸能の特色と価値を検討する。また芸能表現の背後にある日本人の心意を探る。	
芸術論A		クラシック音楽の歴史的な流れを中世から近現代までたどり、音楽や音楽家を取り巻く時代や社会の影響に注目しながら、音楽を同時代の芸術・思想・政治・生活文化などと絡めながら多角的に捉えていく。 授業では、授業担当者による実演や視聴覚資料をもとにし、歴史上の重要な音楽作品に触れていく。 その際、耳で聴くだけではなく、楽譜や図版、文献資料などを駆使して分析し、解釈することで、さらにその魅力と価値を実感できるようにする。	
芸術論B		美術作品を様々な角度から検証し、その鑑賞方法や解釈について概説する。本講義では、美術という現象を社会や時代のコンテキストからダイナミックに捉え、より深く楽しむための新しい視座を獲得できるようにする。	
デザイン概論A		高度情報化社会がもたらした産業構造の変化は「デザイン」が関わる領域を大きく広げてきた。 この授業では様々なジャンルのデザインの事例をそれらが生まれた社会状況とともに体系立てて紹介することで、単にデザインの知識を得るだけでなく現代社会が抱える問題や現象を読み解く力を養う。	
デザイン概論B		なぜ、一般教養でデザインを学ぶのか？ 昨今“地域創生”がブームとなり、地方自治体ではデザイナーやクリエイターを採用・募集する事例が増えてきている。 また、民間では経済産業省が掲げる「デザイン経営」のスローガンのもと、デザインの力をブランドの構築やイノベーションの創出に活用する経営手法が一般化し、ノンデザイナーの経営層が「デザイン思考」を習得することで“デザイナー的な発想法”を企業経営に活かした成功例が報告されている。 いまや、デザインの知識やデザイン思考は現代人が備えるべき基礎的な学問であると言える。「意見の共有」を目標に掲げる。	
地域研究A		日本サムライとゲイシャの国というステレオタイプが海外に存在するように、イギリスと言えば英国庭園を背景に澄まし顔で紅茶を飲む世襲貴族や、山高帽と歩行杖という出立(いでたち)で英京倫敦の街を闊歩する英国紳士のステレオタイプが今でも多くの国々で健在だ。しかしそれだけが真のイギリスの姿ではない。現代イギリスが抱える諸問題を扱い、映像資料(静止画スライドおよび動画)も駆使してイギリスらしさを考える。	

地域研究B		「外国語を知らないものは、己が母国語を知らない」：ドイツの文豪ゲーテの有名な言葉ですが、このことは、「外国の文化・社会を知らないものは、己が母国の文化・社会を知らない」と置き換えてもいいでしょう。この授業では、ドイツの社会の諸相を知ること、日本の社会の在り様を振り返り、相対化することで、21世紀に生きる日本人として、どう生きていくのかを改めて考える機会を提供したいと考えている。	
地域研究C		この授業が扱う地域はフランスである。この授業では、地理、歴史、文学、フランス語、食べ物・レストラン、飲み物・カフェなどさまざまな角度からフランスに光を当て、時に歴史的にさかのぼって考察する。それによって、「おしやれ」「街並みがきれい」といったステレオタイプのフランスのイメージとは異なる、隠れたフランス文化の一面をあぶりだし、フランス文化の豊かさに迫る。現代日本に住む私たちがフランスの歴史や文化から学ぶことは少なくないはずである。私たちはフランスに関して漠然としたイメージをもっているが、そのイメージは必ずしもフランスの現実と合致するものではない。フランスに関してさまざまな角度から考えつつ、理解を深めること、さらには、自分自身を客観的により深く知ることが目標とする。	
地域研究D		この授業では、ユーラシア大陸の中央から北方部分を網羅する広大なロシアの文化芸術を中心に、周辺国との関係や歴史、スラブの世界観を学んでいきます。バレエや音楽、スポーツなどで皆さんが知っているロシアは文化芸術大国であり、自然と調和した北欧に通じる温かみのある生活様式も見られます。しかしその歴史や影響力はドラマチックで近現代の国際社会に大きな足跡を残し、日本にとっても地政学的にも大切な隣国です。 18世紀から現代までのロシアの文学、美術、舞台、音楽、バレエ等の芸術を中心に、映画や映像、テキストなどの視聴覚教材を使いロシアとその周辺国の魅力をご紹介します。昭和女子大学の創立精神の礎である非戦論・非暴力主義のレフ・トルストイについても、ぜひこの講義で学んでみましょう。	
地域研究E		インドを始めとした「南アジア」地域は、21世紀の世界の政治・経済に大きな影響を与える。世界人口の約4分の1が集中しており、文明圏としての統一と多様性の一方で、紛争の絶えない地域でもある。南アジアの地理・歴史・社会文化・国際関係などについて、日本への影響も踏まえつつ、時に映像などを用いながら解説していく。 南アジア地域の概要を知ること、地域の社会・文化について、歴史的背景を踏まえて説明できること、世界の平和・共生に向けた地域の課題を理解し、客観的かつ批判的な国際的教養を身に付けること。	
地域研究F		この授業で取り上げるのは中東です。この地域にはイランを東端に西はモロッコまで幅広い国々が含まれます。この授業では中東の文化、宗教、歴史、政治について多角的に学び、一般に流布しているような短絡的な印象論を越えた理解のあり方を育みます。 授業到達目標及びテーマ□ 中東の文化や歴史、政治に関わる基本的なタームについて説明できるようになること、そして中東を日本との関わりや国際的な視野のなかで捉えられるようになることが目標です。	
異文化コミュニケーション A		今日の社会において私たちは異文化との接触を避けて通ることができない。この講義では、対人的な場面での異文化コミュニケーションに焦点を当てコミュニケーションの基礎概念を学び、文化・個人・ことばをコミュニケーション学の視点から考察する。 普段、何気なく行なっているコミュニケーション現象を意識化し、そこで働く文化について考え、学んだ概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる力を身につけることにより、今後直面する様々な場面における異文化コミュニケーションについて自身の力で考え対応できる力を養うことを目標とする。	
異文化コミュニケーション B		私たちは、考え方や表現方法が自身とは異なる様々な人々と日々出会い生活している。この講義では、コミュニケーションに関する理論・研究を学ぶことにより、文化の多様性や異文化共生について考え、広い視野を持つことを目指す。 コミュニケーションの基礎概念を理解し身の回りの状況に応用し、国・人種・民族などの基軸だけでなく様々な切り口で文化を捉え、そこで生じるコミュニケーションを考察し、文化の多様性と今後の共生社会について自身で考え対応できる力を養うことを目標とする。	
都市論		一都市民として生活するために、都市とは何かを知る。歴史、文化の異なる世界の都市を知るとともに身近な東京について街の魅力を体験する。身近な街、三軒茶屋や世界各地の都市を通して多彩な世界の様相を知り、都市を活用する意識を高めることを目標とする。	

住居学A		住居はそこで生活する家族の器である。多発する家族問題を中心に、数々の事象から「家族とは何か?」という理解を通して、住居という空間を考える。変容する家族関係や家族生活を、住宅や地域という空間を通して把握する。 多様な家族関係や家族問題を空間的に捉えながら、問題を把握し解決策を考察する。家族の概念、類型、機能、周期から家族に関する基本的知識を習得する。家族の歴史をたどり、現代家族の動向を理解する。高齢者の現状を理解し、高齢社会に向けて安全で安心な居住環境について理解する。子どもを取り巻く社会環境をとりあげ、子どもと住まいについて理解する。	
住居学B		住居は、地域社会を構成する単位であり、人間生活を包み込む器である。この住居について、インテリア、家族と住居、住居計画といった諸点から取り上げていく。この授業を通して、住居に関する基礎的知識を取得し、インテリアを総合的に把握できる基礎的知識を身につける。これにより、快適な住空間のデザインについて考える力を養う。	
社会学		近年の「社会問題」に関する社会学の研究知見を学び、教育・仕事・家族が抱えているさまざまな問題を、常識に捉われずに多面的に考察するスキルを身につける。現代の学校の中では何が起きているのか。学校の外では何が起きているのか。両者はどう関係しているのか。身近な題材である「学校」から始まり、現代社会について検討する。	
政治学A		政治についての基本的な見方を学ぶ。政治学の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討を行う。	
政治学B		政治についての基本的な見方を学ぶ。政治学の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討を行う。	
国際政治学A		本講義の目的は、国際政治についての基本的な見方を学ぶことにあります。国際政治の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討をおこなう。	
国際政治学B		本講義の目的は、国際政治についての基本的な見方を学ぶことにあります。国際政治の基本的な概念を踏まえた上で、それを用いた政治現象の分析・検討をおこなう。	
経済学(ミクロ)		この科目は、本学の一般教養科目において開講されるあらゆる経済系科目の導入的位置付けであり、我々の人生において直面する出来事（進学・就職・結婚・育児など）および、そのときの我々自身の行動様式について、経済的思考で読み解く。身の回りに起こる様々なギモンや現象を引き合いに、日常の何気ない行動にもそれなりの根拠や一定の法則があることを認識できるよう、視覚に訴えた内容を展開する。	
経済学(マクロ)		この科目では、あらゆる経済系科目の基盤的位置付けであり、新聞やメディアで日頃耳にする社会事象および人生における重要な出来事（進学・就職・結婚・育児など）に対する我々の行動様式について、マクロ経済的思考で読み解く。GDP（国内総生産）や為替などのように、新聞やメディアで当然のように登場するものの、その深い意味については曖昧な理解にとどまっている事項を引き合いに、身近な事例や視覚に訴えた内容を展開する。	
日本経済史A		日本経済の歩みを、産業構造、経済政策、財政金融、労使関係、企業経営、生活の変容などに着目しながら概観する。20世紀初頭から第二次世界大戦までを対象とする。	
日本経済史B		日本経済の歩みを、産業構造、経済政策、財政金融、労使関係、企業経営、生活の変容などに着目しながら概観する。戦後復興から90年代長期低迷期までを対象とする。	
社会保障論A		私たちの生活経営に不可欠な社会保障について、その理念、歴史、機能、財政などの面から多角的に学ぶ。社会保障制度そのものを「単体で」学ぶのではなく、家族や家計の問題と結びつけて身近な社会資源として捉えるところに本授業の特徴がある。最低生活費を算定するグループワークやライフサイクルゲームなどを通じて生活者として必要な知識等を楽しく学んでいく。	
社会保障論B		私たちの生活経営に必要な不可欠な社会保障について学ぶ。社会保障の構造・体系・仕組みの概要を説明した後、「年金」「医療」「介護」「労災」「雇用」の5つの社会保険を取り上げるが、制度の説明に終始することなく、受講者自身が身近な生活問題として社会保障の在り方を考えられるような材料を提供し、授業を展開する。社会福祉、公的扶助、リスクマネジメントとしての資産形成と民間保険の役割についても学ぶ。	

日本国憲法A1		日本国憲法の成り立ちとその仕組みについて、基本的人権の保障を中心に学ぶ。 「日本国憲法における人権保障」憲法が私たちの生活と切り離せないものであることを知り、その基本原理を学ぶことによって、身の周りにある未解決の問題について憲法的な視点で自分なりに考えることができる力をつける。	
日本国憲法A2		日本国憲法の統治機構編すなわち政治の仕組みを中心に、具体的な事例を織り交ぜながら学ぶ。 「日本国憲法における統治の仕組み」憲法の究極目標である基本的人権の保障を実現するために、立法・行政・司法から成り立つ統治機構がそれぞれどのように機能し、相互に作用しているかを学ぶ。新聞等で報じられている政治の動向が憲法上どのような意味をもつものであるかを理解する。	
日本国憲法B		日本国憲法における基本的人権の保障と政治の仕組みについて具体的な事例を通して学ぶ。 「日本国憲法における人権保障と統治の仕組み」憲法が私たちの生活と切り離せないものであることを知り、その基本原理を学ぶことによって判例を通じて既に解決された問題だけでなく、身の回りにある未解決の問題について憲法の視点で考え、各自が自分なりに分析・考察する力をつける。	
法学A		人の誕生から死までの流れを軸として、各ライフステージで起こりうる法的問題に注目しながら法学を学ぶ。本講義では人生の前半に関連した問題を中心に扱う。	
法学B		人の誕生から死までの流れを軸として、各ライフステージで起こりうる法的問題に注目しながら法学を学ぶ。本講義では人生の後半に関連した諸問題を扱う。	
科学論A		”科学”とは何か？と改めて問われると困る人が多いのではないだろうか。それは、偉人と言われる多くの哲学者や科学者たちにとっても同じなのである。 本講義では、「科学」を社会の一つの現象としてとらえて、様々な角度から「科学」について考えていく。 単なる法則とその発見者の羅列をするつもりはないので、高校までの「理科」の授業とは相当異なる印象を受けるだろう。 なお、理解に必要な理科の知識は適宜説明するので、理科の知識の有無は不問である。	
科学論B		”科学”とは何か？と改めて問われると困る人が多いのではないだろうか。それは、偉人と言われる多くの哲学者や科学者たちにとっても同じなのである。 本講義では、「科学」を社会の一つの現象としてとらえて、様々な角度から「科学」について考えていく。 単なる法則とその発見者の羅列をするつもりはないので、高校までの「理科」の授業とは相当異なる印象を受けるだろう。 なお、理解に必要な理科の知識は適宜説明するので、理科の知識の有無は不問である。研究開発職での実務経験を活かし、情報通信などの今日的な技術の回では、新規事業開発の視点からも解釈していく。	
生命科学A		生命科学と聞いてなにを連想するか？生物学は、生物の基本的な体の構造や、活動の特徴などについて総合的に学ぶ分野である。一方、生命科学は、生命のしくみをより良く知ること、生活や健康の質を向上させることを目指す。また、環境や生態系、そして社会の中における私たちの立ち位置を適切に理解することを目指す。本講義では、基本的かつ重要な生物学の知識を踏まえつつ、生命とはなにか？という疑問に適切な解を見出すため、生命科学に関する重要なテーマについて概説する。	
生命科学B		ゲノム情報を活用したがんの早期発見や新型出生前診断、iPS細胞を用いた再生医療など、生命科学の進展は目覚ましいものがある。その一方で、ゲノム編集によるデザイナーベビーや幹細胞を用いたクローン作製が技術的には可能になりつつある。これら諸問題に対して、バランスの取れたものの見方をする上で、生命科学の知識は今後ますます重要となる。本講義では、受精卵から組織・器官を作る個体発生のしくみと、多様性獲得に至る系統発生 of のしくみを概説します。また、免疫など体を守る基本的なしくみに関する重要なテーマについて講義を展開する。	
生物学A		人に関する生物学の基礎知識を習得するための講義である。多様な生命現象を、分子、細胞、臓器、個体のレベルで考え、「人のからだのつくりとしくみをみる目」を養うことを目的とする。 高校で生物の授業を受けなかった者や、生物に関心がほとんど向かなかった者に対しても、生命現象を基礎から理解してもらい、人体の作りとはたらきに具体的なイメージを持てるようになることを目指す。細胞、主な臓器、臓器同士の相互関連、骨と筋肉、免疫等のテーマを取り上げる。	

生物学B		生物学の基礎知識を習得するための講義である。多様な生命現象を、分子、細胞、個体、生態系のレベルで考え、「自然をみる目」を養うことを目的とする。 高校で生物の授業を受けなかった者や、生物に関心がほとんど向かなかった者に対しても、生命現象を基礎から理解してもらい、生物を、ひいては自然を好きになるきっかけを与える。遺伝、動物の行動、生態などのテーマを取り上げる。	
化学		大学教育過程における自然科学分野の基礎として、「化学」を高校課程で選択しなかった学生にも充分理解できるレベルから始めて、私たちの身近にある「化学」に対する関心を深め、基礎的概念と知識の理解と修得を目指す。	
応用化学A		電子機器の素材や医薬、食品、農業、環境衛生、資源の有効利用などさまざまな産業分野で求められている応用化学について、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、分析化学、生物化学の各領域について概観する。	
応用化学B		土壌や水の有機フッ素化合物汚染など、近年注目されている化学関連の環境問題等を取り上げることで、社会問題に内在する化学的な側面を理解し、その意味と私たちへの影響、今後の対策について学ぶ。	
環境論A		地球環境問題は、私たちがそれを明らかに認識する前から生じていた。この講義では文学作品の中に表現されている背景（的なもの）の中から環境問題を抽出し、これからどのように行動したらよいのか の足掛かりを得たい。	
環境論B		現在、最も関心を集めている問題の一つである「環境問題」に関して、森林を手がかりに考察する。持続可能な循環型社会に変えるために、どのように考えどのように行動すべきか、地球的視野で議論できるよう理解を深めたい。	
天文学A		太陽系や星、惑星、銀河、ブラックホールなど天文学の広い範囲を科学的に理解する。身近な天体現象や最新の成果も紹介し、宇宙の壮大なスケールを学ぶ。講義はプレゼンテーションや視覚教材を用いて解説する。	
天文学B		地球、太陽系から宇宙全体に至るまで、天文学全般を科学的に理解する。個々の天体や現象に重点を置き、最新成果も交えて解説する。解説は視覚教材やプレゼンテーションを用いて行う。	
栄養科学A		食生活が複雑化し、大量の健康情報が溢れている。健康維持・増進の基本となる「食べる」ことに着目し、食に関する基礎知識を学ぶ。家庭、特に台所で見られる現象を、科学的な視点から捉え、考察する。	
栄養科学B		現代社会は「食と健康」に関連した様々な情報に溢れています。この授業では、これらの情報について、科学的根拠に基づいた解説を行います。また、授業の内容を皆さん自身の健康にも役立ててもらいたいと思っています。	
食物学A		「和食」が無形文化遺産に登録されたのをきっかけに、日本の食文化への関心が高まっている。まず日本ではぐくまれてきた食文化について解説をする。また食生活は様々な社会状況を反映し、変化するものでもある。現代の食生活について環境、食育、情報、調理など多方面から解説する。	
食物学B		食べるという行為は動物が生きていく上で不可欠である。ヒトは単に生理的欲求を満たすだけでなく、食べ物を効率よく入手し、保存し、おいしく調理して楽しく食べるための工夫を続けてきた。ヒトはいかにして食物を獲得し、どのように調理をし、どのような過程を経て文化まで高めてきたのか。主要な食品や調理加工技術を取り上げて、食に関わる人間の知恵について考える。	
体育実技A		スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。各種目を通し、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。	
体育実技B		スポーツは、体を動かすという人間の本質的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感、連帯感などの充足に加え、豊かな人生の基盤となる健康の維持、増進、体力の向上、青少年の人間育成などに大きな役割を果たす極めて重要な行為として位置付けられている。各種目を通し、運動の喜びや楽しさを知ることが目的とする。	

メディア論A		各種ソーシャルメディア・ソーシャルネットワーキングサービスの利用実態と社会的影響を議論する。そして、その議論を通じて、現代社会特有の人間関係のあり方や、人と人とのつながりのあり方について、社会学的な視点から学ぶ。授業を通じて、日常に埋もれがちな社会的事象に対して、改めて目を向け議論する姿勢を身に着け、各種ソーシャルメディア・モバイルメディアが持つ社会的機能・位置づけを理解する。さらに、ソーシャルメディア・モバイルメディアの利用が深く関与する現代社会特有の社会的ネットワークのあり方について理解を深める。	
メディア論B		日本における新聞の歴史、役割、現状について学び、今後のあるべき姿を探る。毎日新聞での33年間の体験をもとに実態に即した授業を行う。テレビや雑誌、インターネットなど他媒体との比較や、報道被害などの問題点も取り上げる。日本の新聞の歴史と現状について理解する。併せて海外の新聞事情と日本との違いについても学ぶ。新聞が世の中のために役に立っている側面とマイナスに作用している側面の両方を学習する。毎日、最低1本の新聞記事を読むことを課す。いろいろなニュースを材料に、自分が記者だったらこう報じるといった考えを表明してもらう。新聞のあるべき姿を提言する。授業中に積極的に発言する機会を与えたい。	
リーダーシップ基礎		現代は高度な集団内連携が期待されており、グループ・ダイナミクスに対応したリーダーシップを発揮する人材が社会から求められています。そしてリーダーシップは経験から得られることが多いと言われていますが、経験するだけでなく、自己の内面でリーダーシップを体系化し、統合する作用を行うための知識が必要になります。そこで、この授業では、リーダーシップに関する基礎知識の習得、態度や行動の醸成、基盤的理論について学びます。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性を考えます	
リーダーシップ実践1		集団目標の達成には、問題の共有と共通認識、解決案の合意、作業の連携が必要である。同時にこれらの実現にはグループ・ダイナミクスや集団内の意思疎通等が欠かせないものとなる。この授業では、ディベートやプレゼンテーション、文書作成等を通じ、課題に向かって集団内での生産的行動を推進する知識とスキルを学ぶ。また、「自分らしいリーダーシップとは何か」を探求する。	
リーダーシップ実践2		本講は、タイムリーな課題を題材とし、アクティブラーニング、グループワークを多様しながら、リーダーシップの実践を行う授業である。集団目標達成のための集団内コミュニケーションをアクティブ・ラーニングを通じて実践的にスキル習得をする。さらにこの授業では、他者の関与を促す効果的なプレゼンテーションとファシリテーションの技能の習得を目指す。	
労働法		日本の労働法や雇用システムの特徴、労働法の枠組みなどの基礎知識を解説し、採用、人事異動、退職・解雇など、雇用の各段階での諸問題と政策について取り上げる。また、雇用平等、女性活躍推進、ワーク・ライフ・バランスについても取り上げる。	
現代社会の諸問題A		医学の進歩・発展により、多くの恩恵がもたらされた反面、生命をめぐるさまざまな問題について私たちが決定を迫られる場面が増えている。この講義では、とくに生命の始期周辺の問題に注目して、生殖をめぐる個人の自己決定、家族の役割、社会としての選択について考える。	
現代社会の諸問題B		医学の進歩・発展により、多くの恩恵がもたらされた反面、生命をめぐるさまざまな問題について私たちが決定を迫られる場面が増えている。この講義では、とくに生命の終期周辺の問題に注目して、終末期医療を中心に個人の自己決定、家族の役割、社会としての選択について考える。	
現代社会の諸問題C		この授業では、国連における気候変動交渉の実務経験を持つ現役の環境エキスパートである教員が、環境と防災の最前線の知見と、温暖化対策のカギとなるエネルギーの知見を講義する。特にパリ協定をはじめとするこれらの知見は、SDGsが重要視されるこれからの社会において、就活にも実践的に役立つ。学生参加型のディスカッション形式を用いて学生自ら知見をもとに考えることを促す。	
現代社会の諸問題D		日本社会は、少子高齢化の中で、多様な構成員の一人ひとりを取り残さず、包摂的な社会を作っていくことが求められている。特に女性の活躍推進は喫緊の課題である。また、国際社会においてもSDGsの推進が求められている中、我が国は特にGoal5の達成度が極めて低いため、その課題と取り組みについて授業を行う。学生によるレポートのプレゼンテーションやディスカッションを適宜行う。	

現代社会の諸問題E		薬学は、人体に働きその機能の調節などを介して疾病の治癒、健康の維持をもたらす医薬品の創製、生産、適正な使用を主な目標とする総合科学である。医薬品は、物質性・生命関連性ととともに社会的存在物としての性格、すなわち社会性を有している。そのため医薬品の適正な使用の確立のためには、医学、倫理学、法学、社会学、経済学などの学際的な立場からも検討する社会的な視点が欠かせない。本講義では日本における薬と社会に関する問題について学ぶために、薬に関する歴史を振り返り、薬害や現在の薬事行政の仕組み、薬物規制に関する国内の状況を概説する。	
現代社会の諸問題F		薬学は、人体に働きその機能の調節などを介して疾病の治癒、健康の維持をもたらす医薬品の創製、生産、適正な使用を主な目標とする総合科学である。本講義では、諸外国における大麻の合法化やオピオイド中毒問題を取り上げることで、薬と社会のかかわりをグローバルな視点で学ぶ。	
世田谷6大学連携講座A		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座B		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座C		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座D		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座E		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座F		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座G		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
世田谷6大学連携講座H		世田谷6大学コンソーシアム連携授業事業加盟大学（国士舘、駒澤、成城、東京農業、東京都市）から每期違う講師が派遣されて授業を担当する。	
インターンシップ(国内)		夏期休暇など他の授業に支障のない期間を主に利用して、企業その他で2週間から3週間（最短でも5日間以上）の就業体験をする。働くことの意味を理解し、自分の能力や資質がどんな仕事に向いているかを学んでもらう。	
インターンシップ(海外)A		海外の企業で2週間から3週間の就労体験をする。ビジネス語学研修と職場でのインターンシップを通し、グローバル社会やビジネスの場で必要な言語能力やコミュニケーションスキル、職業観と社会性を習得し、人的ネットワークの構築を目指す。	
インターンシップ(海外)B		海外の企業でインターンシップを行う。活動内容については派遣される職場によって異なるが、その国の言語を使用した就業体験となる。	
海外留学スタートアップ講義		この講義は、海外留学を予定している学生を対象としている。したがって、受講者は自らの海外留学について積極的かつ主体的に考え、それに向けて確実に準備を進めていくことが求められる。そのために必要な知識や情報が得られるように、講義前半では海外留学の歴史・種類について学習するとともに、留学の意義と目的とを考える。さらに、異文化適応等、留学先（渡航先）における生活に必要な異文化コミュニケーションの基本について中盤で学ぶ。後半では、ソーシャルスキル学習とケーススタディを取り入れることにより実践的に留学に向けて準備を行う。	
海外留学フォローアップ演習		この講義は、海外留学から帰国した学生を対象に、自らの留学体験を振り返り、留学中の学びについて理解を深めてもらうことを目的とする。まず前半では、帰国後のリエントリーショック（逆カルチャーショック・リバースカルチャーショック）について知り、その対処法について他の学生とのディスカッションを通じて考える。中盤では、留学体験を今後の大学での学びや就職活動・大学院進学といった広義のキャリア（ライフ・キャリア）にどのようにいかせるのか、自分で考えられるようになることを目指す。終盤では、これまでの講義内容を踏まえて、海外留学経験を今後のキャリアにどういかしていくかに関するプレゼンテーションを行う。	

国際理解研究		In this course, students will deepen their understanding of environmental issues and envision a sustainable society. At the end of the course, students will be able to discuss and present important environmental issues in English. この授業で受講生は環境問題について理解を深め、持続可能な社会を構想する。15回の授業終了時点で学生は重要な環境問題に関して英語で議論し発表ができるようになる。	
Cross-Cultural Workshop 1		グローバル化が進む中、異文化対応力を備えたグローバル人材が求められている。異文化対応力を身につけるためには、知識の修得だけでは不十分であり、本物の人間関係の構築こそが、文化を学ぶ秘訣である。私たちが日本から世界を認知し、理解しようとする際、日本の文化がフィルターとなって大きく影響を与える。したがって、文化に対して批判的な理解を持つこと、文化人としての自覚を持つこと、オープンで柔軟な素養を育むこと、異文化間スキルを身につけることがとても重要になる。異文化対応力の習得は生涯続くプロセスであり、この科目はまさにその旅の出発点になり得るであろう。本科目は、文化や異文化交流に焦点を当てた共同学習を促進するインタラクティブ・ワークショップである。グループワーク、ディスカッション、最終プロジェクトを通して、受講生は相互理解を深め、自己を振り返り、新たな洞察を得る機会を得ることができる。さらに、共同作業を振り返ることで、観察力、内省力、自己分析力を積極的に養うことができる。本科目は2つの要素で構成される。まず「文化」を探究し、異文化理解を促進する様々な活動を実施する。最終プロジェクトでは、留学生の文化を引き合いに出しつつ、文化的・社会的文脈の中で日本文化を考察・分析・議論していく。共同作業でフィールドワークを行い、分析結果をプレゼンテーションする。	
Cross-Cultural Workshop 2		本科目は、文化的背景の異なる学生同士が、ワークショップ形式による共同学習を通じて、文化の違いを超えて互いに学び合うことを目的としている。 授業は大きく二つの要素に分かれており、一つ目の活動では、グループ毎に学外でフィールドワークを行い、自らが観察・発見した「日本文化」を収集し、その背景や特色を学生同士が探っていく。2つ目の活動では、収集した材料をもとに、日本の文化・社会の特徴について、ときに自らの出身国や居住国との比較を交えながら、グループ発表を行う。 使用言語は英語である。参加学生は、フィールドワーク、調査、発表準備、発表の各活動において、積極的な発言と相手の意見への傾聴が求められる。これらの活動を通じてお互いの理解を深め、自己を見つめ直し、文化の違いと共通性について新たな知識と洞察を得る。	
Cross-Cultural Project		本科目は、文化的背景の異なる学生同士が、ワークショップ形式による共同学習を通じて、文化の違いを超えて互いに学び合うことを目的としている。 参加学生は、事前に与えられた課題に従って、オンラインによるグループワークを行い、外国人留学生の来日後は、授業時間や課外の時間を利用してグループワークを継続する。 使用言語は英語である。参加学生は、オンライン調査、来日後のフィールドワーク、発表準備、発表という活動を通じて、お互いの理解を深め、自己を見つめ直し、文化の違いと共通性について新たな知識と洞察を得る。またオンラインのコミュニケーションツール、グループワークツールに関する使用スキルの向上を図るとともに、多文化混合型のグループの中でいかに効率的・効果的に作業を進められるか自ら発見することが期待される。	
Japan Studies A		In order to deepen students' understanding both of traditional and contemporary Japan, lectures on several topics about the country and Japanese culture will be given. Each lecture will be followed by activities outside of the classroom related to the content of the lecture. This course is for international participants in SSIP. 日本の伝統的側面と現代的側面についての理解を深めるため、日本とその文化に関するトピックをいくつか取り上げて講義を行う。講義の後には、その内容に関連したアクティビティを行う。	
Japan Studies B		In order to deepen students' understanding both of traditional and contemporary Japan, lectures on several topics about the country and Japanese culture will be given. Each lecture will be followed by activities outside of the classroom related to the content of the lecture. This course is for international participants in SSIP. 日本の伝統的側面と現代的側面についての理解を深めるため、日本とその文化に関するトピックをいくつか取り上げて講義を行う。講義の後には、その内容に関連したアクティビティを行う。	

海外ボランティアA		学生自らが異文化の中で異なる背景をもつ人々とコミュニケーションする力、協働する力を身につける。内戦をへたカンボジアで、現地に貢献する活動を現地の人々と共に行い、人々に本当に役に立つ国際協力のあり方を考え、実習を通じ、国際協力について理解を深める。	
海外ボランティアB		学生自らが異文化の中で異なる背景をもつ人々とコミュニケーションする力、協働する力を身につける。内戦をへたカンボジアで、現地に貢献する活動を現地の人々と共に行い、人々に本当に役に立つ国際協力のあり方を考え、実習を通じ、国際協力について理解を深める。	
アメリカ文化入門		移民、原住民、歴史、カレッジライフ、ボランティアイズム、政治、アート、音楽などアメリカン・カルチャーを全般的に学びます。また、アメリカの歴史がどのようにアメリカ文化に影響を与えたのか、フィールド・トリップ、ゲスト・スピーカーの講義やディスカッションを通して考えます□ アメリカ史およびアメリカ文化に特有の英語表現を学び、知識の習得をめざします。フリーダムトレイルなどの歴史的な街並みの中に身を置いて、アメリカ文化の様々な側面に触れることで、アメリカの過去と未来をつなぐ体験をすることが現代アメリカを考察する。	
アメリカンビジネス		ビジネス・インキュベーター、起業家、ハーバードビジネススクール、大企業など、多様なビジネスの現場を訪問し、様々な観点からアメリカのビジネスについて学ぶ。国際ビジネスで必要なビジネス用語、コンセプト、マナーなども学ぶ。	
ホスピタリティ・マネジメント		アメリカにおけるホスピタリティ（おもてなし）の現状を踏まえ、現代的なホスピタリティ及びサービスのマネジメント・管理について学ぶ。	
フードマネジメント		アメリカにおけるフードマネジメントの現状を踏まえ、現代的なフードマネジメントについて学ぶ。	
日本事情A		課題先進国とも言える日本の首都である東京に注目し、「治水対策」「消滅可能性都市」「オーバーツーリズム対策」といったテーマに基づき、事例を調べ、情報を整理し、問いを見出す。さらに日本語プロジェクトAにてフィールドワークを行い、最終的には問題解決を目指す。	
日本事情B		日本事情Bでは、本学のある三軒茶屋に注目する。地域の現状と課題を文献や世田谷区文化生活情報センター、せたがや国際交流センターを活用し情報を収集、整理し、問いを見出す。さらに日本語プロジェクトBにてフィールドワークを行い、最終的には問題解決を目指す。	
協働プロジェクトA		日本事情Aでの現状を実際にフィールドを訪れ体験し、現地の人々との対話を通して学びを深める。そこから生まれた「問い」に向き合い、最終的には問題解決の提案を行う。日本人学生との共修形式で行う。	
協働プロジェクトB		日本事情Bでの現状を実際にフィールドを訪れ体験し、現地の人々との対話を通して学びを深める。そこから生まれた「問い」に向き合い、最終的には問題解決の提案を行う。日本人学生との共修形式で行う。	
インターンシップⅠ-a（事前・事後学修）		就業体験（インターンシップ1-b）の前後に、その到達目標の達成に必要な学修を学内にて実施する。就業体験との組み合わせにより、履修生自らのキャリアデザイン形成に資するものとする。	
インターンシップⅠ-b（就業体験）		夏季および春季休暇期間などを活用し、参画する民間団体等において、1団体につき1週間（実働5日）以上の就業体験を行う。内容は「課題解決型」「業務遂行型」「ハイブリッド型」のいずれかとし、受け入れ企業との協議により実践力を養う体験学習とする。	
インターンシップⅠ-c（就業体験）		夏季および春季休暇期間などを活用し、参画する民間団体等において、1団体につき1週間（実働5日）以上の就業体験を行う。内容は「課題解決型」「業務遂行型」「ハイブリッド型」のいずれかとし、受け入れ企業との協議により実践力を養う体験学習とする。	
インターンシップⅡ-a（事前・事後学修）		インターンシップⅠでの学びを踏まえ、更なる企業理解、社会人基礎力向上、専門知識の強化を目指し、就業体験（インターンシップⅡ-b）に臨む。事後は、経験を通して学んだことを言語化し、キャリアデザインにどう活かしていくかを考える。	
インターンシップⅡ-b（就業体験）		インターンシップⅠでの学び、Ⅱ-aでの事前学習を踏まえ、就業体験の場で経験学習する。	
インターンシップⅡ-c（就業体験）		インターンシップⅠでの学び、Ⅱ-aでの事前学習を踏まえ、就業体験の場で経験学習する。	

	文化芸術講座Ⅰ		古典から現代までの様々な分野の芸術・芸能・文化等の他、若い世代の女性にとって必須の社会課題、知識を各界の第一線で活躍している文化人、芸術家等の方々の講演、公演を人見記念講堂で聴講します。 多様な文化に触れ、豊かな心を育むとともに、将来の自分を考える道標とし、未来を担う者として、学問以外の広い知識を得ることを目的としています。講演、公演は事前学習をしたうえで聴講し、聴講後にレポートを提出します。	
	文化芸術講座Ⅱ		文化芸術講座Ⅰで学んだ様々な分野の芸術・芸能・文化・社会課題について、さらに掘り下げるための講座です。ここではその分野の第一線で活躍されている方々をゲストスピーカーにお招きし、少人数のワークショップで意見交換や課題の発表を行います。	
外国語科目	英語ⅠA		リーディングスキルを身につけ語彙力を増強するとともに、これまでに培ってきた英語力を活用しながら様々なトピックの英文を読解する力を養う。読解した内容をもとに、自身の考えを表現する活動も行う。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリーディング力を強化する。	
	英語ⅠB		ペアワークやグループワークでの会話・ロールプレイなどの活動やリスニング活動を行い、特に英語での話すこと・聞くことにおけるコミュニケーション能力の育成を図る。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリスニング力を強化する。	
	英語ⅡA		英語ⅠAに引き続き、リーディングスキルを身につけ語彙力を増強するとともに、これまでに培ってきた英語力を活用しながら様々なトピックの英文を読解する力を養う。読解した内容をもとに、自身の考えを表現する活動も行う。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリーディング力を強化する。	
	英語ⅡB		英語ⅠBに引き続き、ペアワークやグループワークでの会話・ロールプレイなどの活動やリスニング活動を行い、特に英語での話すこと・聞くことにおけるコミュニケーション能力の育成を図る。また、全員共通のeラーニングの課題（必須）を通じて、授業外でも継続的にリスニング力を強化する。	
	英語ⅢA		新聞記事やウェブサイト、広告など実生活で目にする機会の多い様々な英文を読む。大学1年生までに学習した語彙、文法を確認・復習するとともに、効果的なリーディング・ストラテジーを学び、読解力を強化していく。	
	英語ⅢB		リスニングとスピーキングに重点を置き、日常的なシーンにおける実践的な英語表現を覚えて、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。ペアワークやグループワークでのロールプレイを通して重要表現を定着させ、実際に使える英語力を身につける。	
	英語ⅢC		英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。	
	英語ⅢD		職場における英語でのコミュニケーション能力を向上させるとともに、コミュニケーションスキルやビジネススキルを養う。	
	英語ⅢE		日常生活や社会的な出来事について、英語で発信された情報の概要やポイントを理解し、これらの情報を活用して、自分の考えを論理的に伝える力を養う。トピックに関連する質問について自分の答えを考え、グループワークを通して英語によるコミュニケーションの能力を伸ばすことを目指す。	
	英語ⅣA		新聞記事やウェブサイト、広告など実生活でよく目にする英文を読む。文法事項を確認するとともに、様々なリーディング・ストラテジーを活用しながら英文を正確に読み取る方法を学んでいく。	
	英語ⅣB		リスニングとスピーキングに重点を置き、日常的なシーンにおける実践的な英語表現を覚えて、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。ペアワークやグループワークでのロールプレイを通して重要表現を定着させ、実際に使える英語力を身につける。	
	英語ⅣC		英語を使って他者の考えや意思などを正確に理解し、自分の意見を英語で他者に発信できるようになることを目指す。	
	英語ⅣD		職場における英語でのコミュニケーション能力を向上させるとともに、コミュニケーションスキルやビジネススキルを養う。	
	英語ⅣE		日常生活や社会的な出来事について、英語で発信された情報の概要やポイントを理解し、これらの情報を活用して、自分の考えを論理的に伝える力を養う。トピックに関連する質問について自分の答えを考え、グループワークを通して英語によるコミュニケーションの能力を伸ばすことを目指す。	

英語実践演習		英語で行われる集中科目で、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションの取り方を学ぶ。この経験により、学生は英語力に磨きをかけ、異文化への耐性を身につけ、英語学習の大切さに気付かせることを目指す。	
ドイツ語(入門A・B)		ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象とする。1（初級）レベルの4技能（聞く・読む・書く・話す）を身につける。また、同時にドイツ語圏の文化等への理解も深めていく。	
ドイツ語(初級A・B)		ドイツ語（入門A・B）を終了した学生を対象とした授業。言語の4技能（読む・聞く・話す・書く）を中心に、ドイツ語圏の文化や生活なども紹介する。	
ドイツ語(会話A)		実際にドイツで使える生きたドイツ語を学ぶ。ドイツの文化や習慣を紹介することもある。	
ドイツ語(旅行のドイツ語A)		入門・初級を終えた学生を対象とし、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイスなど）を旅行する際に必要なドイツ語表現を基に、ドイツ語によるコミュニケーション能力のブラッシュアップを図り、基本文法や基本語彙の確実な習得を目指す。また、言語のみならず、ドイツ語圏の地理、社会、文化などへの理解と関心も深めていく。	
ドイツ語(書いて覚えるドイツ語A)		ドイツ語の入門・初級を修了した学生を対象に、これまでに学んだ動詞・名詞・前置詞・助動詞などの基本的な文法を、簡単な文を「書く」ことによって、ゆっくり復習していく。自分の日常をシンプルなドイツ語で書いて表現できるようになることを目標にする。また、簡単な自己紹介文を書く練習も行う。	
ドイツ語(書いて覚えるドイツ語B)		入門・初級を修了した学生を対象に、これまでに学んだ基礎文法を、簡単な文を「書く」ことによって、ゆっくり復習する。自分の日常をシンプルなドイツ語で書いて表現できるようになることを目標にする。また、ドイツ語の手紙の形式についても学び、簡単な手紙を書く練習も行う。	
フランス語(入門A・B)		フランス語を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に学ぶ。つづり字の読み方、発音、基礎文法から始める。2、3人のグループになって、簡単な日常会話も練習する。	
フランス語(初級A・B)		フランス語を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に学ぶ。前期の復習から始め、より広い内容の事柄を聞き取り、話し、読み、書く力を養う。発音や筆記を繰り返し練習することによって、定着を図る。	
フランス語(絵本を読もうA)		フランス語の絵本を読むと同時に、初級文法の復習および中級文法の学習をする。教材として、日本でも人気の「ガスパールとリザ」の絵本を使う。	
フランス語(話してみようA)		フランス語を聞き、話し、読み、書く能力を総合的に学ぶ。つづり字の読み方、発音、基礎文法から始める。	
フランス語(物語を読もうA)		初年度に学習した文法事項、表現を確認するとともに、新しい文法事項を学びつつ、やさしい物語を読む。そして、文章読解力、作文力、聞き取る力の上達をはかる。また、文章を声に出して読むことを通して、作品を味わうことにも力を入れる。	
フランス語(物語を読もうB)		フランス語を1年以上学んだ学生を対象に、平易なフランス語で書かれた物語を読み解くことを通して、1年で学習した文法を復習するとともに、語彙、構文などを学習し、総合的にフランス語の読解力を構築する。また、1年の授業で触れていない、条件法、接続法など新たな文法事項を学習する。	
スペイン語(入門A・B)		体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(初級A・B)		体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(入門A・B)s		【再履修者向け】体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(初級A・B)s		【再履修者向け】体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	

スペイン語(短編を読むA)		この授業は、スペイン語の文法学習を一通り終えた学生を対象に、スペイン語で書かれた平易な文章の読解に慣れることを目標とする。文脈のある講読テキストをしっかりと読んで内容を把握する練習をし、同時に講読を通じてこれまでに学習した文法事項を復習する。	
スペイン語(やさしい会話A)		スペイン語入門・初級の履修を終えた学生を対象とした週1回の授業である。体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。またその表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(やさしい会話B)		体系的な文法学習と平易な例文や会話文の理解を通して、スペイン語の基礎を学ぶ。とくに日常生活で使われる実用的な表現を取り上げて、話す、聞く、読む、書くことの初歩的能力を養う。また、その表現の背景にある文化や生活についても随時ふれていく。	
スペイン語(スペイン語圏の文化A)		入門・初級で学んだ文法事項の復習をしながら、実際のコンテキスト上でこれらの事項がどのように使われているかを学び、読解力、理解力、表現力を向上させる。	
スペイン語(スペイン語圏の文化B)		入門・初級で学んだ文法事項の復習をしながら、実際のコンテキスト上でこれらの事項がどのように使われているかを学び、読解力、理解力、表現力を向上させる。	
スペイン語(スペインの社会事情A)		一年次に習った文法を、実践を通じて復習する。スペイン語圏の文化と伝統に親しみながら、表現と語彙を増やす。授業中・授業以外の場での積極的な参加をうながすために、授業の内容は履修者の興味関心に従って多少の変更を受ける可能性がある。	
スペイン語(スペインの社会事情B)		一年次に習った文法を、実践を通じて復習する。スペイン語圏の文化と伝統に親しみながら、表現と語彙を増やす。授業中・授業以外の場での積極的な参加をうながすために、授業の内容は履修者の興味関心に従って多少の変更を受ける可能性がある。	
イタリア語(入門A・B)		イタリア語の基礎に必要な文法事項を習得する。挨拶をはじめとする自己紹介や身近な事象を表現する際によく用いられる語彙および文構造に関する知識の定着を目指す。	
イタリア語(初級A・B)		このクラスでは、綴りと発音、挨拶や自己紹介、お店やレストランでのやりとり、友達とのおしゃべりなど日常会話を中心に、イタリア語の基礎を学ぶ。あわせて基礎文法も補完的に反復練習する。	
イタリア語(物語を読もう)		入門・初級を終えた学生を対象とし、イタリアの文化を紹介しながらイタリア語で書かれた物語を読み解き、学習したイタリア語の基礎を復習していく。	
イタリア語(楽しい会話)		「イタリア語入門」の単位取得者を対象に、イタリア語の基礎から実用へのブラッシュアップをはかる。具体的には、①「語彙力の強化」、②「現在形・過去形・命令形を使った日常会話」、③「音を聞き取る力」を中心に授業を進める。その際、イタリアの魅力あふれる文化（ファッション、料理、音楽、美術、建築、歴史、文学）についても、見識を深められるように、女性雑誌や新聞の短いコラムを読んだり、短い動画、映画なども授業内で紹介、視聴する。	
イタリア語(ことばと文化)		語彙、表現スタイル、レトリック等を学ぶことで、対象地域の思考・生活様式を理解し、その文化を総合的に理解することを目標とする。	
ロシア語(入門A・B)		ゼロからスタートし、ロシア語の入門的事項を習得するための授業。学期末には、簡単なことであれば、ロシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。正確に聞き、話すことができるようになるために、発音、アクセント、イントネーション、リズムなどの音声的側面に配慮し、教員が文法事項を説明するだけでなく、学生が実際に話す時間をとる。	
ロシア語(初級A・B)		ロシア語の基礎的な事項を習得するための授業。学期末には、ロシア語で基本的なコミュニケーションがとれるようになることを目標とする。正確に聞き、話すことができるようになるために、発音、アクセント、イントネーション、リズムなどの音声的側面に配慮し、教員が文法事項を説明するだけでなく、学生が実際に話す時間をとる。	
中国語(入門A・B)		中国語を初めて学ぶ学部学生を対象とし、ピンイン（中国語表音ローマ字）、簡体字（中国で使われている漢字）、基本文法を学び、〈読み・書き・話し・聞く〉能力をバランスよく養う。ことばの背景にある文化にも触れていく。	
中国語(初級A・B)		入門中国語履修者か同レベルの学部学生を対象とし、中国語の構造に対する理解を深めていく。〈読み・書き・話し・聞く〉訓練を通して中国語の基礎力を確かなものにする。ことばの背景にある文化にも触れていく。	

中国語(入門A・B)s		中国語を初めて学ぶ学部学生を対象とし、ピンイン（中国語表音ローマ字）、簡体字（中国で使われている漢字）、基本文法を学び、〈読み・書き・話し・聞く〉能力をバランスよく養う。ことばの背景にある文化にも触れていく。	
中国語(初級A・B)s		入門中国語履修者か同レベルの学部学生を対象とし、中国語の構造に対する理解を深めていく。〈読み・書き・話し・聞く〉訓練を通して中国語の基礎力を確かなものにする。ことばの背景にある文化にも触れていく。	
中国語(基礎文法トレーニングA)		入門・初級で学んだ中国語の知識を定着させ、深めていく。定着させるには、中国語の文を文法的な説明を聞いて理解し、中国語の知識を体系的に整理する必要がある。深めていくには、文法項目を体系的な繋がりの中で理解する必要がある。	
中国語(基礎文法トレーニングB)		入門・初級で学んだ中国語の知識を定着させ、深めていく。定着させるには、中国語の文を文法的な説明を聞いて理解し、中国語の知識を体系的に整理する必要がある。深めていくには、文法項目を体系的な繋がりの中で理解する必要がある。	
中国語(楽しい会話A)		本講座では、初歩的な中国語をマスターした学生に対し、中国語に関するより深い知識や慣用表現、また正確な語法を習得させ、実生活にも役立つ聞き話す力を養わせる。会話の学習を通して中国の人々の生活や文化についての理解もはかる。なお、映像資料を併用し学習を進めることもある。	
中国語(楽しい会話B)		本講座では、初歩的な中国語をマスターした学生に対し、中国語に関するより深い知識を習得させ、慣用表現や正確な語法を学び、実生活にも役立つ聞き話す力を養わせる。会話の学習を通して中国の人々の生活や文化についての理解もはかる。なお、映像資料を併用し学習を進めることもある。	
中国語(文法A)		入門・初級を学習した中国語の知識を、文法的に体系的に整理していく。中国語の文を構成する品詞の分類と文法的に重要な構文の理解を深める。初級の文法を復習すると同時に、新しい文法事項を学習する。	
中国語(講読A)		本授業は初級中国語を一年間学習し、あるいはそれと同等以上の語学力を持つ学生を対象とする。読解能力の向上に重点を置きつつ、中級レベルの中国語に必要な語彙と文法をマスターすると同時に、中国の伝統・文化、現代中国人の生活・習慣に関連する内容なども適宜紹介する。なお、映像資料などを併用し学習を進めることもある。	
中国語(講読B)		本授業は初級中国語を一年間学習し、あるいはそれと同等以上の語学力を持つ学生を対象とする。読解能力の向上に重点を置きつつ、中級レベルの中国語に必要な語彙と文法をマスターすると同時に、中国の伝統・文化、現代中国人の生活・習慣に関連する内容なども適宜紹介する。なお、映像資料などを併用し学習を進めることもある。	
中国語(時事B)		入門・初級の中国語を学んだ人を対象として、新聞の記事のような硬い文章から、口語体を多用した小説風の文章までを教材として、中国語の読解力を高める技術を教授していく。	
中国語(書いて覚える)		現代中国語の「書いて覚える」授業です。授業ではCGなどを活用しながら、話し言葉を書いて覚えることを通して中国語の総合的レベルアップを目指します。またパソコンでの中国語入力をマスターし、電子メール等の作成にもチャレンジします。中国語の初級段階を終えた方はもちろん、中国語学習に苦手意識をもつ方にも適した授業です。	
中国語(検定試験対策)		入門、初級の中国語のを学習し終えた学生を対象に、中国語検定試験4級、3級のテスト対策を行う。すでに学習した文法知識を応用して試験問題を解答できるように文法項目ごとに問題を整理し講義する。	
韓国語(入門A・B)		はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものの表現について覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(初級A・B)		韓国語入門を終えた学生を対象とする。日常でよく使われる単語や表現を中心に、発音やイントネーションを練習する。用言の活用や助詞を習い、会話にすぐ応用できる文法を覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(入門A・B)s		はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものの表現について覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	

韓国語(初級A・B)s		韓国語入門を終えた学生を対象とする。日常でよく使われる単語や表現を中心に、発音やイントネーションを練習する。用言の活用や助詞を習い、会話にすぐ応用できる文法を覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(文法トレーニング)		はじめて韓国語を学ぶ学生を対象とする。表音文字であるハングルの表記を覚え、単語や文章を正確に発音する練習をする。会話の練習を通して簡単な挨拶や自己紹介、身の回りのものについて覚える。ペアワークで会話の練習や発表をする内容が含まれる。	
韓国語(やさしい作文)		入門・初級までに学んだ文法や語彙を応用した作文練習、新たに学ぶ文法や語彙を使った作文練習を通して、韓国語で書く力の向上をめざす。「書く」が中心だが、発音やペアワークでの会話練習なども行いながら、韓国の文化や社会についても理解を深めていく。	
韓国語(韓流で学ぶ会話)		世界中でブームを巻き起こしている韓流を通して、韓国文化や韓国人の日常生活を理解しながら、実践的な韓国語を学習する。	
韓国語(会話)		「チェミナ韓国語初級テキスト」を常に持参し、入門、初級で学んだ基礎的な文法や日常会話を確認しながら応用した学習をし、様々な場面での会話を覚えて話す練習をする。授業では韓国文化や社会がわかる知識も広げ、実生活に基づいた語彙や表現を楽しむ会話力をめざす。必要に応じて韓国のドラマや映画、K-popを取り入れ、会話にも活用する。	
韓国語(ハングル検定試験対策)		韓国語初級レベルを履修した方を対象に、ハングル能力検定試験の5級・4級レベルの対策授業である。	
韓国語(韓国語能力試験対策)		韓国語初級レベルを履修した方を対象に、韓国語能力試験(TOPIK)の1級・2級レベルの合格を目指す対策授業である。	
韓国語(メディアで学ぶ韓国語)		初級までに学習した文法、語彙を応用しながら、新たに文法や表現などを学び、韓国語で表現できることを目指す。テキストに加えて新聞や映像などを活用しながら、韓国の文化や社会、風習などについて学ぶ。	
韓国語(トラベル会話)		『チェミナ韓国語』初級テキストを常に持参し、入門、初級で学んだ基礎的な文法や日常会話を確認しながら応用した学習をする。会話と文法を学習しながら旅行先で必要な韓国語表現を学ぶ。韓国の観光スポットや今流行りの食べ物、ファッションなどについて話す練習をする。必要に応じて韓国のドラマや映画、K-popを取り入れた表現を学び、話す練習をする。	
韓国語(聞いて覚える韓国語)		日常会話(聞く・話す)のための表現と文法を習得する授業である。会話でよく使われるフレーズや重要表現は読んでわかるだけではなく、聞いて意味がわかるとともに、相手に伝わる発音で言えるように、声に出して音読練習やペア会話練習を行う。また、聞き取りのベースになる読み書き能力の向上も合わせて目指す。	
ボストンサマーセッション 英語		レベル別英語クラスに加え、9つのフォーカス・グループ(アメリカ文化、アメリカ・ビジネス ミュージアム&アート・コレクションズ、心理学、ホスピタリティ、フードマネジメント、アメリカン・メディア、ボランティア、アート&デザイン)からひとつを選択してアメリカでの専門分野の現状を英語で学ぶ。	
ボストンサマーセッション 英語(0)		レベル別英語クラスに加え、9つのフォーカス・グループ(アメリカ文化、アメリカ・ビジネス ミュージアム&アート・コレクションズ、心理学、ホスピタリティ、フードマネジメント、アメリカン・メディア、ボランティア、アート&デザイン)からひとつを選択してアメリカでの専門分野の現状を英語で学ぶ。	
日本語読解A		「食安全」「流通」「SDG s」「ビジネスマナー」「多文化共生」「異文化」等、15のテーマを設定し、内容重視の日本語学習を行う。多様な文章を読み進めるための言語技術や、専門領域の基盤となる知識の獲得と言語運用力の向上を目指す。	
日本語読解B		読解Aで扱うテーマに基づき、さらに異なる媒体から情報を得て知識を深める。理解したことを言語化し他者との対話から考えを深めていく過程を通してアカデミックな場面で求められる言語運用力を高めていく。	
日本語会話		日常生活に関わるトピックについて、実際の使用場面を想定した会話練習を行いながら、必要な語彙や表現を学ぶ。自然に話される日本語の聞き取りができるようになることを目指す。	
生活ケース学習		日常生活上の異文化コンフリクトを扱う「ケース学習」を使用し、問題の発見と解決方法を見出すために他者と対話・討論を行う。最後に各自が自己の学習プロセスを内省する。一連の学習を通じて、留学生生活を円滑にするための異文化理解力・課題達成・問題解決能力を養うことを目指す。日本人学生との共修授業で学び合う。	

日本語表現A		専門領域を学ぶために必要となる日本語の重要語彙・表現を習得する。学生同士のピア活動（協働活動）を通じて語彙力・漢字力・運用力（作文力）の育成を行う。	
日本語表現B		実験観察記録や論述型レポート、発表のためのレジュメ作成など、大学生活で必要となるアカデミック・ライティングの基礎となる書く力、考える力の育成を目指す。	
専門日本語		学科における専門教育を受講するための基礎知識を日本語で習得する。学科ごとに分かれて実施し、1年次への足場掛けを行う。	
スタディスキル		大学で学ぶための学習スキル（ノートテキング、ディスカッション、リアクションペーパー、レポートライティングなど）を身につけながら、クリティカルシンキングの力を育成することを目指す。	
文化と日本語A		「茶道」「書道」「短歌」等、日本の文化を歴史的な背景を学びながら、実際にも体験し、現代にも続く日本の伝統文化を通して日本への理解を深める。	
文化と日本語B		文化と日本語Aで取り上げた内容から、さらに、興味を持ったテーマを自分自身で探求し、意見交換を行い、成果発表を行う。	
プロジェクトA		学科（専門分野）の指定図書を読み「ブックレビュー」を行う。クラス内「ビブリオバトル」を実施し、異なる学科の学生にも当該図書の魅力を伝える力を競う。審査基準や評価表も学生が協働で作成する。発信力や対話力（質疑応答も含む）協働力を育成する。	
ビジネスコミュニケーションA		職場で実際に起きたコンフリクトを扱う「ケース学習」を使用し、問題の発見と解決方法を見出すために、他者と対話・討論を行う。最後に各自が学習プロセスを内省することで、異文化理解力・課題達成・問題解決能力・協働力を養う。日本人学生との共修授業の中で学び合う。	
ビジネスコミュニケーションB		職場での課題を達成するプロセスを通して日本語でのビジネスコミュニケーション力を養成することを目指す。BJTビジネス日本語テストの対策、インターンシップや就活で求められるディスカッション力や伝達力の育成にもつなげる。	
日本社会文化A		日本社会を映すさまざまなテーマを取り上げる。「調べ・考え・伝える」活動を支援するために、探究・活動型の日本語学習を行う。自然科学、社会科学、人文科学など幅広いトピックを扱うことで、大学での専門を学ぶための基礎的な力をつけることを目的とする。前期は自然科学と社会科学を中心に扱う予定である。	
日本社会文化B		日本社会を映すさまざまなテーマを取り上げる。「調べ・考え・伝える」活動を支援するために、探究・活動型の日本語学習を行う。自然科学、社会科学、人文科学など幅広いトピックを扱うことで、大学での専門を学ぶための基礎的な力をつけることを目的とする。後期は人文科学と自然科学を中心に扱う予定である。	
ビジネスライティングA		ビジネスライティングに必要な語彙、形式、内容の伝達のしかたを複数の媒体（メール、レター、報告書等）を用いて学ぶ。学生同士が作成したものを交換し、相互評価するピアレスポンス（協働的作文活動）をとりいれ、読み手重視のビジネスライティングを体得する。	
ビジネスライティングB		PREP法（P;結論,R;理由,E;具体例,P;結論）、SDS法（S;要点,D;詳細,S要点）といった文章作成のフレームワークを用いたビジネス文書作成スキルを取り上げる。媒体は、報告書、提案書等を中心とする。インターンシップのエントリーシート作成を視野に簡潔に書く力も伸ばす。	
業界研究A		厚生労働省が公開している職業情報提供サイト「jobtag」等を活用し、日本の企業・業界について情報収集を行い、必要な情報を読み取り、整理する。自分が目指す企業についてSWOT分析を行い、提案型の発表をする。キャリア形成という視点から業界について評価するための分析力を身につけることを目指す。	
業界研究B		インターンシップ先の業界を事例として、業界地図などを参考に、業界のビジネスモデルや市場規模、新たな取り組みを概観する。さらに3C分析を行い、企業分析につなげ、業界や企業を広く知り、自身の職業観を具体化していくことを目指す。	
アカデミックスキルA		前期は、大学で必要なアカデミック・ライティングについて、文章のスタイル、文法・言語表現の観点から学び、作文を書く練習を行う。協働的推敲を通じてアカデミック・スキルの向上を目指す。	
アカデミックスキルB		後期は、多様な文章を、構造を意識しながら読み進めていく。読解の技術を学び、文章の情報を客観的にまとめ意見学べることを通じてアカデミック・スキルの向上を目指す。	

プロジェクトB		学科（専門分野）の指定図書を読み「ブックレビュー」を行う。クラス内「ビブリオバトル」を実施し、異なる学科の学生にも当該図書の魅力を伝える力を競う。審査基準や評価表も学生が協働で作成する。発信力や対話力（質疑応答も含む）協働力を育成する。	
ビジネスコミュニケーションC		経済産業省が公開している「日本人社員も外国籍社員も 職場でのミスコミュニケーションを考える」動画教材、NHK「Easy Japanese for Work」を教材とし、職場でのコミュニケーションを自分の現実置き換えて考え、他者との協働で問題を解決する力を養う。教材の背景となっている日本企業の慣習やビジネスマナーについても取り上げる。	
ビジネスコミュニケーションD		BJTビジネス日本語能力テスト対策を中心に、「場面・状況を認識する力」「情報の意味・意図を読み取る力」「課題にあった対応力」「ビジネス文書に関わる処理能力」「日本的商習慣への異文化調整能力」等の養成を目指す。	
インターンシップ日本語A		キャリア発達理論に基づき、学生自身が「働くこと」を考察することを目標とする。具体的には、職業人の「外的キャリア」と「内的キャリア」の両面からのキャリアについて検討する。ゲストスピーカー多様な価値観、日本語とキャリアの関連づけといった側面からキャリアを考察していく。学生自身の職業観や就職選択の視野を広げ、インターンシップへの動機付けにつなげる。	
インターンシップ日本語B		自分自身の強みや弱みを分析し、自身を深く知るところからはじめ、エントリーシートの作成、日本のビジネスマナー、企業文化理解など、インターンシップに参加するために必要な準備を行う。	
日本語プレゼンテーションA		課題先進国ともいえる日本の現状において、企業がどのような手法で取り組んでいるのか事例研究を行う。学生自身が問題を発見し、資料・情報の収集、分類、検討を行い、自分の立場を明確にしたうえで、独自の提案を行う。＜日本国内編＞	
日本語プレゼンテーションB		世界的規模の課題に、企業がどのような手法で取り組んでいるのか事例研究を行う。学生自身が問題を発見し、資料・情報の収集、分類、検討を行い、自分の立場を明確にしたうえで、独自の提案を行う。＜海外編＞	
業界研究C		業種・職種の整理をしたうえで志望業種を絞り込み、適所分析につなげる。企業が公開するIR情報から更に情報を収集、分析し、留学生であるという強みが活かせるか等、主体的に業界や企業を選んでいく目を養う。	
業界研究D		具体的なインターンシップ先から、自身の興味あるプログラムを選び、その業界・企業について情報を収集し、分析していく。業種の選定に不可欠な、自己分析にも注力する。OB・OG訪問やビジターセッションから実際に企業で働く人の生の声を聞き、自身の職業観や職業選択を広げていくことを目指す。	
Academic Japanese A		本授業は『日本語で考えたい科学の問い（上）－文化と社会編－』（凡人社）を使用して、大学というアカデミックな場における「調べる・考える・伝える」活動を支援するための日本語クラスである。多彩なテーマと豊富な言語トレーニングを通じて、文系・理系の枠を超えて学際的に学ぶ楽しさを体験する。日本語力を高めるだけでなく、視野を広げて専門的な学習への入り口を拓くことを目指す。	
Academic Japanese E		本授業では、韓国でベストセラーとなった小説『82年生まれ、キム・ジョン』を取り上げて日本語で読むことを中心に、CLIL(Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習)を通して日本語の口頭表現をトレーニングする。	
Academic Japanese B		新聞記事や小説、専門書など、多様な関心に応えるべくさまざまな題材の文章を扱う。読解学習を通して、文章を理解する力を伸ばすとともに、語彙や表現を習得する。また、クラスメートとの学び合いを通じて、新しい知識や視点を学び、それらに基づいて自分の意見を表明する機会を設ける。個人で精読、多読する時間と、クラスメートと共同で読む時間をそれぞれ設け、多様な読み方を実践することで総合的な読解力の向上を目指す。	
Academic Japanese F		前半は、ドキュメンタリーやニュース番組、ドラマなどを視聴し、クラスメートと学び合う中で新しい知識や視点を得る。後半は、国連のSDGs「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」の中からテーマを選び、実践を通して効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。	
Academic Japanese C		大学に必要なアカデミック・ライティングについて、文章のスタイル、文法・言語表現の観点から学び、作文を書く練習を行う。各自の作文は、授業時に受講生同士で読み合ってどのように修正するかディスカッションを行い、自ら文章を推敲する能力を養うことを目指す。	

	Academic Japanese G		多様な文章を、構造を意識しながら読み進めていくことで読解の技術を学んでいき、文章の情報を客観的にまとめて意見を述べる練習につなげる。	
	Academic Japanese D		本授業は、「ケース学習」を通して、自分とは異なる文化背景を持つ人と人間関係を構築し、協働しながら問題を解決したり課題を遂行したりする力を養成することを目指す。具体的には、実際に起きた異文化を背景にしたトラブルや摩擦（コンフリクト）を題材としたケース教材を使用して、問題の発見と解決方法について他者と対話・討論し、解決方法を見出し、最後に一人ひとりがそのプロセスを内省する流れで進める。	
	Academic Japanese H		「貧困」をテーマに社会起業家の活動について関連する資料を読む、読んだ内容をまとめて説明する、仲間との対話により考えを深める。関心を持ったことを調べてみる、レジュメにまとめて発表する、レポートにまとめる、といった一連のプロセスを通し、大学の授業で求められるアカデミックな活動に必要な総合力を養うことを目指す。	
初年次教育	デジタルイノベーション基礎演習Ⅰ	○	本授業では、デジタル技術の基礎スキルとして、Microsoftの基本ソフトウェアであるExcel、Word、PowerPointの基本操作を習得する。加えて、データ活用の基本的な手法を学び、ケーススタディとして簡単なデータ分析を実践する。Excelの基本操作として、データの入力、計算式の作成、グラフの作成、データの整理・加工方法を学ぶ。さらに、データの視覚化や分析の効率化を図る方法を学んだ上で図表の作成を行う。最終課題として、実際のデータを使ったケーススタディを行い、課題を設定してデータから洞察を得て、それをWordを用いた報告書とPowerPointを用いたプレゼンテーションで効果的に表現することで、プロジェクトを完了させる。	
	デジタルイノベーション基礎演習Ⅱ	○	この授業では、前期に学んだ基本的なデータ分析とプログラミング技能を前提に、分析データを活用した効果的な表現を実践する。前半の回では、具体的なデータ事例を用いて、データ分析機能を用いた相関分析、回帰分析、分散分析などの統計的分析を学ぶ。そして後半の回ではプログラミング技能を用いて、その結果を効果的に表現するWebページの構築を学ぶ。最終課題として、実際のデータを使ったケーススタディを行い、課題を設定してデータから洞察を得て、それをwebページ上で表現するプロジェクトを完了させる。	
基礎科目群	情報学概論	○	本講義は「情報」に関連する基礎知識から情報化社会に関連した最近の話題までを取り扱い、「情報」についての包括的な理解を促すことを目的とする。具体的には「情報の基本概念」「情報の管理と保護」「情報の活用」「情報科学と技術」を体系的に学ぶことで、情報とは何か、コンピュータで情報を扱うとはどのようなことか、について学ぶ。その上で、新たな価値創造のため情報を分析・理解し活用することの重要性と注意点を理解し、情報化に伴う社会の動向や社会問題を幅広く見渡ししながら、現代と将来の情報学の課題を考える能力を身につける。	
	コンピュータサイエンス概論	○	本講義では、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作から最近の話題までを包括的に取り扱う。具体的には「コンピュータの原理と仕組み」「ハードウェアとソフトウェア」「ネットワークの仕組み」「プログラミング」「情報セキュリティ」など、コンピュータサイエンスの基本事項を理解した上で、AIやビッグデータなど最先端の話題まで概論的に取り扱い、現代および将来の社会におけるコンピュータが担う役割を理解し、より便利で豊かに活用できる知識と能力を身につけることを目的とする。	
	DXと社会Ⅰ	○	この授業では、デジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎的な概念と主要な技術、およびDXがもたらす社会への影響を学ぶ。DXに関わる主要な技術のうち、本授業では主に人工知能（AI）とビッグデータの活用に焦点を当て、これらがどのようにDXが企業、政府、そして個人の生活に変革をもたらしてきたかを学ぶ。また、過去の成功事例や失敗事例を通じて、DXの実践における課題とその解決策を考察する。講義形式による説明のほか、グループディスカッションやケーススタディを通じて、DXに関連する現実の問題に対する理論的および批判的な思考力と実践的な仮説構築力・問題解決力を養うことを目指す。	
	DXと社会Ⅱ	○	この授業は、DXと社会Ⅰで学んだ基礎知識に基づいて、DXの主要な技術、およびDXがもたらす社会への影響を学ぶ。DXに関わる主要な技術のうち、本授業では主にIoTとブロックチェーンに焦点を当て、これらがどのようにDXが企業、政府、そして個人の生活に変革をもたらしてきたかを学ぶ。また、過去の成功事例や失敗事例を通じて、DXの実践における課題とその解決策を考察する。講義形式による説明のほか、グループディスカッションやケーススタディを通じて、DXに関連する現実の問題に対する理論的および批判的な思考力と実践的な仮説構築力・問題解決力を養うことを目指す。	

数学・統計学	データサイエンス入門	○	本授業は、データサイエンスの基本概念とその重要性を理解し、データサイエンスの領域全体を概観することを目的としている。導入的な知識として、データサイエンスとは何か、データサイエンスへの注目の背景、データサイエンスが応用されている分野や産業、そしてなぜデータサイエンスが注目されているのかについて学ぶ。さらに、データサイエンスの歴史、主なデータ・アナリティクスの方法（統計分析、機械学習）、データサイエンティストの役割とスキルセット、データサイエンスに関する倫理など、データサイエンティストとしてのキャリアをスタートするにあたって必須の基礎知識を習得する。	
	情報倫理	○	本授業は、データサイエンスとデジタルイノベーションの文脈における情報倫理の重要性を理解することを目的とする。具体的には、データのプライバシー、セキュリティ、知的財産権、AIが持つバイアス、AIを用いた意思決定の公平性と説明責任など、現代の情報技術に関わる倫理的な課題について学ぶ。また、ケーススタディを通じて、技術の発展と倫理的な意思決定のバランスをどのように取るべきかを考察する。本授業は講義形式を中心としますが、学生同士のグループディスカッションなどの参加型の活動も含み、複雑な倫理的問題に対する批判的思考力と倫理的判断力を養う。	
	数学基礎	○	本講義では大学で情報学を学ぶ上で必要な、数学の基礎的な内容を学ぶ。具体的には「三角関数」「指数関数・対数関数」などの初等関数から、「微分積分」「数列」「ベクトル」「確率・統計」などの内容を取り扱う。単に数式や記号と計算手順を理解して正解を導くことにとどまらず、日常の中での活用例を示しながら概念を理解して要点の大筋を把握し、演習問題を繰り返すことで学習を促進させる。その中で、情報化社会においてデータの分析・活用を進める人材として必要な基礎的な数理能力を身につけることを目的とする。	
	解析	○	本講義では大学で情報学を学ぶ上で必要な、解析学の基礎である微分・積分を中心に学ぶ。具体的には「実数と連続」「数列」「微分法」「積分法」「偏微分法」「微分方程式」「重積分」などを取り扱う。日常の中での活用例を示しながら概念を理解して要点の大筋を把握し、演習問題を繰り返すことで学習を促進させる。そして上級学年における専門的な学びに進む上で、より高度なデータの分析・活動・予測において必要な数理的能力を身につけることを目的とする。	
	統計学基礎	○	本講義では大学でデジタルイノベーションを学ぶ上で必要な、統計学の基礎的な内容を学ぶ。具体的には「記述統計」「確率分布」「母集団と標本」「仮説検定」「相関と回帰」「分散分析」などを取り扱う。単に統計手法を概念として理解することにとどまらず、実例を示しながら学習を進めることで理解を促進させ、同時に統計的分析手法を踏まえたデータの取得を行うという考え方についても学ぶ。基本的な統計学の全体像を学ぶことで、多様な分野における統計分析の適用を可能にし、結果を解釈する能力を身につけることを目的とする。	
	Python入門	○	本授業の目的は、プログラミング言語であるPythonを活用してデータ分析やソフトウェア開発を行うための土台として、Pythonの基本的な文法や機能を学び、プログラミング技術の基礎を習得することである。この授業では、最初にプログラミング言語とは何か、プログラミング言語の基本構造を学ぶ。そして、Pythonの基本構文、制御構造（ループや条件分岐）、関数の定義と利用などの基礎的なプログラミング技術を学ぶ。さらに、主要なライブラリ（NumPy、Pandas、Matplotlib）の使い方を学び、効率的な計算や視覚化、データの編集、加工の技術を演習形式で身につける。	
	データビジュアライゼーション	○	本授業では、データの視覚化の理論と実践方法を学び、データから洞察を得て他者に効果的に伝達する習得を目的とする。授業では、データ視覚化の基本原則、効果的なチャートの選択方法、色彩、およびユニバーサルデザインを含むデザインの重要性について学ぶ。本授業は、視覚化の理論と方法に関する講義のほか、PythonのMatplotlibやSeabornライブラリなどのデータ視覚化の基本ツール、およびインタラクティブなデータビジュアライゼーションを作成するためのツール（Plotlyなど）の使用方法に関する実習を通じた学習を含む。	
	機械学習入門	○	本授業は、機械学習の概念とアルゴリズムに関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。具体的な内容として、教師あり学習と教師なし学習の基本原理と有用性、および主なアルゴリズム（線形回帰、決定木、クラスタリングなど）を紹介する。さらに、機械学習を用いた分析をするためのデータの前処理や、機械学習モデルの訓練や評価の方法も学ぶ。この授業では、数式による説明は最小限にとどめており、数学的な理解よりも、機械学習の原理を専門分野の異なる人たちに説明するための能力の習得を目指す。	

	Python統計	○	本授業は、Pythonを用いて基礎的な統計分析を行うスキルを習得することを目的とする。授業では、統計学の授業で学んだ統計学の基本概念（平均、中央値、分散、標準偏差、相関など）を復習しつつ、Pythonのライブラリ（SciPy、StatsModelsなど）を用いてこれらの統計手法を実装する。この授業で取り扱う統計分析は、データの要約、基本的な視覚化、仮説検定、回帰分析などである。実際のデータセットを用いた演習を通じて、Pythonを用いた統計分析の技術および統計的な洞察を引き出す方法を習得し、データ駆動型の意思決定を行うための基礎を構築する。	
	ビジネスインテリジェンス		本授業の目的は、ビジネスインテリジェンス（BI）の目的と実践方法を理解し、主にビジネスの場面における、データを活用した意思決定支援のスキルを習得することである。具体的には、BIの基本概念、データウェアハウジング、ETLプロセス、ダッシュボードの設計と構築について学ぶ。具体的なツールとしてTableauやPower BIなどを用いて、ビジネスデータを可視化し、インサイトを引き出す演習を講義に併せて行う。さらに、BIプロジェクトの実際のケーススタディを通じて、効果的なデータ活用と意思決定支援のためのプレゼンテーションの方法を学ぶ。	
ソフト スキ ル	ソフトスキル概論	○	本授業は、アナリティクスによる意思決定支援やイノベーションの実現のために必要なソフトスキルに関して包括的な理解を得ることを目的とする。ソフトスキルとは、コミュニケーション、問題解決のための思考、チームワーキング、リーダーシップ、人間関係構築、説得・説明のための技能などのスキルを指し、技術的スキルと同様に重要とされる対人スキルである。この授業はソフトスキル科目群の基礎として位置づけられており、ソフトスキルの全体像を概観し、講義形式での学習を中心としてソフトスキルの全体像をつかみ、各ソフトスキル科目を学ぶための基礎を築くことを学習目標とする。	
	デザイン思考	○	本授業の目的は、データ駆動型意思決定の実行やイノベーションの推進に役立つデザイン思考のプロセスと手法を学ぶことである。デザイン思考は人間中心のアプローチで問題解決を行う方法であり、共感、問題定義、アイディア創出、プロトタイピング、テストの5つのステップを含む。本授業では、これらのステップに関する知識を講義形式の授業で習得するとともに、アイディアの具体化や試作品の作成を含むケーススタディを通じて創造的な解決策を見出すためのフレームワークを学ぶ。	
	クリティカルシンキング	○	本授業の目的は、論理的・概念的および精査的な思考力を高め、複雑な問題に対して分析的にアプローチする能力を養うことである。クリティカルシンキングとは、情報を分析し、評価し、根拠に基づいた結論を導き出すために重要な思考能力であり、特にデータ駆動型の意思決定やイノベーションの提案において重要である。この授業では、認知バイアス、論理的誤謬の識別、論証の構築、意思決定のフレームワークなどに関する知識を身につけ、クリティカルシンキングのための基礎力を養う。授業形態は講義を主とするが、現実の問題をクリティカルシンキングを用いて考察できる力を身につけるため、ケーススタディやグループディスカッションによる実践も含めて行う。	
	チームマネジメント	○	本授業は、チームで協働するためのスキルと、チーム運営のためのリーダーシップスキルを理論と実習を通じて習得することを目的とする。チームの効果的なマネジメントは、メンバーのモチベーションの維持向上や協力促進などの要素を含み、プロジェクトの成功に不可欠である。この授業では、チーム形成の理論、コミュニケーション、コンフリクトマネジメント、多様性マネジメントなどのテーマを扱う。授業形態としては、講義で学んだ理論をグループワークで実践する形をとり、チームマネジメントのための実践的な能力の形成を目指す。	
	プロジェクトマネジメント	○	本授業は、プロジェクトの計画、実行、進捗管理、評価を効果的に行うための知識とスキルを習得することを目的とする。様々な分野においてプロジェクト型の業務が増えてきており、プロジェクトマネジメントは、あらゆる職種、業務で重要となるスキルである。この授業では、プロジェクトライフサイクル、ガントチャートやPERT図、リスク管理、ステークホルダーコミュニケーションなどのプロジェクトマネジメントの基礎概念、ツール、手法を学ぶ。そして、グループワークにおいて知識を実践の中で活用することを通じて、プロジェクトの各フェーズにおいて適切なマネジメント手法を選択し、効果的にプロジェクトを遂行する能力を習得する。	
コン ピ ユ ー タ サ イ エ	データマネジメント	○	本授業の目的は、データ管理の基本原則と技術に関する基礎として、データマネジメントの全体像を概論として理解することである。具体的な内容としては、データマネジメントの目的、データベースの活用方法のほか、データウェアハウジング、データガバナンス、ビッグデータマネジメント、クラウドコンピューティングなどの概念を理解する。データマネジメントの全体像を理解することを通じて、デジタルイノベーションにおける資源としてのデータの重要性和、データをマネジメントすることの意義および方法を学び、データの効果的な管理と活用を実現する能力を身につける。	

ンス	データエンジニアリング	○	データエンジニアリングとは一般的に、データ基盤の設計・実装・運用全般を指す広い分野である。その中でも、本授業ではデータのExtract（抽出）、Transform（変換）、Load（格納）のプロセス（ETLプロセス、またはELTプロセスとも）を中心に扱う。本授業の内容は前半と後半に分かれている。前半ではETLに必要なデータベースの扱いや設計について広く学ぶ。後半では、データの前処理や（データ品質保証のための）データパイプラインなど、データ加工について学び、皆さんが他の授業で学ぶであろう「ビッグデータマネジメント」（大規模データへの対応）や「ML0ps」（機械学習の品質担保と継続運用）との関連についても説明を行う。	
	IoT概論	○	本講義では、「インターネット」と「モノ」を繋ぐ、いわゆるIoTに関する基礎知識から最近の話題までを包括的に学ぶ。具体的には「IoTの概念」「IoT技術とその要素」「IoTの通信プロトコル」「IoTのデータ分析」「IoTの情報セキュリティ」「IoTの具体例」などを取り扱う。その上で、現代および将来の社会におけるIoT技術が担う役割を理解し、より便利で豊かにIoT技術を活用するための能力を身につけることを目的とする。	
	Emerging Technology I	○	本授業の目的は、社会のデジタル化とデジタル革新をけん引するデジタル分野の先端技術の仕組みや機能について基礎的な知識を習得し、その最新動向を知ることである。この授業では、デジタル先端技術として主に人工知能（AI）、機械学習、ブロックチェーン、IoT（モノのインターネット）などの新技術の基本概念と最新の応用事例を学ぶ。理論的・概念的な説明に加え、具体的な導入事例の紹介を通じて、各技術が社会やビジネスに与える影響について考察し、今後の応用可能性を議論する。授業形式は講義とディスカッションを中心とする。また、本授業を通じて、データサイエンスやデジタルイノベーションの課題や今後の可能性を考えていくための基礎を作る。	
	Emerging Technology II	○	本授業の目的は、社会のデジタル化とデジタル革新をけん引するデジタル分野の先端技術の仕組みや機能について基礎的な知識を習得し、その最新動向を知ることである。この授業では、デジタル先端技術として主にAIとビッグデータの融合、拡張現実（AR）・仮想現実（VR）の応用、量子コンピューティングなどに焦点を当てる。理論的・概念的な説明に加え、具体的な導入事例の紹介を通じて、各技術が社会やビジネスに与える影響について考察し、今後の応用可能性を議論する。授業形式は講義とディスカッションを中心とする。また、本授業を通じて、データサイエンスやデジタルイノベーションの課題や今後の可能性を考えていくための基礎を作る。	
	DXケーススタディ	○	本講義では、データサイエンスやその他のデジタル技術が企業等で活用されているDXの事例について学ぶ。多種多様な産業の企業の実例を扱い、経営戦略やビジネスモデルなどの背景を理解しながらデジタル技術がどのように企業価値の増大に貢献しているかについて議論する。講義を通じて、DXが単なるデジタル技術の導入にとどまらず、製品やサービス、ビジネスモデル、業務そのものを変革することによって、企業が競争上の優位性を確立することを目指すものであることを理解する。	
	ML0ps		ML0psとはML（Machine Learning：機械学習）モデルの開発から0ps（Operations：運用）までの一連の流れ（パイプライン）を一体化した概念である。授業の前半では、機械学習パイプラインの概要、推論モデルと実行環境、モニタリング、データの品質管理、コードの品質とバージョン管理、アセンメント等を学ぶ。後半では、コンテナ技術の概要と構築、クラウドプラットフォームでの実装や運用方法等を学ぶ。この授業を通してML0ps全体に関するスキルを習得するとともに、産業界におけるML0psの活用事例も適宜紹介する。 （教員補充／1回）イントロダクション：ML0psとは何か？ （教員補充／1回）機械学習パイプラインの概要 （教員補充／1回）推論モデルと実行環境 （教員補充／1回）モニタリング （教員補充／1回）データの品質管理 （教員補充／1回）コードの品質・バージョン管理 （教員補充／1回）機械学習システムのアセスメント：データと推論モデル （教員補充／1回）機械学習システムのアセスメント：実行環境とモニタリング （教員補充／1回）仮想化（コンテナ）技術の概要 （教員補充／1回）コンテナの構築 （教員補充／1回）ML0psのためのクラウドプラットフォーム （教員補充／1回）クラウドプラットフォームによるML0psの実装 （教員補充／1回）クラウドプラットフォームによるML0psの運用 （教員補充／1回）ML0psに関する発展的話題 （教員補充／1回）まとめ	オムニバス

	クラウドコンピューティング		本授業の目的は、クラウドコンピューティングの基本概念と技術を学び、クラウドベースのソリューションを設計、実装、管理するスキルを習得することである。具体的な内容としては、クラウドサービスモデル (IaaS、PaaS、SaaS)、クラウドプラットフォームの概要、仮想化技術、コンテナ技術、クラウドセキュリティ、などを取り上げる。授業形態は講義形式を中心とするが、クラウドプラットフォームの操作方法に関する実演 (または実習) も含む。理論的な理解と実演による説明 (または実習) を通じて、クラウド環境の構築と運用のための基礎的な知識と技術を習得する。	
	サイバーセキュリティ		本授業では、サイバーセキュリティに関する基礎知識から最近の話題までを包括的に学ぶ。授業形態は講義形式を中心とし、サイバーセキュリティの一部のトピックにおける実習も含む。具体的には「セキュリティの概念」「サイバー攻撃の事例」「サイバー攻撃の仕組み」「セキュリティ対策の基礎知識」「情報セキュリティの管理」「インシデントの管理と処理」などを取り扱う。その上で、現代および将来のインターネット社会におけるサイバーセキュリティの重要性を理解し、様々な問題に対応できる知識と能力を身につけることを目的とする。	
	ビッグデータマネジメント		本授業では、ビッグデータと呼ばれる、巨大なデータを管理するシステム、および巨大なデータの活用技術について学ぶ。本授業は3つの章に分かれている。第1章では、ビッグデータとは何か、ビッグデータ管理の法的・倫理的注意点といった、ビッグデータの概要について学ぶ。第2章では、ビッグデータを活用する技術について学び、ビッグデータの操作に耐えられる技術を把握する。第3章では、ビッグデータをどのように格納・管理するかについて学ぶ。これまで学んできた基礎的なデータベース以外にも、ビッグデータに特化したデータ管理システムが存在するため、いくつか例示することで実践的なデータ管理を学ぶ。 ■第1章：ビッグデータとは？ ～定義と法的・倫理的な注意点～ (4 椿広計／1回) インTRODakション：ビッグデータとは何か？ (4 椿広計／1回) データガバナンスとプライバシー保護 ■第2章：ビッグデータの操作・加工・活用 ～ビッグデータの特徴を学ぼう～ (4 椿広計／1回) ビッグデータ処理の特徴 (4 椿広計／1回) ビッグデータの分析 (4 椿広計／1回) ビッグデータを用いた機械学習 (4 椿広計／1回) ビッグデータマネジメントのビジネス応用 (4 椿広計／1回) ビッグデータマネジメントに関する発展的課題 ■第3章：ビッグデータ管理システム ～実際のビッグデータ管理システムを学ぼう～ (5 河合孔明／1回) データ収集基盤 (5 河合孔明／1回) 分散ファイルシステム (5 河合孔明／1回) 列指向データベース (5 河合孔明／1回) Data Lake と Lakehouseアーキテクチャ (5 河合孔明／1回) ストリーミング分析 (5 河合孔明／1回) 分散リソース管理 (5 河合孔明／1回) パフォーマンス・コスト最適化 (5 河合孔明／1回) まとめ	オムニバス
	マテリアルズインフォマティクス		本授業は、材料科学、コンピューターサイエンス、データサイエンスを融合させた効率的な材料開発の技術について学ぶことを目的とする。具体的な内容として、材料データの収集、材料データベースの構築、機械学習を用いた材料特性の予測モデルの開発、シミュレーションの技術について学ぶ。講義形式を中心として、マテリアルズ・インフォマティクスの概要、理論を学ぶとともに、企業における実践事例を知ることにより、これらの技術が企業などにおける事業活動にどのように応用されるかを理解する。	
	デジタル画像処理		本講義では、デジタル画像（動画を含む）処理技術に関する基礎知識から最近の話題までを包括的に学ぶ。具体的には「デジタル画像処理の基礎」「画像の変換」「フィルタ処理」「パターン認識」「画像の圧縮と仕組み」「画像認識の手法」などを取り扱う。その上で、現代および将来における様々な領域でのデジタル画像処理技術の重要性を理解し、様々な場面でデジタル画像を適切に処理して活用できる知識と能力を身につけることを目的とする。	
プログラミング	プログラミング基礎	○	この授業では、プログラミングにおいて普遍的に重要となる概念について理解することを目指す。まず、プログラミング言語の種類や特徴、ソースコードを記述する方法、コンパイラとインタプリタの違い等を学ぶ。次に、変数の宣言・代入・参照の方法と構造化プログラミングの基礎となる順次・分岐・反復構造を理解する。また、関数の定義と利用、引数や戻り値等について取り上げ、プログラミングを行うための汎用性の高い知識を学ぶ。	

	プログラミング中級	○	この授業では、アプリケーション開発における、主にフロントエンド側の技術を学ぶ。フロントエンドとは、ユーザが情報を閲覧したり操作したりするために直接利用する、アプリケーションの画面を構成する要素である。画面を作成するために広く用いられるマークアップ言語（HTML/CSS等）と、ユーザの操作に応じてイベントを処理するスクリプト言語（JavaScript/TypeScript等）について実践的に理解する。	
	UMLモデリング	○	この授業では、UML（Unified Modeling Language）による情報システムのモデリングについて取り上げる。UMLはオブジェクト指向の考え方に基づき、情報処理システムの動的／静的構造を記述するための形式言語である。各種のダイアグラムを組み合わせ、システムのモデルを構築する。アクティビティ図、ユースケース図、シーケンス図、クラス図等のUMLにおける主要なダイアグラムについて表記法と活用方法を学ぶ。	
	オブジェクト指向プログラミング	○	この授業では、プログラミングに用いられるオブジェクト指向という基本概念を理解し、それをプログラミングに活用するための知識を学ぶ。オブジェクト指向の特長は情報処理システムで取り扱う情報と処理を塊にし（カプセル化）、部品として再利用できることである。オブジェクトはその際の中核となる概念であり、情報と処理をそれぞれ属性と操作として一体化し、かつ、他から隠蔽する。クラスやインスタンス、継承、ポリモーフィズム等の重要な技術についても学ぶ。	
	UXプロトタイピング	○	この授業では、モバイルやWebアプリケーションのサービス・デザインからプロトタイピングまで一連のプロセスを学ぶ。アプリケーション開発の目的はユーザに対して価値を提供するサービスを構築することである。そこで、サービス・デザインの手法を用い、ペルソナ法やユースストーリー法等を組み合わせ、アプリケーションの要求分析を行う。また、プロトタイピングを実施し、実際に操作できる画面のモックアップを作成して実際に動作するUIを作成する。本授業はグループワークを主体としたアクティブラーニングである。	
	コラボレーティブアプリ開発	○	この授業では、チームメンバーが協創的（コラボレーティブ）にアプリケーション開発をする過程をPBL形式で学ぶ。チームでの開発においては、チームで作成するソースコードや各種のリソース（ファイルや画像等）の共有や共同編集を行うためのツールを活用することで開発作業が円滑になる。また、アジャイル型開発プロセスに関する基礎知識を学び、短期間のスプリントを繰り返しながらアプリケーション開発作業を体験する。本授業はグループワークを主体としたアクティブラーニングである。	
	プログラミング上級		この授業では、アプリケーション開発における、主にバックエンド側の技術を学ぶ。バックエンドとは、ユーザー側からは目に見えない、データベースや他のWebサービスと連携してアプリケーションのデータを保持し、必要な処理を行う要素であり、サーバが提供する。アプリケーションサーバを用いたデータベースとの連携方法（SQL/ORマッピング等）、Web APIの利用や提供をするための技術（REST API/JSON等）について取り扱う。	
デジタルイノベーション演習	データ構造とアルゴリズム		この授業では、アルゴリズムとデータ構造について学び、プログラミングに活用できるようになることを目標とする。代表的なデータ構造（リスト、スタック、キュー、ツリー等）と、それらを処理するアルゴリズム（サーチ、ソート、文字列処理等）を、プログラムで実装する方法について取り上げる。それらに併せて、時間的・空間的計算量についても取り上げ、データ構造やアルゴリズムを適切に選定することの重要性について理解する。	
	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅠ	○	本授業の目的は、データ分析に基づく提案を行うプロジェクトをチームで実行することにより、実践的なデータ分析と表現スキルを習得することである。この授業では、Microsoft ExcelもしくはPythonを用いてデータの収集、整理、前処理、視覚化など基本的なデータ分析を行い、それをwebページ上で表現するまでの流れを1つのプロジェクトとして4～5名のチームで実行する。プロジェクトの実行にあたっては、チームワーキングやリーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションなどのソフトスキルを活用して、学生がチームとして主体的に推進することを求める。	
	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅡ	○	本授業の目的は、データ分析に基づく提案と簡単なプログラミング技術を用いて実装を行うプロジェクトをチームで実行することにより、実践的なデータ分析と実装スキルを習得することである。この授業では、データの収集、整理、前処理に加え、提案内容を明確にプレゼンテーションするとともに、簡単な実装を行うまでの1つのプロジェクトとして4～5名のチームで実行する。プロジェクトの実行にあたっては、学生はチームとして主体的に進めるのみならず、プロジェクトマネジメントの知識を用いた効果的な実行と進捗管理、およびクリティカルシンキングとストーリーテリングのスキルを用いた説得力のある結論と説明をすることが求められる。	

	デジタルイノベーション演習Ⅰ	○	本授業の目的は、デジタルイノベーションの知識をさらに深化させ、実際のプロジェクトに参加することで実践的なスキルを身につけることです。各クラスは担当教員の専門分野に応じたテーマが設定され、学生はそのテーマに基づいてプロジェクトを進行します。プロジェクトの種類は、教員の開発プロジェクト、企業との連携プロジェクト、学生が自身で立ち上げるプロジェクトなど、クラスによって異なります。チームとしてプロジェクトを実行することにより、デジタル技術のスキルに加え、プロジェクトマネジメントやチームマネジメントなどのソフトスキルを実践の中で向上させることを目指します。	
	デジタルイノベーション演習Ⅱ	○	本授業の目的は、デジタルイノベーションの知識をさらに深化させ、実際のプロジェクトに参加することで実践的なスキルを身につけることです。演習Ⅰと同様に、各クラスは担当教員の専門分野に応じたテーマが設定されますが、各クラスとも演習Ⅰとは異なるプロジェクトが実行されます。プロジェクトの種類は、教員の開発プロジェクト、企業との連携プロジェクト、学生が自身で立ち上げるプロジェクトなど、クラスによって異なります。演習Ⅰと同様に、プロジェクトマネジメントやチームマネジメントなどのソフトスキルを活用し、さらにクリティカルシンキングやドメイン知識を活用して、データから深い洞察を得ることを目指します。	
ド メ イン	経営管理論	○	本講義では、企業やその他の法人で働く人にとって必要となる経営管理の基礎を学ぶ。株式会社の仕組みや経営組織の形態について学んだ後、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）の構造と読み取り方を理解する。また、企業活動がどのように財務諸表に記録されていくかを理解し、財務諸表を使った経営分析を行う力をつける。更に、実際の企業の数値を活用して、産業の特性や経営戦略が財務内容に与える影響について議論する。	
	人的資源管理		本授業の目的は、主として企業における人的資源のマネジメントに関する基礎知識を習得することである。具体的には、人事戦略、募集と採用、人材育成、業績評価、報酬管理、労働法規などの人的資源管理に関する重要なトピックを取り上げる。これらのトピックに関して、企業で一般的な人事制度や、企業の事例を通じて、人的資源管理の制度と実態に関する知識を習得する。さらに、デジタル人的資源管理、ビープル・アナリティクスなど、データサイエンスやデジタルイノベーションと関連する新たな人的資源管理の動向も取り上げる。	
	消費者行動論		本授業の目的は、消費者行動の基本概念や理論、および主な実証研究の分析手法と結果を学び、マーケティング分野におけるデータ・アナリティクスとデジタルイノベーションの実践につなげる知識と考え方を習得することである。具体的な内容としては、消費者の意思決定プロセス、心理的・社会的影響、購買行動、ブランドロイヤルティなどのトピックを中心に学ぶ。講義形式を中心とし、消費行動の理論とともに、データを用いた実証研究の知見や、企業への事例調査によって得られた実践的洞察を学び、データ・アナリティクスのための問題設定やデータの収集、分析結果の解釈、または企業におけるマーケティング革新のための考え方を身につける。	
	組織行動論		本授業の目的は、組織における従業員の行動の基本概念や理論、および主な実証研究の分析手法と結果を学び、人材のマネジメントに関するデータ・アナリティクスとデジタルイノベーションの実践につなげる知識と考え方を習得することである。具体的な内容としては、モチベーション、リーダーシップ、意思決定、チームワークなどのトピックを中心に学ぶ。講義形式を中心とし、組織行動の理論とともに、データを用いた実証研究の知見や、企業への事例調査によって得られた実践的洞察を学び、データ・アナリティクスのための問題設定やデータの収集、分析結果の解釈、または企業における人材マネジメント革新のための考え方を身につける。	
	デジタルマーケティング		本授業は、デジタルマーケティングの基本概念と実践的手法を学び、データサイエンスとデジタルイノベーションの実践につなげるための知識を得ることを目的とする。具体的には、SEO、SEM、コンテンツマーケティング、ソーシャルメディアマーケティング、Eメールマーケティング、データ分析など、デジタルマーケティングの主要なトピックを取り上げる。講義形式を中心とし、受講者は、デジタルマーケティングに関する概念や理論を学ぶとともに、最新の実践事例を知り、データ駆動型のマーケティング戦略やビジネス変革を支援・推進するための能力を身につけることを目指す。	

基礎心理学概論		心理学は、科学であることを志向し、様々な側面から人の心の動きと機能に関する客観的知見を蓄積してきた学問である。この授業では、このようないわゆる知情意の動きに対する関心を、(1)それらがどのような心的過程によって成立しているのか、(2)先天的要素も備えながらどのように発達していくのか、(3)各過程にはどのような個人差があり、社会状況の影響を受けながら社会環境にどのような影響を及ぼすのか、(4)その結果、どのような適応上の問題を抱えるに至るのか、の4つの観点から概観する。併せて、各観点において心理学の科学性がどのようにして担保されているのかを確認し、データサイエンスやコンピュータサイエンスがどのような貢献ができるのかも考える。この授業を通じて、心理学の基礎知識とその研究手法に関する理解を深めると同時に、データサイエンスやコンピュータサイエンスの適用、応用の可能性について考える力を涵養する。	
認知科学概論		認知科学とは、情報処理という観点から知的活動の性質を理解しようとする研究分野であり、哲学、言語学、心理学、人類学、神経科学などの諸科学が関与する学際分野である。認知科学は、外部から観察可能な刺激反応関係から生体内部で生じている情報処理過程を推定するが、その研究技法は認知科学の歴史の中で発展し、近年においては飛躍的な進歩を遂げている。この授業では、認知科学の主要な理論を概説するとともに、それらの理論がどのような知見を基に構築されたのか、これらの知見はどのような方法でどのように分析されることで得られたのかを紹介する。この授業を通じて、情報処理過程としての生体、特に人の特徴に関する理解を深めるとともに、当該分野におけるデータサイエンスやコンピュータサイエンスの貢献可能性について考える力を身につける。	
産業組織心理学		産業組織心理学とは、産業や組織における心理学的メカニズムを解明しようとする学問である。この授業では、組織内相互作用と組織集団としての行動について検討する組織行動、人事評価や人材育成に関わる人的資源管理、働く人々の安全と心身の健康を保全・促進する安全衛生、消費者の心理過程や宣伝・広告効果を検討する消費者行動の4領域に対して、心理学の観点から得られた理論体系について概観する。説明にあたっては、心理学的な研究法に基いた実証データを紹介し、当該分野におけるデータサイエンスやコンピュータサイエンスの寄与についても解説する。この授業を通じて、産業・組織領域における心理学の理論的貢献とデータサイエンスやコンピュータサイエンスの実証面での貢献を理解し、当該分野におけるデータサイエンスやコンピュータサイエンスの適用を考える視点を養う。	
グループ・ダイナミックス		グループ・ダイナミックスとは、集団内、集団間の相互作用によって創発する集団行動およびその特性を解明する学問である。集団内相互作用においては、集団成員間の社会的影響過程、相互依存関係などの構造的影響により総体としての集団の動きが左右される可能性がある。また、集団間相互作用は、各集団成員にカテゴリー化をもたらし内外集団の差異を生み、さらには集団間の勢力関係や相互依存を生じさせることによって、各集団に独自の特徴をもたらす可能性がある。本授業では、これらの力動に関わる理論を心理学を中心に概観し、これらのグループ・ダイナミックスに関する知見が産業・組織領域に大きな寄与をすることを説明する。また、グループ・ダイナミックスを研究する質的研究、量的研究の技法についても説明をし、データサイエンスにおける数理モデリングと解析技法やコンピュータサイエンスを援用したシミュレーションが非常に有用であることを学ぶ。	
応用認知科学		認知科学の主要な知見ならびにその研究技法に関する基礎知識を前提として、より高度かつ先端的な認知科学の理論ならびにその検証方法について実践的に学ぶ。認知科学の特定領域に着目し、その領域で先端的な議論について理解をしたうえで、仮説を検証するような実験手続きについて考える。実験立案時には、事前に分析計画も詳細に立案することで、統計的解析の技法について理解を深めると同時に、洗練された統計的解析やコンピュータサイエンスを援用した刺激呈示などによって仮説検証の精度が高まりうることを実感する。	
健康科学概論		本講義ではデジタル技術の活用が望まれる分野の一つである「健康」に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「健康の定義」「健康と体力・運動」「健康と食物・栄養」「健康と休養・睡眠」「健康とライフステージ」「健康と社会生活」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら生化学・生理学・栄養学・体力科学・疫学・社会科学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	

	食・栄養情報学		本講義ではデジタル技術の活用が望まれる分野の一つである「健康」にとくに深くかかわる食物と栄養に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「食物・栄養と健康」「消化・吸収と栄養素の体内動態」「栄養素とエネルギー」「摂食行動」「食品の機能」「食品の分類と食品成分表」「食品表示と規格基準」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら生化学・生理学・栄養学・食品学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康と食物・栄養」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	健康・行動情報学		本講義ではデジタル技術の活用が望まれる分野の一つである「健康」にとくに深くかかわる健康行動とその変容に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「国民保健の動向」「健康診断」「行動科学と行動変容」「健康教育とヘルスプロモーション」「生活習慣と健康行動」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら健康科学・行動科学・疫学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康と行動」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	運動・感覚情報学		本講義ではデジタル技術の活用が望まれる分野の一つである「健康」にとくに深くかかわる運動と感覚に関する基礎的な事項を概観する。具体的には「運動の仕組み」「エネルギー論と体力」「感覚の性質」「感覚の仕組み」「運動-感覚連関」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら生化学・生理学から体力科学・感覚科学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において「健康と運動・感覚」に関連する分野でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	応用健康科学		本講義ではデジタル技術の活用が望まれる分野の一つである「健康」に関する様々な応用的な事項を概観する。具体的には「環境と健康」「肥満」「疾病」「依存症」「障害」「感染症」「女性の健康」などを取り扱う。単に知識の羅列にとどまらず、日常の中でのデータ及びデジタル技術の活用例を示しながら健康医学・健康疫学・心身医学といった様々な分野における論理的な考え方の理解を促進させる。その中で、情報化社会において周辺分野も含めた「健康」関連領域でのデータの分析・活用を進める人材として必要な専門性を身につけることを目的とする。	
	データ活用特講Ⅰ		データ分析の手続きを実行することと、データの背後の現象を捉えることの間には大きなギャップが存在する。本講義では、そうした理論と実践の間を橋渡しする知識や考え方について、広範なトピックを扱いながら学習する。データの生成・取得の過程について考えることから始め、さまざまな分析手法やモデルによる解析が本質的に何をやっていることになるのか、またデータの可視化や解釈、それらを用いた意思決定において現実に発生する課題について幅広く解説する。	
関連	データ活用特講Ⅱ		データ分析の手続きを実行することと、データの背後の現象を捉えることの間には大きなギャップが存在する。本講義では、そうした理論を実践の現場で活用する方法について、様々な実例を取り扱いながら学習する。とくに取得されたデータの性質を考え、適用する分析手法を検討し、その結果を論理的に解釈して予測に繋げる手順について、実例を交えながら解説する。そして、その中で生じた課題について考え、データを有効活用できる能力を身につける。	
	海外情報学研修		デジタル技術の革新とDXの推進により、ビジネスモデルを変革し、人々の生活を一新させるデジタル社会が世界的に実現しつつある。データとデジタル技術を効果的に活用することによって変革を加速化させることができる。この授業では、アメリカの企業や組織におけるデータやデジタル技術の活用、現代のテクノロジーの価値及びアメリカ社会の変容について学ぶ。英語を使って読み、調べ、発表する統合型の授業を通し、考えを深める。	
卒業研究・演習	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ	○	本授業は4年間の学習の集大成として、これまでの学習内容を総合的に活用しテーマを設定してデジタルイノベーションプロジェクトを完遂するために、個人またはチームで課題の設定と、課題の解決に向けたプログラミング技術を駆使した実装を行う。その中でドメイン知識とソフトスキルを総合的に活用するとともに、プロジェクトのテーマに合わせてデータ活用やセキュリティ対策など、適切な手法を活用する。そして中間的な成果を指定された形式で発表し、プロジェクト内およびプロジェクト間で意見交換を行い、専門演習Ⅱでのさらに深い学びに繋げる。	

デジタルイノベーション専門演習Ⅱ	○	本授業は4年間の学習の集大成として、これまでの学習内容を総合的に活用しテーマを設定してデジタルイノベーションプロジェクトを完遂するために、個人またはチームで課題の設定と、課題の解決に向けたプログラミング技術を駆使した実装を行う。その中でドメイン知識とソフトスキルを総合的に活用するとともに、プロジェクトのテーマに合わせてデータ活用やセキュリティ対策など、適切な手法を活用する。特に専門演習Ⅰでの中間発表を踏まえてさらに内容を深め、プレゼンテーションのマネジメントも行い最終成果の発表に備える。	
Capstone Project	○	本授業の目的は、4年間の学習の集大成として、これまでの学習内容を総合的に活用し、自らテーマを設定してデジタルイノベーションプロジェクトを完遂することである。個人またはチームでプロジェクトを実行し、課題の設定、データの活用、プレゼンテーションまでの全プロセスを自身でマネジメントする。プロジェクトでは、ドメイン知識とソフトスキルを総合的に活用するとともに、プロジェクトのテーマに合わせてデータの活用やセキュリティ対策などにプログラミング技術を活用する。最終成果として、デジタル技術を社会に活用する提案と実装をプレゼンテーション形式で発表する。	

設置の趣旨等を記載した書類（本文）

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	2
2. 学部・学科等の特色	12
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	13
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	14
5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	23
6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外 の場所で履修させる場合の具体的計画	31
7. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学 研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	32
8. 入学者選抜の概要	34
9. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	46
10. 研究の実施についての考え方、体制、取組	51
11. 施設、設備等の整備計画	52
12. 管理運営	54
13. 自己点検・評価	56
14. 情報の公表	57
15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	60
16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	63

1. 設置の趣旨及び必要性

昭和女子大学（以下、本学）は、1920 年人見圓吉により創立された「日本女子高等学院」を前身としている。第一次世界大戦が終結してまもない時期であり、多くの人々が大战の影響を受け、困難な状況に遭遇していた。ロシアの文豪トルストイの教育理念に影響を受けた創立者の平和への願いが、自己の進路を見失わない女性、すすんで世のため人のために自己の力を役立てようとする女性を育てたいという信念となり、「日本女子高等学院」は創立された。

本学の建学の精神は、「世の光となろう」という言葉に託されている。1920 年の創設にあたって創立者は、第一次大戦後の荒廃を平和で希望に満ちた世界に変えるには、慈愛に満ちた女性の力が必要であり、「来る文化の朝を迎えるために身支度をとり急がねばならぬ」と『開講の詞』で説いた。また、「目覚めたる婦人、正しき婦人、思慮ある力強き婦人」の育成を目指して、『校訓三則』に示された「清き気品、篤き至誠、高き識見」を備えた人間になるよう教えている。この建学の精神は、現在もなお色褪せることなく受け継がれている。この精神に則って時代の変化に先駆けながら、社会が求める人材を輩出して行くことが本学の使命である。

この精神は、創立当初に記された「開講の詞(かいこうのことば)」に高らかに謳いあげられている。この「開講の詞」に掲げられた建学の精神を「世の光となろう」ということばに集約し、建学の精神を今に引き継いでいる。

・開講の詞(建学の精神)

<https://office.swu.ac.jp/philosophy/spirit.html>

(2)総合情報学部を設置する理由・必要性

近年、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（GD 答申）」（2018）や「教育未来創造会議第一次提言」（2022）、「教育振興基本計画第 4 期」（2023）等において、理系に女性が少ない現状から脱却し、理工系や農学系の分野における女性の活躍及び社会進出を実現すること、併せて DX 人材の育成が肝要であることが提言された。大規模言語モデル（LLM）の急速な発展、ビッグデータの蓄積と利活用の推進等、高度に発達した情報化社会が到来し、今後、日本社会は益々データ駆動型が進むと予想されるため、理系の中でもデジタル人材と呼ばれる人材育成は喫緊の課題である。このような社会的背景の中、昭和女子大学では、現状「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの教育を行っているが、今後さらに高い到達目標を掲げる教育を提供して人材育成する必要があると考える。

首都東京は日本経済・ビジネスの中心地であり、日々進化する先端技術を活用したビジネスが展開されている。大企業の場合、ヘッドクォーターは東京に位置していることが多く、IT 関連に多い起業型企業も東京で活動していることが多い。情報が集まるという観点

からすれば、首都圏は他地域と比べて極めて強力な特長を有している。従って、IT 中心地であり、先端企業との連携もしやすい地域の特性を、昭和女子大学総合情報学部は有効に活用できる環境にある。このような地域特性に対し、首都圏の女子大学においてデータサイエンスやデジタル技術を学ぶ学科を開設するところはまだ多くない。社会のニーズにいち早く応え、地域の特性を最大限に活用し得る、首都圏の女子大学である昭和女子大学が総合情報学部及び新しい2学科を開設する意義は大きい。

昭和女子大学は、世の光となる人材（女性）を育成することを目的とし、従来から人格陶冶や人間的成長を図る学問の教示に加え、教員養成や栄養系、福祉系の人材育成を図ってきた。近年では、女性の社会進出や社会における活躍を一層支援するための研究科や学部学科を新たに開設すると共に、グローバル教育、キャリア教育、プロジェクト型学修と特色を打ち出し、創立の理念実現を図っている。さらなる目的実現のため、社会の現状及び予測困難な将来にあって、数理能力に基づく思考や発想ができ、データやデジタルに関する知識やスキルを応用して課題を解決し、創造性を発揮してより良い社会の実現を目指す女性を育成する総合情報学部を開設する。

本学部には、現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、数値化データに基づき分析し、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成するデータサイエンス学科、及び社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備え、デジタル技術に関するスキルを駆使して課題解決の提案や実装ができ、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができる人材を養成するデジタルイノベーション学科を設置する。

- (3)養成する人材像、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

養成する人材像

A. データサイエンス学科

現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。

B. デジタルイノベーション学科

社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

A. データサイエンス学科

データサイエンス学科は、数理能力に基づく思考や発想ができ、データサイエンス能力による<分析>や<予測>を駆使して課題を解決し、創造性を発揮できる人の育成を目的としています。そのために、所定の単位を修めたうえで、次の能力を備えた学生に卒業を認定して学位を授与します。

[知識・技能]

1. 事実を客観的、定量的に評価し、変化、効果を把握、予測できる。
2. データサイエンスを活用して新たな価値創出、課題解決、変革に取り組める。

[自主・自律]

3. 社会やビジネスにおける諸問題に対して自ら課題と目標を的確に設定できる。
4. 自ら定めた目標に向かって、常に新しい知識や技術の習得に努め、多角的に考えやり遂げることができる。

[協働・調和]

5. 社会の一員として社会規範やルールに基づいて行動できる。
6. データサイエンスの専門知識・技能を有し、真摯な姿勢で組織内で異なる役割の人と協働できる。

B. デジタルイノベーション学科

デジタルイノベーション学科は、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができる知識と能力を身に付け、社会やビジネスにおける課題の解決手段を実装できる人を育成することを目的としています。そのため、所定の単位を修めたうえで、次の能力を備えた学生に卒業を認定して学位を授与します。

[知識・技能]

1. 企業や社会においてデジタル技術を用いた効率化・価値創造または事業革新を推進できる。
2. 組織のニーズを適切に把握し、デジタル技術の理解に基づき変革や価値創造のための実装ができる。

[自主・自律]

3. 社会やビジネスにおける諸問題に対して自ら課題と目標を的確に設定できる。
4. 自ら定めた目標に向かって、常に新しい知識や技術の習得に努め、多角的に考えやり遂げることができる。

[協働・調和]

5. 社会の一員として社会規範やルールに基づいて行動できる。
6. 組織内の各部署とコミュニケーションをとり、デジタル技術を活用してそれぞれのニーズに応えた全体最適を考え行動できる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

A. データサイエンス学科

データサイエンス学科は、統計学、データサイエンスの高度な専門知識を基盤とし、社会におけるデータサイエンスの活用を実践するカリキュラムを編成します。学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、一般教養科目、外国語科目、専門教育科目を体系的に編成します。教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

[教育内容]

1. 一般教養科目では、4年間の学びの指針となる科目（「実践倫理」「キャリアデザイン入門」）や社会や文化の多様性を尊重し豊かな人間性を醸成する礎となる科目（「文化芸術講座」）を置き、社会・文化・芸術・自然に対する理解を深め、多角的な視点を養う科目群を編成します。
2. 外国語科目では、英語の他主要外国語及び日本語（留学生用）を習熟度別に配置します。
3. 1年次の専門教育科目では、データサイエンス学科での4年間の学びの指針を示し、専門知識を学ぶための基礎を涵養するため基礎科目群を配置する。学部共通科目として「情報学概論」「DXと社会Ⅰ・Ⅱ」を開設し、学科の専門知識の基礎として「データサイエンス入門」を開設する。その上で、1・2年次にはデータサイエンティストとして必要な基礎的能力を身に付けるため、線形代数と解析を主とする数学、基礎統計から多変量解析までの統計学、記述、診断、予測、処方アナリティクスまでのデータサイエンスの講義・演習科目を配置します。
4. データ解析、分析、人工知能（AI）や機械学習の開発に多く用いられる Python を中心に、プログラミング科目を配置します。
5. 思考法やチームワーク、リーダーシップを磨くため、ソフトスキル科目を配置します。
6. 2・3年次の専門教育科目では、応用分野となるビジネス・心理・健康の3領域の専門知識を学ぶドメイン科目群を配置します。同領域の実践的なデータを扱い、統計学的な分析と予測を実行する演習・プロジェクト科目を配置します。
7. 専門教育科目を中心とする教育内容の成果として4年次に「Capstone Project」を配置します。
8. キャリア教育を推進するためキャリア・コア科目とインターンシップを開設します。1年次と2年次後期にキャリア形成に関する課題発見、目標設定、解決に必要な情報収集を行う講義をそれぞれ配置します。

9. 昭和ボストンでの各種留学プログラム（任意参加）をはじめ、正規留学を含む様々な海外研修プログラム（任意参加）を開設し、国際感覚を養う機会を設けます。

〔教育方法〕

10. 各科目の期中において課題、レポート、試験等を課し、フィードバックに努めます。

11. 能動的学修の充実のため、アクティブ・ラーニング、プロジェクト・ベースド・ラーニング等の体験型学習を積極的に取り入れます。

12. グローバル化が進展する現代社会への対応のため、一部の専門教育科目は英語で授業を行います。

〔学修成果の評価〕

13. 学位授与の方針で掲げた能力到達度確認は、卒業要件充足の把握によって行います。

14. 学生の評価は、各科目の成績評価、Capstone Project に対する評価によって行います。

B. デジタルイノベーション学科

デジタルイノベーション学科は、コンピュータサイエンスの専門知識を基盤とし、社会、組織の課題を理解した上でデジタル技術を実装するためのカリキュラムを編成します。学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、一般教養科目、外国語科目、専門教育科目を体系的に編成します。教育内容、教育方法、評価について以下のように定めます。

〔教育内容〕

1. 一般教養科目では、4年間の学びの指針となる科目（「実践倫理」「キャリアデザイン入門」）や社会や文化の多様性を尊重し豊かな人間性を醸成する礎となる科目（「文化芸術講座」）を置き、社会・文化・芸術・自然に対する理解を深め、多角的な視点を養う科目群を編成します。

2. 外国語科目では、英語の他主要外国語及び日本語（留学生用）を習熟度別に配置します。

3. 1年次の専門教育科目では、デジタルイノベーション学科での4年間の学びの指針を示し、専門知識を学ぶための基礎を涵養するため基礎科目群を配置する。学部共通科目として「情報学概論」「DXと社会Ⅰ・Ⅱ」を開設し、学科の専門知識の基礎として「コンピュータサイエンス概論」を開設する。その上で、1・2年次には組織内での情報システム構築に必要な基礎的能力を身に付けるため、数学と統計学の概要をつかむ科目を配置すると同時に、コンピュータサイエンスの専門知識を身につける講義・演習科目を配置します。

4. Web サイト制作やアプリ開発等、フロントエンドで利用される JavaScript を中心に、ソフト開発科目を配置します。
5. 思考法やチームワーク、リーダーシップを磨くため、ソフトスキル科目を配置します。
6. 2・3 年次の専門教育科目では、応用分野となるビジネス・心理・健康の 3 領域の専門知識を学ぶドメイン科目群を配置します。コンピュータサイエンスの社会実装を実践する演習・プロジェクト科目を配置します。
7. 専門教育科目を中心とする教育内容の成果として 4 年次に「Capstone Project」を配置します。
8. キャリア教育を推進するためキャリア・コア科目とインターンシップを開設します。1 年次と 2 年次後期にキャリア形成に関する課題発見、目標設定、解決に必要な情報収集を行う講義をそれぞれ配置します。
9. 昭和ボストンでの各種留学プログラム（任意参加）をはじめ、正規留学を含む様々な海外研修プログラム（任意参加）を開設し、国際感覚を養う機会を設けます。

〔教育方法〕

10. 各科目の期中において課題、レポート、試験等を課し、フィードバックに努めます。
11. 能動的学修の充実のため、アクティブ・ラーニング、プロジェクト・ベースド・ラーニング等の体験型学習を積極的に取り入れます。

〔学修成果の評価〕

12. 学位授与の方針で掲げた能力到達度確認は、卒業要件充足の把握によって行います。
13. 学生の評価は、各科目の成績評価、Capstone Project に対する評価によって行います。

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

A. データサイエンス学科

昭和女子大学の教育目標と学位授与方針を理解し、人と社会とデータサイエンスとの関わりに関心を持ち、将来はデータサイエンス能力によるデータ分析や予測を駆使して課題を解決し、社会に貢献したいという意欲のある人を求めます。また、本学科の教育課程に従い学修する資質と能力を備えた入学者を受け入れます。そのために多様な入試方法で入学者を募集し、多面的、総合的に選抜します。

1. 資質と能力

- 1-1. 高等学校で学ぶ「数学」「外国語」「情報」などの幅広い科目の基礎的知識を有していること。
- 1-2. 「数学」「外国語」などの学習を通じて、問題解決能力、論理的思考力、表現力を身に着けていること。
- 1-3. 学科での学修に必要な情報活用能力を備えていること。

2. 学習習慣

- 2-1. 課題や問題を、数理を用いて表現できるような理論的思考に努める。
- 2-2. データの正しい扱いについて論理的に考えることができる。
- 2-3. 多様な文化・社会的背景を持つ人々とコミュニケーションを図れる。
- 2-4. 多様な人々と協働しながら、主体的に学びを深めていくことができる。

B. デジタルイノベーション学科

昭和女子大学の教育目標と学位授与方針を理解し、人と社会と ICT との関わりに関心を持ち、将来はステークホルダーとエンジニアの橋渡しができる知識と能力によって、社会やビジネスにおける課題を解決し、社会に貢献したいという意欲のある人を求めます。また、本学科の教育課程に従い学修する資質と能力を備えた入学者を受け入れます。そのために多様な入試方法で入学者を募集し、多面的、総合的に選抜します。

1. 資質と能力

- 1-1. 高等学校で学ぶ「数学」「外国語」「情報」などの幅広い科目の基礎的知識を有していること。
- 1-2. 「数学」「外国語」などの学習を通じて、問題解決能力、論理的思考力、表現力を身に着けていること。
- 1-3. 学科での学修に必要な情報活用能力を備えていること。

2. 学習習慣

- 2-1. デジタル技術について関心を持ち、その活用について柔軟な発想を持つように努める。
- 2-2. 身近な社会問題を適切に言語化し、問題解決方法について論理的に考えるよう努める。
- 2-3. 多様な文化・社会的背景を持つ人々とコミュニケーションを図れる。
- 2-4. 多様な人々と協働しながら、主体的に学びを深めていくことができる。

各学科の養成する人材像及び3つのポリシーの各項目との相関及び整合性について、図を示す【資料1】【資料2】。

(4)組織として研究対象とする中心的な学問分野

現在進行中の変革を含め、これから10年、20年の間に、大規模言語モデル(LLM)の急速な発展、ビッグデータの蓄積と利活用の推進等、高度に発達した情報化社会が到来し、今後、日本社会は益々データ駆動型が進むと予想される。このような社会変革に応じ、国内のIT関連の人材の不足が今後大幅に拡大することが見込まれている。特に、先端IT人材と呼ばれる「ビッグデータ」、「IoT」、「人工知能(AI)」、「量子コンピュータ」などを専門知識として有し、適切に活用することのできる人材の今後の需要及びその伸びは大きく、有為な人材不足が大幅に拡大することが危惧される。こうしたデータ活用人材の不足予想に対して、大学を含む国内の高等教育研究機関の果たすべき役割はますます重要となっていくと考えられる。

A. データサイエンス学科

現代社会やビジネスにおける課題として、日本経済の構造的問題と、グローバル化や技術革新に伴う課題を想定しており、これらの課題の解決に専門性をもって貢献できる人材の養成を目的としている。日本社会は現在、少子高齢化の進行、低成長経済の長期化、さらには医療費や社会保障関連費用の増大といった構造的課題に直面している。それゆえ、持続可能な社会システムと経済活動を維持するためには、効率的かつ合理的な意思決定が不可欠である。他方、グローバル化の加速と技術革新により、経営環境はかつてない速度で変化しており、過去の経験や直感に依拠した判断が通用しにくくなっている。こうした時代においては、客観的事実に基づく意思決定、すなわちエビデンス・ベースト・マネジメントの実践が強く求められる。さらに、AIやデータ分析技術の発展により、大量のデータから有用な知見を抽出し、意思決定に活用する「データ・ドリブン・マネジメント」への転換が進んでいる。それゆえ社会の幅広い領域において、データサイエンスの重要性が増しているが、相応の専門性を持つIT系人材の不足や、応用領域となるドメインの知識不足ゆえの実用性の欠くデータ・アナリティクスなどの課題がある。それゆえ、数理知識とコンピュータサイエンスに加え、ドメイン専門性を有するデータサイエンティストの養成は喫緊の課題である。

本学科は、「人に焦点を当てたデータサイエンス」を学科の中核としており、「データサイエンス学」「統計科学(確率・統計学)」に加え、「経営学」「心理学」「健康科学」を研究対象とする中心的な学問分野としている。データサイエンスは、金融市場や気象現象、物流管理など「モノ」や「自然」に関わる分野など、きわめて広範囲に適用可能な汎用的技術であるが、本学科では、人間社会に密着した課題、すなわち「人の行動・状態・関係性」に関する分析を対象に据えることで、社会的・倫理的な含意の深い実践的課題の解決

を目指している。これらの分野におけるデータサイエンスの応用は、実務・研究の両面において世界的に進んでいるが、ビジネスにおける AI 活用の遅れや、実証研究における機械学習の活用が進んでいないなど、日本は全体として先進的な国に比して後塵を拝している。よって、「人に焦点を当てたデータサイエンス」の教育・研究を担う本学科の設置は社会的に意義があると考ええる。

より具体的には、上記3分野の応用として、経営学の観点からは、購買行動の予測、顧客満足度の測定、従業員エンゲージメントの分析などマーケティングや組織行動の視点からの分析は、戦略やファイナンスとともに経営の実務・研究の詩集を成すものである。心理学においては、動機づけやストレス、認知・感情などのメカニズムを理解し、それらがデータとして表現し、分析・予測をすることにより、メンタルヘルスや学習意欲といった現代社会で重要な問題の解決につなげることが可能である。健康科学においては、行動変容や生活習慣病対策、介入の効果測定など、人の身体と行動に関するデータ駆動型の科学的知見が高齢社会への対応や幸福度向上のために不可欠である。そして、この3分野のどれか一つではなく複合的に学ぶことで、専門性と広い視野を兼ね備えたより効果的な「人に焦点を当てたデータサイエンス」としての分析と予測が可能になるであろう。

これらの応用分野を学修・研究対象に含めることで、学生は単なる分析技術の習得にとどまらず、データを通じて「人と社会」に働きかける実践的な能力の習得が可能になる。これを実現するため、カリキュラムにおいては、ビジネス・心理・健康の3領域を「ドメイン科目群」として配置し、分析対象の理解を深める。さらに上位学年での演習科目やキャップストーン・プロジェクトにおいては、これらのドメイン知識に基づいたデータの収集と分析を行うことを求めている。

このような背景を踏まえ、データサイエンス学科では、以下の学問領域を研究対象とする。

- ・データサイエンス学
 - ・統計科学（確率・統計学）
 - ・経営学
 - ・心理学
 - ・健康科学
-

B. デジタルイノベーション学科

社会やビジネスにおける情報システム上の課題としては、日本社会の構造的課題とグローバル競争上の課題、および、デジタル技術を活用したイノベーションに関わる IT 人材の不足と、IT 部門と事業部門との架け橋となる人材の不足を想定している。

現代の日本社会は、少子高齢化や人口減少、低成長経済の長期化に加え、医療費や社会保障関連費用の増大といった構造的課題に直面している。同時に、グローバル化の進展と

技術革新の加速により、企業や組織はこれまでにない変化への対応を迫られている。こうした状況のもとでは、従来の延長線上にある業務改善では限界があり、事業や組織の在り方そのものを変革する「デジタルイノベーション」が不可欠となっている。デジタル技術によるイノベーションを実現するためには、第一に、クラウドコンピューティング、情報セキュリティ、データマネジメントなどの IT システム、IT 資源の活用に関する人材が求められる。また、イノベーションの実行において IT 部門と事業部門との架け橋となるために、デジタル技術の知識・スキルのみならず、技術と目的とを整合させるため、どの技術を用いて何を達成するのかを明確にする要求定義、およびイノベーションの対象となる領域（ドメイン）の知識を有する人材が求められる。

本学科は、「人に焦点を当てたデジタルイノベーション」を学科の中核としており、「コンピュータサイエンス学」「情報システム創成学」に加え、「経営学」「心理学」「健康科学」を研究対象とする中心的な学問分野としている。デジタルイノベーションは、製造業や金融、物流、インフラなどの領域においても幅広く応用されているが、本学科では、人間社会に密着した課題、すなわち「人の行動・状態・関係性」に関わる諸問題を対象とし、デジタル技術を活用して社会的・倫理的な含意を持つ実践的課題の解決を目指している。これらの分野におけるデジタルイノベーションの応用は、国際的には実務・研究の両面で急速に進展している。一方、日本においては、ビジネスにおける AI や ICT の活用の遅れ、実証的な研究基盤の未整備といった課題が残されており、全体として先進諸国に比して後れを取っている状況である。したがって、「人に焦点を当てたデジタルイノベーション」の教育・研究を担う本学科の設置は、現代社会における喫緊の要請に応えるものであり、きわめて意義深いと考えられる。

より具体的には、上記3分野の応用として、経営学の観点からは、デジタル技術を用いた顧客体験の向上、業務プロセスの最適化、人的資源管理の可視化とリアルタイムでのサポートなどが挙げられ、マーケティングや組織行動の視点から企業の競争力を強化する基盤となる。心理学においては、動機づけやストレス、認知・感情といった内面的要素をデジタル技術で可視化・解析し、教育やメンタルヘルス支援に革新をもたらすことが期待される。健康科学の領域では、ウェアラブルデバイスやアプリを活用した行動変容支援、生活習慣病の予防、遠隔医療の発展などが、超高齢社会における健康づくりと QOL 向上に不可欠である。そして、この3分野のどれか一つではなく複合的に学ぶことで、専門性と広い視野を兼ね備えたより効果的な「人に焦点を当てたデジタルイノベーション」の提案と実装が可能になるであろう。

これらの応用分野を学修・研究対象に含めることで、学生は単なる技術的スキルにとどまらず、デジタル技術を活用して「人と社会」に働きかける実践的な能力の習得が可能になる。これを実現するため、カリキュラムにおいては、ビジネス・心理・健康の3領域を「ドメイン科目群」として配置し、それぞれの領域が抱える課題や文脈への理解を深めることを重視している。さらに上位学年での演習科目やキャップストーン・プロジェクトに

においては、これらのドメイン知識に基づいた課題設定、データ収集、技術の応用を通じて、社会的課題の解決に挑む力を養う。

このような背景を踏まえ、デジタルイノベーション学科では、以下の学問領域を研究対象とする。

- ・ コンピュータサイエンス学
 - ・ 情報システム創成学
 - ・ 経営学
 - ・ 心理学
 - ・ 健康科学
-

2. 学部・学科等の特色

本学は、近年、女性の社会進出及び活躍を支援する教育機会の拡充に力を入れており、グローバル教育やキャリア教育、プロジェクト型学修を通じて、時代に即した女性人材の育成に注力してきた。本学部は、数理・情報科学分野における女性の社会進出をさらに促進するため、データサイエンス学科及びデジタルイノベーション学科の2学科からなる総合情報学部としての開設を計画している。

数理・情報科学分野の学部設立の背景には、現代社会におけるデータ活用及びデジタル技術の進展に伴う専門人材の需要増が挙げられる。現代では、膨大なデータの分析による現状分析や意思決定支援、AIを用いた効率化・新規ビジネス創出、さらにはブロックチェーンなどの先端技術による新たなビジネスモデルや社会システムの実現及び担い手不足が、企業や社会にとって重要な課題となっている。データサイエンス、デジタルイノベーションを専門とする人材の養成は、これらの社会的要請に応えるものである。データサイエンス学科は主にデータアナリティクス、デジタルイノベーション学科は主としてデジタル技術の社会実装に関する教育研究を扱う。

本学部は、数理・情報関連の科目のみならず、ドメイン（ビジネス、心理、健康）、ソフトスキル（思考能力及び協働のための対人能力）に関連する科目を充実させた文理融合型学部として設立する。ドメイン知識とソフトスキルは、データ駆動型のマネジメント、デジタル技術を用いた革新のいずれにおいても、新技術を応用する領域（ドメイン）の実態を合わせた分析と提案、及び多様なステークホルダーとの協働・連携のために不可欠である。それゆえ、ドメイン、ソフトスキルの科目をカリキュラムの中核に置き、十分な専門性を持つ教員を配置することによって、理論・知識と実践能力を備えた人材の養成を目

指す。

各学科の特色としては、以下となる。

A. データサイエンス学科

データサイエンスの3要素（コンピュータサイエンス、数学・統計学、ドメイン専門性）をすべて備えた科目構成とし、データサイエンスの標準的な体系を構築している。これら3要素の科目群は、プログラミング言語を用いた実装、数学的理解を含み、深い理論的理解と実践能力の双方の育成を目的としている。本学科はデータサイエンスの中でも特にデータアナリティクスを強みとしており、統計学、機械学習、最適化数学を用いた4つのアナリティクス（記述、診断、予測、処方）を網羅した点が特徴である。

B. デジタルイノベーション学科

コンピュータサイエンス、数学・統計学、ソフト開発の3領域を含み、特にコンピュータサイエンス分野での新技術を、ソフト開発に含まれる要求工学の知識を用いて実践に応用するための体系的知識、実践力の養成を目指した構成である。コンピュータサイエンスはデータ駆動型社会を支える先端技術（クラウドコンピューティング、サイバーセキュリティ等）で構成し、ソフト開発科目は開発者の養成のみならず、要求工学の知識に基づき技術を実践に応用するための能力の涵養を目的とした点が特徴である。

ドメイン科目とソフトスキル科目を充実させ、両学科の科目構成には国内の大学ではまだ少ない特徴を備えている。また、国際的な専門機関や海外大学の標準的カリキュラム（例：Association for Computing Machinery、IBM、London School of Economics、University of Santiago de Compostela など）を反映することで、国際的な標準化と独自性を兼ね備えた構成としている。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科及び学位の名称とその理由

本学部は、現代の諸課題を発見・解決するため、数理能力とAIなど先端デジタル技術を活用した分析・思考やデータに基づく意思決定を実践分野に応用し、ソフトスキルを駆使しながらデジタル革新を推進する人材を養成する。このような趣旨から学部名称を「総合情報学部」とする。

本学部は2つの学科を擁する。第一の学科は、現代社会やビジネスにおける課題に対

し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。このことから、学科名称を「データサイエンス学科」とする。この学科はデータサイエンスに関する科目を中心とした教育課程であることから、取得できる学位名称を「学士（データサイエンス）」とする。

第二の学科は、社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。このように情報システムとコンピュータサイエンスの専門知識から、デジタル技術の社会実装を伴う革新を担うことから、学科名称を「デジタルイノベーション学科」とする。この学科は、情報システムとコンピュータサイエンスの専門知識と社会実装に関わる専門知識の文理融合的な教育課程であることから、取得できる学位名称を「学士（デジタルイノベーション）」とする。

(2) 学部・学科及び学位の表記

学部・学科の名称及び学位の表記は次のとおりである。

総合情報学部	Faculty of Informatics
データサイエンス学科	Department of Data Science
学士(データサイエンス)	Bachelor of Data Science
デジタルイノベーション学科	Department of Digital Innovation
学士(デジタルイノベーション)	Bachelor of Digital Innovation

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

A. データサイエンス学科

(1) 教育課程の特色

データサイエンス学科の教育課程の特色として以下の3点があげられる。

第一に、1・2年次に高校からの接続を考慮した【初年次教育】【数学・統計学】科目群を充実させ、専門教育科目に必要な基礎力を養う点があげられる。文理融合の学科として文系/理系を問わずデータサイエンスに必要な数理的内容について、実践例を交えながら理解を深めていく形で履修を進める。また同時に【基礎科目群】において情報化社会や情報倫理に関する教育を行い、【プログラミング】【データサイエンス理論】【データサイエンス演習】等

の専門性の高い科目群へと学びを円滑に繋げられるように配置している。

第二に、単にデータサイエンスに関する知識を蓄積しスキルを身につけるだけでなく、これらを実社会において利活用するための教育を行う科目群を設定している点があげられる。ここには〔ドメイン〕〔ソフトスキル〕科目群が含まれる。〔ドメイン〕科目群は、データサイエンスを利活用する3つのドメイン（ビジネス・心理・健康）の専門知識を身につけるための科目群である。データサイエンスを実践的に利活用するには該当分野の専門知識が不可欠であるため、学生の興味・関心に応じて複数の領域を履修することができる選択科目として2・3年次に配置している。〔ソフトスキル〕科目群は、思考法、チームワークやリーダーシップなど社会人として業務に取り組む上で必要不可欠な人的スキルを養うための科目で、学部共通の必修科目として1～3年次に順次性をもって配置している。

第三に、この『数理的基盤に基づくデータサイエンスの知識とスキル』、『3つのドメイン領域における専門性』、『ソフトスキル』の3つを有機的に結合する文理融合的なカリキュラム全体で、「養成する人材像」に示された人材育成に取り組む点があげられる。その最終成果は4年次の〔卒業研究・演習〕科目群において示されることになる。すなわち、実社会において多様な人々と連携しながら、データサイエンス領域の専門知識を持った上で、その利活用に取り組むことができる人材を効果的に育成する教育課程となっている。

（2）教育課程編成の考え方

①配当年次

データサイエンス学科における専門分野の体系性に基づき、1年次には入門的・導入的な科目を配置し、2年次以降にそれらを基盤とした専門教育科目を基礎から応用へと段階的に学年・学期別に配置するように編成している。具体的には、1年次に〔初年次教育〕及び〔基礎科目群〕〔数学・統計学〕〔プログラミング〕〔ソフトスキル〕の基礎的な科目から履修を開始し、それらに加えて2年次以降で〔データサイエンス理論〕〔データサイエンス演習〕〔ドメイン〕科目についても基礎的な科目から応用的な科目へと履修を進めることになる。これらの科目群での理論の理解と演習における実践のフィードバックループを形成することで、知識、スキルのより深い定着を目指す。 $+\alpha$ の〔関連〕科目は内容に応じて配置され、4年次に学びの集大成として〔卒業研究・演習〕が配置されている。

②必修・選択の別

データサイエンス学科では、専門分野の基礎となる〔初年次教育〕〔基礎科目群〕〔数学・統計学〕〔プログラミング〕のすべての科目、〔データサイエンス理論〕の基礎的な内容に相当する科目、及び人的スキルを養う〔ソフトスキル〕科目を必修科目としている。さらに、実践と応用を繰り返す2・3年次の〔データサイエンス演習〕、学びの最終成果を示す4年次の〔卒業研究・演習〕についても必修科目としている。これらの必修科目の履修により、データサイエンスの基礎から応用までの知識・理論と実践的スキルを習得することができる。

一方で、[データサイエンス理論]の応用的な内容に相当する科目、ビジネス・心理・健康の3領域の基礎知識を学ぶ[ドメイン]科目、+ α の[関連]科目については、学生が自身の興味関心に応じて、データサイエンスそのものをより深く学び、利活用する分野の専門性を高めることができるよう、選択科目としている。

③主要授業科目の設定

データサイエンス学科で全学生が学ぶ中心的な内容を示すものとして、必修科目を主要授業科目と位置付けている。ただし、Statistics Workshop、Descriptive Analytics Workshop、Machine Learning Workshopについては、必修科目ではあるが主要授業科目からは除いている。このWorkshopの3科目は、既に履修している統計学、記述アナリティクス、予測アナリティクスにてインプットした知識を用いて、英語の専門書を用いて学生自身が講師を務めてお互いに教え合うというアウトプット型の授業である。日本語で学んだ知識に基づいて英語の専門書の内容を、自分で工夫してアウトプットするものであり、外国語での情報収集力と発信力に加え、知識を自らの言葉で整理しなおして発信するスキルの獲得を目的としている。Workshopの3科目は統計学・アナリティクス関連の分野に位置づけられ、その基幹となる知識のインプットは統計学と各アナリティクス科目でカバーしているため、より基礎的な部分である統計学と各アナリティクス科目のみを主要授業科目としている。

(3)教育課程の体系性

データサイエンス学科の教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づき、次のとおり体系的に編成している。

《全学共通》

[一般教養科目]

専門分野に限定されず、幅広く多様な分野の知識や視点を身につけることを目的としている。必修教養、基幹教養(人文系)・(社会系)・(自然科学系)、発展教養、体験型教養の分野で構成されている。

〈CP1〉

[外国語科目]

国際化が進む現代社会において、世界中の多様な人々と円滑にコミュニケーションを図る能力や、異文化理解を深めることを目的としている。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語、韓国語などを学べる環境を整えている。

〈CP2〉

《専門教育科目》

[初年次教育]

初年次教育として、高等学校までに学習した数理的知識と習得したデジタルスキルを用いて実践と応用を行う「データサイエンス基礎演習」を初年次教育科目として配置し、データサイエンス学科での4年間の学びの指針を示す。

〈CP 3〉

[基礎科目群]

データサイエンス学科で専門教育科目を学ぶために必要な基礎力を養い、その社会的意義を理解するため、学部共通科目として「情報学概論」「DXと社会Ⅰ・Ⅱ」「情報倫理」、学科の基礎科目として「データサイエンス入門」を1・2年次に配置する。

〈CP 3〉

[数学・統計学]

データサイエンスに必要な数理的な基礎力を身に付けるための「数学基礎」「線形代数Ⅰ・Ⅱ」「解析」、及び「統計学基礎」「統計学」などの数学・統計学科目を、1・2年次に配置する。

〈CP 3〉

[ソフトスキル]

実社会で実践的活動を行う際に必要な能力を養うため、思考法や、チーム及びプロジェクトのマネジメント能力を磨くため「クリティカルシンキング」や「チームマネジメント」などのソフトスキル科目を学部共通の必修科目として1・2年次に配置する。

〈CP 5〉

[データサイエンス理論]

数理的な基礎力とPythonによるプログラミングの基礎を身につけた上で、データサイエンスに取り組む「記述・診断・予測・処方アナリティクス」を、必修科目として2～3年次に順次配置する。この中には人工知能（AI）の基盤となる機械学習の内容も含まれる。さらに、様々なデータ解析法や深層学習などの高度なデータサイエンス理論を扱う科目、そして以下[ドメイン]に示す3領域におけるデータ利活用の手法を学ぶ科目群も、3年次以降に選択科目として複数配置する。

〈CP 3〉

[プログラミング]

データサイエンスにPythonを用いるためのプログラミング科目として、1年次に「Python基礎」「Python統計学」を配置して基礎力を身につけ、実際にデータの記述・診断・予測・

処方を行う「Python アナリティクス」を2～3年次に配置する。

〈CP 4〉

[データサイエンス演習]

2年次及び3年次までに学習したデータサイエンス学科の教育内容を、実践と応用を繰り返すことで定着させるため、2年次に「データサイエンス基礎プロジェクト」、3年次に「データサイエンス演習」を前・後期にそれぞれに配置している。

〈CP 6〉

[ドメイン]

2・3年次に、データサイエンスを利活用する分野となるビジネス・心理・健康の3領域の基礎知識を学ぶドメイン科目群を、学部共通の選択科目として配置する。

〈CP 6〉

[関連]

最先端のデータサイエンスや、最新のデジタル技術の活用例などを実務家や新進気鋭の研究者から学ぶ「データ活用特講Ⅰ・Ⅱ」や、本学がアメリカに所有する海外キャンパス「昭和ボストン」を利用した「海外情報学研修」なども選択科目として配置し、広く深い学びを展開できるようにする。

〈CP 6〉、〈CP 9〉（海外情報学研修）

[卒業研究・演習]

データサイエンス学科での学びを最終成果としてまとめるため、いわゆるゼミに相当する「データサイエンス専門演習」を4年次の前・後期に配置し、その最終成果をデータサイエンス学科での学びの集大成として「Capstone Project」と位置付ける。

〈CP 7〉

教育課程とカリキュラム・ポリシーの関連性については上述のとおりであるが、教育課程とディプロマ・ポリシーの関連性については、カリキュラムマップを示す【資料3】。

B. デジタルイノベーション学科

(1) 教育課程の特色

デジタルイノベーション学科の教育課程の特色として以下の3点があげられる。

第一に、1・2年次に高校からの接続を考慮した【初年次教育】[数学・統計学]科目群を

充実させ、専門教育科目に必要な基礎力を養う点があげられる。文理融合の学科として文系/理系を問わずデータとデジタル技術の利活用に必要な数理的内容について、実践例を交えながら理解を深めていく形で履修を進める。また同時に〔基礎科目群〕において情報化社会や情報倫理に関する教育を行い、〔コンピュータサイエンス〕〔ソフト開発〕〔デジタルイノベーション演習〕等の専門性の高い科目群へと学びを円滑に繋げられるように配置している。

第二に、単にデータとデジタル技術に関する知識を蓄積しスキルを身につけるだけでなく、これらを実社会において利活用するための教育を行う科目群を設定している点があげられる。ここには〔ドメイン〕〔ソフトスキル〕科目群が含まれる。〔ドメイン〕科目群は、デジタル技術を活用する3つのドメイン（ビジネス・心理・健康）の専門知識を身につけるための科目群である。デジタル技術を実践的に利活用するには該当分野の専門知識が不可欠であるため、学生の興味・関心に応じて複数の領域を履修することができる選択科目として2・3年次に配置している。〔ソフトスキル〕科目群は、思考法、チームワークやリーダーシップなど社会人として業務に取り組む上で必要不可欠な人的スキルを養うための科目で、学部共通の必修科目として1～3年次に順次性をもって配置している。

第三に、この『数理的基盤に基づくデータとデジタル技術の知識とスキル』、『3つのドメイン領域における専門性』、『ソフトスキル』の3つを有機的に結合する文理融合的なカリキュラム全体で、「養成する人材像」に示された人材育成に取り組む点があげられる。その最終成果は4年次の〔卒業研究・演習〕科目群において示されることになる。すなわち、実社会において多様な人々と連携しながら、データとデジタル技術の専門知識を持った上で、その利活用に取り組むことができる人材を効果的に育成する教育課程となっている。

（2）教育課程編成の考え方

デジタルイノベーション学科における専門分野の体系性にに基づき、1年次には入門的・導入的な科目を配置し、2年次以降にそれらを基盤とした専門教育科目を基礎から応用へと段階的に学年・学期別に配置するように編成している。具体的には、1年次に〔初年次教育〕及び〔基礎科目群〕〔数学・統計学〕〔ソフトスキル〕〔ソフト開発〕の基礎的な科目から履修を開始し、それらに加えて2年次以降で〔コンピュータサイエンス〕〔デジタルイノベーション演習〕〔ドメイン〕科目についても基礎的な科目から応用的な科目へと履修を進めることになる。これらの科目群での理論の理解と演習における実践のフィードバックループを形成することで、知識、スキルのより深い定着を目指す。 $+\alpha$ の〔関連〕科目は内容に応じて配置され、4年次に学びの集大成として〔卒業研究・演習〕が配置されている。

②必修・選択の別

デジタルイノベーション学科では、専門分野の基礎となる〔初年次教育〕〔基礎科目群〕〔数学・統計学〕のすべての科目（数学・統計学の1科目を除く）、〔コンピュータサイエンス〕〔ソフト開発〕の基礎的な内容に相当する科目、及び人的スキルを養う〔ソフトスキル〕

科目を必修科目としている。さらに、実践と応用を繰り返す2・3年次の「デジタルイノベーション演習」、学びの最終成果を示す4年次の「卒業研究・演習」についても必修科目としている。これらの必修科目の履修により、デジタル技術の基礎から応用までの知識・理論と実践的スキルを習得することができる。一方で、「コンピュータサイエンス」「ソフト開発」の応用的な内容に相当する科目、ビジネス・心理・健康の3領域の専門知識を学ぶ「ドメイン」科目、+αの「関連」科目については、学生が自身の興味関心に応じて、コンピュータサイエンスやソフト開発をより深く学び、デジタル技術を活用する分野の専門性を高めることができるよう、選択科目としている。

③主要授業科目の設定

デジタルイノベーション学科で全学生が学ぶ中心的な内容を示すものとして、すべての必修科目を主要授業科目と位置付けている。

(3)教育課程の体系性

デジタルイノベーション学科の教育課程は、カリキュラム・ポリシーに基づき、次のとおり体系的に編成している。

《全学共通》

[一般教養科目]

専門分野に限定されず、幅広く多様な分野の知識や視点を身につけることを目的としている。必修教養、基幹教養(人文系)・(社会系)・(自然科学系)、発展教養、体験型教養の分野で構成されている。

〈CP1〉

[外国語科目]

国際化が進む現代社会において、世界中の多様な人々と円滑にコミュニケーションを図る能力や、異文化理解を深めることを目的としている。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、中国語、韓国語などを学べる環境を整えている。

〈CP2〉

《専門教育科目》

[初年次教育]

初年次教育として、高等学校までに学習した数理的知識と習得したデジタルスキルを用いて実践と応用を行う「デジタルイノベーション基礎演習」を初年次教育科目として配置し、デジタルイノベーション学科での4年間の学びの指針を示す。

〈CP3〉

[基礎科目群]

デジタルイノベーション学科で専門教育科目を学ぶために必要な基礎力を養い、その社会的意義を理解するため、学部共通科目として「情報学概論」「DX と社会 I・II」「情報倫理」、学科の基礎科目として「コンピュータサイエンス概論」「データサイエンス入門」を1・2年次に配置する。

〈CP 3〉

[数学・統計学]

データやデジタル技術を学ぶ上で必要な基礎的能力を身に付け、データを利活用してデジタル化を推進するための「数学基礎」「統計学基礎」「Python 入門」「機械学習入門」などの数学・統計学科目を、1年時から順次性をもって配置する。

〈CP 3〉

[ソフトスキル]

実社会で実践的活動を行う際に必要な能力を養うため、思考法やチーム及びプロジェクトのマネジメント能力を磨くため「クリティカルシンキング」や「チームマネジメント」などのソフトスキル科目を学部共通の必修科目として1・2年次に配置する。

〈CP 5〉

[コンピュータサイエンス]

データとデジタル技術を利活用していく上での基礎的な知識とスキルを身につけた上で、情報システムの仕組みやマネジメント、IoT、セキュリティ対策、画像処理技術などを学び、デジタル技術に関する専門性を高めるための様々なコンピュータサイエンス科目群を2～3年次に順次性をもって配置している。

〈CP 3〉

[ソフト開発]

Web サイト制作やアプリ開発等で利用される JavaScript などを用いたモデリングとプログラミングに必要な知識とスキルを身につけるソフト開発科目群を1～3年次に、順次性を踏まえて配置している。

〈CP 4〉

[デジタルイノベーション演習]

2年次に「デジタルイノベーション基礎プロジェクト」、3年次に「デジタルイノベーション演習」を前・後期それぞれに配置し、その時点までに学習したデジタルイノベーション学科の教育内容を、実践と応用を繰り返すことで定着させるカリキュラム構成としている。

〈CP 6〉

[ドメイン]

2・3 年次に、データサイエンスを利活用する分野となるビジネス・心理・健康の 3 領域の基礎知識を学ぶドメイン科目群を、学部共通の選択科目として配置する。

〈CP 6〉

[関連]

最先端のデータサイエンスや、最新のデジタル技術の活用例などを実務家や新進気鋭の研究者から学ぶ「データ活用特講Ⅰ・Ⅱ」や、本学がアメリカに所有する海外キャンパス「昭和ボストン」を利用した「海外情報学研修」なども配置し、データサイエンスの最新の情報、社会との連携、海外での状況などを学ぶ機会を用意する。

〈CP 6〉、〈CP 9〉(海外情報学研修)

[卒業研究・演習]

デジタルイノベーション学科での学びを最終成果としてまとめるため、いわゆるゼミに相当する「デジタルイノベーション専門演習」を 4 年次の前・後期に配置し、その最終成果をデジタルイノベーション学科での学びの集大成として「Capstone Project」と位置付ける。

〈CP 7〉

教育課程とカリキュラム・ポリシーの関連性については上述のとおりであるが、教育課程とディプロマ・ポリシーの関連性については、カリキュラムマップを示す【資料 4】。

(4)10 月入学

本学では、「Showa Direct 4.5」という留学生向けプログラムを実施している。本プログラムは令和 6 年に文部科学省の「留学生就職促進教育プログラム」として認定されており、留学生が 10 月に入学し、大学での専門的な教育を学ぶ前段階として、半年間集中的に日本語を学習する。その後、通常の 4 月入学の学生とともに、正規課程の授業を履修し、キャリア教育科目やインターンシップ経験を経て合計 4.5 年間で学位取得を目指す。本プログラムは、10 月入学ではあるが、学科の専門教育科目の履修は 4 月から開始されるため、教育課程の体系性を損なうことはなく、入学時期のずれによる教員の負担増加は生じない。

(5)単位時間数・授業期間

本学学則第 13 条で「1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定めている。授業の方法は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行うものとし、当該授業における教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって 1 単位としている。

なお、本学の授業期間は、教育の質を維持・向上させるため、学則第 26 条で「学年を分けて前期・後期の 2 学期とし、各学期の授業期間は原則として 15 週にわたるもの」と定めている

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の内容に応じた授業方法、学生数、配当年次

A. データサイエンス学科

① 数学や統計学の基礎的な授業

数学や統計学は、本学科の専門分野を学ぶ上で欠かせない基礎的なツールであり、学びの土台となる重要な科目である。そのため、これらの科目は 1 年次に配置し、少人数クラスで実施する。データサイエンス学科入学定員 60 名に対して、2 クラス開講(1 クラス 30 名程度)とする。

- ・ 数学基礎
- ・ 解析 等

② 知識の習得に重点を置いた大人数授業

総合情報学部 2 学科(データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科)の学生を融合したクラスを編成することで、学びの基盤となる標準的内容を教授することを目指す。また、さまざまなバックグラウンドや考え方を持つ学生による意見を知る機会を設け、多角的な視点で学びを深めることを目的とする。学部で 1 クラス 開講(1 クラス 110 名程度)の講義形式とする。なお、本学科は知識・スキルの習得だけでなく、利活用・実践を目的としていることから、知識の習得に重点をおいた科目の多くは、1～2 年次に配置している。

- ・ 情報学概論
- ・ DX と社会 I・II 等

③ グループ学習を取り入れた実践的な授業

幅広いトピックや課題を扱うことを目的としており、学生が多様な立場から考えや意見を交換できるよう、グループ学習を取り入れた講義形式で行う。

学科の専門知識を学ぶ科目群であるデータサイエンス理論は、主に 2～3 年次に配置しており、学科で 1～2 クラス開講(1 クラス 30～60 名程度)とする。

学部共通の必修科目であるソフトスキル科目は、2～3 年次から本格的に始まる演習・プロジェクト科目を意識して、1～2 年次に配置しており、学部で 3～4 クラス開講(28～37 名程度)とする。

学部共通の選択科目であるドメイン科目は、学生の興味関心の変化に応じて、臨機応変に選択できるよう、2～3 年次に配置しており、学部で 1 クラス開講(20～50 名程度想定)とする。

- ・記述アナリティクス
- ・デザイン思考
- ・組織行動論 等

④学生が主体的に取り組む少人数アクティブ・ラーニング授業

Python を用いたプログラミング科目は、学生が自ら手を動かしながら学ぶアクティブ・ラーニング形式で行うため、少人数での授業を実施する。難易度に応じて 1～3 年次に配置しており、学科で 2 クラス開講(1 クラス 30 名程度)とする。

- ・Python 基礎
- ・Python アナリティクス I・II 等

⑤演習・プロジェクト授業

基礎から徐々に専門性を高めていく形で履修し、身につけた知識とスキルを利活用するため、少人数・双方向性を重視したゼミ形式で行う。個別に行うアクティブ・ラーニングや、グループで行うプロジェクト・ベースド・ラーニングを通じて、実践力を身につける。1～4 年次まで毎学期、必修として開講し、2～8 名の基幹教員が担当する(1 クラス 8～30 名程度)。

- ・データサイエンス基礎プロジェクト I・II
- ・データサイエンス専門演習 I・II 等

B. デジタルイノベーション学科

①数学・統計学の基礎的な授業

数学や統計学は、本学科の専門分野を学ぶ上で欠かせない基礎的なツールであり、学びの土台となる重要な科目である。そのため、これらの科目は 1 年次に配置し、少人数クラスで実施する。デジタルイノベーション学科入学定員 50 名に対して、2 クラス開講(1 クラス 25 名程度)とする。

- ・数学基礎

- ・統計学基礎 等

②知識の習得に重点を置いた大人数授業

総合情報学部2学科(データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科)の学生を融合したクラスを編成することで、学びの基盤となる標準的内容を教授することを目指す。また、さまざまなバックグラウンドや考え方を持つ学生による意見を知る機会を設け、多角的な視点で学びを深めることを目的とする。学部で1クラス開講(1クラス110名程度)の講義形式とする。なお、本学科は知識・スキルの習得だけでなく、利活用・実践を目的としていることから、知識の習得に重点をおいた科目の多くは、1～2年次に配置している。

- ・情報学概論
- ・DXと社会Ⅰ・Ⅱ 等

③グループ学習を取り入れた実践的な授業

幅広いトピックや課題を扱うことを目的としており、学生が多様な立場から考えや意見を交換できるよう、グループ学習を取り入れた講義形式で行う。

学科の専門知識を学ぶ科目群であるコンピュータサイエンスは、主に2～3年次に配置しており、学科で1クラス開講(1クラス50名程度)とする。

学部共通の必修科目であるソフトスキル科目は、2～3年次から本格的に始まる演習・プロジェクト科目を意識して、1～2年次に配置しており、学部で3～4クラス開講(28～37名程度)とする。

学部共通の選択科目であるドメイン科目は、学生の興味関心の変化に応じて、臨機応変に選択できるよう、2～3年次に配置しており、学部で1クラス開講(20～50名程度想定)とする。

- ・データエンジニアリング
- ・クリティカルシンキング
- ・デジタルマーケティング 等

④学生が主体的に取り組むアクティブ・ラーニング授業

モデリングとプログラミングに必要な知識とスキルを身につけるソフト開発科目は、学生が自ら手を動かしながら学ぶアクティブ・ラーニング形式で行うため、少人数での授業を実施する。難易度に応じて1～3年次に配置しており、学科で2クラス開講(1クラス25名程度)とする。より難易度が高く、希望者のみが履修する選択科目は1クラス開講(25名程度想定)とする。

- ・UMLモデリング
- ・オブジェクト指向プログラミング 等

⑤演習・プロジェクト授業

基礎から徐々に専門性を高めていく形で履修し、身につけた知識とスキルを利活用するため、少人数・双方向性を重視したゼミ形式で行う。個別に行うアクティブ・ラーニングや、グループで行うプロジェクト・ベースド・ラーニングを通じて、実践力を身につける。1～4年次まで毎学期、必修として開講し、2～6名の基幹教員が担当する(1クラス8～25名程度)。

- ・デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅠ・Ⅱ
 - ・デジタルイノベーション専門演習Ⅰ・Ⅱ 等
-

(2)履修指導

履修指導については、入学当初に学科の教務担当教員(教務部委員)が卒業要件や履修方法、ルールについて詳細に説明する。日常的には、クラスアドバイザー(学生の学修・生活・進路における適切な助言と指導を行うために学年毎に配置する教員)の個別指導を受けながら、学生自身で計画的に履修を進める。また、履修指導には、在学生向けポータルサイト「UPSHOWA」上に設けたポートフォリオシステムも活用し、学生のDP達成度やGPA推移の可視化、正課内・外の活動記録を確認することで、履修指導等に役立てている。クラスアドバイザーは適宜、教務担当教員(教務部委員)と情報を共有し連携することで円滑な履修指導を進める。

また、各科目のシラバスにおいて、各授業科目の到達目標、授業計画・方法、成績評価基準・方法に加え、準備学習・事後学習の内容やオフィスアワーの情報を記載することにより、学生の主体的な学習計画、各教員による個別指導の時間を確保することができるようにする。

(3)卒業要件

両学科とも4年間以上在籍し、一般教養科目17単位以上、外国語科目8単位以上、専門教育科目100単位以上の合計125単位以上を修得することを卒業要件としている。

なお、多様なメディアを利用して行う授業により修得する単位数は、60単位を超えないものとする旨、本学学則第14条にて定めている。

①一般教養科目(17単位以上)

必修教養、基幹教養(人文系)・(社会系)・(自然科学系)、発展教養、体験型教養の分野から幅広く履修する。全学共通教育センターが開設する一般教養科目のほか、他学科の専門教育科目のうち指定された科目は、全学生が一般教養科目として履修することができる。

必修：3 単位

選択必修：2 単位

選択：12 単位以上

②外国語科目（8 単位以上）

原則として、1 年次に習熟度別にクラス分けされた英語 4 単位を履修し、4 技能の習得を目指す。それ以外の 4 単位は学生の希望に応じ選択の外国語科目を履修する。

必修：4 単位

選択：4 単位以上

※第一言語及び第一言語同様に自由に使用できる言語は、外国語科目としての履修が認められない場合があり、他の言語で卒業要件単位を修得する必要がある。

③専門教育科目（100 単位以上）

1・2 年次は基礎科目群、数学・統計学科目群を必修の専門教育科目として履修する。また並行して 1～3 年次にデータサイエンス学科ではプログラミング科目群、デジタルイノベーション学科ではソフト開発科目群を、それぞれ必修科目として履修する。これらの科目群はより専門的なデータサイエンスやコンピュータサイエンスを学び、分析と予測、提案と実装を行うために不可欠な知識とスキルであるため、上級レベルの一部科目以外はすべて必修科目として設定されている。さらに 2 年次以降に配置されたデータサイエンス学科のデータサイエンス理論科目群、デジタルイノベーション学科のコンピュータサイエンス科目群は、科目の難易度や重要性に応じて必修科目もしくは選択科目に設定され、それぞれ設定に応じた履修をすることになる。

また両学科共通の専門教育科目として、1・2 年次に履修するソフトスキル科目群は必修科目、2・3 年次に履修するドメイン科目は選択科目として履修することになる。

このように履修を進める中で、1～4 年次の各学期に設定された演習科目は、習得した知識とスキルを実践に活かすための必修科目として履修する。さらに、昭和ポストンキャンパスを活用した「海外情報学研修」、最先端のデータ活用例を学ぶ「データ活用特講Ⅰ・Ⅱ」も選択科目として履修できる。そして 4 年次を通じて、卒業研究やプロジェクトに相当する Capstone Project を必修科目として履修し、学びの集大成とする。

A. データサイエンス学科

必修：74 単位

選択：26 単位以上（うち、ドメイン科目から 12 単位以上）

B. デジタルイノベーション学科

必修：80 単位

選択：20 単位以上（うち、ドメイン科目から 10 単位以上）

（４）履修モデル

総合情報学部において育成する人材は、業態・職種・部門によらない汎用性の高い知識とスキルを要する人材であるため、ここでは両学科においてデータサイエンスやデジタル技術の専門性を高める学びを活かす職業と、3つのドメイン各領域へのデータサイエンスやデジタル技術の適用を目指す学びを活かす職業に分け、それぞれの履修モデルを示す【資料５】【資料６】。

A. データサイエンス学科

1 年次から学科基礎科目、数学・統計学の科目、Python によるプログラミング科目、そしてソフトスキル科目を必修科目として履修する。2 年次からは記述・診断・予測・処方アナリティクスを中心としたデータサイエンス理論も必修科目として履修する。ドメインの選択科目は3領域の概論的な科目を履修した上で、個人の興味関心に応じてさらに必要な科目を選択科目として履修する。3 年次以降になると深層学習などのさらに専門性の高いデータサイエンス理論の科目を選択科目として履修し、データサイエンスに関する専門性の高い知識とスキルを身につける。

B. デジタルイノベーション学科

1 年次から学科基礎科目、数学・統計学の科目、モデリングとプログラミングに必要な知識とスキルを身につけるソフト開発科目、そしてソフトスキル科目を必修科目として履修する。2 年次からはデータマネジメントや IoT など扱うコンピュータサイエンスも必修科目として履修する。ドメインの選択科目は3領域の概論的な科目を履修した上で、個人の興味関心に応じてさらに必要な科目を選択科目として履修する。3 年次以降になるとさらにセキュリティやクラウドなど専門性の高いコンピュータサイエンス科目を選択科目として履修し、デジタル技術に関する専門性の高い知識とスキルを身につける。

（５）数学や英語に自信のない学生へのサポート

多様な形式での入学者選抜により選抜された入学予定者のうち、数学や英語に自信のない学生に対しては、入学前の段階で「数学」や「外国語（英語）」に対する不安を軽減し、学科での学修を進める上で必要な資質と能力を十分に備えるためのサポートを行う。

まず、総合型選抜や学校推薦型選抜により選抜された入学予定者に対して、入学後に両学科での学修を円滑に進めるため、高等学校までの復習と入学後の教育課程の予習に適切

な内容を備えた「数学」や「外国語」の入学前準備教育を提供する。そのうち「外国語（英語）」については昭和女子大学では全学部学科の入学予定者必修の形で既に導入されている e-learning 教材を活用する。さらに「数学」についても両学科で独自に、高等学校の「数学」の復習的な内容（数学に自信のない学生向け）、あるいはデータサイエンスの入門的内容（数学が得意な学生）、の e-learning 教材を導入する予定である。また、スクーリング時に入学予定者からの直接的な相談にも応じ、手厚いサポート体制を整えている。

同様に「外国語」あるいは「数学」のいずれかを選択必修とする一般選抜の A 日程・B 日程においても、選抜された入学予定者のうち選択しなかった「数学」あるいは「外国語」に自信のない者が存在することが予想される。こちらに対しても、合格発表後にオンラインを活用した入学前準備教育を提供する予定である。例えば、世界で 1000 万人の学習者がいる小中高生向けオンライン学習サイト「カーンアカデミー」

(<https://ja.khanacademy.org/>) の日本語版を入学前学習のリソースとして紹介する。カーンアカデミーは非営利団体が運営する無料の学習サイトであり、入学予定者は経済的な負担なく学習が可能である。当サイトが提供するコンテンツのうち「代数入門」「代数」「統計と確率」「基本図形と測定」を課題として課す。

さらに入学後も、適切な初年次教育と基礎教育を通じて弱点を補完し、専門性を獲得できるようカリキュラムを整備している。「数学」に関しては、初年次に高校数学から専門的な数学科目へと円滑に進むための橋渡し教育としての機能も持つ「数学基礎」を設置する。本科目は、両学科における数学科目群の中で最も基本的な部分を扱う科目であり、統計学、解析、線形代数を学ぶうえでの基礎知識の習得を目的としている。本科目の趣旨は、高校数学で学習した事項が統計分析、機械学習やコンピュータサイエンスとどのように関連しているか、どのように応用されているかを理解することである。そのため、高校数学の範囲内の概念や定理の説明も含め、高校数学から専門数学への橋渡しとして、前提知識を確認と実践での応用方法の理解が主な目的である。

また、本科目では、担当教員監修のもと、オンライン掲示板等を活用した学生相互の Q & A やピアサポートおよびティーチングアシスタントによる支援を取り入れることを想定している。ピアサポートとは、同じ立場の者同士がサポートし合うことで、開設初年度は同学年の中で数学が得意な学生が、数学に自信のない学生をサポートする。開設 2 年目以降は数学が得意な上級生が数学に自信のない下級生をサポートする、という形の支援である。さらに開設 3・4 年目には十分に専門性を身につけた上級生をティーチングアシスタントとして授業サポートに参加してもらう。このような、教員監修のもと学生が共に学び合う仕組みを通して、個々の学習意欲や主体性を引き出しながら、基礎力に不安のある学生は授業内容から学び、十分な数学能力を持つ学生は基礎力に不安のある学生への助言により理解を深めるという形で、入学時の数学能力にかかわらず履修者全員が自身の数学能力を向上させられる科目として設計している。

同様に「外国語（英語）」に自信のない学生に対しても、外国語科目の履修や海外研修などを通じて、言語スキルを磨く多様な機会を提供する。ピアサポートおよびティーチングアシスタントによる支援も「数学」と同様に行う。これらの教育課程および支援制度を通じて、数学に強みを持つ学生も外国語に強みを持つ学生も、必要な「数学」「外国語」能力の向上のために相互に協力しながら研鑽し合う、より効果的な教育体制を構築する予定である。

なお、両学科のすべての授業科目の学修に関わる環境や制度も整える。

学生向けに自学自習が可能なラーニングコモンズを設置し、ピアラーニング、ピアサポートを実現する環境を整える。さらに、教員には固定された時間に学生が自由に相談、質問ができるオフィスアワーを設定し、円滑かつ充実した授業外学習を実現する。さらに、学内 LMS を利用し、随時質疑応答を行う環境を整える。

(6)履修科目の年間登録上限

本学では、授業外の予習・復習時間を確保し学習効果を向上させるため、CAP 制(1 セメスターあたりの履修登録上限 22 単位)を導入している。ただし、十分な学習能力・自己管理能力を持つと判断される学生に対しては、より高い学びの意欲を支援するため、この上限を緩和することを認めている。具体的には、直前のセメスターにおける GPA が 2.5 以上の者については、1 セメスターあたり 24 単位まで履修可能としている。

(7)留学生対応

総合情報学部では、「外国人留学生一般入学試験」を実施するため、日本語を母国語としない留学生などが一定数在籍する。このような学生に対して、日本語教育センターが留学生向け日本語科目や、日本の文化や社会を日本人学生と共に学ぶ共修科目を用意している。総合情報学部の留学生もそれらの科目を履修可能とし、日本での学修について支障が無いように務める。

また、留学生の在留資格管理は国際交流センターが一元的に行っており、適切な管理の観点から、通常の授業毎の出欠管理に加え、国際交流センターで月 1 回の在籍確認の窓口来室とアンケートの回答を義務付けている。留学生は学修以外にも日本での生活面などで問題を抱えることが多いため、国際交流センターによる入学時オリエンテーションや初年次面談、及び学部や日本語教育センターの授業等を通じて、学部、日本語教育センター、国際交流センターの教職員が連携しながら生活面を含めたサポートを行う。さらに、経済的負担を軽減し、国際交流に寄与することを目的として、成績など所定の要件を満たす留学生の授業料を減免する私費外国人留学生授業料減免制度を設けている。

(8)他大学における授業履修

本学において教育上有益と認めるときは、他の大学等において履修した授業科目につい

て修得した単位について、60 単位を超えない範囲で本学において修得したものとして認定することができる旨、本学学則第 14 条にて定めている。

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学部では対面授業を基本としてカリキュラムを構成し、一部科目においてオンデマンド授業を活用する。その場合は、文部科学省告示を踏まえて策定した「学部オンライン授業実施ガイドライン」に基づき実施する。

オンデマンド授業では、動画をアップロードするインターネット上のスペースを用意し、学生がログインして視聴する仕組みを構築する。受講場所は自宅、大学構内のいずれも可とするが、大学構内にオンデマンド授業の受講が可能なスペースを用意する。なお、オンデマンド授業は履修者が多数（110 名程度以上）になることが想定される講義形式の科目で導入する。具体的な科目名は以下のとおりである。

「情報倫理」

データのプライバシー、セキュリティ、知的財産権、AI が持つバイアス、AI を用いた意思決定の公平性と説明責任など、現代の情報技術に関わる倫理的な課題に関する知識の習得を目的とした講義。

本科目は知識の習得を目的としており、専門用語や理論は授業内で基礎から説明する。それに加えて、履修者は適宜、ニュースや基礎的な時事用語を自分で調べながら学習することを想定している。そのため、履修者が各自のペースでオンデマンド動画を視聴し、並行して資料を閲覧・収集しながら学習する形態をとることによって、高い学習効果が期待できる。

また、大学の在学生向けポータルサイト（UPSHOWA）や Google Classroom において、学生と教員とで質疑を行う Q&A 掲示板、学生同士で疑問を解決し合うディスカッションボードを活用し、学生が教員への質問もしくはピアサポートを通じて授業内の質問を解決する仕組み、及び学生と教員が授業に関するコミュニケーションを円滑に行える体制をとる。

オンデマンド授業のコンテンツは複数年度にわたり利用することもあるが、同一コンテンツの利用は最長 3 年までとし、各専門領域における学術的発展、社会の変化、及び学習効果を勘案してコンテンツを継続的に改善していく。

以上のように、本学部では対面授業を基本とし、一部の講義科目をオンデマンド授業とする体制で進める。MOOC 等の外部連携については今後の検討課題であり、現在計画し

ているカリキュラムが完成年度をむかえた後に、導入の是非やあり方を検討する予定である。

7. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（1）インターンシップ

本学では全学生にインターンシップを推奨している。学生はインターンシップ実施前に説明会等に参加して事前準備を行う。インターンシップ期間中の日々の活動を記録した日報と報告書を提出し、報告会に出席することで単位認定される。

ア. 実習先の確保の状況

実習先の確保は大学のキャリア支援センター及び各学科、現代ビジネス研究所を通じて行い、2024 年度は、※95 の事業所・官公庁、266 名の実習を行った【資料7】。また、国際交流センターが海外インターンシップ先を開拓している。

※学科主催インターンシップ除く

イ. 実習先との連携体制

インターンシップ受け入れ企業に対して、実習開始前に、実習の条件や連携・協力体制を綿密に確認し、「インターンシップ実施に関する覚書」を取り交わしている。実施期間中は、学生が円滑に実習を進められるよう、学生の状況把握や企業との情報共有に努め、状況に応じてキャリア支援センター職員が実習先を訪問する。終了後にはインターンシップ担当者から評価書を受領し、評価書をもとに学生にフィードバックを行う。

ウ. 成績評価体制及び単位認定方法

学生はインターンシップに参加する前にはインターンシップ説明会、インターンシップセミナー、マナー講座すべてに出席し、事前準備を行う。実習期間中、その日一日に行った業務をまとめた日報と報告書を提出し、インターンシップ報告会に出席することで全学共通教育センターが開設する一般教養科目「インターンシップ(国内)」(2 単位)の単位が認定される。

（2）海外語学研修

ア. 実習先の確保の状況

総合情報学部両学科で開設する専門教育科目「海外情報学研修」は、昭和女子大学が昭和 63 年に米国マサチューセッツ州ボストン市(420 Pond St.Boston, MA 02130 U.S.A.)に

開校した海外キャンパス「昭和ボストン」で実施する海外研修プログラムである。

昭和ボストンは、166,000 m²の敷地内に、約 280 名を収納可能な学生寮を持ち、教室をはじめ学習と生活を支える諸施設を完備している。

本研修は、昭和女子大学が昭和ボストンにおいて実施する短期プログラム（サマーセッション）の中のひとつのプログラムである。8月～9月に4週間、英語と専門教育科目を学ぶプログラムを開講する。午前中は英語スキルと専門分野に関する英語を学び、午後は専門分野の講師を招待して英語で専門分野を学習する。また、ゲストスピーカーの招へい、フィールドトリップによる現地施設見学も計画している。

その他、本学全学科学生が参加可能な「ボストンサマーセッション英語」に参加し、現地で文化・社会を体験し、英語力の向上を図ることもできる。

イ．実習先との連携体制

30 年以上にわたり東京とボストンのスタッフが連携してカリキュラムを運営し続けてきた海外キャンパスに留学するメリットは大きい。ボストンの教員は、長年本学の学生を指導した経験を持ち、充実した研修を支援するノウハウを持っているため、貴重かつ有益な海外研修を実現できる。

ウ．成績評価体制及び単位認定方法

昭和ボストンでの成果物・成果発表に基づく評価やフィードバックを得て、科目担当者が成績評価・単位認定を行う。

「海外情報学研修」（1 単位）、「ボストンサマーセッション英語」（2 単位）

8. 入学者選抜の概要

(1)入学者選抜

A. データサイエンス学科

入学者受入れの方針(アドミSSION・ポリシー)

昭和女子大学の教育目標と学位授与方針を理解し、人と社会とデータサイエンスとの関わりに関心を持ち、将来はデータサイエンス能力によるデータ分析や予測を駆使して課題を解決し、社会に貢献したいという意欲のある人を求めます。また、本学科の教育課程に従い学修する資質と能力を備えた入学者を受け入れます。そのために多様な入試方法で入学者を募集し、多面的、総合的に選抜します。

1. 資質と能力

- 1-1. 高等学校で学ぶ「数学」「外国語」「情報」などの幅広い科目の基礎的知識を有していること。
- 1-2. 「数学」「外国語」などの学習を通じて、問題解決能力、論理的思考力、表現力を身に付けていること。
- 1-3. 学科での学修に必要な情報活用能力を備えていること。

2. 学習習慣

- 2-1. 課題や問題を、数理を用いて表現できるような理論的思考に努める。
- 2-2. データの正しい扱いについて論理的に考えることができる。
- 2-3. 多様な文化・社会的背景を持つ人々とコミュニケーションを図れる。
- 2-4. 多様な人々と協働しながら、主体的に学びを深めていくことができる。

上記のアドミSSION・ポリシーに基づき、以下の多様な入学者選抜を実施し、受験生の適性や意欲を見極め、ふさわしい人材の確保を目指す。

①選抜区分と募集定員

選抜区分		募集定員
総合型選抜		7
学校推薦型選抜	公募制（総合評価型）	6
	公募制（基礎学力テスト型）	3
	指定校制	10
一般選抜（本学独自）	A 日程	15
	B 日程	7
一般選抜（大学入学共	共通テスト利用型Ⅰ期（一般方式）	3

通テスト利用型)	共通テスト利用型Ⅰ期（英語４技能活用方式）	2
	共通テスト利用型Ⅱ期（一般方式）	2
	共通テスト利用型Ⅱ期（英語４技能活用方式）	2
特別選抜等	光葉同窓会推薦	1
	附属５年生学内推薦入学考査 ※1	若干名
	附属６年生学内推薦入学考査	1
	外国人留学生入学試験 ※2	若干名

※1 特別選抜等（附属５年生学内推薦入学考査）は、高校３年に在籍しながら大学の授業の科目等履修を許可された附属高校の生徒が、１年後に履修状況や成績等を基に入学考査を受け、大学に入学する制度である。新設学科では学科開設以降でなければ科目履修の受け入れができないため、当該生徒の入学考査は開設２年目（2027年度入試）からとなる。2027年度入試の各入試の募集定員を検討する際には、科目等履修後に入学する生徒の人数を減じて、各入試の募集定員を決定する。近年、この考査の志願人数は少なく、大学全体15学科で合計５～７名程度で、学科別にすると０～１名であるため、他の入試の募集定員の設定に大きな影響は出ない。

※2 外国人留学生入学試験は、本学への志願者数は少なく入学者として獲得できる可能性が低いため、募集定員は若干名としている。入学定員の範囲内で、出願書類、筆記試験、面接で総合的に可否を判定している。

以上の入学者選抜方法を定めるために、選抜にあたっての着目点をアドミSSION・ポリシーから導出し、以下のように整理した。

②アドミSSION・ポリシーと入学者選抜にあたっての着眼点

アドミSSION・ポリシー	入学者選抜にあたっての着眼点
<AP1-1> 高等学校で学ぶ「数学」「外国語」「情報」などの幅広い科目の基礎的知識を有していること。	高等学校で学ぶ幅広い科目の基礎的知識
<AP1-2> 「数学」「外国語」などの学習を通じて、問題解決能力、論理的思考力、表現力を身に付けていること。	・問題解決能力 ・論理的思考力 ・表現力
<AP1-3> 学科での学修に必要な情報活用能力を備えていること。	・情報活用能力
<AP2-1,2> 課題や問題を、数理を用いて表現できるような理論的思考に努める。デー	数理を用いて課題や問題を理論的に表現でき、データを論理的に捉えて正しく扱える

タの正しい扱いについて論理的に考えることができる。	人材 ・問題処理能力 ・理論的思考力 ・論理的検証力
<AP2-3,4>多様な文化・社会的背景を持つ人々とコミュニケーションを図れる。 多様な人々と協働しながら、主体的に学びを深めていくことができる。	多様性を包摂しながらコミュニケーションを図り協働でき、主体的に学べる人材 ・D&I ・コミュニケーションと協働 ・主体的行動力

上記の着眼点に従って、選抜区分毎に重点項目を以下に表す。

③選抜区分毎の重点項目

選抜区分		アドミッション・ポリシーとの関係				
		AP 1-1	AP 1-2	AP 1-3	AP 2-1,2	AP 2-3,4
総合型選抜		◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選抜	公募制（総合評価型）	◎	◎	◎	◎	○
	公募制（基礎学力テスト型）	◎	◎	○	○	○
	指定校制	◎	◎	◎	◎	○
一般選抜（本学独自）	A日程	◎	◎	○	○	○
	B日程	◎	◎	○	○	○
一般選抜（大学入学共通テスト利用型）	共通テスト利用型Ⅰ期（一般方式）	◎	◎	◎	○	○
	共通テスト利用型Ⅰ期（英語4技能活用方式）	◎	◎	◎	○	○
	共通テスト利用型Ⅱ期（一般方式）	◎	◎	◎	○	○
	共通テスト利用型Ⅱ期（英語4技能活用方式）	◎	◎	◎	○	○
特別選抜等	光葉同窓会推薦	◎	◎	◎	◎	○
	附属5年生学内推薦入学考査	◎	◎	◎	○	○
	附属6年生学内推薦入学考査	◎	◎	◎	○	○
	外国人留学生入学試験	◎	◎	◎	○	○

表中の「◎」は、試験内容や合否判定の基準とするなど、特に重点を置いている項目である。「○」は、調査書等の出願書類で確認を行い入学後の教学上の参考とするなど、関連の

ある項目である。

④選考方法、基準

〔1〕一般選抜入試

本学科では、「人と社会とデータサイエンスまたは ICT との関わりに関心を持ち、社会に貢献したいという意欲のある人」を求めていることから、本学独自の一般選抜試験においては英語または数学を選択必須科目としている。また基礎学力を評価するため、国語を含めた選択科目を課す。大学入学共通テスト利用型入試の一般方式では、学科が指定する科目の高得点上位と合わせ、2科目で選考する。英語4技能試験活用方式では、英語検定試験（実用英語技能検定（従来型）、英検 S-CBT、英検 S-Interview、TOEFL iBT®、IELTS、TEAP、TEAP（CBT）、GTEC（オフィシャルスコアに限る）、Cambridge English のいずれか）結果 CEFR B1 以上を出願資格とし、学科が指定する科目の高得点上位1科目で選考する。

試験種別	選考方法
A 日程	選択必須科目：英語*1、数学*2 選択科目：国語*3、日本史*4、世界史*4、化学*5、生物*6 英語、数学のどちらかを選択必須、残りの科目から1科目選択。英語と数学の2科目選択も可。最大3科目受験可能。その場合は選択必須科目1科目とその他の科目1科目の高得点採用とする。
B 日程	選択必須科目：英語*1、数学*2 選択科目：国語*3、日本史*4、世界史*4、化学*5、生物*6 英語、数学のどちらかを選択必須、残りの科目から1科目選択。英語と数学の2科目選択も可。最大3科目受験可能。その場合は選択必須科目1科目とその他の科目1科目の高得点採用とする。
共通テスト利用型Ⅰ期・Ⅱ期 （一般方式）	共通テスト試験の成績で選考。 下記の中から高得点上位2科目を採用。200点満点。 「国語（近代以降の文章）*7」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ，数学A」、「数学Ⅱ，数学B，数学C」、「英語*8」、「情報Ⅰ」
共通テスト利用型Ⅰ期・Ⅱ期 （英語4技能活用方式）	共通テスト試験の成績で選考。 下記の中から高得点上位1科目を採用。100点満点。 「国語（近代以降の文章）*7」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ，数学A」、「数学Ⅱ，数学B，数学C」、「英語*8」、「情報Ⅰ」

*1 英語は「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」から出題。

*2 数学は「数学Ⅰ」必須に加え、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」（数列）、「数学C」（ベクトル）の中から1問選択解答。

*3 国語は「現代の国語」、「言語文化」、「論理国語」、「文学国語」から出題。

- *4 日本史は「歴史総合、日本史探究」、世界史は「歴史総合、世界史探究」から出題。「歴史総合」は日本史・世界史共通の問題を出題。
- *5 化学は、「化学基礎」と「化学」から出題。
- *6 生物は、「生物基礎」と「生物」から出題。
- *7 「国語（近代以降の文章）」は110点を100点に換算する。
- *8 「英語」はリーディング100点を80点、リスニング100点を20点、計100点に換算する。

〔2〕総合型選抜

1次選考の筆記試験により、専門に必要な基礎知識並びにデータとデジタル技術の一般常識と時事に関する「知識・技能」を評価し、自立する志をもつ学生を求めため、2次選考を通して、今までの学び・経験してきたことや将来の意欲を尋ね、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を総合的に評価し、学力試験だけではわからない多様な能力をもった学生の受け入れを可能とするために、総合型選抜入試を行う。

試験種別	選考方法
総合型選抜	選考方法：書類、適性テスト、面接 ■1次選考：適性テスト ■2次選考：面接（出願書類についての説明と質疑応答）

〔3〕学校推薦型選抜

出願基準に基づいた高等学校での成績により「知識・技能」を評価し、調査書・出願書類・面接の内容を重視し「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を評価する指定校制推薦考査を行う。また、公募制推薦入学試験においては、調査書・出願書類・面接に加えて適性テストによって専門に必要な基礎知識並びにデータとデジタル技術の一般常識と時事に関する「知識・技能」を評価する総合評価型と、調査書・出願書類に加えて英語と数学または国語の基礎学力を評価する基礎学力テスト型の2種類を行う。

試験種別	選考方法
指定校制推薦入学考査	大学が指定した高等学校または中等教育学校の学校長が推薦する者を面接により選考。 評定平均の推薦基準：高等学校または中等教育学校後期課程1年1学期から3年1学期または前期までの全体の評定平均値が、3.8以上の者
公募制推薦（総合評価型）	高等学校または中等教育学校の学校長が推薦する者を書類審査・筆記試験・面接により選考。 評定平均の推薦基準：高等学校または中等教育学校後期課程1年1学期から3年1学期または前期までの全体の評定平均値が、3.4以上の者 選考方法：書類審査、適性テスト、面接

	①書類（調査書・推薦書・自己報告書） ②専門に必要な基礎知識ならびにデータとデジタル技術の一般常識と時事に関する問題 ③個別面接
公募制推薦 （基礎学力 テスト型）	高等学校または中等教育学校の学校長が推薦する者を書類審査・筆記試験により選考。 選考方法：書類審査、基礎学力テスト ①書類（調査書・推薦書） ②必須科目：英語*1、選択必須科目：数学*2・国語*3

〔4〕その他の入試

以下の入試でも入学者を募集する。

・光葉同窓会推薦試験

出願方法、選考方法、実施日は公募制推薦試験と同内容。

・附属校からの学内推薦入学考査

出願基準に基づき附属高等学校が推薦し、大学で書類審査を行う。

・外国人留学生試験

一般試験では、日本語能力測定試験（日本留学試験[取得年度の制限あり]、日本語能力試験）の成績による出願基準を設けている。出願基準となる日本語能力測定試験の成績は、日本留学試験の場合は「日本語」（読解・聴解・聴読解の合計）250 点以上、日本語能力試験の場合は N1 を必要とする。また、数学の学力を確認するため、日本留学試験の「数学」（コース 1 または 2）の受験も求める。その上で、出願書類、筆記試験、面接によって総合的に合否を判定する。他、日本語学校を指定校とした推薦入試、現地留学生を対象とした入試を行う。経費支弁能力については、出願時の必要書類に経費支弁計画書を提出してもらい確認する。在籍確認については、入学後、国際交流センターで月 1 回の在籍確認の窓口来室を義務付けている。

B. デジタルイノベーション学科

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

B. デジタルイノベーション学科

昭和女子大学の教育目標と学位授与方針を理解し、人と社会と ICT との関わりに関心を持ち、将来はステークホルダーとエンジニアの橋渡しができる知識と能力によって、社会やビジネスにおける課題を解決し、社会に貢献したいという意欲のある人を求めます。また、本学科の教育課程に従い学修する資質と能力を備えた入学者を受け入れます。そのために多様な入試方法で入学者を募集し、多面的、総合的に選抜します。

1. 資質と能力

- 1-1. 高等学校で学ぶ「数学」「外国語」「情報」などの幅広い科目の基礎的知識を有していること。
- 1-2. 「数学」「外国語」などの学習を通じて、問題解決能力、論理的思考力、表現力を身に着けていること。
- 1-3. 学科での学修に必要な情報活用能力を備えていること。

2. 学習習慣

- 2-1. デジタル技術について関心を持ち、その活用について柔軟な発想を持つように努める。
- 2-2. 身近な社会問題を適切に言語化し、問題解決方法について論理的に考えるよう努める。
- 2-3. 多様な文化・社会的背景を持つ人々とコミュニケーションを図れる。
- 2-4. 多様な人々と協働しながら、主体的に学びを深めていくことができる。

上記のアドミッション・ポリシーに基づき、以下の多様な入学者選抜を実施し、受験生の適性や意欲を見極め、ふさわしい人材の確保を目指す予定である。

①選抜区分と募集定員

選抜区分		募集定員
総合型選抜		7
学校推薦型選抜	公募制（総合評価型）	4
	公募制（基礎学力テスト型）	3
	指定校制	6
一般選抜（本学独自）	A 日程	11
	B 日程	7
一般選抜（大学入学共通テスト利用型）	共通テスト利用型Ⅰ期（一般方式）	3
	共通テスト利用型Ⅰ期（英語4技能活用方式）	2
	共通テスト利用型Ⅱ期（一般方式）	2

	共通テスト利用型Ⅱ期（英語４技能活用方式）	2
特別選抜等	光葉同窓会推薦	1
	附属５年生学内推薦入学考査 ※1	若干名
	附属６年生学内推薦入学考査	1
	外国人留学生入学試験 ※2	若干名

※1 特別選抜等（附属５年生学内推薦入学考査）は、高校３年に在籍しながら大学の授業の科目等履修を許可された附属高校の生徒が、１年後に履修状況や成績等を基に入学考査を受け、大学に入学する制度である。新設学科では学科開設以降でなければ科目履修の受け入れができないため、当該生徒の入学考査は開設２年目（2027年度入試）からとなる。2027年度入試の各入試の募集定員を検討する際には、科目等履修後に入学する生徒の人数を減じて、各入試の募集定員を決定する。近年、この考査の志願人数は少なく、大学全体15学科で合計５～７名程度で、学科別にすると０～１名であるため、他の入試の募集定員の設定に大きな影響は出ない。

※2 外国人留学生入学試験は、本学への志願者数は少なく入学者として獲得できる可能性が低いため、募集定員は若干名としている。入学定員の範囲内で、出願書類、筆記試験、面接で総合的に可否を判定している。

以上の入学者選抜方法を定めるために、選抜にあたっての着目点をアドミッション・ポリシーから導出し、以下のように整理した。

②アドミッション・ポリシーと入学者選抜にあたっての着眼点

アドミッション・ポリシー	入学者選抜にあたっての着眼点
<AP1-1> 高等学校で学ぶ「数学」「外国語」「情報」などの幅広い科目の基礎的知識を有していること。	高等学校で学ぶ幅広い科目の基礎的知識
<AP1-2> 「数学」「外国語」などの学習を通じて、問題解決能力、論理的思考力、表現力を身に着けていること。	・問題解決能力 ・論理的思考力 ・表現力
<AP1-3> 学科での学修に必要な情報活用能力を備えていること。	・情報活用能力
<AP2-1,2> デジタル技術について関心を持ち、その活用について柔軟な発想を持つように努める。 身近な社会問題を適切に言語化し、問題解	デジタル技術の活用柔軟な発想を持ち、問題を言語化して論理的に解決方法を見つける人材 ・問題処理能力 ・柔軟な発想力

決方法について論理的に考えるよう努める。	・ 論理的検証力
＜AP2-3,4＞多様な文化・社会的背景を持つ人々とコミュニケーションを図れる。 多様な人々と協働しながら、主体的に学びを深めていくことができる。	多様性を包摂しながらコミュニケーションを図り協働でき、主体的に学べる人材 ・ D&I ・ コミュニケーションと協働 ・ 主体的行動力

上記の着眼点に従って、選抜区分毎に重点項目を以下に表す。

③選抜区分毎の重点項目

選抜区分		アドミッション・ポリシーとの関係				
		AP 1-1	AP 1-2	AP 1-3	AP 2-1,2	AP 2-3,4
総合型選抜		◎	◎	◎	◎	◎
学校推薦型選抜	公募制（総合評価型）	◎	◎	◎	◎	○
	公募制（基礎学力テスト型）	◎	◎	○	○	○
	指定校制	◎	◎	◎	◎	○
一般選抜（本学独自）	A 日程	◎	◎	○	○	○
	B 日程	◎	◎	○	○	○
一般選抜（大学入学共通テスト利用型）	共通テスト利用型Ⅰ期（一般方式）	◎	◎	◎	○	○
	共通テスト利用型Ⅰ期（英語4技能活用方式）	◎	◎	◎	○	○
	共通テスト利用型Ⅱ期（一般方式）	◎	◎	◎	○	○
	共通テスト利用型Ⅱ期（英語4技能活用方式）	◎	◎	◎	○	○
特別選抜等	光葉同窓会推薦	◎	◎	◎	◎	○
	附属5年生学内推薦入学考查	◎	◎	◎	○	○
	附属6年生学内推薦入学考查	◎	◎	◎	○	○
	外国人留学生入学試験	◎	◎	◎	○	○

表中の「◎」は、試験内容や合否判定の基準とするなど、特に重点を置いている項目である。「○」は、調査書等の出願書類で確認を行い入学後の教学上の参考とするなど、関連のある項目である。

④選考方法、基準

〔1〕一般選抜入試

本学科では、「人と社会と ICT との関わりに関心を持ち、社会に貢献したいという意欲のある人」を求めていることから、本学独自の一般選抜試験においては英語または数学を選択必須科目としている。また基礎学力を評価するため、国語を含めた選択科目を課す。大学入学共通テスト利用型入試の一般方式では、学科が指定する科目の高得点上位と合わせ、2科目で選考する。英語4技能試験活用方式では、英語検定試験（実用英語技能検定（従来型）、英検 S-CBT、英検 S-Interview、TOEFL iBT®、IELTS、TEAP、TEAP（CBT）、GTEC（オフィシャルスコアに限る）、Cambridge English のいずれか）結果 CEFR B1 以上を出願資格とし、学科が指定する科目の高得点上位1科目で選考する。

試験種別	選考方法
A日程	選択必須科目：英語*1、数学*2 選択科目：国語*3、日本史*4、世界史*4、化学*5、生物*6 英語、数学のどちらかを選択必須、残りの科目から1科目選択。英語と数学の2科目選択も可。最大3科目受験可能。その場合は選択必須科目1科目とその他の科目1科目の高得点採用とする。
B日程	選択必須科目：英語*1、数学*2 選択科目：国語*3、日本史*4、世界史*4、化学*5、生物*6 英語、数学のどちらかを選択必須、残りの科目から1科目選択。英語と数学の2科目選択も可。最大3科目受験可能。その場合は選択必須科目1科目とその他の科目1科目の高得点採用とする。
共通テスト利用型Ⅰ期・Ⅱ期（一般方式）	共通テスト試験の成績で選考。 下記の中から高得点上位2科目を採用。200点満点。 「国語（近代以降の文章）*7」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」、「英語*8」、「情報Ⅰ」
共通テスト利用型Ⅰ期・Ⅱ期（英語4技能活用方式）	共通テスト試験の成績で選考。 下記の中から高得点上位1科目を採用。100点満点。 「国語（近代以降の文章）*7」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」、「英語*8」、「情報Ⅰ」

*1 英語は「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「論理・表現Ⅰ」から出題。

*2 数学は「数学Ⅰ」必須に加え、「数学A」、「数学Ⅱ」、「数学B」（数列）、「数学C」（ベクトル）の中から1問選択解答。

*3 国語は「現代の国語」、「言語文化」、「論理国語」、「文学国語」から出題。

*4 日本史は「歴史総合、日本史探究」、世界史は「歴史総合、世界史探究」から出題。「歴

史総合」は日本史・世界史共通の問題を出題。

- *5 化学は、「化学基礎」と「化学」から出題。
- *6 生物は、「生物基礎」と「生物」から出題。
- *7 「国語（近代以降の文章）」は 110 点を 100 点に換算する。
- *8 「英語」はリーディング 100 点を 80 点、リスニング 100 点を 20 点、計 100 点に換算する。

〔2〕総合型選抜

1 次選考の筆記試験により、専門に必要な基礎知識並びにデータとデジタル技術の一般常識と時事に関する「知識・技能」を評価し、自立する志をもつ学生を求めるため、2 次選考を通して、今までの学び・経験してきたことや将来の意欲を尋ね、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を総合的に評価し、学力試験だけではわからない多様な能力をもった学生の受け入れを可能とするために、総合型選抜入試を行う。

試験種別	選考方法
総合型選抜	選考方法：書類、適性テスト、面接 ■1 次選考：適性テスト ■2 次選考：面接（出願書類についての説明と質疑応答）

〔3〕学校推薦型選抜

出願基準に基づいた高等学校での成績により「知識・技能」を評価し、調査書・出願書類・面接の内容を重視し「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を評価する指定校制推薦考査を行う。また、公募制推薦入学試験においては、調査書・出願書類・面接に加えて適性テストによって専門に必要な基礎知識並びにデータとデジタル技術の一般常識と時事に関する「知識・技能」を評価する総合評価型と、調査書・出願書類に加えて英語と数学または国語の基礎学力を評価する基礎学力テスト型の 2 種類を行う。

試験種別	選考方法
指定校制推薦入学考査	大学が指定した高等学校または中等教育学校の学校長が推薦する者を面接により選考。 評定平均の推薦基準：高等学校または中等教育学校後期課程 1 年 1 学期から 3 年 1 学期または前期までの全体の評定平均値が、3.8 以上の者
公募制推薦（総合評価型）	高等学校または中等教育学校の学校長が推薦する者を書類審査・筆記試験・面接により選考。 評定平均の推薦基準：高等学校または中等教育学校後期課程 1 年 1 学期から 3 年 1 学期または前期までの全体の評定平均値が、3.4 以上の者

	選考方法：書類審査、適性テスト、面接 ①書類（調査書・推薦書・自己報告書） ②専門に必要な基礎知識ならびにデータとデジタル技術の一般常識と時事に関する問題 ③個別面接
公募制推薦 （基礎学力 テスト型）	高等学校または中等教育学校の学校長が推薦する者を書類審査・筆記試験により選考。 選考方法：書類審査、基礎学力テスト ①書類（調査書・推薦書） ②必須科目：英語*1、選択必須科目：数学*2・国語*3

〔4〕その他の入試

以下の入試でも入学者を募集する。

・光葉同窓会推薦試験

出願方法、選考方法、実施日は公募制推薦試験と同内容。

・附属校からの学内推薦入学考査

出願基準に基づき附属高等学校が推薦し、大学で書類審査を行う。

・外国人留学生試験

一般試験では、日本語能力測定試験（日本留学試験[取得年度の制限あり]、日本語能力試験）の成績による出願基準を設けている。出願基準となる日本語能力測定試験の成績は、日本留学試験の場合は「日本語」（読解・聴解・聴読解の合計）250点以上、日本語能力試験の場合はN1を必要とする。また、数学の学力を確認するため、日本留学試験の「数学」（コース1または2）の受験も求める。その上で、出願書類、筆記試験、面接によって総合的に合否を判定する。他、日本語学校を指定校とした推薦入試、現地留学生を対象とした入試を行う。経費支弁能力については、出願時の必要書類に経費支弁計画書を提出してもらい確認する。在籍確認については、入学後、国際交流センターで月1回の在籍確認の窓口来室を義務付けている。

（2）組織体制

本学は「大学組織及び分掌規程」に基づき、入学者選抜の企画・運営を目的にアドミッション部を設置している。同規程において、アドミッション部長が部務を統理し、次長はこれを補佐すること、事務組織としてアドミッションセンターを設置することを定めている。

入学者選抜の実施にあたっては、アドミッション部委員会、入学試験委員会、入学試験問題作成専門委員会及びアドミッション企画会議が、それぞれの役割と権限のもとに連携を図り運営している。

入試制度については、必要に応じて学部学科の意見を取りまとめ、入学試験委員会に上申している。入学試験委員会は、学長、副学長、アドミッション部長・次長、教務部・学生部・キャリア支援部長、学部長、学科長、研究科長、全学共通教育センター長によって構成され、「大学組織及び分掌規程」及び「入学試験委員会規程」に基づき、学生募集及び入学者選抜に関して、入学試験制度、入学志願者の合否判定、アドミッション部委員会から上申された事項等を協議、決定している。

(3) 留学生の受入れ

留学生の在留資格管理は国際交流センターが一元的に行っており、適切な管理の観点から、通常の授業毎の出欠管理に加え、国際交流センターで月1回の在籍確認の窓口来室とアンケートの回答を義務付けている。留学生は学修以外にも日本での生活面などで問題を抱えることが多いため、国際交流センターによる入学時オリエンテーションや初年次面談、及び学部や日本語教育センターの授業等を通じて、学部、日本語教育センター、国際交流センターの教職員が連携しながら生活面を含めたサポートを行う。

(4) 科目等履修生の受入れ

本学では高等学校卒業以上の女子（ただし、資格取得を目的とする履修を希望する場合は、原則本学を卒業し、「資格取得を目的とする場合の基礎資格について」に該当する者に限る）に対し、学部開設科目（一部）の科目等履修を認めている。出願科目の受講定員に余裕がある場合のみ受入れるものとし、開設学科及び担当教員が選考のうえ、履修許可をする。正規学生の履修者がいない、もしくは受講定員を超えた科目は原則履修不可としている他、各学期に履修できる上限単位数を22単位までと定めている。

9. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

(1) 教員配置の考え方

A. 総合情報学部

総合情報学部では、日々進化するIT技術とビッグデータを適確に利活用し、様々な課題の解決や新たな価値創造を担える人材を養成するため、

- ①情報学に関する基礎科目群
- ②数学や統計学に関する科目群
- ③専門知識(データサイエンス理論、コンピュータサイエンス等)に関する科目群
- ④専門スキル(プログラミング、ソフト開発)に関する科目群
- ⑤ドメイン(ビジネス、心理、健康)に関する科目群
- ⑥ソフトスキルに関する科目群

等を開設する。

それぞれの科目群において、責任をもって教育を遂行できるよう、専門的な知識や経験を持つ教員を配置する。また、学問的な専門性だけでなく、産業界での実務経験を有する教員を科目の目的に応じて配置する。

なお、①情報学に関する基礎科目群、⑤ドメイン科目群、⑥ソフトスキル科目群については、多くの科目を学部共通科目として設定しており、総合情報学部2学科(データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科)の学生を融合したクラスを編成することで学習効果を高めようと考えており、2学科どちらかの教員が担当する仕組みとしている。

①情報学に関する基礎科目群においては、各科目の内容に応じて学科別科目と学部共通科目をそれぞれ設定し、教員の専門性や実務経験・教育経験を考慮して最適な教員を配置する。例えば、「DXと社会Ⅰ・Ⅱ」は幅広い実務経験のある教員、「情報倫理」は専門性の高い実務経験と教育経験のある教員、「情報学概論」は高度な専門性を有する教員が担当し、学部共通科目として開設する。「データサイエンス入門」は、学科毎に4年間を通じて学ぶ内容や範囲が大きく異なるため、学科別に専門性を有する教員がそれぞれ担当する。「コンピュータサイエンス概論」はデジタルイノベーション学科のみの基礎科目として開設し、専門性を有する教員が担当する。

⑤ドメイン科目群においては、各ドメイン科目の学問領域を教育研究の基盤とする教員を配置する方針に加え、複数名を配置し、異なる教員が連携しながら、複数名で教える利点を生かす。

⑥ソフトスキル科目群においては、ソフトスキル教育に関する実務経験及び企業や大学での教育経験がある教員を配置する。

B. データサイエンス学科

②数学・統計学科目群においては、数学及び統計学を教育研究の基盤とする教員を配置する。

③データサイエンス理論科目群においては、データサイエンス、統計学、機械学習を専門とする教員が担当する。また、各ドメインに関わるデータサイエンス科目は、各ドメインの理論的専門性に加え、各ドメインにおいてデータ分析やデータを用いた実証研究の実績を有する教員が担当する。

④プログラミング科目群においては、プログラミング言語を用いたデータ分析や実証を教育研究の基盤とする教員を複数名配置し、各教員が連携して進める。

基幹教員の教育研究に関する専門分野の構成は以下のとおりである。

数学・統計学3名（うち2名は深層学習含む）、データサイエンス・ビジネス1名、デー

タサイエンス・健康 2 名、データサイエンス・心理 1 名、マーケティング 1 名、ソフトスキル 1 名。

C. デジタルイノベーション学科

- ②数学・統計学科目群においては、数学及び統計学を教育研究の基盤とする教員を配置する。
- ③コンピュータサイエンス科目群においては、コンピュータサイエンスの諸分野を教育研究の基盤とする専門家に加え、現代社会における最新のテクノロジーを講じるため実務経験を持つ基幹教員を配置する。
- ④ソフト開発科目群においては、ソフトウェア工学や要求工学における教育経験、実務経験を持つ専門家が担当する。

基幹教員の教育研究に関する専門分野の構成は以下のとおりである。

数学・統計学 2 名、コンピュータサイエンス 4 名、ソフトウェア工学・要求工学 2 名、経営管理 1 名、デジタルイノベーション 1 名。

(2)主要授業科目

総合情報学部 2 学科(データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科)における教育上主要と認める授業科目については、原則としてすべて当該学科の基幹教員が担当する。ただし、複数クラス開講する科目については、一部クラスを基幹教員以外が担当する場合がある。その場合であっても、基幹教員が授業計画を立て、原則的に共通シラバスで実施し、授業進行状況や学生の到達度達成を確認することにより、主要授業科目の質の保証に努める。

なお、上述したとおり、2 学科の学生が同時に受講する学部共通科目については、総合情報学部 2 学科どちらかの基幹教員が担当する。

基幹教員（常勤）は、原則的に、1 週あたり教授 6 コマ、准教授・専任講師 7 コマの授業を担当する。これにより、教育上主要と認める授業科目に専任教員を配置することが可能である。

(3)中心となる研究分野と研究体制

A. データサイエンス学科

ビジネス、心理、健康ドメイン及びデータアナリティクスを専門とする教員で学科を構成し、統計学や機械学習による高度なアナリティクスを用いた各ドメインにおける仮説検証、理論構築、予測、及び新たな分析アルゴリズムの開発を目的とした研究を行う。

B. デジタルイノベーション学科

情報システム、コンピュータサイエンスを専門とする教員で学科を構成し、社会やビジネスにおける課題をデジタル技術で解決するための要求工学による分析、仮想現実やクラウド技術を用いた先端デジタル技術の開発・利活用に関する研究を行う。

(4)教員の年齢構成

A. データサイエンス学科

データサイエンス学科に所属する基幹教員の年齢構成（2030年3月31日時点（表1））は以下の表のとおりである。

表1_基幹教員の年齢構成（2030年3月31日時点）[データサイエンス学科]

職位	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70 歳~	合計
教授		1	2	1			4 名
准教授			1	2	1		4 名
講師		1					1 名
助教							0 名

表1からわかるとおり、2030年3月31日現在において教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化には支障がない。60代未満が半数を超える5名おり、継続性も十分に保つことができる。

定年に関しては、「昭和女子大学服務規程」の第52条において規定されている【資料8】。また、定年後の再雇用については同規程第53条に規定され、「定年後再雇用者の取扱規程」によって条件や種別、手続等を定めている【資料9】。データサイエンス学科において、2030年3月31日現在、これらの規程が適用される該当者はいない。

定年を迎える教員の補充に関しては、職位及び年齢構成を踏まえ、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化には支障がないようにする。

B. デジタルイノベーション学科

デジタルイノベーション学科に所属する基幹教員の年齢構成（2030年3月31日時点（表2））は以下の表のとおりである。

表 2_基幹教員の年齢構成（2030 年 3 月 31 日時点）[デジタルイノベーション学科]

職位	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70 歳～	合計
教授			1		1	2	4 名
准教授		1		1	1		3 名
講師	1	1					2 名
助教		1					1 名

表 2 からわかるとおり、2030 年 3 月 31 日現在において教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化には支障がないが、教員の交代に関しては以下のとおり留意している。

定年に関しては、「昭和女子大学服務規程」第 52 条において規定されている。また、定年後の再雇用については同規程第 53 条に規定され、「定年後再雇用者の取扱規程」によって条件や種別、手続等を定めている。デジタルイノベーション学科において、2030 年 3 月 31 日現在、これらの規程が適用される該当者については、「定年後再雇用者の取扱規程」第 4 条に従って理事会承認を得ており、完成年度までの教育研究の遂行や活性化に問題がないよう、採用時に確認している。

完成年度末に 65 歳以上の教員 4 名については、2029 年度に 2 名、2030 年度に 2 名が退職予定となる。開設後 3 年目（2028 年度）から、若手・中堅教員を中心とした採用計画を進める。後任人事は、退職予定の教員の担当科目を含め、その時点での情報・コンピュータ分野の技術や社会状況を踏まえて、適切な専門性を有する教員を採用することで、教育研究実施組織の長期的な維持・向上に資する適切な配置を行う。

さらに、学内の教員（助教～准教授）については、経験豊富な教授の指導のもと、教育研究能力を向上させ、早期昇格を目指す体制を整備する。若手からベテランまでが相互に協力し合い、継続的に高い成果を生み出す教育研究体制の構築を目指す。

（５）本学教育研究以外の業務に従事する者

基幹教員のうち、データサイエンス学科 1 名、デジタルイノベーション学科 2 名が、本学における教育研究以外の業務に従事する者である。これら 3 名の教員は、いずれも年間 8 単位以上の授業科目を担当し、教育課程の編成等の意思決定に係る会議に参画する。また、組織的な研修の受講やオフィスアワーを必須としており、教育研究上支障がない体制としている。

（６）基幹教員の段階的な整備

データサイエンス学科及びデジタルイノベーション学科の基幹教員は、2026年4月1日時点でそれぞれ6名が着任している。その後、2027年4月1日に各学科3名が着任し、2028年10月1日にデジタルイノベーション学科の残り1名が着任する。データサイエンス学科は開設から2年目で、デジタルイノベーション学科は開設から3年目で、基幹教員全員が揃う。

(7) 教員及び事務職員等相互の協働や組織的な連携体制

教員組織については、昭和女子大学学則第8章に定めるとおりである。

学部の部務を統理する学部長を1名、学科の科務を統理する学科長を各1名配置し、学科には教授、准教授、講師、助教を置く。また、全学にわたる教学事項を審議するため、学科には各種委員会（教務部委員会、学生部委員会、アドミッション部委員会、キャリア支援部委員会）の審議に参加する代表委員を配置する。

このような教員組織に対し、各部門において教員と職員が密接に連携を図る体制を整えている。学部に学部事務室を置き、学部事務室長を配置する。事務室には、学部及び学科の事務を掌握する助手と呼ばれる事務職員を置く。学科毎の各種委員となる教員を補佐するため、助手は教員と協働して教育活動の事務を行う。

さらに、教務部、学生部、アドミッション部、キャリア支援部の4つの部に加えて、学部学科独自の各種係を教員に分掌として割り当て、教育活動を円滑に行う体制を整える。この分掌に対しても、学部事務室配属の助手が、教員を補佐・協働して協力できるようにする。以上からわかるとおり、学部・学科運営に関し、教職員が分担して協働できる体制を整えている。

これ以外に、本学独自の取り組みである教育会議がある。同会議は、定期的に全基幹教員及び所属長級役職員が参加し、教学及び学生指導全般に関する事項の連絡調整を旨として協議を行っているもので、大学全体における教職員の連携を図っている。

10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、「研究に関する方針」にて「広く社会に貢献する研究活動を推進し、若手研究者の育成に取り組むとともに、研究成果を公開して教育及び社会に還元する」ことを示している。教員には研究力の高度化を追求し、教育との相乗的な発展を図ることを求めている。研究推進にあたり、教員は毎年個々の研究テーマ及び研究計画を定め研究を行い、研究成果を学長に報告するとともに、学術機関リポジトリ及び学外ホームページ「教員紹介」において成果を学外に公表している。

研究実施にあたっては、全教員に配分する教員研究費に加え、学内の競争的研究費である研究助成金、海外学会発表支援助成金、ライフイベント復職支援助成金、科研費奨励金

などを設け、意欲の高い教員や若手研究者の支援を行っている。併せて、研究時間確保のため、研究日やサバティカル研修制度を設けている。学術研究の信頼性と公正性の確保にあたり、研究に関する諸規程を整備するとともに、学長直轄の研究倫理委員会を設け、全学的な研究倫理教育や啓発活動等の研究不正防止対策を推進している。

研究をサポートする体制として、研究が円滑に行われるよう、主管部署である教学支援センター研究支援課職員が研究費の配分や執行管理、共同研究契約等の産学連携活動支援を行っている。さらに外部資金獲得支援として、外部講師を招いた勉強会や申請書の添削支援、公募情報の提供などを行っている。

また、研究活動の拠点として、7つの研究所（現代ビジネス研究所、現代教育研究所、近代文化研究所、女性文化研究所、国際文化研究所、生活心理研究所、女性健康科学研究所）を設置している。研究所は、建学の精神のもと、特色ある教育研究活動及び産学官共同研究・社会連携活動を推進し、個人研究サポートの一端を担うとともに、研究テーマに応じた共同研究を実施できる体制を整えている。

・研究に関する方針

<https://www.swu.ac.jp/about/effort/university-policy.html#anchor2>

(トップ>昭和女子について>大学の取り組み>各種方針>研究に関する方針)

1 1. 施設、設備等の整備計画

ア. 校地、運動場の整備計画

昭和女子大学の敷地内には、学校法人昭和女子大学が設置することも園、小学校、中学・高等学校に加え、ブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和や米州立テンブル大学ジャパンキャンパスが併設されている。キャンパスでは、0歳児から大学院生までが学び、年代や国籍問わず多様な人々が集っている。このような環境の中で、自然と親しみながら多様性を育み、互いに交流する場を目指している。

敷地内には、学習施設のほか、図書館、パソコン自習室、食堂・売店などの福利厚生施設も充実しており、教育研究活動を支えるための十分な施設設備を整備している。

校地には、空地として、教室棟である1号館と8号館に挟まれた通路にテーブルや椅子を置き、多くの学生が自由に交流しくつろげる空間が確保されている。3号館1階に設けたカフェに隣接する通路にもテーブルやベンチを設置し、学生の休息の場として利用されている。学生の自発的な学習スペースとしては、3号館1階及び8号館1階にラーニングコモンズを設置している。

また、運動場として、グラウンド 1326.08 m²、体育館等関連施設 753.9 m²を備えている。

イ. 校舎等施設の整備計画

総合情報学部は2学科、入学定員110名で発足する。教員構成は常勤の基幹教員16名と非常勤の基幹教員2名のほか、実務家の非常勤教員若干名とする。

10号館の本学使用エリアを全面改装（令和7年度末改装工事完了予定）し、総合情報学部専用校舎とする【資料10】。教室7室（うち1室は撮影スタジオ、3Dプリンター、3D加工機などを備えたデジタル工房を兼ねる）、教員研究室16室、学部事務室1室、会議室2室を設置する他、1階と2階にラーニングコモンズ、3階と4階にユーティリティスペース、2階に屋外テラスを設置し、交流やグループスタディの場を提供する。また、1階の教室2室の共用エリア側を全開口してラーニングコモンズと一体利用できるようにし、開放感のあるスペースで大規模なイベントなどに活用できるようにする。その他に、1号館の5階の一部に総合情報学部の教室を3部屋設置する（令和10年度以降）。

これらの施設・設備及び既存の施設・設備を活用することで、総合情報学部データサイエンス学科及びデジタルイノベーション学科の教育課程を円滑に実施できる【資料11】【資料12】。

研究室については、常勤の基幹教員全員に個室研究室（全16室）を割り当てる。その他の教員については、学部事務室内に共用の研究・執務スペースを用意する。いずれについても、機密性・プライバシーが確保された環境とする。

ウ. 図書等の資料及び図書館の整備計画

総合情報学部用の図書として、図書3,749冊（うち外国書294冊）、図書のうち電子書籍309冊（うち外国書3冊）、学術雑誌212種（うち外国書190種）、学術雑誌のうち電子ジャーナル191種（うち外国書189種）を整備している。本学では既にデータサイエンス副専攻プログラムが設置されており、総合情報学部のカリキュラムに対応できる図書を備えているが、今後も学生や教員の学修・研究活動の支援が十分に果たせるよう、さらなる整備を行う。

図書については、利便性の高い電子書籍を中心に拡充する予定である。電子ジャーナル・データベースについては、既に American Chemical Society、APA PsycInfo / APA PsycArticles、Cambridge Core、JDreamIII、MagazinePlus、Oxford Academic Journals、Pro Quest、ScienceDirect、Social Work Abstracts、Springer Nature Link、Web of Science、Web OYA-bunko、医書 jp、東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー、メディカルオンライン、日経 BP 記事検索サービス等を提供しており、これらを統合的に検索できるツールとして、EBSCO Discovery Service を提供している。さらに、国内全国紙（朝日・日経・毎日・読売）や The Japan Times Digital、Financial Times、CNN Video Collection 等、学生、教員に最新情報を提供できる環境を整備している。また、契約している電子書籍、電子ジャーナル・データベース等は、学生、教員が、自宅や学外からでも

アクセスして利用できる仕組みを構築しており、いつでも学修や研究ができる環境を整備している。これらに加えて、本学独自のプログラムを実施するため、完成年度に向けて、IEEE Xplore Digital Library や ACM Digital Library 等、電子ジャーナルを中心に情報関連の資料を整備する予定である。

図書館の占有床面積は、7,297.3 m²、うち開架閲覧スペースは 2488.8 m²であり、閲覧席は 583 席である。多様な学修形態に合わせて利用できるよう、フリーラーニングスクエアに 51 席分の可動式テーブル・椅子、情報機器類を整備しているほか、グループスタディルーム 3 室（48 席分・可動式パーティションで 2 室/1 室に変更可）を整備している。館内は無線 LAN の使用が可能であり、貸出用ノートパソコン 30 台、iPad19 台、電子黒板 3 台の ICT 機器類を整備し、蔵書やインターネット情報の検索、各種電子ジャーナルやデータベースへのアクセスが可能な環境を整えている。

他大学との連携については、本学キャンパスに隣接するテンプル大学ジャパンキャンパスや、本学が加盟している世田谷 6 大学コンソーシアム協定校（国士館大学・駒澤大学・成城大学・東京農業大学・東京都市大学）の各図書館を学生証、教職員証の提示のみで相互利用ができるほか、通常の図書館間相互利用や、文献複写の取り寄せ、現物貸借を可能としている。

1 2. 管理運営

(1) 大学部局長会

昭和女子大学学則第 55 条に基づき、本学の管理、運営に関する重要事項を審議するため、大学部局長会を設置している。議長を学長とし、副学長、大学院研究科長、学部長、教務部長、学生部長、キャリア支援部長、アドミッション部長、理事長・総長・学長室長、その他学長が指名する者、で構成され、大学としての意思を集約する全学横断の組織である。大学部局長会は原則として隔週で開催し、次の事項について審議する。

1. 大学の基本的問題に関する事項
2. 大学院及び大学の教育・研究、運営上の連絡並びに調整に関する事項
3. 学生の募集及び入学者選抜に関する事項
4. 教育課程に関する基本的事項
5. 学生の履修及び研修に関する事項
6. 学生の生活及び進路に関する事項
7. 各種奨学金奨学生候補者の選定及び奨学金制度の改善案等に関する事項
8. 研究施設及び設備に関する事項
9. 教学人事に関する事項
10. 大学部局長会から理事会への提案事項

11. 理事会が大学部局長会に諮問する事項
12. その他、学科教授会及び学部部科長会から報告される事項並びに大学教育・研究、学生生活上の重要事項

(2)学部部科長会

学部内の円滑な運営を図るため、議長を学部長とし、所属学科長及び必要に応じた教職員が参画する学部部科長会を、原則として隔週で開催する。学部部科長会は次の事項について審議する。

1. 学部の基本問題に関する事項
2. 所属学科の向上及び発展に関する事項
3. 所属学科間の教育、研究及び運営上の連絡並びに調整に関する事項
4. 学科教授会からの上申事項
5. 大学部局長会からの諮問事項
6. その他、学部の教育、研究及び学生生活上の重要事項

なお、重要な協議事項については、大学部局長会に上申する。

(3)教授会（学科教授会）

各学科に設置する教授会は、議長を学科長とし、専任の教授、准教授、専任講師、助教及び議長が指名する者、が参画する。原則として毎週定期的で開催する。なお、教授会の構成員のうち一部の者をもって構成される代議員会を置くことができる。

教授会は次の事項を協議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べる。

1. 学生の入学及び卒業に関する事項
2. 学位の授与
3. 教育研究に関する重要な事項で、学長が教授会の意見を聴くことが必要であると認める事項

また、教授会は、学長又は学部長がつかさどる教育研究に関する事項のうち、次の事項について協議し、学長又は学部長の求めに応じて意見を述べることができる。

1. 学科目、講義題目、授業時数、授業担任及び教育課程に関する基本的事項
2. 学生の履修・研修及び試験に関する基本的事項
3. 学生の退学、休学、復学、転学、除籍、転科及び賞罰に関する事項
4. 学科の教育、研究等の充実向上に関する事項
5. 関連委員会の報告及び実施運営に関する事項
6. 関連委員会への意見伝達に関する事項
7. その他、学科運営に関する必要事項

(4)その他

専門分野毎に全学的な見地で協議・調整を行うため、以下の委員会を設置している。

- ・教務の企画運営に関する事項を協議する「教務部委員会」
- ・学生生活支援に関する事項を協議する「学生部委員会」
- ・学生募集及び入学者選抜の企画・運営に関する事項を協議する「アドミッション部委員会」
- ・学生、卒業生の進路及びキャリア支援に関する事項を協議する「キャリア支援部委員会」

各委員会が協議した事項は、各学科の代表委員を通じて周知され、重要な協議事項については大学部局長会に上申する。このほか、教員の資格審査を行う「教員資格審査委員会」、学生募集及び入学者選抜全般に関する事項を共日する「入学試験委員会」などを設置している。

13. 自己点検・評価

本学では昭和女子大学学則第2条において「本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う」との自己点検・評価の方針を定め、「昭和女子大学自己点検・評価規程」に基づき、学長が統括し、大学部局長会が中心となって推進している【資料13】。特に内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として大学部局長会の直轄組織として「内部質保証推進本部」を置き、自己点検・評価を実質的に運営している。

内部質保証推進本部では、自己点検・評価を大学としての改革・改善に繋げるために、毎年各学部学科、各研究科専攻、各部署に対し自己点検・評価の実施を依頼し、自己点検・評価結果及び将来に向けた発展の方策を検証し、全学的な観点から点検・評価を行っている。点検・評価項目は、認証評価機関である公益財団法人大学基準協会の評価項目に準拠して実施する他、学長が指定する項目を加えることができる。報告結果は集約して次年度に向けた改善計画を協議し、大学部局長会での議を経て、学長の承認のもと実施している。改善計画の実施結果は翌年度、大学部局長会に報告され、その進捗の確認を行い、大学としての改革・改善につなげている。また、内部質保証推進本部は、各部署のPDCAサイクルが適切に行われるよう支援している。毎年の自己点検・評価報告は、大学公式ホームページ上の以下サイトで公開している。

<https://www.swu.ac.jp/about/effort/evaluation.html#anchor0>

(トップ>昭和女子について>大学の取り組み>認証評価/自己点検評価)

また、令和2年度(2020年度)から自己点検・評価に基づく内部質保証の客観性と妥当

性を確保するために、第三者評価として地域や産業界などの有識者が参画する外部評価委員会を開催し、本学の取り組みに関する評価、意見、助言を得て大学の改革、改善に繋げている。また、外部評価委員会報告書をホームページ上で公開している。

<https://www.swu.ac.jp/about/effort/evaluation.html#anchor1>

(トップ>昭和女子について>大学の取り組み>認証評価/自己点検評価)

その他、学校基本法に基づき、機関別認証評価として、2010 年、2017 年度に公益財団法人大学基準協会による大学（認証評価）を受審し、適合と認定された。

1 4. 情報の公表

教育研究活動等状況に関する情報の公表は、次の「教育情報に関する公開・開示要領」に基づき取り扱っている。

1. 目的

昭和女子大学大学院、昭和女子大学(以下「本学」という。)が保有する情報の公開及び開示に関し必要な事項を定め、本学の運営、教育研究等の社会的説明責任を果たすとともに、本学関係者等の理解と協力を深め、もって開かれた公正な運営に資することを目的とする。

2. 定義

本要領において、「公開」とは容易に情報が閲覧できるようホームページ等を通じて公表することをいい、「開示」とは本要領に定める手続きに基づき情報を提示することをいう。

3. 積極的に公開する情報

本学は、大学の基本情報及び学校教育法施行規則第 172 条の 2 に掲げる教育、研究、教育環境等に関する事項について、ホームページ等を通じて広く社会に公開する。

大学公式ホームページ上の以下サイトに掲載し、次の内容を公表している。

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/>

(トップ>昭和女子大学について>情報の公開)

ア. 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に関すること

・大学の理念・目的

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure01.html>

- ・学部・学科・研究科の理念・目的

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure02.html>

- ・ポリシー

大学院

https://www.swu.ac.jp/about/policy/g_policy.html

大学

<https://www.swu.ac.jp/about/policy/>

イ．教育研究上の基本組織に関すること

- ・設置学部・学科・大学院研究科等

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure03.html>

ウ．教員研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・教員組織
- ・教員データベース(学位・業績等)
- ・専任教員の職階別及び年齢別構成
- ・教員一人当たり学生数

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/>

(情報の公開＞教員組織＞教員一人当たり学生数)

エ．入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・入学者受け入れ方針

https://www.swu.ac.jp/about/policy/g_policy.html

<https://www.swu.ac.jp/about/policy/>

- ・入試状況と試験別入学者数(大学院/大学/編入・学士・転入)
- ・入学定員・収容定員と入学生数・在学生数
- ・入学者推移
- ・社会人学生数
- ・卒業者・修了者数
- ・進学・就職状況
- ・社会人修了者数

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/>

(情報の公開＞卒業・修了者数と進路状況＞社会人修了者数)

オ．授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・開設授業科目

<https://www.swu.ac.jp/examinee/student/curriculum/curriculumlist.html>

- ・実務経験のある教員等による授業科目

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/>

(情報の公開＞授業科目・授業の方法と内容＞実務経験のある教員等による授業科目)

- ・シラバス照会

<https://up.swu.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

- ・授業日程

<https://www.swu.ac.jp/examinee/student/course/schedule.html>

カ．学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・学位授与方針

https://www.swu.ac.jp/about/policy/g_policy.html

<https://www.swu.ac.jp/about/policy/>

- ・履修方法・成績評価・授与学位

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure04.html>

キ．校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・世田谷キャンパス

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure05.html>

- ・研修施設

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure06.html>

- ・海外研修施設

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/disclosure07.html>

ク．授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・大学院

<https://www.swu.ac.jp/campuslife-project/campuslife/gakuhi/daigakuin.html>

- ・大学

<https://www.swu.ac.jp/campuslife-project/campuslife/gakuhi/>

- ・海外留学・研修費用

<https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/>

(情報の公開＞授業料その他大学が徴収する費用＞海外留学・研修費用)

ケ．大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・キャリア支援センター

- ・奨学金制度(受給者数過去 2 年間)
 - ・ライティング・サポート
 - ・コミュニティ・サービスラーニング
 - ・学生相談室/保健管理室
 - ・障がい学生支援室
 - ・キャンパスハラスメントの防止
 - ・生活支援に関する方針
- <https://www.swu.ac.jp/about/disclosure/>
(情報の公開＞学生生活への支援)

コ. その他

- ・キャリアデザイン・ポリシー (大学)
https://www.swu.ac.jp/about/policy/c_policy.html
- ・学則(大学/大学院/専門職大学院)
<https://www.swu.ac.jp/about/policy/rules.html>
- ・認証評価/自己点検・評価/外部評価
<https://www.swu.ac.jp/about/effort/evaluation.html>
- ・学位論文審査基準 (大学院)
https://www.swu.ac.jp/graduate/thesis/ronbun_shinsa.html
- ・専門職大学院に係る情報公開 (専門性が求められる職業に就いている者、当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況)
<https://www.swu.ac.jp/graduate/cont-ed/>
(専門職大学院 福祉社会・経営研究科福祉共創マネジメント専攻＞教育課程連携協議会)

1 5. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施

本学の FD 活動は、FD 推進委員会を中心に全学的に企画・実施している。各取り組みは、求める教員像やこれまでの FD 活動を踏まえて検討し、以下のとおり計画している。各取り組みの実施後には、報告書を学内外に公開するとともに、報告書や参加者アンケートを踏まえて、FD 推進委員会が実施内容の検証と分析を行い、効果的な FD 活動を検討・研究していく。

① 授業改善アンケートの実施

全学生を対象とする「授業改善アンケート」を年2回、各期末に実施する。実施対象は、非常勤講師を含むすべての教員が行う受講者10名以上の授業とする。アンケートは授業改善を目的として実施し、質問項目は学生の自己評価と授業評価の2側面で構成する。各教員は、アンケート集計結果に基づき、今回の総評と次回に向けた改善策を検討し、科目毎に授業改善報告書を作成する。授業改善報告書は、学内WEBサイトにて学生にフィードバックする。また各学科は、学科全体の回答結果とその傾向を踏まえて「学科別授業改善報告書」を作成する。学科別授業改善報告書は、カリキュラム・ポリシーに則ったカリキュラム体系の設計や改善、授業運営方法の改善及び開発等に資することを目的とする。学科別授業改善報告書は、昭和女子大学HPにて公開する。

② 研修会の実施

教員の資質向上に関する研修として、以下を実施する。

・FD 講演会(年1回 6月)[全教員対象]

教員の総合的な教育力の向上を図ることを目的とする。当該年度の研修全体テーマに基づき、教育界の動向や最新の教育トピックスなど、外部から専門家を招いて講演会を行う。

・FD サロン(年1回 10月)[全教員対象]

教員間の交流の場として設け、授業運営をより円滑に進め、諸課題への対応方法等を考えることを目的とする。全体テーマに関する複数の分科会を設け、少人数で事例紹介や意見交換を行う。

・新任教員研修(年1回 3月)[新任教員対象]

翌年度入校の新任教員を対象に、本学の教育の特色及び制度について理解を深めることを目的とし、対面にて実施する。

③ 学科・センター内FD、大学院FDの実施

専門領域の個別ニーズ及び各学科・センター・専攻の課題意識に基づき、各学科・センター内FD及び大学院FDを行う。実施対象は、各所属の全教員である。具体的な取り組みとしては、授業公開やICT 機器利活用に関する学習会、学生理解や授業運営に関する教員同士の意見交換、学習成果の把握及び評価方法の開発とその活用等が想定される。実施計画及び実施報告はFD推進委員会がとりまとめ、全学に公開してグッドプラクティスを共有する。

・実施計画の策定(4月)

・学科・センター内FD、大学院FDの実施(年度内に1回以上)

・実施報告書作成、公開(2月)

(2)教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための能力・資質を向上させる教職員研修等の取組

本学のSD活動は、全教職員を対象として、基本方針に「教職員に必要な知識・技能の習得と能力・資質の向上のための取組み実施」「個々の業務特性を踏まえた計画的・組織的な研修機会の提供」等を掲げ、学園本部人事部が主管となり、本学の中期方針に基づき計画・実施をしている。

全教職員対象の一斉研修としては、毎年3月開催の次年度常勤入職予定者を対象とする新任者研修会や、人事部が企画し各所属立案により毎年6～9月に実施する全員参加型勉強会等を実施している。また、オンライン研修ツールを活用したオンデマンド型研修も今後拡大する。

なお、個別参加または部門・所属単位での実施による研修は、外部団体等が実施する研修への派遣のほか、次の内容に関する本学独自の研修を、引き続き計画・実施していく。

ア.3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証に関するもの

イ.教学マネジメントに関わる専門的職員の育成に関するもの

ウ.大学改革に関するもの

エ.学生の厚生補導に関するもの

オ.業務領域の知見の獲得を目的とするもの（総務、財務、人事、企画、教務、研究等）

カ.管理職の役割や人事評価制度への理解促進、並びに人材育成推進をはかるもの

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア. 教育課程内の取組について

大学全体及び各学科において社会的・職業的自立に関する方針であるキャリアデザイン・ポリシーを策定し、キャリア教育を推進している。大学全体及び各学科のキャリアデザイン・ポリシーは大学 Web サイトにて公開しており、大学内外において参照可能となっている。

・キャリアデザイン・ポリシー

https://www.swu.ac.jp/about/policy/c_policy.html

総合情報学部データサイエンス学科、デジタルイノベーション学科のキャリアデザイン・ポリシーは資料のとおりである【資料14】【資料15】。

大学全体のキャリアデザイン・ポリシーは次の3点からなる。

- (1) 本学での学修と実践を通して、継続就業や再就業に係る職業意識・職業観を磨き、長い生涯にわたる自分の生き方を設計するキャリアデザイン力を養う。
- (2) 学科の「キャリアデザイン・ポリシー」に基づき、「専門教育科目」を体系的に履修することによって、その特性を活かした職業・就業分野で社会的に自立できる職業人を育成する。
- (3) 国際的な視野と豊かな教養、職業上の倫理観を身につけ、自立した人間として 21 世紀の男女共同参画社会を担う人材を育成する。

キャリアデザイン・ポリシー(1)を実現するために、一般教養のキャリアデザイン・ポリシーを策定した上で、全学共通キャリア・コア科目を開講している【資料16】。1 年次向けに「キャリアデザイン入門」、2,3 年次向けに「女性とキャリア形成」及び「女性の生き方と社会」、3,4 年生向けに「企業と社会のルール」を設けている。

キャリアデザイン・ポリシー(2)に関して、各学科にてキャリアデザイン・ポリシーを策定し、ポリシーに基づく専門教育の体系的な呈示と学生指導を行っている。キャリア支援部及びキャリア支援センターを中心に、各学科の取り組みに関する学科横断的な情報共有並びに合同イベントも行われており、学生の積極的なキャリアデザイン、キャリア発達を促している。

キャリアデザイン・ポリシー(3)に関して、全学共通教育センターでは「リーダーシップ教育認証プログラム」を展開している。本プログラムは、学生自身に女性としてのキャリア・ディベロップメントを促し、リーダーシップ理論とスキルを実践的に習得し、社会貢献を実践することで、次世代を担う女性リーダーシップの育成を目指したものである。

GPA が通算 2.7 以上かつ所定科目の単位修得と社会活動ポイントを満たした上で、申告した者に修了証を授与し、学生の能動的なキャリアデザインの可視化を実現している。

以上のように、大学全体及び各学科キャリアデザイン・ポリシーの明確化、全学共通キャリア・コア科目の開講、リーダーシップ教育認証プログラムの設置を通じて、学生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力の体系的育成と成果の可視化を実現している。

イ. 教育課程外の実施について

本学では学生の社会的・職業的自立を支援するにあたり、教職協働の体制を構築し取り組んでいる。キャリア支援センターを中心に、在学生・卒業生を問わず就職・進学・転職・再就職など、卒業後の多様な進路を想定したきめ細かい支援を行っている。特に、各学科に配置されているキャリア支援部委員や学科の指導教員とキャリア支援センターの職員が連携し、企業からの求人情報（本学だけを対象とした情報を含む）の開拓と就活生への適時開示を実現している。

また、学生のニーズや社会の動向を反映した約 100 件の就活支援講座のほか、教職員とキャリアコンサルタントの国家資格を持つ専門のカウンセラー合わせて約 30 人体制で、就活生一人一人に応じた個別面談を対面またはオンラインで行い、進路選択や業界・企業研究、自己分析、履歴書やエントリーシートの添削、面接指導などを実施している。

2011 年にスタートした社会人メンター制度では、公募や教職員推薦により登録された約 360 名の多様な職業体験を持つ女性社会人メンターが、学生が将来目指す「ロールモデル」として、様々な観点からアドバイスを行っている。学生はメンターの経歴などをデータベースから検索することで、相談したいメンターを探すことができる。本制度では、個別メンタリング(一対一の相談形式)、メンターカフェ(特定のテーマを設け、複数のメンターから話を聞く形式)、メンターフェア(10 名前後のメンターがブースを設け、学生が自由に話を聞く形式)の 3 プログラムを行っている。

ウ. 適切な体制の整備について

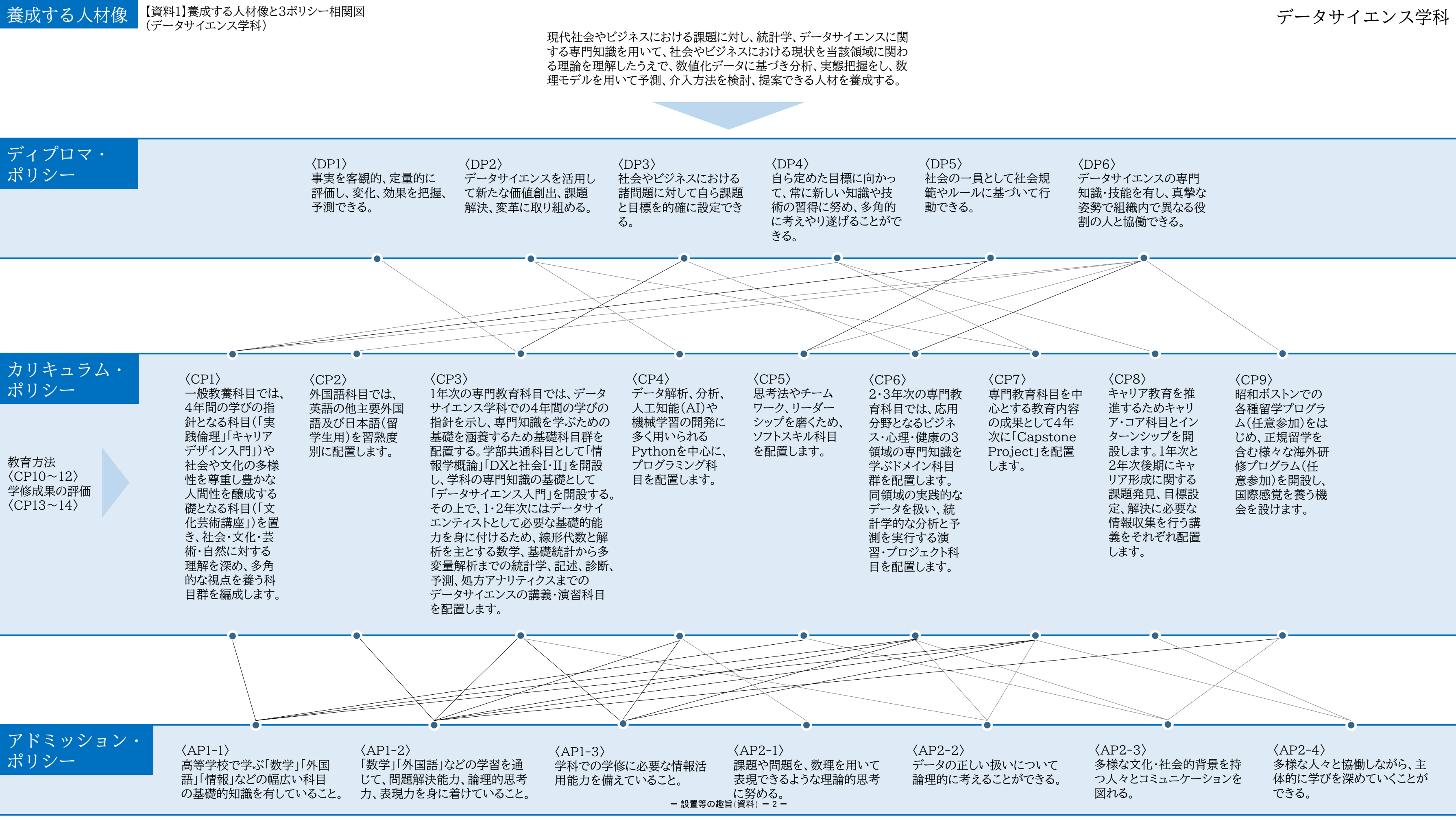
本学では、各学科に配置するキャリア支援部委員で構成される教員組織のキャリア支援部と職員組織のキャリア支援センター及び学科教員が連携する体制で、独自の「キャリア支援システム」を構築している【資料 16】。

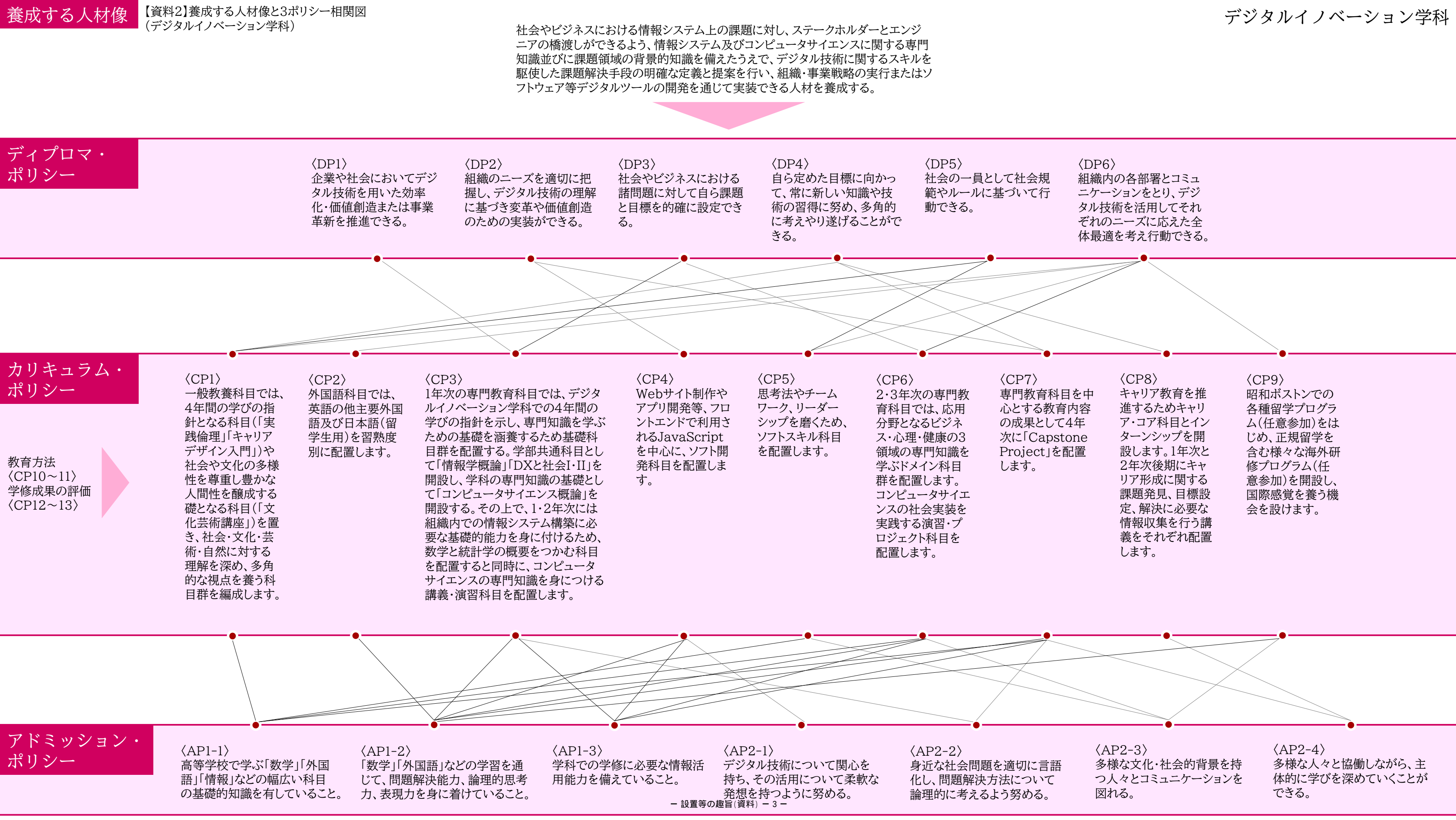
また図書館と連携してキャリア支援センター内にも就職関連書籍や DVD を常備して貸し出しを行い、内定者による活動体験記や OG 名簿の閲覧も実施している。

設置の趣旨等を記載した書類（別添資料）

資料目次

【資料 1】	養成する人材像と 3 ポリシー関連図（データサイエンス学科）	2
【資料 2】	養成する人材像と 3 ポリシー関連図（デジタルイノベーション学科）	3
【資料 3】	カリキュラムマップ（データサイエンス学科）	4
【資料 4】	カリキュラムマップ（デジタルイノベーション学科）	5
【資料 5】	履修モデル（データサイエンス学科）	6
【資料 6】	履修モデル（デジタルイノベーション学科）	8
【資料 7】	2024 年度インターンシップ実績一覧	10
【資料 8】	服務規程	11
【資料 9】	定年後再雇用者の取扱規程	47
【資料 10】	10 号館イメージパース	51
【資料 11】	前期 時間割（総合情報学部）	68
【資料 12】	後期 時間割（総合情報学部）	71
【資料 13】	昭和女子大学自己点検・評価規程	74
【資料 14】	キャリアデザイン・ポリシー（データサイエンス学科）	76
【資料 15】	キャリアデザイン・ポリシー（デジタルイノベーション学科）	77
【資料 16】	キャリア支援システム	78





区分	科目名称	学年	開講期	単位	分類	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
初年次教育	データサイエンス基礎演習Ⅰ	1	前期	1	必修		○	◎			○
	データサイエンス基礎演習Ⅱ	1	後期	1	必修		○	◎			○
基礎科目群	情報学概論	1	前期	2	必修		○	◎		○	
	DXと社会Ⅰ	1	前期	2	必修		○	○		◎	
	DXと社会Ⅱ	1	後期	2	必修		○	○		◎	
	データサイエンス入門	1	後期	2	必修		○	◎		○	
	情報倫理	2	前期	2	必修		○	○		◎	
数学・統計学	数学基礎	1	前期	2	必修	◎	○				○
	解析	1	後期	2	必修	◎	○				○
	線形代数Ⅰ	1	後期	2	必修	◎	○				○
	線形代数Ⅱ	2	前期	2	必修	◎	○				○
	統計学基礎	1	前期	2	必修	◎	○				○
	統計学	1	後期	2	必修	◎	○				○
	Statistics Workshop	2	前期	2	必修	◎	○				○
ソフトスキル	ソフトスキル概論	1	前期	2	必修		○			○	◎
	デザイン思考	1	前期	2	必修		○			○	◎
	クリティカルシンキング	1	後期	2	必修		○			○	◎
	チームマネジメント	2	前期	2	必修		○			○	◎
	プロジェクトマネジメント	2	後期	2	必修		○			○	◎
データサイエンス理論	記述アナリティクス	2	前期	2	必修	◎	○		○		
	診断アナリティクス	2	後期	2	必修	◎	○		○		
	予測アナリティクス	2	後期	2	必修	◎	○		○		
	Descriptive Analytics Workshop	2	後期	2	必修	◎	○		○		
	深層学習	3	前期	2	必修	◎	○		○		
	処方アナリティクス	3	前期	2	必修	◎	○		○		
	Machine Learning Workshop	3	後期	2	必修	◎	○		○		
	心理統計	3	前期	2	選択	◎	○		○		
	時系列分析	3	前期	2	選択	◎	○		○		
	コンピュータビジョン	3	後期	2	選択	◎	○		○		
	自然言語処理	3	後期	2	選択	◎	○		○		
	マーケティング・アナリティクス	3	前期	2	選択	◎	○		○		
	ピープル・アナリティクス	3	後期	2	選択	◎	○		○		
	マーケティング・アナリティクス（ケーススタディ）	4	前期	2	選択	○	◎	○			
	ピープル・アナリティクス（ケーススタディ）	4	前期	2	選択	○	◎	○			
	DXケーススタディ	3	後期	2	選択	○	◎	○			
	マテリアルズインフォマティクス	3	後期	2	選択	○	◎	○			
	心理調査研究法	3	後期	2	選択	○	◎	○			
	行動科学実験法	3	前期	2	選択	○	◎	○			
	健康調査研究法	3	後期	2	選択	○	◎	○			
	生体科学実験法	3	後期	2	選択	○	◎	○			
プログラミング	Python基礎	1	前期	2	必修	○	◎				○
	Python統計学	1	後期	2	必修	○	◎				○
	PythonアナリティクスⅠ	2	後期	2	必修	○	◎				○
	PythonアナリティクスⅡ	3	前期	2	必修	○	◎				○
データサイエンス演習	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ	2	前期	2	必修		○		◎		○
	データサイエンス基礎プロジェクトⅡ	2	後期	2	必修		○		◎		○
	データサイエンス演習Ⅰ	3	前期	2	必修		○		◎		○
	データサイエンス演習Ⅱ	3	後期	2	必修		○		◎		○
ドメイン	経営管理論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	人的資源管理	2	前期	2	選択			◎	○		○
	消費者行動論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	組織行動論	3	前期	2	選択			◎	○		○
	デジタルマーケティング	3	前期	2	選択			◎	○		○
	基礎心理学概論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	認知科学概論	2	後期	2	選択			◎	○		○
	産業組織心理学	2	後期	2	選択			◎	○		○
	グループ・ダイナミックス	3	前期	2	選択			◎	○		○
	応用認知科学	3	後期	2	選択			◎	○		○
	健康科学概論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	食・栄養情報学	2	後期	2	選択			◎	○		○
	健康・行動情報学	2	後期	2	選択			◎	○		○
	運動・感覚情報学	3	前期	2	選択			◎	○		○
	応用健康科学	3	前期	2	選択			◎	○		○
関連	データ活用特講Ⅰ	3	前期	2	選択		○		○		◎
	データ活用特講Ⅱ	3	後期	2	選択		○		○		◎
	海外情報学研修	2	前期	1	選択		○		○		◎
卒業研究・演習	データサイエンス専門演習Ⅰ	4	前期	2	必修		◎		○		○
	データサイエンス専門演習Ⅱ	4	後期	2	必修		◎		○		○
	Capstone Project	4	通年	4	必修		◎		○		○

区分	科目名称	学年	開講期	単位	分類	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
初年次教育	デジタルイノベーション基礎演習Ⅰ	1	前期	1	必修		○	◎			○
	デジタルイノベーション基礎演習Ⅱ	1	後期	1	必修		○	◎			○
基礎科目群	情報学概論	1	前期	2	必修		○	◎		○	
	コンピュータサイエンス概論	1	後期	2	必修		○	◎		○	
	DXと社会Ⅰ	1	前期	2	必修		○	○		◎	
	DXと社会Ⅱ	1	後期	2	必修		○	○		◎	
	データサイエンス入門	1	後期	2	必修		○	◎		○	
	情報倫理	2	前期	2	必修		○	○		◎	
数学・統計学	数学基礎	1	前期	2	必修	◎	○				○
	解析	1	後期	2	必修	◎	○				○
	統計学基礎	1	前期	2	必修	◎	○				○
	Python入門	1	後期	2	必修	◎	○				○
	データビジュアライゼーション	2	前期	2	必修	◎	○				○
	機械学習入門	2	後期	2	必修	◎	○				○
	Python統計	2	後期	2	必修	◎	○				○
	ビジネスインテリジェンス	3	前期	2	選択	◎	○				○
ソフトスキル	ソフトスキル概論	1	前期	2	必修		○			○	◎
	デザイン思考	1	前期	2	必修		○			○	◎
	クリティカルシンキング	1	後期	2	必修		○			○	◎
	チームマネジメント	2	前期	2	必修		○			○	◎
	プロジェクトマネジメント	2	後期	2	必修		○			○	◎
コンピュータサイエンス	データマネジメント	2	前期	2	必修	◎	○		○		
	データエンジニアリング	2	後期	2	必修	◎	○		○		
	IoT概論	2	後期	2	必修	◎	○		○		
	Emerging TechnologyⅠ	2	前期	2	必修	◎	○		○		
	Emerging TechnologyⅡ	2	後期	2	必修	◎	○		○		
	DXケーススタディ	3	後期	2	必修	◎	○		○		
	MLOps	3	前期	2	選択	◎	○		○		
	クラウドコンピューティング	3	前期	2	選択	◎	○		○		
	サイバーセキュリティ	3	前期	2	選択	◎	○		○		
	ビッグデータマネジメント	3	後期	2	選択	◎	○		○		
	マテリアルズインフォマティクス	3	後期	2	選択	○	◎		○		
	デジタル画像処理	3	後期	2	選択	◎	○		○		
ソフト開発	プログラミング基礎	1	前期	2	必修	○	◎				○
	プログラミング中級	1	後期	2	必修	○	◎				○
	UMLモデリング	2	前期	2	必修	○	◎				○
	オブジェクト指向プログラミング	2	後期	2	必修	○	◎				○
	UXプロトタイピング	2	後期	2	必修	○	◎				○
	コラボレーティブアプリ開発	3	前期	2	必修	○	◎				○
	プログラミング上級	3	前期	2	選択	○	◎				○
	データ構造とアルゴリズム	3	後期	2	選択	○	◎				○
デジタルイノベーション演習	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅠ	2	前期	2	必修		○		◎		○
	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅡ	2	後期	2	必修		○		◎		○
	デジタルイノベーション演習Ⅰ	3	前期	2	必修		○		◎		○
	デジタルイノベーション演習Ⅱ	3	後期	2	必修		○		◎		○
ドメイン	経営管理論	2	前期	2	必修			◎	○		○
	人的資源管理	2	前期	2	選択			◎	○		○
	消費者行動論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	組織行動論	3	前期	2	選択			◎	○		○
	デジタルマーケティング	3	前期	2	選択			◎	○		○
	基礎心理学概論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	認知科学概論	2	後期	2	選択			◎	○		○
	産業組織心理学	2	後期	2	選択			◎	○		○
	グループ・ダイナミックス	3	前期	2	選択			◎	○		○
	応用認知科学	3	後期	2	選択			◎	○		○
	健康科学概論	2	前期	2	選択			◎	○		○
	食・栄養情報学	2	後期	2	選択			◎	○		○
	健康・行動情報学	2	後期	2	選択			◎	○		○
	運動・感覚情報学	3	前期	2	選択			◎	○		○
	応用健康科学	3	前期	2	選択			◎	○		○
関連	データ活用特講Ⅰ	3	前期	2	選択		○		○		◎
	データ活用特講Ⅱ	3	後期	2	選択		○		○		◎
	海外情報学研修	2	前期	1	選択		○		○		◎
卒業研究・演習	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ	4	前期	2	必修		◎		○		○
	デジタルイノベーション専門演習Ⅱ	4	後期	2	必修		◎		○		○
	Capstone Project	4	通年	4	必修		◎		○		○

現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。

履修モデル①: データサイエンスに関する専門性の高い知識とスキルを活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、
様々なデータを利活用して適切な分析と予測ができるデータサイエンティストとして活躍する人材

4年
3年
2年
1年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)				
	データサイエンス専門演習Ⅰ(2) データサイエンス専門演習Ⅱ(2)				
	深層学習(2) 処方アナリティクス(2) Machine Learning Workshop(2)	PythonアナリティクスⅡ(2)	データサイエンス演習Ⅰ(2) データサイエンス演習Ⅱ(2)		時系列分析(2) 自然言語処理(2) コンピュータビジョン(2) DXケーススタディ(2) データ活用特講Ⅰ(2) データ活用特講Ⅱ(2) 組織行動論(2)
	記述アナリティクス(2) 診断アナリティクス(2) 予測アナリティクス(2) Descriptive Analytics Workshop(2)	PythonアナリティクスⅠ(2)	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ(2) データサイエンス基礎プロジェクトⅡ(2)	チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	経営管理論(2) 人的資源管理(2) 消費者行動論(2) 基礎心理学概論(2) 産業組織心理学(2) 健康科学概論(2) 海外情報学研修(1)
	情報倫理(2) 線形代数Ⅱ(2) Statistics Workshop(2)				
	情報学概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 解析(2) 線形代数Ⅰ(2) 統計学(2) 統計学基礎(2)	Python基礎(2) Python統計学(2)	データサイエンス基礎演習Ⅰ(1) データサイエンス基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリティカルシンキング(2)
専門教育科目(必修)(74)					専門教育科目(選択)(27)

※ () 括弧内は単位数を示す

現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。

履修モデル②: データサイエンスとドメイン知識(ビジネス)を活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、
データサイエンスとビジネスに関する専門知識に基づく適切な分析と予測をすることでマーケティング・企画・営業・人事など様々な部門で活躍する人材

4年
3年
2年
1年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)					マーケティング・アナリティクス(ケーススタディ)(2)
	データサイエンス専門演習Ⅰ(2) データサイエンス専門演習Ⅱ(2)					
	深層学習(2) 処方アナリティクス(2) Machine Learning Workshop(2)	PythonアナリティクスⅡ(2)	データサイエンス演習Ⅰ(2) データサイエンス演習Ⅱ(2)			マーケティング・アナリティクス(2) マテリアルズ・インフォマティクス(2) DXケーススタディ(2) データ活用特講Ⅰ(2) データ活用特講Ⅱ(2) デジタルマーケティング(2) 組織行動論(2)
	記述アナリティクス(2) 診断アナリティクス(2) 予測アナリティクス(2) Descriptive Analytics Workshop(2)	PythonアナリティクスⅠ(2)	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ(2) データサイエンス基礎プロジェクトⅡ(2)	チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)		経営管理論(2) 消費者行動論(2) 基礎心理学概論(2) 産業組織心理学(2) 健康科学概論(2) 海外情報学研修(1)
	情報倫理(2) 線形代数Ⅱ(2) Statistics Workshop(2)					
	情報学概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 解析(2) 線形代数Ⅰ(2) 統計学(2) 統計学基礎(2)	Python基礎(2) Python統計学(2)	データサイエンス基礎演習Ⅰ(1) データサイエンス基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリティカルシンキング(2)	
専門教育科目(必修)(74)					専門教育科目(選択)(27)	

※ () 括弧内は単位数を示す

現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。

履修モデル③: データサイエンスとドメイン知識(心理)を活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、データサイエンスと心理に関するドメイン知識に基づく適切な分析と予測をすることでマーケティング・企画・営業・人事など様々な部門で活躍する人材

4年
3年
2年
1年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)					ビジュアルアナリティクス(ケーススタディ)(2)
	データサイエンス専門演習Ⅰ(2) データサイエンス専門演習Ⅱ(2)					
	深層学習(2) 処方アナリティクス(2) Machine Learning Workshop(2)	PythonアナリティクスⅡ(2)	データサイエンス演習Ⅰ(2) データサイエンス演習Ⅱ(2)		心理統計(2) ビジュアル・アナリティクス(2) 心理調査研究法(2) 行動科学実験法(2) 組織行動論(2) グループ・ダイナミクス(2) 応用認知科学(2)	
	記述アナリティクス(2) 診断アナリティクス(2) 予測アナリティクス(2) Descriptive Analytics Workshop(2)	PythonアナリティクスⅠ(2)	データサイエンス 基礎プロジェクトⅠ(2) データサイエンス 基礎プロジェクトⅡ(2)	チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	経営管理論(2) 基礎心理学概論(2) 認知科学概論(2) 産業組織心理学(2) 健康科学概論(2)	
	情報倫理(2) 線形代数Ⅱ(2) Statistics Workshop(2)					
	情報学概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 解析(2) 線形代数Ⅰ(2) 統計学(2) 統計学基礎(2)	Python基礎(2) Python統計学(2)	データサイエンス 基礎演習Ⅰ(1) データサイエンス 基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリティカルシンキング(2)	
専門教育科目(必修)(74)					専門教育科目(選択)(26)	

※ () 括弧内は単位数を示す

現代社会やビジネスにおける課題に対し、統計学、データサイエンスに関する専門知識を用いて、社会やビジネスにおける現状を当該領域に関わる理論を理解したうえで、数値化データに基づき分析、実態把握をし、数理モデルを用いて予測、介入方法を検討、提案できる人材を養成する。

履修モデル④: データサイエンスとドメイン知識(健康)を活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、データサイエンスと健康に関するドメイン知識に基づく適切な分析と予測をすることでマーケティング・企画・営業・人事など様々な部門で活躍する人材

4年
3年
2年
1年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)					ビジュアルアナリティクス(ケーススタディ)(2)
	データサイエンス専門演習Ⅰ(2) データサイエンス専門演習Ⅱ(2)					
	深層学習(2) 処方アナリティクス(2) Machine Learning Workshop(2)	PythonアナリティクスⅡ(2)	データサイエンス演習Ⅰ(2) データサイエンス演習Ⅱ(2)		時系列分析(2) ビジュアル・アナリティクス(2) 健康調査研究法(2) 生体科学実験法(2) 運動・感覚情報学(2) 応用健康科学(2)	
	記述アナリティクス(2) 診断アナリティクス(2) 予測アナリティクス(2) Descriptive Analytics Workshop(2)	PythonアナリティクスⅠ(2)	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ(2) データサイエンス基礎プロジェクトⅡ(2)	チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	経営管理論(2) 人的資源管理(2) 基礎心理学概論(2) 健康科学概論(2) 食・栄養情報学(2) 健康・行動情報学(2)	
	情報倫理(2) 線形代数Ⅱ(2) Statistics Workshop(2)					
	情報学概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 解析(2) 線形代数Ⅰ(2) 統計学(2) 統計学基礎(2)	Python基礎(2) Python統計学(2)	データサイエンス基礎演習Ⅰ(1) データサイエンス基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリティカルシンキング(2)	
専門教育科目(必修)(74)					専門教育科目(選択)(26)	

※ () 括弧内は単位数を示す

社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。

履修モデル①: デジタル技術に関する専門性の高い知識とスキルを活かした職業
(情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、様々なデジタル技術を活用して新たな提案と実装ができるIT/ WEBエンジニアとして活躍する人材)

4
年

3
年

2
年

1
年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)					
	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ(2) デジタルイノベーション専門演習Ⅱ(2)					
	DXケーススタディ(2)	コラボレーティブ アプリ開発(2)	デジタルイノベーション演習Ⅰ(2) デジタルイノベーション演習Ⅱ(2)		MLOps(2) クラウドコンピューティング(2) サイバーセキュリティ(2) ビッグデータマネジメント(2) データ構造とアルゴリズム(2) プログラミング上級(2) デジタルマーケティング(2) 組織行動論(2)	
	情報倫理(2) データマネジメント(2) データエンジニアリング(2) IoT概論(2) Emerging TechnologyⅠ(2) Emerging TechnologyⅡ(2)	データビジュアライゼーション (2) 機械学習入門(2) Python統計(2)	UMLモデリング(2) オブジェクト指向 プログラミング(2) UXプロトタイピング(2)	デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅠ(2) デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅡ(2)	経営管理論(2) チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	消費者行動論(2) 基礎心理学概論(2) 健康科学概論(2)
	情報学概論(2) コンピュータサイエンス概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 統計学基礎(2) Python入門(2) 解析(2)	プログラミング基礎(2) プログラミング中級(2)	デジタルイノベーション 基礎演習Ⅰ(1) デジタルイノベーション 基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリティカルシンキング(2)	
専門教育科目(必修)(80)					専門教育科目(選択)(22)	

※ () 括弧内は単位数を示す

社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。

履修モデル②: デジタル技術とドメイン知識(ビジネス)を活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、デジタル技術とビジネスに関する専門知識に基づく新たな提案と実装を通じてマーケティング・企画・営業・人事など様々な部門で活躍する人材

4
年

3
年

2
年

1
年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)					
	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ(2) デジタルイノベーション専門演習Ⅱ(2)					
	DXケーススタディ(2)	コラボレーティブ アプリ開発(2)	デジタルイノベーション演習Ⅰ(2) デジタルイノベーション演習Ⅱ(2)		サイバーセキュリティ(2) ビジネスインテリジェンス(2) マテリアルズ・インフォマティクス(2) データ活用特講Ⅰ(2) 組織行動論(2) デジタルマーケティング(2)	
	情報倫理(2) データマネジメント(2) データエンジニアリング(2) IoT概論(2) Emerging TechnologyⅠ(2) Emerging TechnologyⅡ(2)	データビジュアライゼーション(2) 機械学習入門(2) Python統計(2)	UMLモデリング(2) オブジェクト指向 プログラミング(2) UXプロトタイピング(2)	デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅠ(2) デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅡ(2)	経営管理論(2) チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	人的資源管理(2) 消費者行動論(2) 基礎心理学概論(2) 健康科学概論(2) 海外情報学研修(1)
	情報学概論(2) コンピュータサイエンス概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 統計学基礎(2) Python入門(2) 解析(2)	プログラミング基礎(2) プログラミング中級(2)	デジタルイノベーション 基礎演習Ⅰ(1) デジタルイノベーション 基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリティカルシンキング(2)	
	専門教育科目(必修)(80)					専門教育科目(選択)(21)

※ () 括弧内は単位数を示す

社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。

履修モデル③: デジタル技術とドメイン知識(心理)を活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、デジタル技術と心理に関するドメイン知識に基づく新たな提案と実装を通じてマーケティング・企画・営業・人事など様々な部門で活躍する人材

4年
3年
2年
1年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project(4)					
	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ(2) デジタルイノベーション専門演習Ⅱ(2)					
	DXケーススタディ(2)	コラボレーティブ アプリ開発(2)	デジタルイノベーション演習Ⅰ(2) デジタルイノベーション演習Ⅱ(2)		デジタル画像処理(2) データ構造とアルゴリズム(2) プログラミング上級(2) 組織行動論(2) グループ・ダイナミクス(2) 応用認知科学(2)	
	情報倫理(2) データマネジメント(2) データエンジニアリング(2) IoT概論(2) Emerging TechnologyⅠ(2) Emerging TechnologyⅡ(2)	データビジュアライゼーション(2) 機械学習入門(2) Python統計(2)	UMLモデリング(2) オブジェクト指向 プログラミング(2) UXプロトタイピング(2)	デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅠ(2) デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅡ(2)	経営管理論(2) チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	基礎心理学概論(2) 認知科学概論(2) 産業組織心理学(2) 健康科学概論(2) 海外情報学研修(1)
	情報学概論(2) コンピュータサイエンス概論(2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ(2) DXと社会Ⅱ(2)	数学基礎(2) 統計学基礎(2) Python入門(2) 解析(2)	プログラミング基礎(2) プログラミング中級(2)	デジタルイノベーション 基礎演習Ⅰ(1) デジタルイノベーション 基礎演習Ⅱ(1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリエイティブシンキング(2)	
	専門教育科目(必修)(80)					専門教育科目(選択)(21)

※ () 括弧内は単位数を示す

社会やビジネスにおける情報システム上の課題に対し、ステークホルダーとエンジニアの橋渡しができるよう、情報システム及びコンピュータサイエンスに関する専門知識並びに課題領域の背景的知識を備えたうえで、デジタル技術に関するスキルを駆使した課題解決手段の明確な定義と提案を行い、組織・事業戦略の実行またはソフトウェア等デジタルツールの開発を通じて実装できる人材を養成する。

履修モデル④: デジタル技術とドメイン知識(健康)を活かした職業
情報・通信、製造、卸売・小売、金融・保険、製造、運輸・サービス・マスメディア、公的機関(国や地方自治体)において、デジタル技術と健康に関するドメイン知識に基づく新たな提案と実装を通じてマーケティング・企画・営業・人事など様々な部門で活躍する人材

4年
3年
2年
1年

一般教養科目(17) 外国語科目(8)	Capstone Project (4)					
	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ (2) デジタルイノベーション専門演習Ⅱ (2)					
	DXケーススタディ(2)	コラボレーティブ アプリ開発(2)	デジタルイノベーション演習Ⅰ (2) デジタルイノベーション演習Ⅱ (2)		ビッグデータマネジメント(2) データ構造とアルゴリズム(2) プログラミング上級(2) データ活用特講Ⅱ(2) 運動・感覚情報学(2) 応用健康科学(2)	
	情報倫理(2) データマネジメント(2) データエンジニアリング(2) IoT概論(2) Emerging TechnologyⅠ(2) Emerging TechnologyⅡ(2)	UMLモデリング(2) オブジェクト指向 プログラミング(2) 機械学習入門(2) Python統計(2) UXプロトタイピング(2)	デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅠ (2) デジタルイノベーション 基礎プロジェクトⅡ (2)	経営管理論(2) チームマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(2)	基礎心理学概論(2) 健康科学概論(2) 食・栄養情報学(2) 健康・行動情報学(2) 海外情報学研修(1)	
	情報学概論(2) コンピュータサイエンス概論 (2) データサイエンス入門(2) DXと社会Ⅰ (2) DXと社会Ⅱ (2)	数学基礎(2) 統計学基礎(2) Python入門(2) 解析(2)	プログラミング基礎(2) プログラミング中級(2)	デジタルイノベーション 基礎演習Ⅰ (1) デジタルイノベーション 基礎演習Ⅱ (1)	ソフトスキル概論(2) デザイン思考(2) クリエイティブシンキング(2)	
	専門教育科目(必修) (80)					専門教育科目(選択)(21)

※ () 括弧内は単位数を示す

【資料7】2024年度インターンシップ実績一覧

■学校推薦インターンシップ 80事業所・179名

No.	事業所名	業種	総計	日文	歴文	英コミ	国際	ビジネス	会計	心理	福祉	現代	初教	環境	健康	管理	食安全
1	社会保険労務士事務所 <あおぞらコンサルティング>	サービス	1						1								
2	特定非営利活動法人 A D R A J a p a n	サービス	1		1												
3	インスティテュート・セルバンテス東京	サービス	5				5										
4	株式会社 W I T H	サービス	1	1													
5	株式会社 A T I	サービス	1			1											
6	株式会社 O A Gコンサルティンググループ	サービス	5				1		3								
7	川崎市男女共同参画センター すくらむ 2 1	サービス	1								1						
8	株式会社 グランディオサービス	サービス	3		2					1							
9	株式会社 京王フレッソイン	サービス	10		5	3			1	1							
10	K C J G R O U P 株式会社	サービス	2						1								1
11	在日英国商業会議所	サービス	1				1										
12	湘南技術センター株式会社	サービス	1	1													
13	昭和女子大学図書館	サービス	4	1	3												
14	一般社団法人人材活用推進機構	サービス	3		2	1											
15	一般社団法人新情報センター	サービス	3		1					2							
16	社会福祉法人 せたがや堰の木会 世田谷区立下馬福祉工房	サービス	2							2							
17	世田谷区立男女共同参画センター らぶらす	サービス	3		2					1							
18	公益財団法人 せたがや文化財団 世田谷文化生活情報センター『生活工房』	サービス	1		1												
19	特定非営利活動法人 多文化共生センター-東京	サービス	1	1													
20	東急ウエルネス株式会社	サービス	1														1
21	株式会社 東京映画社	サービス	1				1										
22	株式会社 日本レジストリサービス	サービス	1						1								
23	株式会社 バノナグループ	サービス	2						1	1							
24	Beyondia International School	サービス	1	1													
25	富士屋ホテル株式会社	サービス	2			1	1										
26	株式会社 ベオスアイティホールディングス	サービス	3		1			1		1							
27	町田カターラ (株式会社 ミドルウッド)	サービス	1		1												
28	町田市議会議員 吉田つとむ	サービス	2														2
29	医療法人社 団明芳会 横浜旭中央総合病院(IMSグループ)	サービス	1		1												
30	芳田新一法律事務所	サービス	2					1		1							
31	株式会社 W A O ! ! S T Y L E	サービス	4	1	1	1	1										
32	キョコマン株式会社 東京本社	メーカー	1												1		
33	堀江車輛電装株式会社	メーカー	2		1					1							
34	株式会社 ウィライツ	商社	1												1		
35	株式会社 内田洋行	商社	1							1							
36	株式会社 エービーシー商会	商社	1	1													
37	株式会社 オンワード 壺山	商社	2			1					1						
38	双日株式会社	商社	1					1									
39	高島株式会社	商社	1					1									
40	オイシックス・ラ・大地株式会社	卸売	1														1
41	神奈川トヨタ自動車株式会社	卸売	3	2		1											
42	株式会社 キタムラ	卸売	1									1					
43	株式会社 京王ストア	卸売	1			1											
44	ザミット株式会社	卸売	5		1	1			1								2
45	千葉トヨペット株式会社	卸売	2	1							1						
46	株式会社 東急グルメフロント	卸売	2									1			1		
47	株式会社 東急ストア	卸売	4	1	1										1		1
48	いちよし証券株式会社	金融	5		1				3			1					
49	S M B C 日興証券株式会社	金融	2		1				1								
50	立花証券株式会社	金融	2	1													1
51	みずほ証券株式会社	金融	2						1		1						
52	株式会社 三井住友銀行	金融	2				1	1									
53	水戸証券株式会社	金融	2					1	1								
54	株式会社 エムズ・アーキテクト	建設	3											3			
55	五洋建設株式会社	建設	1											1			
56	株式会社 サラデザイン	建設	2											2			
57	住友林業株式会社	建設	1											1			
58	株式会社 タイムワカイ 東日本事業部	建設	2		1			1									
59	戸田建設株式会社 東京支店	建設	4			1			1					2			
60	株式会社 共立メンテナンス	不動産	1									1					
61	株式会社 ジェイ・エス・ビー・ネットワーク	不動産	3	1		1	1										
62	スタートアップ・ボリューション株式会社	不動産	5	1	1					1					1		1
63	東急住宅リース株式会社	不動産	3		1			1			1						1
64	センコー株式会社 東京本社	輸送	4			1			1			1					1
65	フェデラルエクスプレスジャパン合同会社 新砂営業所	輸送	3		1	1						1					
66	アイエックス・ナレッジ株式会社	情報通信	3		2		1										
67	株式会社 エスワイシステム 関東事業本部	情報通信	2	1	1												
68	株式会社 旺文社	情報通信	1			1											
69	株式会社 O S K	情報通信	2	1							1						
70	株式会社 大空出版	情報通信	2	2													
71	株式会社 ガスエネルギー新聞	情報通信	2								1		1				
72	株式会社 コア	情報通信	1					1									
73	株式会社 ジャパンライフデザインシステムズ	情報通信	6	2	1							2		1			
74	株式会社 大和総研インフォメーションシステムズ	情報通信	2					2									
75	株式会社 東計電算	情報通信	1									1					
76	ナビコンコンピュータ株式会社 東京本社	情報通信	2	1		1											
77	株式会社 ハイマックス	情報通信	3		2					1							
78	バルソネット株式会社	情報通信	2	1	1												
79	有限会社 かみなか農楽舎	農業	2												1		1
80	世田谷区役所	公務	2		2												
総計			179	22	39	19	12	10	17	17	4	9	1	11	5	0	13

■学校取りまとめインターンシップ 5省庁・5名

No.	官公庁名	業種	総計	日文	歴文	英コミ	国際	ビジネス	会計	心理	福祉	現代	初教	環境	健康	管理	食安全
1	霞が関体験プログラム(内閣人事局)	公務	1			1											
2	川越市	公務	1												1		
3	東京都庁	公務	1								1						
4	法務省	公務	1							1							
5	蔵市	公務	1									1					
総計			5	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0

■現代ビジネス研究所 10プロジェクト・82名

No.	種別	種別	総計	日文	歴文	英コミ	国際	ビジネス	会計	心理	福祉	現代	初教	環境	健康	管理	食安全
1	プロジェクト型協働インターンシップ	PBL型	82	6	8	6	0	8	5	9	1	5	3	2	15	2	12
※Creative Learning Design プロジェクト、多気町応援プロジェクト、食を通じた地域支援応援プロジェクト、東伊豆町魅力発信プロジェクト、信金って？ 街や若手起業家を応援する信金を親近にするプロジェクト、大井町プロジェクト、松田町プロジェクト、久慈市インバウンド戦略プロジェクト、鶴岡再発見プロジェクト、舞台芸術プロジェクト																	

○服務規程

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人昭和女子大学（以下「法人」という。）に勤務する教員及び職員（以下「教職員」と総称する。）の勤務に関する基本的な事項を定める。

2 法人が設置する大学院、大学、高等学校、中学校、小学校、こども園、人見記念講堂、研修学寮及び研究所等の教育研究施設（以下「学校」と総称する。）の細則は、それぞれ別に定める。

(法令との関係)

第2条 教職員の就業に関し、この規程に定められていない事項のあるとき、又はこの規程と異なる定めのあるときは、労働基準法（昭和22年法律第49号。以下「労基法」という。）その他法令の定めるところによる。

(適用範囲)

第3条 この規程が適用される教職員は、常勤教職員とする。

2 常勤教職員のうち、教員は主として教育指導及び研究を担当し、職員は主として運営管理及び維持を担当する。

3 試用期間中の教職員及び非常勤の教職員その他の常勤教職員以外の教職員については、この規程を準用するほか、個別に雇用契約書を取り交わしている場合は、その契約内容による。ただし、大学の非常勤教職員及び1年以内に退職することが明らかな附属校の非常勤教職員については、給与及び休暇に関する規定は準用しないものとする。

(規則の遵守)

第4条 法人及び教職員は、ともにこの規程を守り、互いに協力して校務の運営に当たらなければならない。

第2章 人事、採用、異動及び休職

第1節 人事

(教員)

第5条 教員を常勤教員と非常勤教員に区分する。

(常勤教員)

第6条 常勤教員とは、法人の設置する学校の専任教員として発令された者をいう。

2 法人以外に本務を有する者は、常勤教員として発令することはない。

(非常勤教員)

第7条 非常勤教員とは、法人以外に本務を有する者又は一定の期間に限って勤務する者をいう。

(本務と兼務)

第8条 教員が法人の設置する学校の複数の教員を兼ねる場合は、一つを本務とし、ほかを兼務とする。

2 教員が法人の職員を兼ね、又は職員が法人の教員を兼ねる場合については、前項の規定を適用する。

(職員)

第9条 職員は、常勤に限られるものとする。ただし、業務遂行の都合上、効率面等を勘案し、契約職員、嘱託職員又は臨時職員等の採用を行い、非常勤職員とすることがある。

2 前項の非常勤職員の採用手続、服務及び処遇等については、別に定める。

第2節 採用

(採用手続)

第10条 法人は、入校希望者の中から一定の選考を行い、教職員を採用する。

(採用選考に必要な応募書類)

第11条 法人の常勤教職員を希望する者は、次に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 履歴書
- (2) 6か月以内に撮影した写真(上半身)
- (3) 業績書、職務経歴書(自己紹介書)
- (4) 最終出身学校の卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書
- (5) 教育職員免許状授与証明書、資格証明書又は各取得見込証明書
- (6) 健康診断書
- (7) 在留カード(表裏)又は特別永住者証明書(表裏)の写し(日本国籍以外の者)
- (8) その他法人が必要とする書類

2 常勤教職員以外の者については、前項によらず、法人の指示に従うものとする。

(採用内定後の必要書類)

第12条 教職員として採用内定を受けた者は、法人の指示に基づいて次に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 世帯全体の住民票記載事項証明書(本籍地及び個人番号省略)
- (2) 身元保証書(法人指定用紙)
- (3) 誓約書(法人指定用紙)

- (4) 前職のある場合は、前年度の源泉徴収票（写しで可）
 - (5) 履歴書に記載された職歴に関する在職証明書
 - (6) 個人番号カードの写し（又は通知カードの写しと身元確認書類）
 - (7) その他法人が必要とする書類
- 2 前項第6号で取得する個人番号は、次の目的のために利用する。
- (1) 源泉徴収その他税務関係届出事務
 - (2) 雇用保険関係届出事務
 - (3) 日本私立学校振興・共済事業団の短期給付、厚生年金、国民年金第3号被保険者関係届出事務
 - (4) その他前3号の事務に関連する事務
- 3 第1項の定めにより提出した書類の記載事項に変更を生じたときは、速やかに書面により任命権者に届け出なければならない。
- （試用期間）
- 第13条 前条の規定により手続を完了した者に対しては、1年間の試用期間を置く。ただし、期間については、変更することがある。
- 2 法人は、試用期間中に対象者の健康状態、勤務成績等を審査し、法人の教職員として不適格と認められたときは、理事会の審議を経て解雇することがある。
- 3 新たに採用した教職員については、試用期間中に原則として2回の勤務継続に関する相互意思確認の機会を設けることとする。これは所属長と対象者の相互理解を図りつつ、対象者の一層の研鑽に繋げる機会とするとともに、仮に対象者が法人の教育活動の根幹を成す「建学の精神」に賛同できないような場合には、この機会に対象者からも雇用契約の解約申出を行うことができるものとする。
- 4 前項の意思確認の機会は、4月1日付入校者の場合には原則として第1回目を入校後3か月が経過した時点（7月中）で、第2回目を第1回目の相互意思確認終了後、夏季休暇期間を除き更に3か月が経過した時点（12月中）を目安として、行うこととする。
- 5 試用期間を満了して勤務継続を承認された者は、入校日に遡って勤務したものとみなす。
- （任期又は雇用期間を定めて採用する教職員）
- 第14条 法人は一定の任期を定めて教員を採用すること又はあらかじめ雇用期間を定めて職員を採用することがある。
- 2 任期を定めて採用する教員の取扱い等については、昭和女子大学任期付教員の任用に関する規程に規定するものとする。

- 3 雇用期間を定めて採用する教職員は、定年退職後の再雇用者、常勤職員の所定勤務時間以下の勤務時間で就業する契約職員や臨時職員等を対象とする。なお、雇用期間は最大3年以下の期間とし、その雇用条件等については、個別に取り交わす雇用契約書によるものとする。

(労働条件の明示)

第15条 法人は、教職員を採用するとき、採用時の賃金、就業場所、従事する業務、労働時間、休日その他の労働条件を記した書面を交付して労働条件を明示するものとする。

第3節 異動

(異動)

第16条 法人は、経営上必要ある場合は、教職員の性格、能力、実績、環境、調和及び社会的ニーズ等を総合的に勘案して、次に掲げる異動を命じる。

- (1) 所属の変更
- (2) 資格、職種、職務及び役職の変更
- (3) 教員から職員若しくはその逆又は兼務等の変更

2 教職員は、正当な理由なく前項に定める異動を拒むことができない。

3 法人から異動を命じられた教職員は、旧職務を後任者に遺漏なく引き継ぎ、新職務を前任者から遅滞なく引き継いでそれに専念しなければならない。

4 前項に定める異動に該当する教職員のうち役職者は、人事部所定の人事異動に伴う業務引継確認書（別記様式）に引継状況等、必要事項を記載し、4週間以内に、速やかに人事部長に提出するものとする。

5 教職員の異動に関する事項は、理事会で審議の上、理事長が決する。

第4節 休職

(休職事由)

第17条 法人は、教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、期間を定めた上で休職を命じることができる。

- (1) 私傷病による休業により、保有する代休等を取得した後、更に保有する年次有給休暇を全て取得した時点で、更に療養のため暦日で10日以上欠勤が必要とされる場合
- (2) 刑事訴訟法に基づいて起訴された場合。
- (3) 天災、水難、火災等の災害や事故により、生死不明又は所在不明となった場合。
- (4) 法人の命又は教職員本人の申出により、当該教職員の職務に密接な関連があると認められる学術をはじめとした多様な分野の調査、研究若しくは教育、指導等に予め6か

月以上の期間にわたり、国内外における学校等の諸機関で従事する場合。

(5) 公職に就任し、相当の期間にわたり、校務の遂行が困難と認められる場合。

(6) 法人の許可を得た上で、法人以外の組織の職務に専従する場合。

(7) 前各号に定めるもののほか、法人が休職させることが適当と認めた場合。

2 試用期間中の教職員については、前項の規定を適用しないこととする。

(休職の期間)

第18条 前条に定める休職の期間は、次のとおりとする。

(1) 前条第1項第1号に該当する休職期間は、次のとおりとする。

① 在職1年未満の教職員は、休職開始日から暦日で6か月間とする。

② 在職1年以上の教職員は、休職開始日から暦日で1年間とする。

③ 在職3年以上の教職員は、休職開始日から暦日で1年6か月間とする。

ただし、③に該当する教職員が1年6か月間の休職期間が満了したにもかかわらず、復職が不可能なときは、病状等を踏まえた上で、特別に6か月間に限り休職期間の延長を認めることがある。

(2) 前条第1項第2号から第7号までに該当する事由による休職期間については、必要な範囲で法人が決定する。

(3) 休職期間が満了しても、当該休職事由が消滅しない場合は、休職期間満了の時をもって退職とする。ただし、法人が特別に休職期間の延長を認めた場合には、この限りでない。

(休職期間の通算)

第19条 本章に定める休職を命じられた教職員が、復職後180日以内に同一理由により継続して休業する場合は、当初の休職期間として通算する。

2 同一理由による休職を複数回命じられた場合は、同一の休職期間として通算する。

3 傷病休職中に休職の原因となる傷病が治癒して復職を行い、復職後180日以内に別の傷病により再休職した場合には従前の理由による休職の継続としては扱わず、休職期間の通算はしない。

(休職者の待遇)

第20条 休職者の給与は、原則として支給しない。ただし、第17条第1項第1号に該当する場合及び法人の命による休職については、この限りでない。なお、その詳細については別途、給与規程に定める。

2 休職期間については、当該教職員の昇格又は表彰の基礎とする対象期間から除外すると

共に、退職手当算定時の在職年数としても算定しない。

(経過報告義務)

第21条 第17条第1項第1号による私傷病を理由として休職する教職員は、休職開始後は法人が指定する期間により、診断書を所属長経由で人事部へ提出しなければならない。

2 正当な理由なく前項の義務を怠り、又は偽った場合には、第13章の定めるところにより懲戒処分に付すことがある。

(復職)

第22条 休職の事由が消滅したときは、法人は当該教職員を原則として直ちに旧職務に復職させる。ただし、業務の都合その他休職前の職務へ復職させることにつき困難な事情がある場合には、従前の職務とは異なる職務に配置することがある。

2 休職者が復職を希望する場合は、少なくとも復職希望日の14日前までに所属長経由で法人にその旨を届け出なければならない。

3 傷病による休職者が復職を希望する場合は、主治医による復職を可能とする診断書を提出しなければならない。なお、法人は傷病休職者の復職に際し、復職診断を法人が指定する産業医や医療機関にて実施することを命じることがある。当該診断を命じられた者は、原則として指定された期日に復職診断を受けなければならない。

4 前項により傷病休職者が復職を希望する場合は、法人は主治医等の所見等を十分に踏まえ、復職発令を行うこととする。ただし、対象教職員が復職発令日から即日の通常勤務が難しいと判断されるときは、主治医等の意見も踏まえ復職準備措置として、一定の期間を短時間勤務や週の所定勤務日数を低減した勤務を命じることがある。

5 前項の復職準備措置期間中の給与や勤勉手当、在職年数等については、休職期間の継続として取り扱うこととする。

第3章 勤務規律

第1節 服務心得

(基本姿勢)

第23条 教職員は、各自の責任を重んじ、誠意をもって職務に精励し、一致協力して法人の教育目的の達成に務めることを本分とする。

(順守事項)

第24条 教職員は、法人が信用を重んじる公共的な機関であることを銘記し、教職員としての品位及び誇りをもって、次に定める事項を順守しなければならない。

(1) 建学の精神の実現を大前提に、法人及び学校の名誉並びに信用を重んじ、これらを

毀損しないこと。

- (2) 職務上の機密を漏らし、又は法人に不利益をもたらす事項を他に漏らさないこと。
なお、その職を離れた後も同様とする。
- (3) 法人が保有する特定個人情報については、別に定める個人番号及び特定個人情報取扱規程の定めるところにより取り扱うこと。
- (4) 法人の利害に関する事項を感知したときは、速やかに上司に具申すること。
- (5) 法人名、学校名又は職名を偽称し、又は不正に使用しないこと。
- (6) 正当な理由なく、遅刻、早退、外出又は欠勤をしないこと。
- (7) 施設、設備、校具、備品、教材及び資料等については、その使用法に精通し、大切に取り扱い、上司及び担当者の許可なく所定の場所から移動させないこと。
- (8) 燃料及び消耗品を節約し、電気、水道、ガス等を濫費しないこと。
- (9) 火気の取扱いに注意し、火災、災害、傷害及びその他の事故防止並びに被害の拡大の防止に努力すること。
- (10) 法人の許可なく、法人に在職のまま他所の職務等に就任し、勤務時間中又は法人内で業務以外の私用及び他所の職務等を行わないこと。
- (11) 学内ネットワーク及び学園貸与のパソコン、備品、消耗品等を業務外の目的で私的に使用しないこと。
- (12) 勤務に関する手続及びその他必要な届出を怠り、又は偽らないこと。
- (13) 許可なく勤務時間中外出等みだりに勤務場所を離れないこと。
- (14) 職制に定められた上司及び担当責任者の指示、命令等を順守すること。
- (15) 教職員としてふさわしい清潔な服装及び身だしなみで勤務すること。
- (16) 教職員としての品位を保ち、常に自己の言動に責任を持つこと。
- (17) 業務を妨害し、法人の風紀若しくは秩序を見出し、又は酒気を帯びて勤務しないこと。
- (18) 建学の精神を破壊し、転覆し、中傷し、又は誹謗する目的で派閥を構成したり、密かに謀議を行わないこと。
- (19) 法人の経営又は運営に関し、事実を曲げて宣伝しないこと。
- (20) 法人内において法人の許可なくして集会を開催し、又は印刷物を配布し、若しくは掲示しないこと。
- (21) 法人内において特定の政治又は宗教に関する活動若しくは教育を行わないこと。
- (22) 法人の許可なく、父母、業者等から贈与又は供応を受けたり、責務を負う等の行為

をしないこと。

(23) 父母又は業者等との交渉は、所定の室又は場所で行うこと。

(24) 法人の許可なく、営利を目的とした物品の売買又は投機、賭博若しくは教員間の金銭貸借又はこれに類する行為をしないこと。

(25) 常に自己を啓発し、知識、技術及び能力の習得並びに向上に励み、和を重んじて誠実に職務の遂行に励むこと。

(26) 法人内では、指定された場所以外では喫煙しないこと。

(27) 常に身分証明書を携帯し、入構の際は守衛に提示すること。

(28) その他公序良俗に反する行為又は前各号に準ずる行為をしないこと。

第2節 特定個人情報並びに個人情報保護

(特定個人情報並びに個人情報保護)

第25条 教職員は、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）及び法人の規程を順守し、法人及び学生、生徒等に関する情報その他業務に関する一切の管理に十分注意を払い、自らの業務に関係のない情報を不当に取得しないこと。

2 教職員は、部門又は所属、職種の異動あるいは退職時に、自ら管理していた法人及び学生、生徒等に関する個人情報その他関係する記録類を速やかに返却しなければならない。

3 ここでいう個人情報及び特定個人情報の定義は、別に定める「個人番号及び特定個人情報取扱規程」による。

第3節 出勤、退勤、欠勤、遅刻、早退及び外出

(出勤及び退勤)

第26条 教職員は、出勤及び退勤時には必ず本人が法人又は学校の定める所定の方法により出退勤時刻を記録しなければならない。なお、この打刻等記録時刻は出退勤時刻の記録であるにとどまり、実際の勤務の始業終業時刻とは異なる。

2 教職員は、必要に応じて始業又は授業や講義の開始前までに、校務の遂行に必要な準備等を整えていなければならない。

(出勤停止)

第27条 次に該当する教職員に対しては、出勤を停止し、又は退勤を命じる。

(1) 法人内の風紀を乱し、保健衛生上有害と認められる者

(2) 法人の業務を妨害し、又は秩序を乱し、若しくはそのおそれのある者。

(3) 前2号に準ずるような行為をした者その他法人又は学校が必要と認めた場合

(欠勤)

- 第28条 教職員が病気又は事故等により欠勤をしなければならない場合は、所定の届出書に必要事項を記載し、所属長又は部門長の承認の上、人事部へ届け出なければならない。
- 2 急病その他やむを得ない事由により、どうしても所属長の事前承認を得ることができない場合は、事後速やかに承認を得なければならない。
 - 3 教員が私傷病のため連続欠勤を行わざるを得ない期間に、学外勤務、研修日等が入る場合は、欠勤日数として通算するものとする。ただし、部門長が学外勤務及び研修が可能と認める場合は、この限りでない。
 - 4 教職員が私傷病等のため暦日で8日以上継続して欠勤する場合は、医師の発行する診断書を法人に提出しなければならない。
 - 5 本条に規定する欠勤した日数は、教職員が所定の届出書を、所属長又は部門長の承認の上、人事部に提出することを条件として、年次有給休暇又は代休（以下「年次有給休暇等」という。）に振り替えることができる。
 - 6 教職員が年次有給休暇や傷病積立休暇等を使い切った後に、傷病により1か月に3日以上断続的な欠勤をした場合には、法人は医師の診断書か通院証明を求めることがある。また、日数にかかわらず傷病による断続的な欠勤が3か月以上続く場合又はそれに準ずる場合も同様とし、状況に応じて法人が指定する医師の診断を命じることがある。
 - 7 教職員が所定の手続をすることなく欠勤し、速やかに本条に定める所定の手続きを正当な理由なく行わない場合は、全て無断欠勤とする。
 - 8 教員が夏休み等の休暇期間中に入院や手術等により欠勤する場合は、当該期間中に自宅内外において、勤務及び研修等に充てている日数は欠勤とみなし、年次有給休暇等への振替手続をしなければならない。

（遅刻及び早退）

- 第29条 公私にかかわらず遅刻又は早退を希望する場合は、事前に届出書を所属長又は部門長に提出し、その承認を得なければならない。ただし、やむを得ない事由によりどうしても事前承認を得ることができない場合は、事後速やかに承認を得なければならない。
- 2 本人の不注意による遅刻については、事後に年次有給休暇、代休等による振替は認めないものとする。ただし、本人又は家族等の急な傷病若しくは事故等の場合は、この限りでない。

第4章 勤務時間、休憩及び休日等

第1節 所定勤務時間、休憩等

（所定勤務時間・休憩時間及び週の起算日等）

第30条 所定勤務時間は、1日8時間、1週間については40時間とする。

2 始業・終業の時刻及び休憩時間は、次のとおりとする。ただし、校務の都合その他やむを得ない事情がある場合は、この項の規定にかかわらず1日の勤務時間が8時間を超えない範囲で、また休憩時間が60分を下回らない範囲で、始業・終業及び休憩の時刻を変更することがある。

(1) 始業時刻 8時30分

(2) 終業時刻 17時30分

(3) 休憩時間 1日の休憩時間は60分とし、その取得は職種又は職務の都合を勘案して定める。

3 法人の週の起算日は、土曜日とする。

4 法人又は学校が必要とする場合は、変形労働時間制勤務を命じることがある。なお、その場合の勤務取扱い等については、法令の定めるところにより別途規定する。

5 年度ごとの月間所定勤務日数及び月間所定勤務時間は、毎年、次年度が始まる前に向こう3年間のカレンダーに基づき、3年間の平均数値を算出し決定する。なお、その算定基準については「給与規程」に規定するものとする。

6 3歳に満たない子を養育する常勤教職員又は要介護状態にある家族を介護する常勤教職員は、申し出るにより第2項に定める所定勤務時間を変更し、短時間勤務をすることができる。なお、その取扱い等の詳細については、育児休業等に関する規程及び介護休業等に関する規程に規定するものとする。

7 出張その他、学外で勤務に従事し、勤務時間の算定がし難い場合は、所属長から特別の指示がない限り、所定勤務時間を勤務したものとみなす。

(休日及び休日振替)

第31条 教職員の休日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「祝日法による休日」という。）

(3) 年末年始（12月29日から1月3日まで）

(4) その他法人又は学校が休日と定める日

2 職員については、前条に定める休日のほかに土曜休日（以下「土休」という。）を適用する。附属校教員の土休は、部門ごとに実施する。ただし、校務の都合上適用が困難な職務に従事する職員については、別に定める。

- 3 法人又は学校が校務運営の都合上、休日に勤務を命じる場合には、前2項の休日をあらかじめ他の日に振り替えることがある。

ただし、休日の振替を行う場合は、振り替える日を特定し事前に対象者に通知を行うと共に、当該休日の振替を行った後において、土曜日を起算日とした1週間の勤務時間が、前条第1項に規定する週の所定勤務時間を超えず、また1週間に1日以上の日を確保することを原則とする。

(代休)

第32条 法人は前条第3項の規定による休日の振替ができない場合には、当該休日に対する代休権利日を当該教職員に与えると共に、「給与規程」に定める代休手当を支給することとする。

- 2 前項による代休権利日に基づく代休は、当該権利日の翌月末日までに与えるものとし、その取得はできる限り対象者の意向に沿うものとする。
- 3 代休は、休日勤務8時間で1日代休を、休日勤務4時間で半日代休を付与することとする。
- 4 代休を取得する場合には、原則として事前に所属長の許可を得なければならない。ただし、急病その他やむを得ない事由によりどうしても所属長の事前承認を得ることができない場合は、事後速やかに承認を得なければならない。
- 5 代休の権利が発生したにもかかわらず、業務上の事由により第2項に定める取得期限内に代休の取得ができず持ち越した場合は、その取得期限を当該年度前期に発生したものは当該年度末まで、当該年度後期に発生したものは翌年度9月末まで延長する。
- 6 前項に定める期限内に何らかの事由により、代休取得ができなかった場合は、その取得ができなかった背景について確認を行い、やむを得ないと判断された場合については、当該代休が発生した年度における対象者の1日当たりの給与単価を基に精算を行うこととする。

第2節 変形労働時間制勤務

(1年単位の変形労働時間制勤務)

第33条 法人は、第30条第4項の規定に基づき、法人と教職員の過半数を代表とする者（以下「教職員代表」という。）との間で成立した協定により、職員を対象として毎年4月1日を起算日とする1年単位の変形労働時間制を採用することがある。この場合において、1週間の所定勤務時間は1年間を平均して、1週間当たり40時間以内とする。

- 2 1年単位の変形労働時間制を適用された部門及び対象者の、その対象となる月、勤務日

ごとの所定勤務時間及び始業時刻、終業時刻、休憩時間については、法令にのっとりこれを定め、予め周知を行うものとする。ただし、業務の都合その他やむを得ない事情により、これらを繰り上げ、又は繰り下げることがある。

- 3 1年単位の変形労働時間制の適用を受けない場合の労働時間、始業、終業の時刻及び休憩時間については、第30条の定めるところによる。
- 4 1年単位の変形労働時間制の適用を受ける場合の休日は、第1項の協定の定めるところにより、毎年4月1日を起算日とし、1週間ごとに1日以上、1年間においては第31条に規定される年間休日日数を下回ることはないように、年間カレンダーに定め、原則として毎年3月1日までに適用対象者に通知する。
- 5 1年単位の変形労働時間制の適用を受けない場合の休日については、第31条の定めるところによる。

(フレックスタイム制勤務)

第34条 法人は、第30条第4項の規定に伴う教職員代表との書面による協定により、職員を対象としてフレックスタイム制勤務を適用することがある。

- 2 本制度の適用を受ける職員の始業、終業時刻については、教職員代表との協定書に基づき、始業、終業の時間帯の範囲内において教職員が自由に決定できるものとする。
- 3 フレックスタイム制勤務に関する他の項目は、教職員代表との協定書を服務規程の一部として当該協定に定める内容による。

第3節 時間外及び休日勤務並びに当直勤務

(時間外及び休日勤務)

第35条 校務上の必要その他やむを得ない理由がある場合には、労基法第36条の規定に基づく協定の定めるところにより、所定の勤務時間以外の時間又は休日に勤務を命ずることがある。

- 2 前項に該当する時間外又は休日に勤務を行った場合は、1日については実働8時間を超えた時間、休日については週40時間を超えて法定外休日に勤務した時間及び法定休日に勤務した時間について「給与規程」に定める時間外勤務手当を支給する。
- 3 時間外勤務手当の支給は、当該時間外・休日勤務が所属長の指示命令、又は所属長に業務上の事情により勤務せざるを得ない旨の申出を行い、承認された場合に限り、第30条第1項に規定する所定勤務時間を超えて勤務した時間数をその支給対象とする。
- 4 妊娠中又は産後1年を経過しない教職員から申出があった場合には、次の勤務をさせることはない。

(1) 午後10時から午前5時までの深夜時間帯における勤務

(2) 1日8時間、週40時間を超える勤務

(育児・介護のための時間外勤務等の制限)

第36条 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する教職員が当該子を養育するため、又は要介護状態にある家族を介護する教職員が当該家族を介護するために次の就労措置を請求した場合の取扱い等については、「育児休業等に関する規程」及び「介護休業等に関する規程」に規定するものとする。

(1) 時間外勤務の免除又は制限を請求した場合

(2) 深夜勤務の免除を請求した場合

(当直勤務)

第37条 教職員は、法人や部門長がその必要を認め、当直勤務を命じた場合には、その命に従い勤務しなければならない。

2 当直勤務は、日直勤務と宿直勤務からなり、日直勤務は長期休暇期間中等の平日及び法定休日を除く休日における所定勤務時間内での勤務をいう。宿直勤務は平日及び法定休日以外の休日において、所定勤務時間の終了時間前後から勤務を開始し、翌日の勤務開始時間まで勤務することをいう。

3 当直勤務は第35条に規定する時間外及び休日勤務には含まれず、教職員の当直勤務の要領と手当等の取扱いについては、「当直規程」及び「給与規程」に定める。

(休日、時間外及び休日勤務の適用除外)

第38条 法人は学生寮等に勤務する教職員を対象として、労基法第41条第3号に定める監視又は断続的勤務に関する届出を行い、その適用を許可された場合には、法令の定めるところにより当該教職員が従事する勤務の特殊性に基づき、本章第1節から第3節までの規定を適用しない。

2 前項に定める勤務形態の適用者は、次のとおりとする。

(1) 学生寮に寮管理人として勤務する者

(2) 学生寮に寮監として勤務する者

(3) その他法人が監視又は断続的勤務に従事する教職員と判断した者

3 前2項の規定のほか、労基法第41条第2号の管理・監督の地位にある者については、第4章各条に定める代休手当、時間外勤務手当の支給は適用しない。ただし、代休及び振替休日の取得、深夜時間帯における実勤務に対する深夜時間外勤務手当については適用対象とする。

第5章 休暇、休業等

(休暇及び休業の種類)

第39条 教職員の休暇、休業の種類は、次のとおりとする。

- (1) 年次有給休暇
- (2) 傷病積立休暇
- (3) 特別有給休暇
- (4) 特別一斉休暇
- (5) 看護休暇
- (6) 介護休暇
- (7) 母性保護休暇
- (8) 生理休暇
- (9) 育児休暇
- (10) 介護休業

(年次有給休暇)

第40条 年次有給休暇の付与等に関する取扱いは、次のとおりとする。

- (1) 4月1日を基準日とした勤続年数が1年以上で、前年度勤務すべき総日数の8割以上を勤務した教職員に対して、4月1日に25日間付与する。

勤務すべき総日数とは、次の式で算定する。

勤務すべき総日数＝365日－（①服務規程に定める休日＋②労働者災害補償保険法（昭和22年法律第50号）の適用を受けて休業した日数＋③産前産後の女性が労基法第65条の定めにより休業した期間＋④育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律に基づく育児・介護休業期間＋⑤年次及び特別有給休暇取得日数）

- (2) 試用期間中の教職員及び前年度1年間の勤務すべき総日数の8割未満しか勤務していない教職員に対する年次有給休暇付与日数は、15日間とする。
- (3) 当該年度に付与された年次有給休暇の残数は、翌年度に限り繰り越すことができる。繰り越された年次有給休暇と、その後付与された年次有給休暇のいずれも取得できる場合は、繰り越された年次有給休暇から取得するものとする。
- (4) 途中入校した新任教職員については、入校日に15日付与する。入校翌年度は、別表1.「入校月別年次有給休暇付与日数表」に基づき年次有給休暇を付与し、入校翌々年度を以て、付与日を他の教職員と統一する。

- (5) 年次有給休暇の取得基本単位は1日とするが、教職員の申請に基づき、半日単位で取得することができる。この場合の対象となる時間数については、休憩時間は含まず、取得日における所定勤務時間の半分とする。半日休暇取得日における時間外勤務については、第35条に定めるとおりとする。ただし、この対象時間は職種又は校務の都合により、部門ごとに別に定めることがある。なお、教職員が半日休暇を取得する場合、勤務途中に取得することはできない。
- (6) 年次有給休暇は、教職員があらかじめ請求する時季に取得させる。ただし、教職員が請求した時季に年次有給休暇を取得させることが校務の正常な運営を妨げる場合は、他の時季に変更し取得させることがある。
- (7) 第1号又は第2号に規定する年次有給休暇を10日以上付与された教職員については、労基法第39条の定めに従い、前号の定めにかかわらず、付与日から1年以内に付与日数の内5日間を必ず取得することとする。
- (8) 前号の取得は、指定年次有給休暇として法人が指定する夏季特別一斉有給休暇取得期間に充当して取得することとする。
- (9) 年次有給休暇の付与日が4月1日付の教職員については、当該年度の10月1日時点において、それ以外の教職員については付与日から6か月が経過した時点において、5日間の取得が確認できない場合は、関係法令の定めに従い、法人から取得時季を指定して取得させることとする。
- (10) 常勤教職員以外で、付与される年次有給休暇が10日以上教職員については、第1号及び第2号に準じて5日間を付与した上で、同様に夏季特別一斉有給休暇取得期間に、その5日間を取得させることとする。
- 2 法人と教職員の過半数を代表する者との間で成立した協定により、前項の年次有給休暇の日数のうち、毎年4月1日を基準とした1年について5日分の範囲内で、時間単位の年次有給休暇（以下「時間単位年休」という。）を取得することができる。この5日には、前年の時間単位年休に係る繰り越し分を含める。
- (1) 時間単位年休の対象者は、大学部門の教員を除く常勤教職員とする。
- (2) 時間単位年休を取得する場合の、1日の年次有給休暇に相当する時間数は、8時間とする。ただし、「育児休業等に関する規程」及び「介護休業等に関する規程」に定める育児短時間勤務及び介護短時間勤務の適用を受ける者については、次のとおりとする。
- ① 所定勤務時間が5時間を超え6時間以下の者…6時間
- ② 所定勤務時間が6時間を超え7時間以下の者…7時間

- ③ 所定勤務時間が7時間を超える者…8時間
- (3) 時間単位年休は、1時間単位で付与する。
- (4) 時間単位年休の1日当たり取得可能時間は所定勤務時間未満とし、前項第5号で定める半日単位有休を含む他の休暇と併用して取得することはできない。
- (5) 年度途中で所定勤務時間が変更された場合、時間単位年休として取得可能な範囲のうち、日単位で残っている部分については、変更後の所定勤務時間により時間数を換算し、変更する。日単位に満たず時間単位で保有している部分については、所定勤務時間の変動に比例して時間数を変更する。
- (6) 入校初年度については、別表2.「入校月別時間単位年休取得可能日数表」に基づき、時間単位年休取得可能日数を按分する。
- (7) 前各号に掲げる事項以外の事項については、前項の年次有給休暇と同様とする。

(傷病積立休暇)

第41条 前条の定めにより教職員に付与された年次有給休暇のうち、付与日から2年が経過し、基準日を以て抹消することとなった未取得の年次有給休暇については、次のとおり傷病積立休暇として利用することを認める。

- (1) 傷病積立休暇は、年次有給休暇とは別に最大で40日分を積み立てることができる。
- (2) 傷病積立休暇は、教職員が私傷病による通院治療及び子の看護又は家族等の介護都合により欠勤が必要なときに使用することができるものとし、年次有給休暇とは異なりその用途を限定する。
- (3) 傷病積立休暇の取得基本単位は1日とするが、教職員の申請に基づき、半日単位で取得することができる。この場合の対象となる取得時間数及び取得日における時間外勤務については前条第1項第5号に定めるとおりとする。
- (4) 前号の定めにかかわらず、傷病積立休暇の半日単位の取得については、所定勤務時間が4時間以下の教職員は適用除外とする。
- (5) 傷病積立休暇の取得申請等については、年次有給休暇の取扱いと同様とする。

(特別有給休暇)

第42条 特別有給休暇は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める基準日を含む期間内(日曜日、前各号に掲げる事項及び土休を含む暦日)に、各号に定める日数以内の休暇を請求し、取得することができる。

- (1) 婚姻休暇

ア 本人 14日以内に7日まで

イ 子 4日以内に2日まで

ウ 4親等内の親族 2日以内に1日まで

(2) 出産休暇

ア 本人 出産予定日を含み産前6週間（多胎14週間）

出産日の翌日から産後8週間

イ 配偶者 出産後4日以内に2日まで

(3) 忌引休暇（別表3 親族の範囲を参照）

ア 配偶者 20日以内に10日まで

イ 血族

① 一親等の直系尊属（父母） 20日以内に10日まで

② 同 直系卑属（子） 20日以内に10日まで

③ 二親等の直系尊属（祖父母） 10日以内に5日まで

④ 同 直系卑属（孫） 6日以内に3日まで

⑤ 同 傍系者（兄弟姉妹） 6日以内に3日まで

⑥ 三親等の直系尊属（曾祖父母） 4日以内に2日まで

⑦ 同 傍系尊属（伯叔父母） 4日以内に2日まで

⑧ 同 傍系卑属（甥姪） 2日以内に1日まで

⑨ 四親等の傍系者（従兄弟姉妹に限る。） 2日以内に1日まで

ウ 姻族

① 一親等の直系尊属（父母） 10日以内に5日まで（扶養又は同居の場合20日以内に10日まで）

② 同 直系卑属（子） 10日以内に5日まで（扶養又は同居の場合20日以内に10日まで）

③ 二親等の直系尊属（祖父母） 6日以内に3日まで

④ 同 直系卑属（孫） 4日以内に2日まで

⑤ 同 傍系者（兄弟姉妹） 4日以内に2日まで

⑥ 三親等の直系尊属（曾祖父母） 2日以内に1日まで

⑦ 同 傍系尊属（伯叔父母） 2日以内に1日まで

⑧ 同 傍系卑属（甥姪） 2日以内に1日まで

(4) 法要休暇

父母（姻族を含む。）、配偶者及び子に限る。 発生の日から3年間に限り、年度ご

とに1日まで

(5) 災害休暇

天災等の災害時に理事長が認めた場合に限り、理事長が必要と認めた期間

(6) 公用休暇

国民としての権利の行使及び義務を履行するために、やむを得ないものと法人が認めたものに限り、必要と認められた時間及び期間

(7) 公傷病休暇

職務上の傷病により、勤務不能となり休業した日数。ただし、公傷病休暇を適用する日数については、労働者災害補償保険法の定めにより休業補償給付の適用を受けるまでの間とする。

2 特別有給休暇の基準日は、原因の発生日とするものとする。ただし、業務都合又はやむを得ない事情がある場合に限り、所属長経由で申請を行い、人事部長の承認に基づき妥当な範囲で取得時季を変更することがある。

3 特別有給休暇期間中に第31条に定める休日が含まれる場合は、その休日日数を特別有給休暇日数に算入する。

4 葬祭のため、極めて不便な遠隔地等に赴かねばならないというような特殊な事情について教職員から申出があり、法人がそれを認めた場合に限り、実際に旅程に要する往復日数を忌引休暇に加算することがある。

(特別一斉休暇)

第43条 特別一斉休暇は、学園全部門が一斉に休暇を取得することを原則として、法人が定めた次の期間をいう。

(1) 12月26日から12月28日及び1月4日から1月5日までの合計5日間

(看護休暇)

第44条 小学校就学の始期に達するまでの子を養育する教職員（日々雇い入れられる教職員は除く。）は、負傷し、又は疾病にかかった当該子の世話をするために、若しくは当該子に予防接種や健康診断を受けさせるために、第40条に規定する年次有給休暇とは別に、当該子が1人の場合は1年間（本年4月1日から翌年3月31日まで）につき5日、2人以上の場合は10日を限度として、子の看護休暇を取得することができる。

2 前項の規定にかかわらず、法人と教職員の過半数を代表する者との間に成立した協定により適用除外とされた次の各号に該当する者については、この限りでない。

(1) 勤続6か月未満の教職員

(2) 1週間の所定勤務日数が2日以下の教職員

- 3 看護休暇の取得については、第40条第1項第5号の定めに準じて1日又は半日単位で取得することを原則とするが、制度の趣旨を踏まえ15分単位での取得も認めることとする。
- 4 看護休暇の取得を希望する場合は、原則として事前に所属長の承認を得て、所定の書式（勤務内容申請書等）を用いて人事部へ届け出るものとする。
- 5 看護休暇を取得した場合の給与については「給与規程第13条第1項第1号」にのっとり取り扱うこととする。
- 6 看護休暇日数は当該評定期間の勤勉手当から控除し、退職手当の算定に当たっては、通常勤務したものとみなす。

(介護休暇)

第45条 要介護状態にある家族の介護やその他の世話をする教職員（日々雇い入れられる教職員は除く）は、第40条に規定する年次有給休暇とは別に、当該家族が1人の場合は1年間（本年4月1日から翌年3月31日まで）につき5日、2人以上の場合は10日を限度として、介護休暇を取得することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、法人と教職員の過半数を代表する者との間に成立した協定により適用除外とされた次の各号のいずれかに該当する者については、この限りでない。

(1) 勤続6か月未満の者

(2) 週の所定勤務日数が2日以下の者

- 3 介護休暇の取得については、第40条第1項第5号の定めに準じて1日又は半日単位で取得することを原則とするが、制度の趣旨を踏まえ15分単位での取得も認めることとする。

- 4 本条に規定する「家族」とは、次の者をいう。

(1) 配偶者

(2) 子

(3) 実父母・義父母

(4) 同居の上、扶養している祖父母、義祖父母、兄弟姉妹、義兄弟姉妹、孫

- 5 介護休暇の取得を希望する場合は、原則として事前に所属長の承認を得て、所定の書式（勤務内容申請書等）を用いて人事部へ届け出るものとする。
- 6 介護休暇を取得した場合の給与については「給与規程第13条第1項第1号」にのっとり取り扱うこととする。

- 7 介護休暇日数は当該評定期間の勤勉手当から控除し、退職手当の算定に当たっては、通常勤務したものとみなす。

(母性保護休暇)

第46条 妊娠中又は出産後1年を経過しない女性教職員から、所定勤務時間内に母子保健法（昭和40年法律第141号）に基づく保健指導又は健康診査を受けるために、通院休暇の請求があったときは、次の範囲で休暇を与える。

(1) 産前の場合

妊娠23週まで…4週に1回

妊娠24週から35週まで…2週に1回

妊娠36週から出産まで…1週に1回

ただし、医師又は助産婦（以下「医師等」という。）がこれと異なる指示をしたときには、その指示により必要な時間

(2) 産後（1年以内）の場合

医師等の指示により必要な時間

- 2 妊娠中又は出産後1年を経過しない女性教職員から、保健指導若しくは健康診査に基づき勤務時間等について医師等の指導を受けた旨申出があった場合は、次の措置を講ずることとする。

(1) 妊娠中の通勤緩和

通勤時の混雑を避けるよう指導された場合は、原則として1時間の勤務時間の短縮又は1時間以内の時差出勤を認める。

(2) 妊娠中の休憩の特例

休憩時間について指導された場合は、適宜休憩時間の延長、休憩の回数の増加を認める。

(3) 妊娠中、出産後の諸症状に対する措置

妊娠中又は出産後の諸症状の発生若しくは発生のおそれがあるとして指導された場合は、その指導事項を守ることができるようにするため業務の軽減、勤務時間の短縮、休業等を認める。

- 3 母性保護休暇を取得した教職員の給与等の取扱いは次のとおりとする。

(1) 第1項に定める休暇及び前項に定める休業を取得した場合及び勤務時間を短縮した場合は、「給与規程第13条」にのっとり取り扱うこととする。

(2) 前号の休暇、休業日数及び勤務短縮時間については、当該評定及び計算期間の勤勉

手当から控除し、退職手当の算定に当たっては、通常勤務したものとみなす。

(生理休暇)

第47条 生理日の就業が著しく困難な女性教職員から請求があった場合は、必要な期間休暇を与える。

2 生理休暇の取得については、1日単位で取得することとする。

3 生理休暇の取得を希望する場合は、所属長の承認を得て、所定の手続きを経て人事部へ届け出るものとする。

4 生理休暇を取得した場合の給与については「給与規程第13条」にのっとり取り扱うこととする。

5 生理休暇日数は当該評定期間の勤勉手当から控除し、退職手当の算定に当たっては、通常勤務したものとみなす。

(育児・介護休業)

第48条 育児及び介護休業については、別に定める「育児休業等に関する規程」及び「介護休業等に関する規程」による。

(休暇等取得手続)

第49条 教職員が本章第40条から第47条までに規定する休暇を取得する場合は、第43条の特別一斉休暇を除き、予め休暇を取得する日の前日までに所定の届出書により所属長又は部門長の承認を受け、人事部に提出しなければならない。ただし、緊急やむを得ない場合は、事後速やかに所定の手続きを行わなければならない。

2 前項の申請に対し、所属長が業務に支障が生じると判断した場合は、対象者と協議の上、他の時季に変更することがある。

第6章 給与

(給与)

第50条 給与に関する事項は、別に定める「給与規程」による。

第7章 処遇及び評価

(処遇及び評価)

第51条 教職員の採用、異動、休職、退職及び解職等、人事及び人事評価に関する教職員の処遇については、理事会で審議の上、理事長が発令する。

2 職員人事評価規程等、別に定める人事評価制度に基づいて、法人独自の人事・給与総合管理体制の充実を期するとともに、限りある人件費を有効活用し、以て法人の経営基盤の一層の強化を促進する。

3 勤務成績が著しく劣ることが明らかな教職員については、処遇内容や配置及び職種等を含め見直したり、状況によっては退職を勧奨したりすることがある。

4 法人は、入校後5年をめぐに採用時の給与査定を人事評価によって見直し、給与格差等の年功賃金制度の歪み及び矛盾を是正することがある。

第8章 定年、退職及び解雇

(定年)

第52条 常勤教職員の定年は、満65歳とする。

2 定年に達した者は、その定年に達した日（誕生日の前日）の属する年度の末日（3月31日）をもって退職とする。

(定年退職後の再雇用)

第53条 定年退職者で、法人が別に定める「定年後再雇用者の取扱規程」に基づく所定の手続きを経て、当該対象者の定年退職後の再雇用を認めた場合は、勤務継続をすることができる。

(退職)

第54条 教職員が次の各号のいずれかに該当するときは退職とし、法人の教職員としての身分を失う。

- (1) 自己の都合により退職を願い出て承認されたとき。
- (2) 死亡したとき。
- (3) この規程に定める定年に達したとき。
- (4) 期間を定めて任用されている教職員が当該期間を満了したとき。
- (5) 第18条に定める休職期間が満了しても、休職事由が消滅せず復職できないとき。
- (6) 行方不明となり、その期間が継続して2か月に達したとき。
- (7) 法人からの勧奨により退職するとき。

2 前項第1号及び第3号に該当する者の退職日は、原則として当該年度の末日（3月31日）を以て退職とする。ただし、第58条第5号に該当する者で生年月日が4月1日の者は、前年度の末日をもって退職とする。

3 第1項第5号に該当するときは、試用期間満了の3か月前までに法人より対象者へ通知を行うものとする。

4 第1項第5号については、理事会並びに理事長の判断により、休職期間の延長を行うことがある。

(退職の申出)

第55条 退職を希望する教職員は、原則として退職希望日の180日前までに、別に定める手続に基づいて申出を行い、90日前までに理事長の承認を得なければならない。

(退職時の業務引継)

第56条 退職する教職員は、職務その他の引継ぎを確実にを行い、原則として退職日当日の勤務終了時刻まで勤務しなければならない。

(退職時の給与支給日)

第57条 退職日の含まれる月の給与支給は、通常の21日ではなく、当該月の末日に所定の方法で支給する。

(解雇)

第58条 教職員が次の各号のいずれかに該当した場合は、解雇することがある。

- (1) 勤務成績又は業務能率が著しく不良で、向上の見込みがなく、他の職務にも転換できない等就業に適さないとき。
- (2) 勤務状況が著しく不良で、改善の見込みがなく、教職員としての職責を果たし得ないとき。
- (3) 適正な雇用管理を行い、雇用の継続に配慮してもなお、採用後に生じた精神又は身体障害により業務に耐えられないとき。
- (4) 業務上の負傷又は疾病による療養の開始後3年を経過しても当該負傷又は疾病が治癒しない場合であって、従業員が傷病補償年金を受けているとき若しくは受けることとなったとき（法人が打ち切り補償を支払ったときを含む。）。
- (5) 試用期間中又は試用期間満了までに教職員として不適格であると認められたとき。
- (6) この規程第68条に定める懲戒解雇事由に該当する事実があるとき。
- (7) 事業の運営上のやむを得ない事情又は天災事変その他これに準ずるやむを得ない事情により、事業の継続が困難となったとき。
- (8) 事業の運営上のやむを得ない事情又は天災事変その他これに準ずるやむを得ない事情により、事業の縮小・転換若しくは部門の閉鎖等を行う必要が生じ、他の職務に転換されることが困難なとき。
- (9) 成年被後見人又は被保佐人の宣告を受けたとき。
- (10) 教育職員免許状等、担当職務に必須の免許状の停止処分を受けたとき。
- (11) 各学校が定める所定の授業時間数（最低コマ数）を下回ったとき。
- (12) その他法人の教職員としての適格性を欠くと認められるとき、及び前各号に準ずるやむを得ない事由があるとき。

(解雇制限)

第59条 法人は、第13条第2項又は前条の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する期間は、当該教職員を解雇しない。ただし、第1号に該当し労基法第81条の規定によって打切補償を行う場合又は労基法第19条第2項の規定による所轄労働基準監督署長の認定を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 業務上負傷し、又は疾病にかかり療養のため休業する期間及びその後30日間
- (2) 産前産後の女性教職員にあつては、第42条第1項第2号の規定による本人の出産休暇期間及びその後30日間

(解雇予告)

第60条 法人は、第58条の規定により教職員を解雇する場合には、少なくとも30日前に当該教職員にその予告をするか又は予告に代えて平均賃金の30日分以上の解雇予告手当を支払う。ただし、労働基準監督署長の認定を受けて第66条第1項第9号に定める懲戒解雇をする場合又は次の各号のいずれかに該当する従業員を解雇する場合は、この限りでない。

- (1) 日々雇い入れられる教職員（1か月を超えて引き続き雇用されるに至った者を除く）。
- (2) 2か月以内の期間を定めて使用する教職員（その期間を超えて引き続き使用されるに至った者を除く）。
- (3) 試用期間中の教職員（14日を超えて引き続き使用されるに至った者を除く）。

(退職証明書等)

第61条 法人は、退職し、又は解雇された者（前条の規定により解雇予告された者を含む。）が、退職証明書の交付を請求した場合には、遅滞なくこれを交付する。

2 前項の退職証明書に記載する事項は、次のとおりとする。

- ① 任用期間
- ② 業務の種類
- ③ その業務における地位
- ④ 給与
- ⑤ 退職の事由（解雇の場合にはその理由）

3 前項の規定にかかわらず、退職証明書には同項各号に規定する事項のうち、退職し、又は解雇された者が請求した事項のみを証明するものとする。

第9章 退職手当

(退職手当)

第62条 法人に満1年以上継続して勤務した教職員が退職するときは、別に定める「厚生規程」に基づいて退職手当を支給する。

第10章 出張旅費

(出張)

第63条 出張及びそれに伴う旅費等については、別に定める出張旅費規程による。

第11章 慶弔見舞金

(慶弔見舞金)

第64条 慶弔見舞金等については、別に定める慶弔見舞金規程による。

第12章 表彰

(教職員表彰)

第65条 教職員の表彰については、別に定める教職員表彰規程による。

第13章 懲戒

(懲戒の種類)

第66条 法人は、教職員が次条及び第68条のいずれかに該当する場合は、その事由に応じ次の区分により懲戒を行う。

- (1) 口頭訓告 口頭を以て嚴重注意する。
- (2) 文書訓告 文書を以て嚴重注意する。
- (3) 戒告 文書を以て将来を戒める。
- (4) けん責 文書を以て将来を戒め、始末書の提出を義務付ける。
- (5) 減給 文書を以て将来を戒め、始末書を提出させ、法令に定める範囲で減給する。
- (6) 謹慎 文書を以て将来を戒め、始末書を提出させ、暦日で14日間を限度として出勤を停止し、本人の職務に従事させない。なお、この期間は、給与を支給しないものとする。
- (7) 降格 文書を以て将来を戒め、始末書を提出させ、役職、資格及び職名等を降格し、又は解任する。
- (8) 諭旨退職 退職願の提出を勧告し、当該教職員の将来のために依願退職扱いとして取り扱う。ただし、正当な理由なく勧告に従わない場合は、懲戒解雇とする。
- (9) 懲戒解雇 懲戒解雇とすることを当該教職員に明示して解雇する。この場合、解雇の予告、証明書の交付等については第60条及び第61条の規定を適用する。

2 懲戒処分は、理事会で審議の上、法人が決定する。

3 自己以外の第三者に対して教唆し、扇動し、又はほう助して懲戒に該当する行為をなさ

しめた教職員についても懲戒に処する。

- 4 懲戒処分を受けた教職員を管理・監督する職責を負う教職員について、実際に処分の対象となった事案の調査、確認結果に基づき、管理・監督者としての責任に応じて懲戒処分に付すことがある。
- 5 法人は、懲戒のいずれかに該当するおそれのある教職員に対して必要とする期間、自宅待機又は出勤停止を命じることがある。
- 6 前項に定める期間は勤務したものとみなすが、給与の取扱いについては労基法に定める休業補償として取り扱うものとする。
- 7 第1項第5号に定める減給は1回の額が平均賃金の1日分の5割を超えることはなく、また、総額が1賃金支払い期間における賃金総額の1割を超えることはない。

(戒告、けん責、減給、謹慎、降格及び論旨退職)

第67条 教職員が次の各号のいずれかに該当した場合は、前条に定める懲戒の対象とし、その情状により論旨退職を命じる。

- (1) 故意、過失若しくは監督不行届きにより事故を起こし、又はこれによって法人の信用を損傷し、若しくは損失を与えたとき。
- (2) 職務怠慢、勤務不良又は無断欠勤を繰り返したとき。
- (3) 正当な理由なく異動の命令に従わないとき。
- (4) 正当な理由なく休日振替又はやむを得ない理由で命ずる超過勤務若しくは休日勤務に従わないとき。
- (5) 災害の予防若しくは被害の拡大の阻止若しくは安全衛生に関する規程又は法人の指示に従わないとき。
- (6) 人事書類等、法人が必要として提出を求めた書類に虚偽が認められたとき。
- (7) 許可を得ずして法人の校地内で文書、図面等を配布し、又は掲示したとき。
- (8) キャンパス・ハラスメントに該当する言動や行為により、法人の構成員の就業・教育環境を害したとき。
- (9) 妊娠、出産、育児休業、介護休業等に関する不当な言動や行為により、法人の構成員の就業・教育環境を害したとき。
- (10) 第3章「勤務規律」に定める条項に反する行為をしたとき。
- (11) その他前各号に準ずる不都合な事由が認められるとき。

(懲戒解雇)

第68条 教職員が次の各号のいずれかに該当する場合は、懲戒解雇を命じる。ただし、そ

の情状により諭旨退職又は降格を命じることがある。

- (1) 無断欠勤が5日を超えたとき。
- (2) 正当な理由なく遅刻、早退及び私用外出の著しいとき。
- (3) 正当な理由なく理事長、部門長及び所属長等上司の指示又は命令に従わないとき。
- (4) 暴行及び脅迫等を加えることにより、教職員の職務及び業務の遂行を妨げたとき。
- (5) 学歴又は経歴等の詐称その他詐術を用いて採用されたことが判明したとき。
- (6) 法人の許可なく在職のまま法人外の職に就いたり、勤務時間中に職務とかかわりなき業務を営み、不都合と認められたとき。
- (7) 第66条第1項第1号から第7号までの規定により懲戒処分を度々受けたにもかかわらず改悛の見込みが認められないとき。
- (8) 理事長、部門長又は所属長等の許可なく法人の物品を持ち出し、又は持ち出そうとしたとき。
- (9) 身分地位を偽称し、又は濫用して、自己又は第三者の利益を図り、又は法人の名誉信用等を侵害したとき。
- (10) 法人の秩序及び風紀をびん乱したり、素行不良のため、他の教職員に悪影響を及ぼすおそれのあるとき。
- (11) キャンパス・ハラスメントに該当する言動や行為により、法人の構成員の就業・教育環境を害し、その程度が極めて甚だしいとき。
- (12) 職務上知り得た機密を同僚若しくは所属外又は法人外に漏えいしたとき。
- (13) 学園が保有する個人情報に正当な理由なく漏えいさせたとき。
- (14) 職務上の権限を超え、又は権限を逸脱し、若しくは濫用して専断的な行為をしたとき。
- (15) 禁錮以上の確定判決を受けたとき。
- (16) 日本国憲法が施行されて後、日本国憲法又はその下に成立している政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を構成し、又はこれに加入したとき。
- (17) 服務規程等、法人が定める諸規則又は法人の確立された慣例に違反し、又は正当な理由なくそれを否定するような言動若しくは扇動をしたとき。
- (18) その他前各号に準ずる不都合な事由が認められるとき。

2 前項の場合において、当該教職員の故意又は重大な過失が認められる場合は、法令の定める手続に基づいて予告期間を置かずに直ちに懲戒解雇に処する。

(損害賠償)

第69条 法人は教職員が第3章「勤務規律」第1節「服務心得」若しくは第2節「特定個人情報並びに個人情報保護」又は第13章「懲戒」に抵触し、法人又は法人の取引先に損害を与えたときは、法人は当該教職員にその損害を賠償させることがある。

(懲戒の準用)

第70条 試用期間中の教職員及び非常勤の教職員その他の常勤教職員以外の教職員についても、本章に定める規定を準用する。

第14章 安全及び衛生

(安全衛生管理)

第71条 法人は、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）その他の法令に基づき、教職員の健康の保持増進及び労働災害の防止のため必要な措置を講ずるものとする。

(協力義務)

第72条 教職員は、安全及び衛生並びに健康の保持増進について、法令のほか、法人の指示に従うとともに、法人が行う安全衛生に関する措置に協力しなければならない。

(安全衛生教育)

第73条 職員は、法人が行う安全衛生に関する教育及び訓練を受けなければならない。

(非常時の措置)

第74条 教職員は、火災その他非常災害の発生を発見し、又はその発生のおそれがあることを知ったときは、被害を最小限にくいとめるよう努力しなければならない。

(安全及び衛生に関する順守事項)

第75条 教職員は、安全及び衛生に関し次の事項を守らなければならない。

- (1) 安全及び衛生について法人の命令、指示等を守り、及び実行すること。
- (2) 常に職場の整理、整頓及び清潔に努め、災害防止と衛生の向上に努めること。
- (3) 安全衛生装置、消火設備、衛生設備その他危険防止等のための諸設備を無断で移動したり、許可なく当該地域又は施設に立ち入らないこと。

(健康診断)

第76条 教職員は、法人が行う健康診断を受けなければならない。ただし、教職員が当該健康診断を受けることを希望しない場合には、別に定める教職員健康診断実施規程にのっとり、他の医師の行う健康診断を受け、その結果を証明する書面を法人に提出しなければならない。

2 法人は、健康診断の結果を記録し、教職員に対し通知するものとする。

3 法人は、健康診断の結果に基づき、必要があると認めるときは、勤務場所の変更、勤務

時間の制限等、当該教職員の健康保持に必要な措置を講ずるものとする。

(就業禁止)

第77条 法人は、教職員が次の各号のいずれかに該当する場合には、就業を禁止することがある。

- (1) 感染のおそれのある病人、保菌者及び保菌のおそれのある場合
- (2) 勤務をすることにより病勢が悪化するおそれのある場合。
- (3) その他前2号に準ずる場合。

(その他)

第78条 本章に定めるもののほか、教職員の安全衛生管理に関し必要な事項は、衛生委員会規程の定めるところによる。

第15章 災害補償

(災害補償)

第79条 法人は、教職員が業務上の事由又は通勤により負傷し、疾病にかかり、若しくは死亡した場合は、労基法及び労働者災害補償保険法に定めるところにより災害補償を行う。

第16章 職員研修

(職員研修)

第80条 法人は、職員に対し、業務に必要な知識及び技能を高め、各人の資質及び各種能力の向上を図るため、必要な研修を行う。

- 2 職員は、前項の研修を受講するよう命じられた場合には、研修を受けなければならない。なお、職員の研修については、別に定める職員研修規程による。

第17章 その他

(その他)

第81条 この規程の変更若しくは廃止又は解釈上の疑義が生じた場合は、教職員の過半数を代表する者の意見を徴し、理事会で審議の上、理事長が決定する。

- 2 変更等が生じた場合は、法人は、法令に定める必要な手続を行う。

附 則

この規程は、昭和36年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

ただし、第51条第1項、同条第2項規定は、平成7年4月1日以降発令された大学院教員に適用する。

附 則

1 この規程は、平成8年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第53条の施行については、平成8年4月2日以降に採用される教職員について適用し、平成8年4月1日以前に採用された大学院を除く教職員の定年については、規程の施行日(平成8年4月1日)現在の満年齢により次の表のとおりとする。

基準日年齢	定年齢
65歳以上	70歳
55歳以上65歳未満	69歳
50歳以上55歳未満	68歳
45歳以上50歳未満	67歳
40歳以上45歳未満	66歳
40歳未満	65歳

ただし、昭和60年4月1日から平成8年3月31日までに採用された技術現業系職員、学生寮の職員、調理業務職員は65歳とする。

3 平成15年4月1日付で改定した大学院教員の定年変更に関する規程は、この規程に優先する。

4 平成6年4月1日以降に採用された研究助手、助手、副手については、規程に基づく任期を適用する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年2月7日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。〔大学院教員の定年変更（70→65歳）、技術現業系職員の定年変更（60→65歳）、条文整備、附則（経過措置）〕

附 則

この規程は、平成15年10月1日から施行する。〔条文整備〕

附 則

この規程は、平成15年12月18日から施行する。〔「契約前相互了解事項」削除〕

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。〔年次有給休暇、特別有給休暇の付与日数の改定〕

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。〔年次有給休暇の繰越日数の改定〕

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。〔土曜日の終業時刻に関する条文の削除〕

附 則

この規程は、平成17年10月1日から施行する。〔休職の種類を追加〕

附 則

この規程は、平成18年6月1日（一部規定は4月1日遡及）から施行する。〔育児・介護のための時間外勤務の制限、母性保護条文等の追加、勧奨退職規定の見直し等〕

附 則

この規程は、平成19年10月1日から改定施行する。〔所定勤務時間の明記、代休の新設、休日・休暇の記載内容改定、法定記載事項の明記等〕

附 則

この規程は、平成20年10月1日から改定施行する。〔キャンパス・ハラスメント禁止条項の改定、退職及び解雇条文定義の改定、懲戒条項の改定等〕

附 則

この規程は、平成22年4月1日から改定施行する。但し、第35条及び第39条第1項第5号と第6号、第44条、第45条の育児・介護関連条文については、平成22年6月30日から発効する。〔労働基準法、育児・介護休業法改正に対応、任期付教員の任用等に関する規程新

設に対応]

附 則

この規程は、平成23年10月1日から改定施行する。〔休職条文定義の改定、時間調整制度廃止に伴う条文削除、年次有給休暇の時間単位付与に関する条文追加、生理休暇新設に伴う条文追加、解雇及び懲戒条文定義の改定等〕

附 則

この規程は、平成26年4月1日から改定施行する。〔短大廃止に伴い、第2条第2項「学部、短期大学部」を「大学」に変更〕

附 則

この規程は、平成29年1月1日から改定施行する。〔キャンパス・ハラスメントの禁止条文定義の追加、育児・介護休業規程の分割、懲戒事由の追加〕

附 則

この規程は、平成29年4月1日から改定施行する。〔所定勤務時間及び週の起算日定義の追加、代休等の基準改定、傷病積立休暇・看護休暇及び介護休暇条文の改定〕

附 則

この規程は、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」の施行に併せ、平成28年1月1日に遡って施行する。〔特定個人情報法に基づく個人番号の利用開始に伴い、第11条（採用選考に必要な応募書類）、第12条（採用内定後の必要書類）、第24条（順守事項）、第26条（特定個人情報並びに個人情報保護）、第69条（懲戒解雇）、第70条（損害賠償）について条文整備〕

附 則

この規程は、平成28年4月1日から改定施行する。〔幼稚部廃止に伴い、第1条第2項「幼稚部」を「こども園」に変更〕

附 則

この規程は、「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」の施行に併せ、平成31年4月1日から改定施行する。〔第40条（年次有給休暇）〕〔第42条（特別一斉休暇）〕 平成31年3月14日常勤役員会にて決定。

附 則

この規程は、令和2年6月1日から改定施行する。〔キャンパス・ハラスメントの禁止に関する条文を削除、新たにキャンパス・ハラスメント防止規程を制定〕

附 則

この規程は、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」の改正に併せ、令和３年１月１日から改定施行する。〔第44条（看護休暇）〕

〔第45条（介護休暇）〕 令和２年12月10日常勤役員会にて決定。

別表１（第40条関係）

入校月別年次有給休暇付与日数表

（入校翌年度の年次有給休暇付与日数）

入校月	年休付与日数
4月	25日
5月	24日
6月	22日
7月	20日
8月	19日
9月	12日
10月	10日
11月	9日
12月	7日
1月	5日
2月	4日
3月	2日

注)

① 1月当たりの年次有給休暇を1.66日（＝20日÷12か月）付与する。ただし、事務処理上1日単位で換算する。

②第40条第１項第８号に規定する夏季特別一斉有給休暇取得期間に配慮し、４月から８月までの入校の教職員については、上記①で算出された付与日数に５日を特別加算し付与する。

別表２（第40条関係）

入校月別時間単位年休取得可能日数表

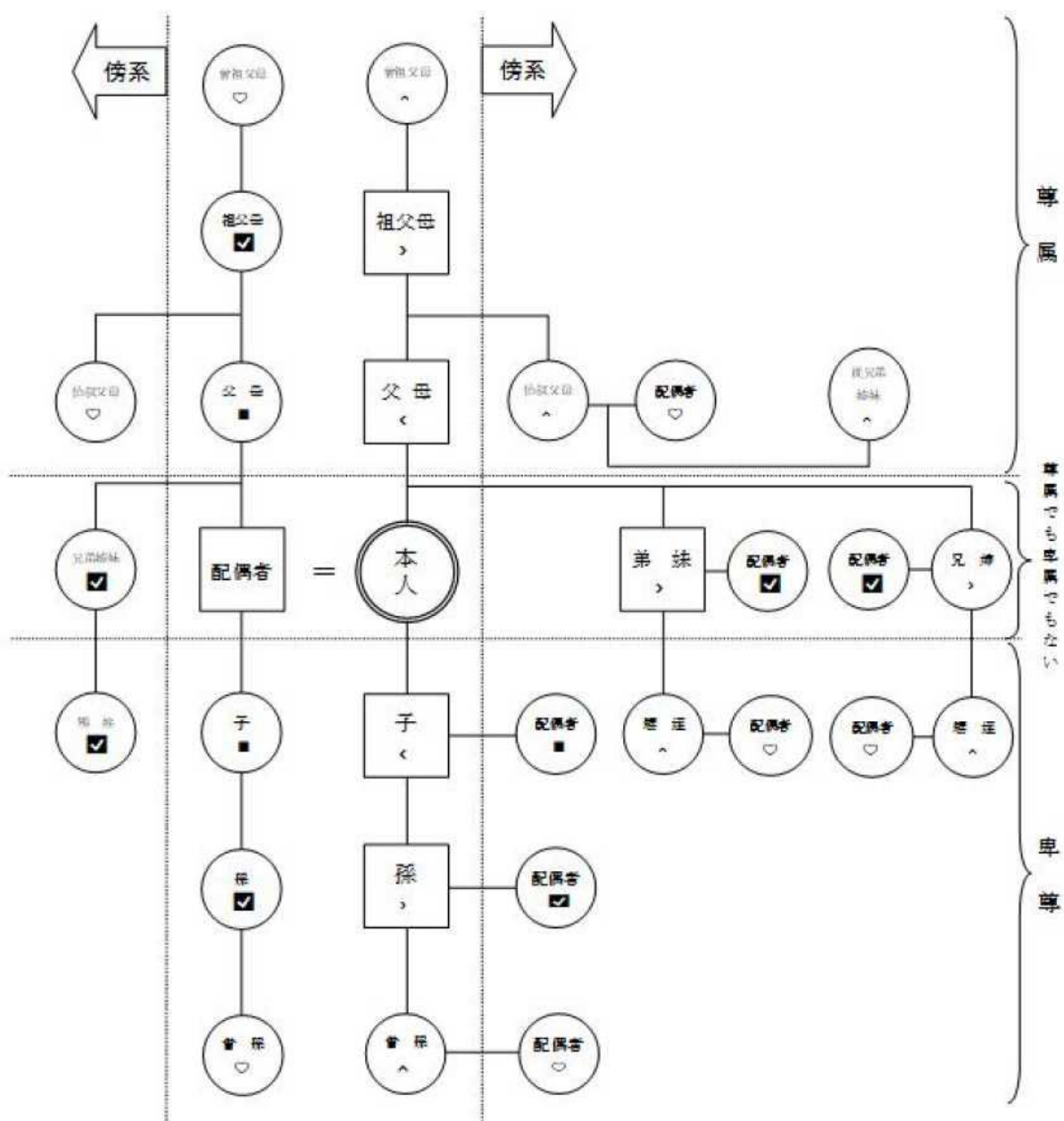
（入校初年度の時間単位年休取得可能日数）

入校月	時間単位年休取得可能日数
4月	5日

5月	5日
6月	5日
7月	4日
8月	4日
9月	3日
10月	3日
11月	3日
12月	2日
1月	2日
2月	1日
3月	1日

別表 3（第42条関係）

親族の範囲



別記様式（第 16 条関係）

年 月 日

学校法人 昭和女子大学
理事長 殿

【前任者】

役職名：_____

氏 名：_____ ㊞

【後任者】 下記引継事項を確認しました。

役職名：_____

氏 名：_____ ㊞

人事異動に伴う業務引継確認書

この度の人事異動に伴い、服務規程第 2 章第 3 節 第 16 条（異 動）第 4 項の定めにより、
下記のとおり業務引継ぎを実施いたしましたので、ここにご報告いたします。

記

1. 後任者への引継事項

- ・概要を箇条書きで記載する。
- ・具体的な引継書やデータについては、ファイル〇冊、ネットワーク上のフォルダ名及びUSBメモリーに保存したフォルダ名等を明記する。

2. 引継完了後の感想及び申継事項等の留意事項

以 上

○定年後再雇用者の取扱規程

(趣旨)

第1条 この規程は、定年退職後も引き続き雇用する教職員（以下「定年再雇用者」という。）の身分、資格等の取扱いを定める。

(再雇用条件)

第2条 再雇用の要件は、次の各号のいずれかに該当する場合とする。

- (1) 学校法人昭和女子大学（以下「法人」という。）の都合により、定年退職予定者に再雇用を要請し、当該教職員の下承が得られるとき。
- (2) 教職員から再雇用を希望する申出があり、理事会（理事長）がこれを承認するとき。

(種別)

第3条 定年再雇用者を常勤、準常勤及び非常勤に分ける。

(資格及び資格変更)

第4条 定年再雇用者の資格は、勤務及び業績を勘案し、次のうちから部門長が推薦し、理事会（理事長）の承認をもって決定する。

- (1) 教員のうち、研究業績又は業務貢献が著しく、カリキュラム及び業務編成上、余人をもって代え難い者は、特任教授又は特任教諭とする。
- (2) 法人の都合で理事長が認定する役職又は職務に就任する教員については、特任教授又は特任教諭とする。
- (3) 前2号以外の場合は、非常勤講師とする。
- (4) 職員のうち、業績が著しく余人をもって代え難い者は、特任職員とする。
- (5) 前号以外の職員は、嘱託職員とする。

2 前項に基づいて認定された資格については、業務内容及び委嘱事情の変更によって、年度単位で変更することがある。

(任用上の留意事項)

第5条 所属長は、所属教職員が定年を迎える年度以前から計画的に授業及び業務等の調整に努めなければならない。

2 更に所属長は、当該教職員が定年後も学生指導、カリキュラム編成及び業務遂行上支障のないよう十分留意しなければならない。

3 部門長は、所属長から提出された教職員の定年後再雇用申請について、所属間調整を含めて適否を審査し、理事会（理事長）へ上申する。

(契約期間中の措置及び契約更新の限度)

第6条 定年再雇用者の契約期間は1年以上3年以内とし、所属長は、当該契約期間内に後任者の人事計画を策定するものとする。ただし、後任者の人選が難しいと認められる場合に限り、理事会（理事長）の承認に基づいて、70歳を上限として1年単位で更新するものとする。

2 カリキュラム編成等において理事会が必要と認めた場合は、70歳を超えて延長できるものとする。

（役職）

第7条 定年再雇用者が役職に就く場合は、役職の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

（給与）

第8条 定年再雇用者の給与は、勤務、職務内容等を勘案し、次のうちから部門長の意見を聴いて理事長が決定する。

- (1) 定年時の本俸（理事長が認める基幹役職者）
- (2) 定年時の40%から100%までの範囲の本俸（嘱託職員等）
- (3) 定年時の20%、ただし、10万円を超えない範囲の本俸及び授業コマ数による謝金（準常勤特任教授）
- (4) 授業コマ数に基づく月額固定給
- (5) 授業コマ数による謝金（非常勤クラス）
- (6) 時間給（臨時職員クラス）

2 授業コマ数に基づく給与は、非常勤講師謝金基準を適用する。

3 第1項各号に定める給与の認定基準は、別に定める。

（諸手当）

第9条 前条第1項第1号又は同項第2号の該当者については、勤勉手当及び該当する手当を支給する。

（退職手当）

第10条 第8条第1項第1号から第3号までの該当者の役職委嘱期間については、厚生規程第15条の算出基準に基づいて退職手当を支給する。ただし、役職に就かない期間については、支給率を4分の1とする。

2 定年再雇用者は、定年時に退職手当を支給し、再雇用契約終了時に、定年以降の勤務年数による退職手当を支給する。

（勤務条件）

第11条 定年後再雇用の身分、給与、勤務、休暇、研究費、出張旅費及び研究室等の勤務条件については、各部門事務責任者が人事部長と協議の上立案し、部門長及び理事長の承認を得る。

2 人事部長は、当該定年後再雇用者に文書をもって勤務条件を事前に通知する。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、担当理事の承認を得て、理事会に報告する。

(その他)

第13条 この規程に定めがない事項については、人事部長が部門長の意見を聴いて立案し、担当理事の承認を経て理事長が決定する。

附 則

1 この規程は、平成9年4月1日から施行する。ただし、平成9年度は移行調整年度（猶予期間）とする。

2 この規程第6条は、一般教職員の定年規程改定（平成8年4月1日付）に伴う在籍教職員に対する経過措置として次の表のとおり取り扱う。

定年齢	定年再雇用限度
70歳	73歳
69歳	72歳
68歳	71歳
65～67歳	70歳

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。〔特任教諭追加、技術現業系、調理業務及び学生寮職員の再雇用の条件追加〕

附 則

この規程は、平成13年7月5日から施行する。ただし、満75歳以上の者等に対する経過措置を次のとおり定める。

(1) 平成13年4月1日現在、満75歳以上の特任教授（理事長が認定する役職者を除く。）

については、平成14年度以降、特任教授の新規契約を交わさない。

(2) 前号において、学生指導又はカリキュラム編成上、理事会（理事長が）例外的に再雇用を認める場合、非常勤講師に身分を変更し委嘱する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。〔第6条条文整備、平成13年7月5日付

改定附則第3項削除]

附 則

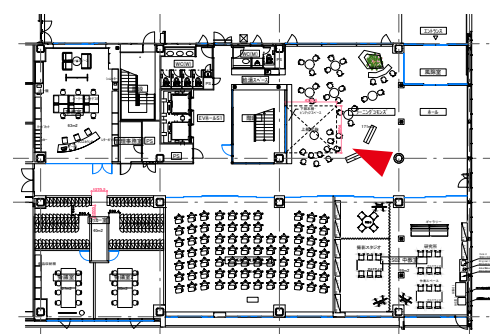
この規程は、平成16年4月1日から施行する。〔身分間の定年格差解消、定年後雇用延長の基準制定〕

附 則

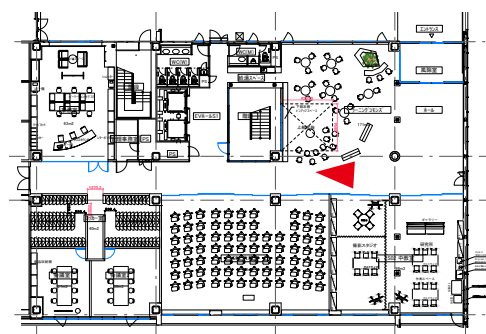
この規程は、平成17年6月16日から施行する。〔準常勤の特任教授職を制定〕

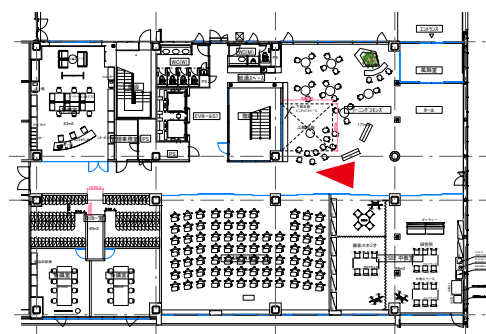
附 則

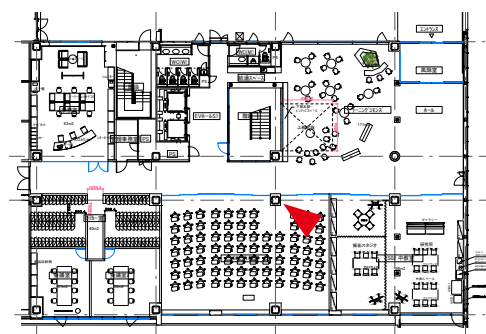
この規程は、平成21年9月17日に改定し、10月1日から施行する。〔第12条（規程の改廃）追加。第12条（その他）を13条とし改定〕

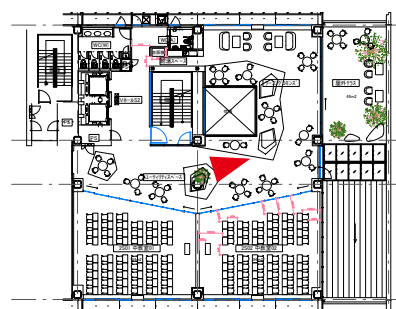


1F ラーニングコモンズ 吹き抜けを見上げる
エントランスを入るとダイクロイックの筒が学生を迎える

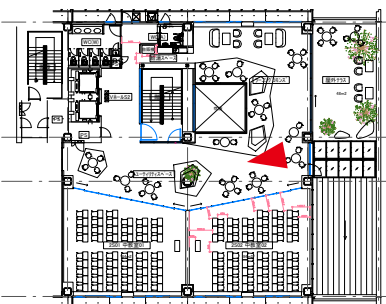




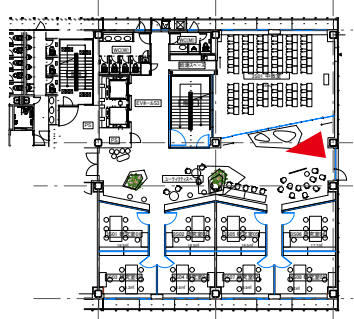




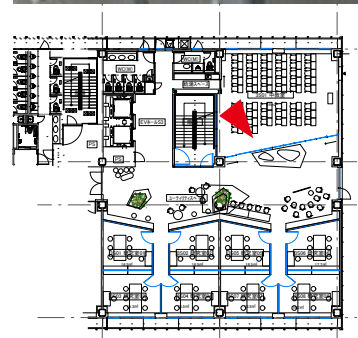
2F ラーニングコモンズ 吹き抜けを見下ろす



2F 教室とオープンスペースを見る

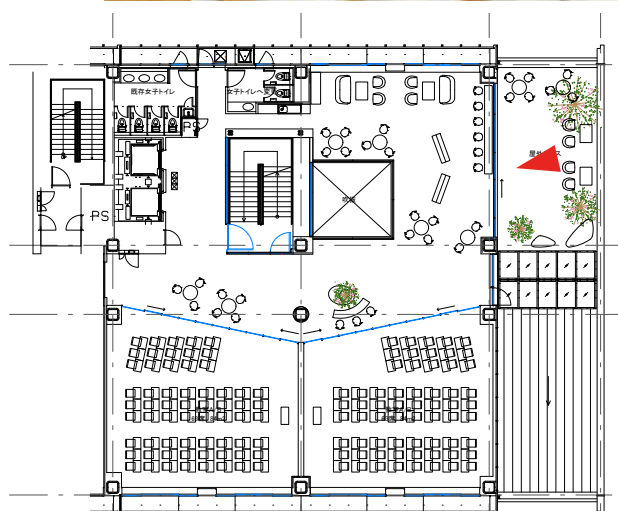


3F 研究室前のオープンスペース
10人規模のオープンなゼミも可能



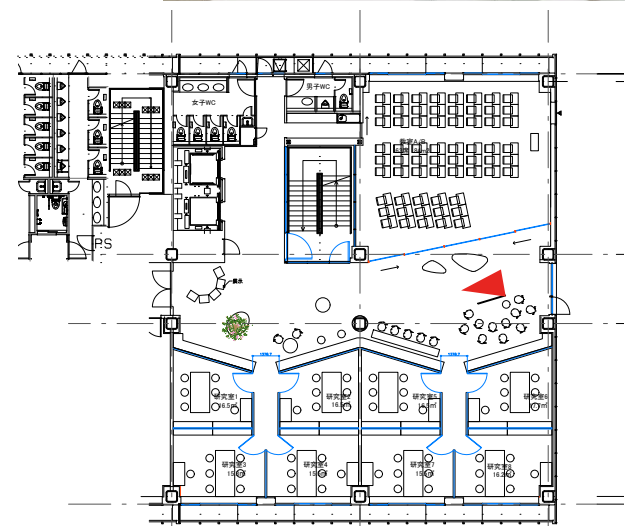


2F テラスから室内を見る



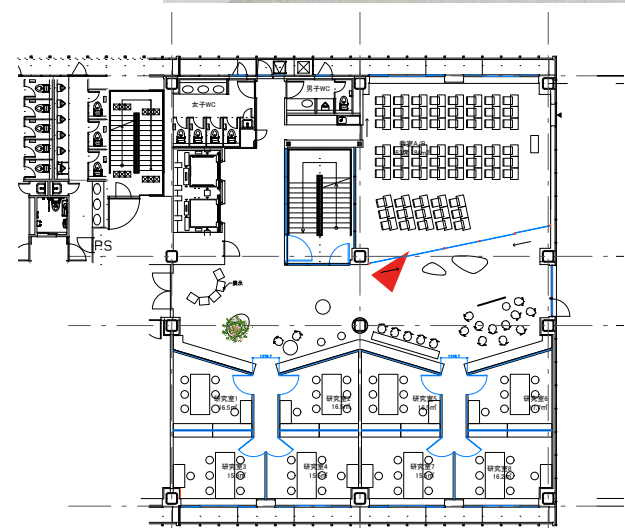


4F 研究室前のオープンスペース
教室はガラスで仕切られている



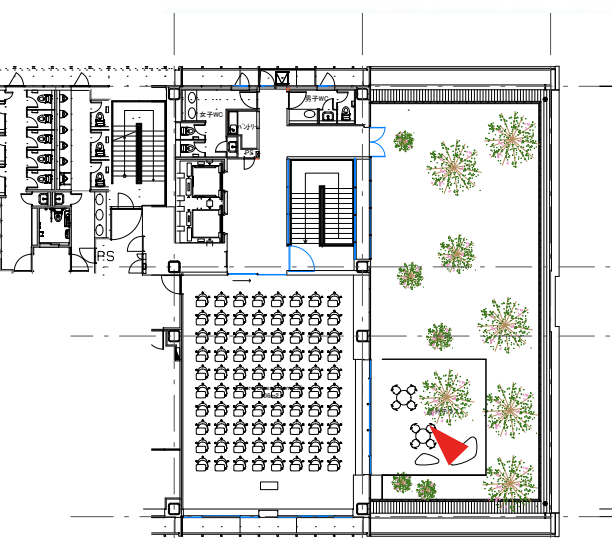


カーテンでやわらかく区切られる
カーテンを開けてオープンに使用も可能



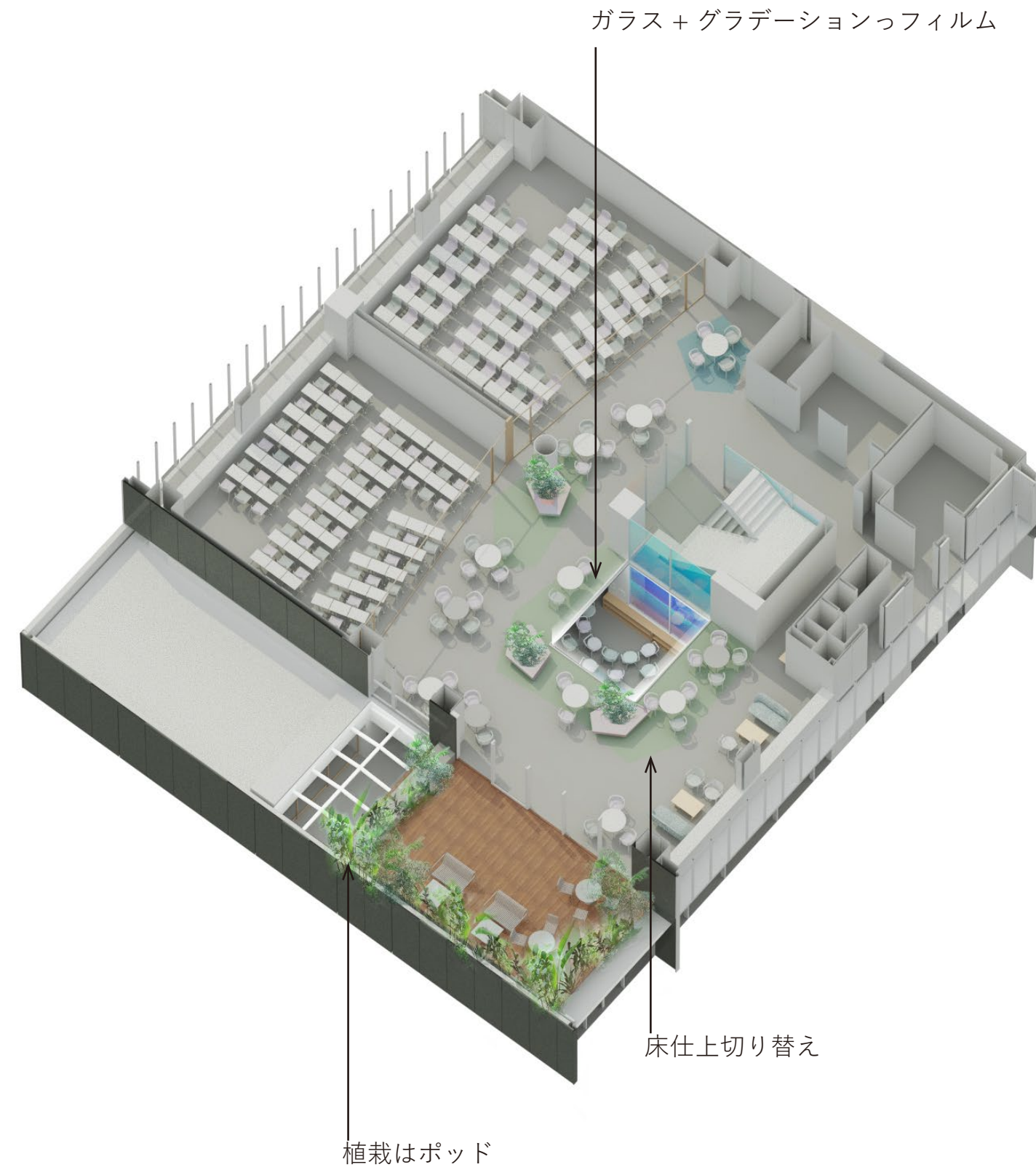
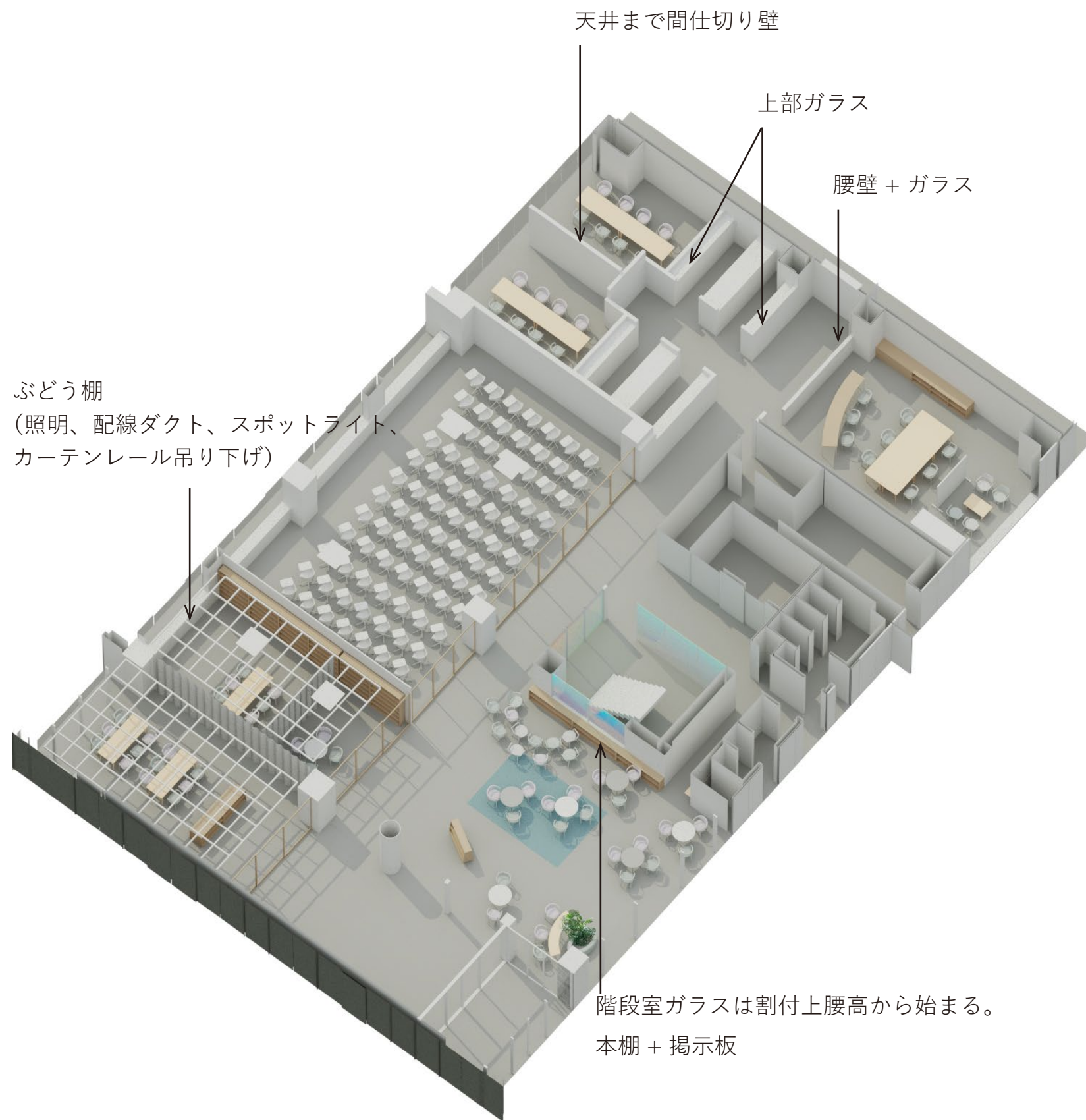


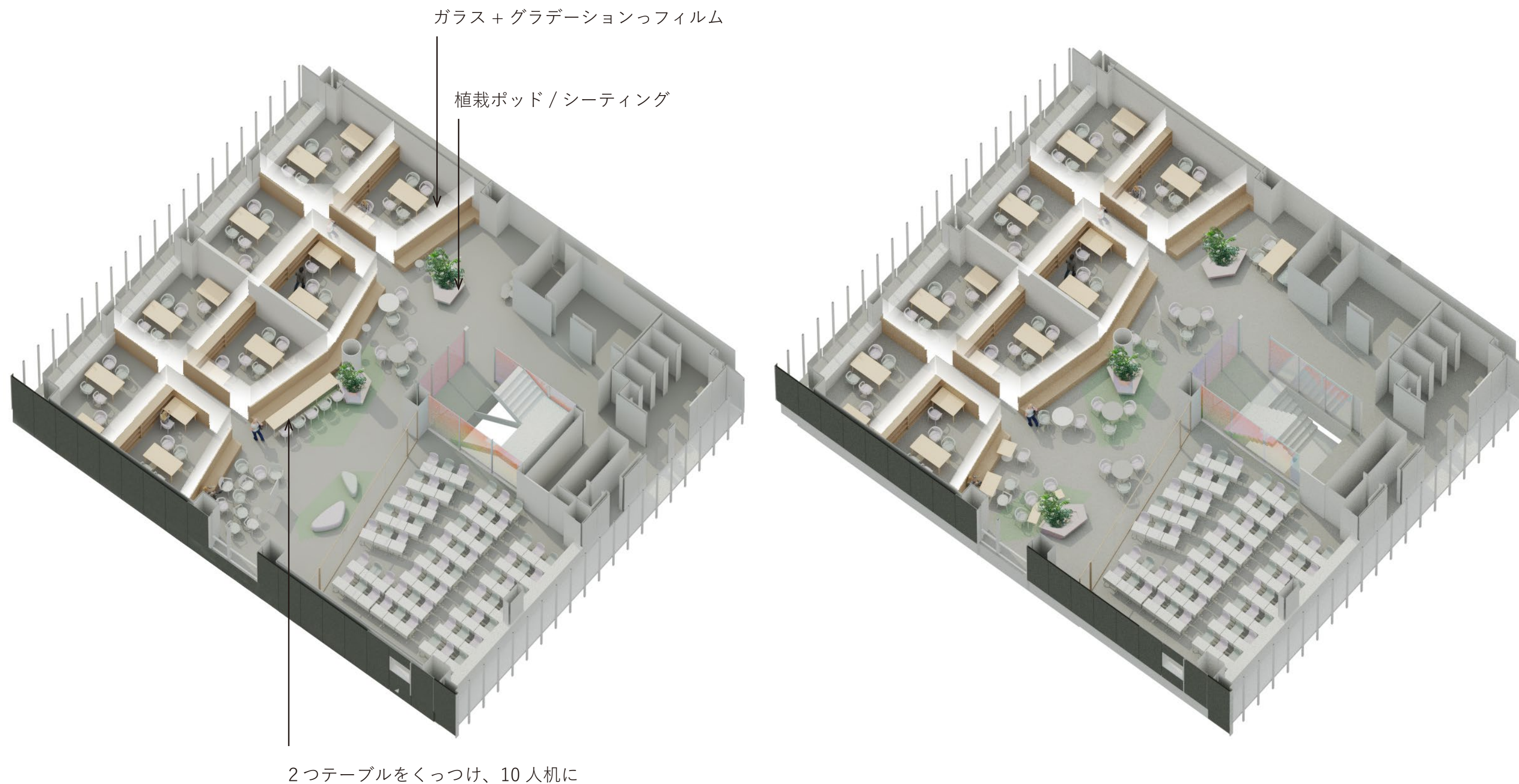
5F テラス



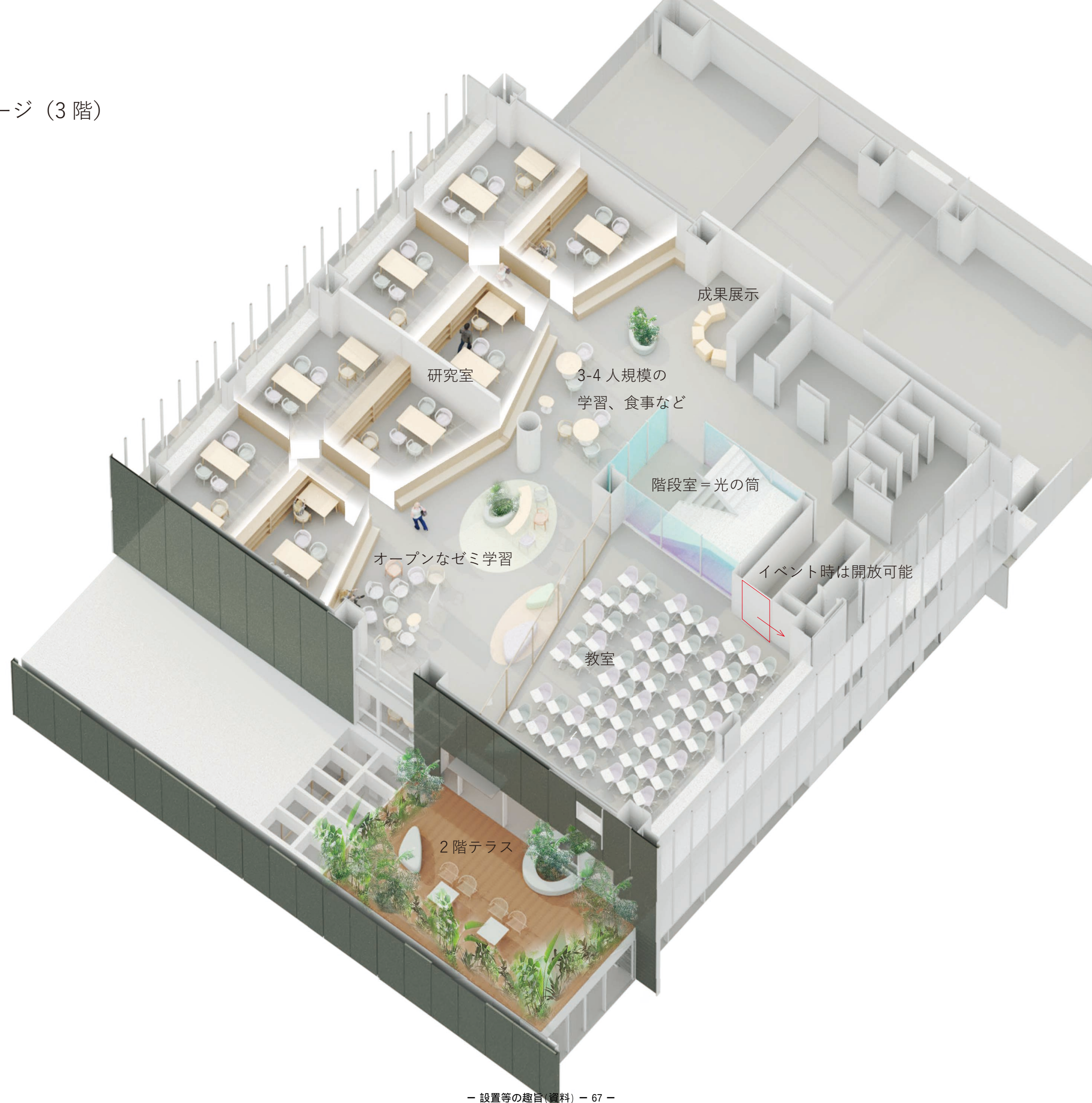








使い方イメージ (3 階)



データサイエンス学科 (前期)

DS前期		月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日				土曜日			
時 限	時 間	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員
1限	9:00～10:30	1	データサイエンス基礎演習Ⅰ(DS1A) データサイエンス基礎演習Ⅰ(DS1B)	B10_3/63 B10_4/63	山中 健太郎 日高 一郎	1	統計学基礎(DS1A)	B10_4/63	仁科 国之	1				1	デザイン思考(γ)	B10_3/63	宮北 剛己	1	数学基礎(DS1A)	B10_4/63	横田 直木	1			
		2				2				2	人的資源管理	B10_1/80	山田 隆史	2				2				2			
		3				3				3				3				3				3			
		4				4				4				4				4				4			
2限	10:40～12:10	1	英語			1	ソフトスキル概論(α)	B10_3/63	一柳 晶子	1	Python基礎(DS1B) Python基礎(DS1C)	B10_3/63 B10_4/63	永井 朋子 久保 奨	1	英語			1	Python基礎(DS1A)	B10_4/63	久保 奨	1			
		2	線形代数Ⅱ(DS2A)	B10_3/63	永井 朋子	2	健康科学概論	B10_1/80	山中 健太郎	2	Statistics Workshop	B10_5/80	宮北 剛己	2	チームマネジメント(α)	B10_4/63	一柳 晶子	2	消費者行動論	B10_1/80	黒川 怜樹	2			
		3	PythonアナリティクスⅡ(DS3A)	B1_5/120	久保 奨	3	時系列解析	B1_5/120	日高 一郎	3	グループダイナミクス	B1_5/120	教員補充	3				3	心理統計	B1_5/120	仁科 国之	3			
		4				4				4				4				4				4			
3限	13:10～14:40	1	数学基礎(DS1B)	B10_3/63	永井 朋子	1	ソフトスキル概論(β)	B10_3/63	一柳 晶子	1	情報学概論	GH	河合 孔明	1	デザイン思考(β)	B10_3/63	竹政 昭利	1	DXと社会Ⅰ	GH	大石 善啓	1			
		2	基礎心理学概論	B10_1/80	仁科 国之	2	データサイエンス基礎プロジェクトⅠ(DS1A) データサイエンス基礎プロジェクトⅠ(DS1B)	B10_5/80 B10_4/63	黒川 怜樹 日高 一郎	2	経営管理論	B10_1/80	花岡 巖	2	チームマネジメント(β)	B10_4/63	一柳 晶子	2	線形代数Ⅱ(DS2B)	B10_4/63	横田 直木	2			
		3	運動・感覚情報学	B1_5/120	山中 健太郎	3	処方アナリティクス	B1_5/120	久保 奨	3	深層学習	B10_3/63	永井 朋子	3	マーケティング・アナリティクス	B1_5/120	黒川 怜樹	3	PythonアナリティクスⅡ(DS3B)	B10_3/63	久保 奨	3			
		4				4				4	ピープル・アナリティクス(ケース・スタディ)	B10_5/80	山田 隆史	4				4				4			
4限	14:50～16:20	1	統計学基礎(DS1B)	B10_3/63	横田 直木	1	ソフトスキル概論(γ)	B10_3/63	一柳 晶子	1				1	デザイン思考(α)	B10_3/63	竹政 昭利	1				1			
		2	記述アナリティクス(DS2B)	B10_4/63	久保 奨	2				2				2	チームマネジメント(γ)	B10_4/63	一柳 晶子	2	記述アナリティクス(DS2A)	B10_3/63	永井 朋子	2			
		3	応用健康科学	B1_5/120	日高 一郎	3	組織行動論	B1_5/120	木村 琢磨	3				3	データ活用特講Ⅰ	B10_5/80	江崎 貴裕	3	デジタルマーケティング	B10_5/80	河野 奈保	3			
		4				4				4				4				4				4			
5限	16:30～18:00	1	Python基礎(全)	B10_4/63	永井 朋子	1				1				1				1	キャリアコア科目			1			
		2				2				2				2				2				2			
		3	行動科学実験法	B10_5/80	仁科 国之	3				3				3				3	データサイエンス演習Ⅰ(DS3A-E)	B1_5/25*2 B10_3/63 B10_4/63	木村 琢磨 黒川 怜樹 山中 健太郎 日高 一郎	3			
		4				4				4				4	マーケティング・アナリティクス(ケース・スタディ)	B10_5/80	黒川 怜樹	4				4			
6限	18:10～19:40	1				1				1	実践倫理・キャリアデザイン入門			1				1				1			
		2				2				2	情報倫理	OD	横田 直木	2				2				2	海外情報学研修		黒川 怜樹
		3				3				3				3				3				3			
		4				4				4				4				4	データサイエンス専門演習Ⅰ(DS4A-I)	研究室他	木村 琢磨 久保 奨 黒川 怜樹 横田 直木 山中 健太郎 一柳 晶子 永井 朋子 日高 一郎	4	Castone Proect	研究室他	木村 琢磨 久保 奨 黒川 怜樹 横田 直木 山中 健太郎 一柳 晶子 永井 朋子 日高 一郎

デジタルイノベーション学科（前期）

DI前期		月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日				土曜日			
時 限	時 間	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員	学 年	科 目 名	教 室	担 当 教 員
1限	9:00～10:30	1	デジタルイノベーション基礎演習Ⅰ (DI1A) デジタルイノベーション基礎演習Ⅰ (DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	石井 将大 河合 孔明	1				1				1	デザイン思考(γ)	B10_3/63	宮北 剛己	1	プログラミング基礎 (DI1A) プログラミング基礎 (DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	河合 孔明 石井 将大	1			
		2				2				2	人的資源管理	B10_1/80	山田 隆史	2				2				2			
		3				3				3				3				3				3			
		4				4				4				4				4				4			
2限	10:40～12:10	1	英語			1	ソフトスキル概論(α)	B10_3/63	一柳 晶子	1	数学基礎(DI1A)	B10_2/63A	篠崎 絢	1	英語			1	統計学基礎(DI1B)	B10_2/63B	篠崎 絢	1			
		2				2	健康科学概論	B10_1/80	山中 健太郎	2	データマネジメント	B10_1/80	青柳 岳司	2	チームマネジメント(α)	B10_4/63	一柳 晶子	2	消費者行動論	B10_1/80	黒川 怜樹	2			
		3				3	コラボレーティブアプリ開発	B10_2/63A B10_2/63B	中鉢 欣秀 竹政 昭利	3	グループダイナミクス	B1_5/120	教員補充	3	MLOps	B10_2/63A	教員補充	3				3			
		4				4				4				4				4				4			
3限	13:10～14:40	1	数学基礎(DI1A) 統計学基礎(DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	石井 将大 篠崎 絢	1	ソフトスキル概論(β)	B10_3/63	一柳 晶子	1	情報学概論	GH	河合 孔明	1	デザイン思考(β)	B10_3/63	竹政 昭利	1	DXと社会Ⅰ	GH	大石 善啓	1			
		2	基礎心理学概論	B10_1/80	仁科 国之	2	データビジュアライゼーション	B10_2/63A	青柳 岳司	2	経営管理論	B10_1/80	花岡 巖	2	チームマネジメント(β)	B10_4/63	一柳 晶子	2	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅠ (DI1A) デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅠ (DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	宮北 剛己 河合 孔明	2			
		3	運動・感覚情報学	B1_5/120	山中 健太郎	3				3	サイバーセキュリティ	B10_2/63B	石井 将大	3	プログラミング上級	B10_2/63B	中鉢 欣秀	3				3			
		4				4				4				4				4				4			
4限	14:50～16:20	1				1	ソフトスキル概論(γ)	B10_3/63	一柳 晶子	1				1	デザイン思考(α)	B10_3/63	竹政 昭利	1				1			
		2				2	UMLモデリング	B10_2/63A B10_2/63B	中鉢 欣秀 竹政 昭利	2				2	チームマネジメント(γ)	B10_4/63	一柳 晶子	2				2			
		3	応用健康科学	B1_5/120	日高 一郎	3	組織行動論	B1_5/120	木村 琢磨	3				3	データ活用特講Ⅰ	B10_5/80	江崎 貴裕	3	デジタルマーケティング	B10_5/80	河野 奈保	3			
		4				4				4				4				4				4			
5限	16:30～18:00	1				1				1				1				1	Emerging TechnologyⅠ	B10_1/80	大石 善啓	1			
		2				2				2				2				2				2			
		3	クラウドコンピューティング	B10_2/63A	河合 孔明	3	ビジネスインテリジェンス	B10_2/63A	青柳 岳司	3				3	デジタルイノベーション演習Ⅰ(DI3A-E)	B1_5/25*3 B10_2/63A B10_2/63B	青柳 岳司 竹政 昭利 中鉢 欣秀 宮北 剛己 石井 将大	3	キャリアコア科目			3			
		4				4				4				4				4				4			
6限	18:10～19:40	1				1				1	実践倫理・キャリアデザイン入門			1				1				1			
		2				2				2	情報倫理	OD	槇田 直木	2				2				2	海外情報学研修		宮北 剛己
		3				3				3				3				3				3			
		4				4				4				4				4	デジタルイノベーション専門演習Ⅰ(DS4A-FI)	研究室他	青柳 岳司 竹政 昭利 中鉢 欣秀 宮北 剛己 石井 将大 河合 孔明	4	Castone Proect	研究室他	青柳 岳司 竹政 昭利 中鉢 欣秀 宮北 剛己 石井 将大 河合 孔明

教員・教室別（前期）

前期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
DS	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6							
木村 琢磨												○												○	○					○	4						
久保 奨		○			○				○				○								○	○			○						○	8					
黒川 怜樹									○							○		○			○			○							○	7					
槇田 直木					○							○							○			○			○						○	6					
山中 健太郎	○			○				○															○		○						○	6					
一柳 昌子								○	○	○						○	○	○													○	8					
永井 朋子		○	○			○							○	○									○								○	8					
日高 一郎	○				○			○	○															○							○	7					
仁科 国之				○		○						○									○											4					
前期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
DI	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6							
青柳 岳司									○			○		○											○						○	6					
大石 善啓																											○						2				
中鉢 欣秀								○			○					○		○													○	6					
樺 広計																																	0				
竹政 昭利								○			○					○	○	○													○	7					
花岡 巖															○																		1				
宮北 剛己													○					○								○					○	6					
石井 奨大	○			○																					○						○	7					
河合 孔明	○					○																			○		○				○	7					
篠崎 絢				○									○													○						2					
前期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
非常勤	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6							
江崎 貴裕																	○														1						
河野 奈保																											○				1						
角野 為耶																															0						
山田 隆史													○		○																2						

前期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
B10	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
1/80			○					○					○	○	○								○			○										○	9
2/63A	○		○			○		○	○	○		○		○						○			○		○		○									○	14
2/63B	○		○					○							○							○		○		○		○								○	12
3/63	○	○	○	○				○	○	○				○	○				○			○	○			○	○		○	○						○	17
4/63	○				○	○			○					○						○	○	○			○	○	○		○	○						○	15
5/80			○			○			○	○				○	○							○	○				○			○						○	11
前期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
B1	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
5/120		○	○	○				○	○					○							○					○										○	10
5/25A																							○													○	4
5/25B																							○													○	4
5/25C																							○													○	3
GH														○												○											2

データサイエンス学科（後期）

DS後期		月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日				土曜日									
時限	時間	学年	科目名	教室	担当教員	学年	科目名	教室	担当教員	学年	科目名	教室	担当教員	学年	科目名	教室	担当教員	学年	科目名	教室	担当教員	学年	科目名	教室	担当教員						
1限	9:00～10:30	1	データサイエンス基礎演習Ⅱ (DS1A) データサイエンス基礎演習Ⅱ (DS1B)	B10_3/63 B10_4/63	山中 健太郎 日高 一郎	1	クリティカルシンキング (DS1A)	B10_3/63	一柳 晶子	1				1	Python統計学 (DS1C)	B10_3/63	永井 朋子	1				1									
		2				2				2				2				2				2									
		3				3				3				3				3				3									
		4				4				4				4				4				4									
2限	10:40～12:10	1	統計学 (DS1A) 統計学 (DS1B)	B10_3/63 B10_4/63	横田 直木 仁科 国之	1	クリティカルシンキング (DS1B)	B10_3/63	一柳 晶子	1	Python統計学 (DS1A) Python統計学 (DS1B)	B10_3/63 B10_4/63	永井 朋子 久保 奨	1	線形代数Ⅰ (DS1A)	B10_3/63	横田 直木	1	解析 (DS1A) 解析 (DS1B)	B10_3/63 B10_4/63	久保 奨 横田 直木	1									
		2	Descriptive Analytics Workshop (DS2A)	B10_5/80	黒川 怜樹	2	健康・行動情報学	B10_1/80	日高 一郎	2	産業組織心理学	B10_1/80	教員補充	2	プロジェクトマネジメント (γ)	B10_4/63	一柳 晶子	2	認知科学概論	B10_1/80	仁科 国之	2									
		3				3	応用認知科学	B1_5/120	仁科 国之	3	ピープル・アナリティクス	B1_5/120	山田 隆史	3	コンピュータビジョン	B1_5/120	宮北 剛己	3	健康調査研究法	B10_5/80	日高 一郎	3									
		4				4				4				4				4				4									
3限	13:10～14:40	1	PythonアナリティクスⅠ (DS2A) PythonアナリティクスⅠ (DS2B)	B10_3/63 B10_4/63	久保 奨 永井 朋子	1	英語			1	データサイエンス入門	B10_5/80	木村 琢磨	1	英語				1	DXと社会Ⅱ	B1_5/120	大石 善啓	1								
		2				2	データサイエンス基礎プロジェクトⅡ (DS1A) データサイエンス基礎プロジェクトⅡ (DS1B)			B10_5/80 B10_4/63	日高 一郎 黒川 怜樹	2	診断アナリティクス (DS2A) 診断アナリティクス (DS2B)	B10_3/63 B10_4/63	永井 朋子 久保 奨				2	プロジェクトマネジメント (β)	B10_4/63	一柳 晶子	2				予測アナリティクス	B10_5/80	木村 琢磨	2	
		3				3	Machine Learning Workshop (DS3A)			B1_5/120	宮北 剛己	3	マテリアルズインフォマティクス	B1_5/120	青柳 岳司				3	3	自然言語処理	B10_4/63	永井 朋子				3				
		4				4	4			4	4	4	4	4	4				4												
4限	14:50～16:20	1	Descriptive Analytics Workshop (DS2B)	B10_5/80	黒川 怜樹	1				1				1	線形代数Ⅰ (DS1B)	B10_3/63	永井 朋子	1				1									
		2				2				2				2	プロジェクトマネジメント (α)	B10_4/63	一柳 晶子	2				2									
		3				3				Machine Learning Workshop (DS3B)				B1_5/120	宮北 剛己	3	3	3				データ活用特講Ⅱ				B10_5/80	角野 為耶	3			
		4				4				4				4	4	4	4	4				4				4					
5限	16:30～18:00	1	Python統計学 (全)	B10_4/63	久保 奨	1				1				1				1	キャリアコア科目			1									
		2	PythonアナリティクスⅠ (全)	B10_3/63	永井 朋子	2				2				2				2				2				2					
		3	生体科学実験法	B1_5/120	山中 健太郎	3				DXケーススタディ				B10_5/80				花岡 巖				3				3	3	データサイエンス演習Ⅱ (DS3A-E)	B1_5/25*2 B10_3/63 B10_4/63	木村 琢磨 黒川 怜樹 山中 健太郎 日高 一郎	3
		4	4	4	4	4				4				4				4				4				4					
6限	18:10～19:40	1				1				1				1				1				1									
		2				2				2				2				2				2									
		3				3				3				3				3				3				3	3	3	3		
		4				4				4				4				データサイエンス専門演習Ⅱ (DS4A-I)				研究室他				木村 琢磨 久保 奨 黒川 怜樹 横田 直木 山中 健太郎 一柳 晶子 永井 朋子 日高 一郎	4	Castone Proect	研究室他	木村 琢磨 久保 奨 黒川 怜樹 横田 直木 山中 健太郎 一柳 晶子 永井 朋子 日高 一郎	

デジタルイノベーション学科（後期）

DI後期		月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日				土曜日				
時 限	時 間	学 年	科目名	教室	担当教員	学 年	科目名	教室	担当教員	学 年	科目名	教室	担当教員	学 年	科目名	教室	担当教員	学 年	科目名	教室	担当教員	学 年	科目名	教室	担当教員	
1限	9:00～10:30	1	デジタルイノベーション基礎演習Ⅱ(DI1A)	B10_2/63A	石井 将大	1	クリティカルシンキング(DI1A)	B10_2/63A	花岡 巖	1				1	コンピュータサイエンス概論	B10_2/63A	河合 孔明	1				1				
		2	デジタルイノベーション基礎演習Ⅱ(DI1B)	B10_2/63B	河合 孔明	2				2	機械学習入門	B10_2/63B	青柳 岳司	2	食・栄養情報学	B10_1/80	山中 健太郎	2				2				
		3				3				3				3				3				3				
		4				4				4				4				4				4				
2限	10:40～12:10	1				1	クリティカルシンキング(DI1B)	B10_2/63A	花岡 巖	1	解析(DI1A) 解析(DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	篠崎 絢 石井 将大	1	プログラミング中級(DI1A) プログラミング中級(DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	中鉢 欣秀 竹政 昭利	1	Python入門(DI1A) Python入門(DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	河合 孔明 石井 将大	1				
		2				2	健康・行動情報学	B10_1/80	日高 一郎	2	産業組織心理学	B10_1/80	教員補充	2	プロジェクトマネジメント(γ)	B10_4/63	一柳 晶子	2	認知科学概論	B10_1/80	仁科 国之	2				
		3				3	応用認知科学	B1_5/120	仁科 国之	3	デジタル画像処理	B10_5/80	宮北 剛己	3				3				3				
		4				4				4				4				4				4				
3限	13:10～14:40	1				1	英語			1	データサイエンス入門	B10_1/80	椿 広計	1	英語			1	DXと社会Ⅱ	B1_5/120	大石 善啓	1				
		2	IoT概論	B10_1/80	河合 孔明	2	オブジェクト指向プログラミング	B10_2/63A B10_2/63B	竹政 昭利 中鉢 欣秀	2	UXプロトタイピング	B10_2/63A B10_2/63B	中鉢 欣秀 竹政 昭利	2	プロジェクトマネジメント(β)	B10_4/63	一柳 晶子	2	デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅡ(DI1A) デジタルイノベーション基礎プロジェクトⅡ(DI1B)	B10_2/63A B10_2/63B	宮北 剛己 河合 孔明	2				
		3				3				3	マテリアルズインフォマティクス	B1_5/120	青柳 岳司	3	ビッグデータマネジメント	B1_5/120	椿 広計 河合孔明	3	データ構造とアルゴリズム	B10_1/80	中鉢 欣秀	3				
		4				4				4				4				4				4				
4限	14:50～16:20	1				1				1				1	プロジェクトマネジメント(α)	B10_4/63	一柳 晶子	1				1				
		2	Python統計(DI2A) Python統計(DI2B)	B10_2/63A B10_2/63B	石井 将大 篠崎 絢	2				2				2				2				2				
		3				3				3				3				3	データ活用特講Ⅱ	B10_5/80	角野 為耶	3				
		4				4				4				4				4				4				
5限	16:30～18:00	1				1				1				1				1				1				
		2	データエンジニアリング	B10_2/63B	河合 孔明	2				2				2				2	Emerging TechnologyⅡ	B10_1/80	大石 善啓	2				
		3				3	DXケーススタディ	B10_5/80	花岡 巖	3				3	デジタルイノベーション演習Ⅱ(DI3A-E)	B1_5/25*3 B10_2/63A B10_2/63B	青柳 岳司 竹政 昭利 中鉢 欣秀 宮北 剛己 石井 将大	3	キャリアコア科目			3				
		4				4				4				4				4				4				
6限	18:10～19:40	1				1				1				1				1				1				
		2				2				2				2				2				2				
		3				3				3				3				3				3				
		4				4				4				4				4	デジタルイノベーション専門演習Ⅱ(DS4A-FI)	研究室他	青柳 岳司 竹政 昭利 中鉢 欣秀 宮北 剛己 石井 将大 河合 孔明	4	Castone Proect	研究室他	4	

教員・教室別（後期）

後期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
DS	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6							
木村 琢磨															○															○	5						
久保 奨				○		○								○	○															○	7						
黒川 怜樹			○		○					○														○						○	6						
槇田 直木			○																	○										○	5						
山中 健太郎	○					○																	○						○	6							
一柳 晶子							○	○											○	○	○								○	7							
永井 朋子				○		○								○	○														○	9							
日高 一郎	○							○	○																	○			○	7							
仁科 国之			○	○				○																	○					4							
後期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
DI	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6							
青柳 岳司															○				○											○	5						
大石 善啓																○														○	2						
中鉢 欣秀										○						○				○							○			○	7						
樺 広計																○															2						
竹政 昭利										○						○				○									○	6							
花岡 巖							○	○				○																		○	3						
宮北 剛己									○					○						○							○			○	8						
石井 奨大	○				○									○												○				○	7						
河合 孔明	○			○		○													○						○	○				○	9						
篠崎 絢					○									○																	2						
後期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
非常勤	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6							
江崎 貴裕																															0						
河野 奈保																															0						
角野 為耶																											○				1						
山田 隆史														○																	1						

後期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
B10	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
1/80			○					○						○	○						○	○			○	○								○	10		
2/63A	○				○		○	○	○					○	○				○	○						○	○							○	14		
2/63B	○				○	○			○					○	○				○	○						○	○							○	13		
3/63	○	○	○			○	○	○						○	○				○	○				○	○									○	16		
4/63	○	○	○			○			○					○	○					○	○				○	○								○	14		
5/80		○			○							○		○	○					○					○	○	○							○	11		
後期	月曜日						火曜日						水曜日						木曜日						金曜日						土曜日						コマ数
B1	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	
5/120			○			○		○	○	○				○	○						○					○									○	11	
5/25A																										○	○								○	4	
5/25B																										○	○								○	4	
5/25C																											○								○	3	
GH																																				0	

【資料13】昭和女子大学自己点検・評価規程

○昭和女子大学自己点検・評価規程

(趣旨)

第1条 この規程は、自己点検・評価を円滑に実施するため、組織体制及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 昭和女子大学(以下「本学」という。)における自己点検・評価は、教育研究水準の向上を図り、建学の精神、目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うことにより、本学の教育の質を保証し改善していくことを目的とする。

(組織)

第3条 自己点検・評価は、学長が統括し、大学部局長会が中心となって推進する。

2 自己点検・評価は、各部署(研究科、学部、全学共通教育センター、教務部、学生部、アドミッション部、キャリア支援部、FD推進委員会、図書館、大学事務部門及び学園本部)のうち、学長が指示する部署で実施する。

3 各所属、部署における自己点検・評価結果の検証と改善を円滑に行うために大学部局長会に内部質保証推進本部を設置する。

4 学長は、自己点検・評価結果について学外の有識者等の意見を求めるため、外部評価委員会を別に設置することができる。

(評価基準・項目)

第4条 自己点検・評価は、大学基準協会の大学基準、点検・評価項目に準拠して実施する。

2 [前項](#)のほか、学長が指定する項目を加えることができる。

(自己点検・評価の実施)

第5条 各部署は、自己点検・評価項目及び自己点検・評価実施計画に基づいて、自己点検・評価及び将来に向けた発展方策の策定を行う。

2 各部署の自己点検・評価結果、将来に向けた発展は、各部署の長の検証・承認を経て内部質保証推進本部に報告する。

(自己点検・評価の検証)

第6条 各部署の長から提出された自己点検・評価結果、将来に向けた発展の方策は、内部質保証推進本部で検証した上で大学の自己点検・評価結果として取りまとめ、大学部局長会に上申する。

2 自己点検・評価結果は、大学部局長会で協議の上、学長の承認をもって確定する。

3 将来に向けた発展方策は、原則として1年後の状況を内部質保証推進本部で検証し、大学部局長会に報告する。

(内部質保証推進本部の構成員)

第7条 内部質保証推進本部の構成員は、次のとおりとする。

(1) 教職員のうち、学長が指名した者

(2) 総長・学長室で自己点検・評価を業務とする者

2 内部質保証推進本部の構成員のうち[前項第1号](#)の任期は、3年とする。ただし、再任を妨げない。

3 内部質保証推進本部の任務を統理する本部長は、構成員の中から学長が任命する。

(内部質保証推進本部の任務)

第8条 内部質保証推進本部は、全学的な視点から次の任務を担当する。

(1) 自己点検・評価項目の設定及び計画に関する事項

(2) 自己点検・評価報告書の取りまとめに関する事項

(3) 改善の検証に関する事項

(4) 認証評価への対応に関する事項

(事務)

第9条 自己点検・評価の事務は、総長・学長室において処理する。

2 内部質保証推進本部の事務は、総長・学長室内部質保証担当において処理する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、学長の承認を得るものとする。

附 則

この規程は、平成28年12月1日から施行する。これに伴い、昭和女子大学自己点検・評価実施委員会規程、昭和女子大学自己点検・評価実施小委員会規程は廃止する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。〔組織変更に伴い、学長室学長補佐担当を学長室に変更〕

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。〔組織変更に伴い、学長室を総長・学長室に変更〕

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。〔組織変更に伴い、総合教育センターを全学共通教育センターに変更〕

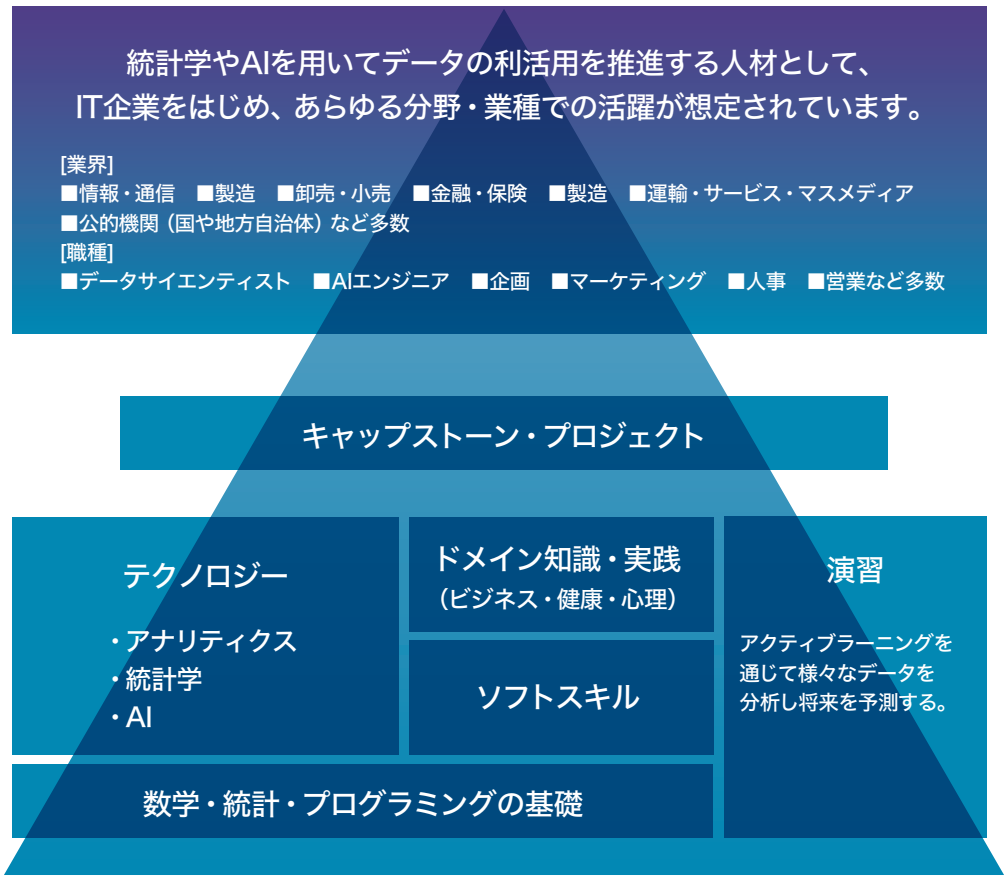
データサイエンス学科

キャリアデザイン・ポリシー

現代社会やビジネスにおける課題に対し、データサイエンスを活用・実践できる人材を養成します。

- 1. アナリティクス(記述、診断、予測、処方)やAIの基盤にある機械学習に関する理論を深く理解し、データの収集・分析・可視化に至る実践的なスキルを修得する。
- 2. ソフトスキル(クリティカルシンキング、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション)を身に付け、目標達成のためのプロジェクト推進力を修得する。
- 3. ドメイン領域(ビジネス・健康・心理)に関する専門知識を有し、実効性の高いデータ分析や意思決定支援を行う力を修得する。

学科専門分野と卒業後のキャリアの関連図



デジタルイノベーション学科

キャリアデザイン・ポリシー

デジタル技術とビジネスの双方に精通し、実践的かつ多面的なスキルを身につけた人材を養成します。

- 1. AI、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術を深く理解し、幅広い分野で応用可能な専門知識・技術を修得する。
- 2. ソフトスキル(デザイン思考、プロジェクトマネジメント)を身につけ、複雑な問題に対する効果的なアプローチを身につけ、課題を迅速かつ柔軟に解決する力を修得する。
- 3. ドメイン領域(ビジネス・健康・心理)に関する専門知識を有し、現実の課題に対して効果的にデジタル技術を実装する力を修得する。

学科専門分野と卒業後のキャリアの関連図



昭和女子大学のキャリア支援システム

